明治四十一年十一月一日發行（毎月一回一日）
明治卅七年十二月九日第三種郵便物認可

# 女子文壇

第四年第十六號




Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

本品は最も完全なる白毛赤毛染なり又本品を以て赤毛を染る時は有に半ケ年以上を保つと云ふ奏効禮状日々多大なり

全國到る處の小間物化粧品店藥店に有り




本舗

東京市日本橋區通鹽町一番地

服部重右衛門商店

女子文壇の廣告により御申込の節は其旨御書添を乞ふ

●初學者が座ながら英語を獨習せんとせば左の書に就け

THE ENGLISH TEACHER
# 英語のをしへ

合本假製
正價卅八錢
郵税六錢
合本特製總布
價五十錢
郵税八錢

# 英作文のおしへ

洋製全貳册
價貳十錢
但し郵税共

# 小學英語獨習

洋製四百頁
價三十錢
郵税四錢
郵券各一割增

右の三書は先生に就て學ぶことの出來ない初學者が居ながら獨習の出來る樣ABCからいろは五十音、羅馬字の綴方、會話、日用語、文法說明に至る迄總振假名發音附にて至極親切に說明してあるから本書を精讀すれば座ながら中學生位迄の力らは充分に附き亦生徒諸君が讀本を讀むにも莫大の助けとなる懇篤な良教師である

文學博士アーサーロイド監修 融文學士河內農學士越山中學校講師
會話學校々長マリー、イーペトレーキ公 ... 文學士 共著

第十三版
# 中學英和新字典

▲洋製總クロース堅五寸▲橫二寸六分紙數七百七十二頁
正價六十錢
郵税六錢

▲單語數＝約一萬一千▲熟語句數＝約四千▲頁數＝ ... 現今中學教科書を標準として選定せり▲各語＝には新案を用ひて其發音を附し且アクセントの所在を明示せり

法學博士 和田垣謙三
文學士 ... 治
正則英語學校長 星野久 ...
共著 新刊

# 實用いろは引和英新字典

洋裝 ... 堅 ... 寸橫二寸 ... 紙數千 ... 餘頁
正價金 ... 特價金九拾錢 郵税八錢

本書は從來刊行の和英辭典が初學者に適切ならざると新語を加へざる等を慨し前記三大家が多年協力苦心の著作今や左の特色を具へ燦然と異彩を放つを見よ

はかく, Hakaku, 破格（いままでに例のない）形 Anoma'lous（アノマラス）.――破格に, Contrary to precedent.

はかま, Hakama, 袴, 名 Pan'taloons（パンタルーンス）; loose（ルーズ）trou'sers（トラウザース）.

はかま, Hakama, 苞（植物のうすかは）, 名 The lobe of a seed; a sheath（シース）.

はかげた, Bakageta, 馬鹿氣（おろかな）, 形 Fool'ish（フーリッシ）; stu'pid（スチューピッド）; absurd'（アブサード）; useless（ユースレッス）.

## いろは引の便

從來のABC順に據らずして「いろは」順に排列したるは邦人に最も便利にして日常所要の言句を思ふ儘に引出し得ると而も物を嚢中に探るが如し

## 英譯語

必要の場合には實用適切のものを撰定して一々用例を示し片假名を以て發音を附し且つ新案を用ひて「アクセント」（揚音）の所在を明示したれば如何なる初學者にも容易に了解獨習するを得べし是本書の特色なり

## 用語

語は專ら日常所用のものと他書に見ざる新語を多く加へ俗語雅言は勿論時勢に適したる語句を網羅せり之れ他書に見ざる本書の特色也

## 節用集的便利

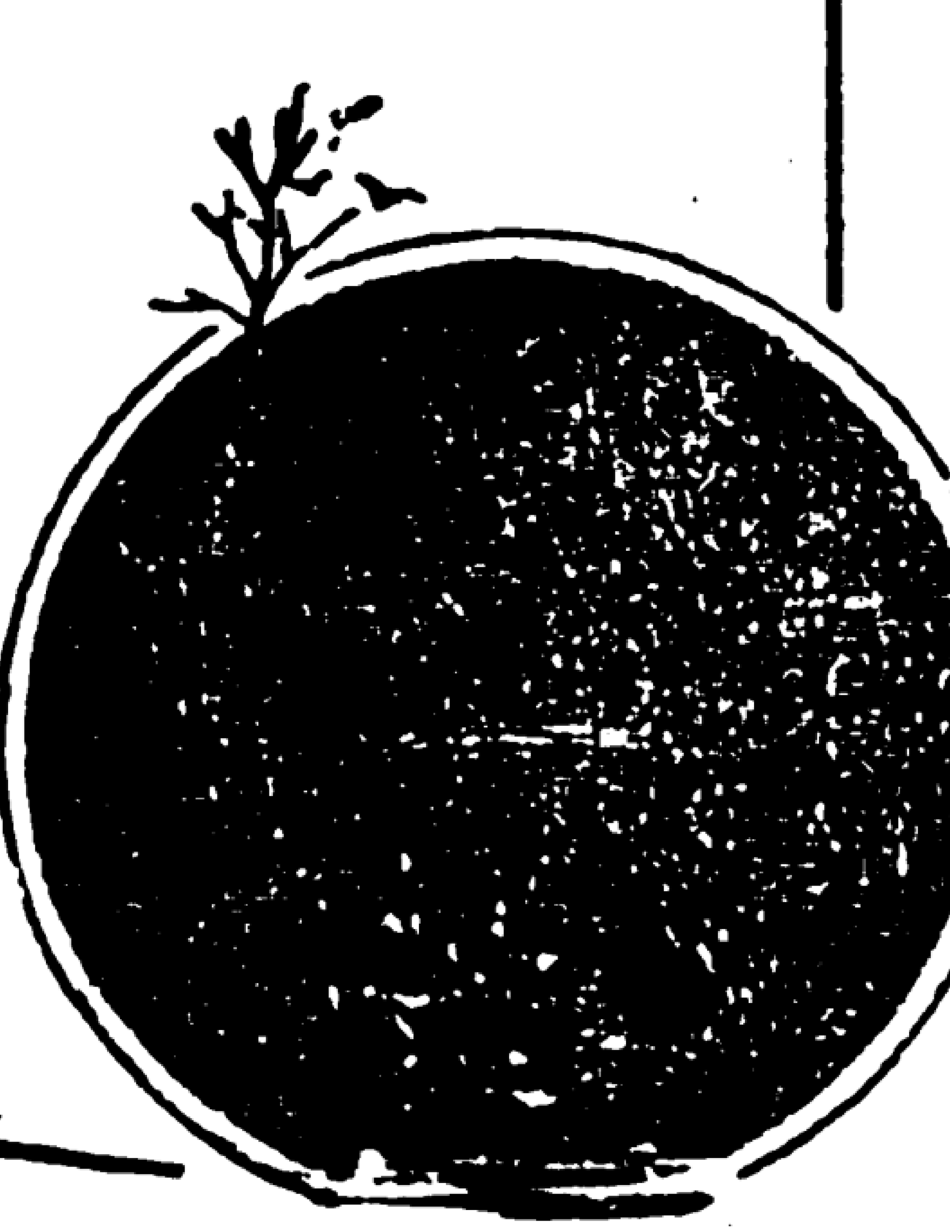
原語は平假名にて記し次に羅馬字にて其發音を示し假名に對する漢字には更に其解釋を施したれば邦語辭書の便利を兼備して內外人共に裨益を與ずること尠なからざるべし上の如く本書は意匠斬新用意周到にして索引の至便と譯語の豐富と解釋の適切等を兼備せる空前の好著にして實に該博なる前記三大家の長日月の協力苦心の結果こゝに出でたるものなれば世の歡迎を博したる中學英和新字典の姉妹として相並んで玲瓏たる双璧を飾るものと云ふべし敢て江湖の閱覽を希望す

發兌元
東京銀座三丁目三番地
東華堂書店

# 女子文壇第四年　十一月一日發行

每號　皇太子妃殿下御尊覽の榮を賜ふ







Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



# 第十六號目次





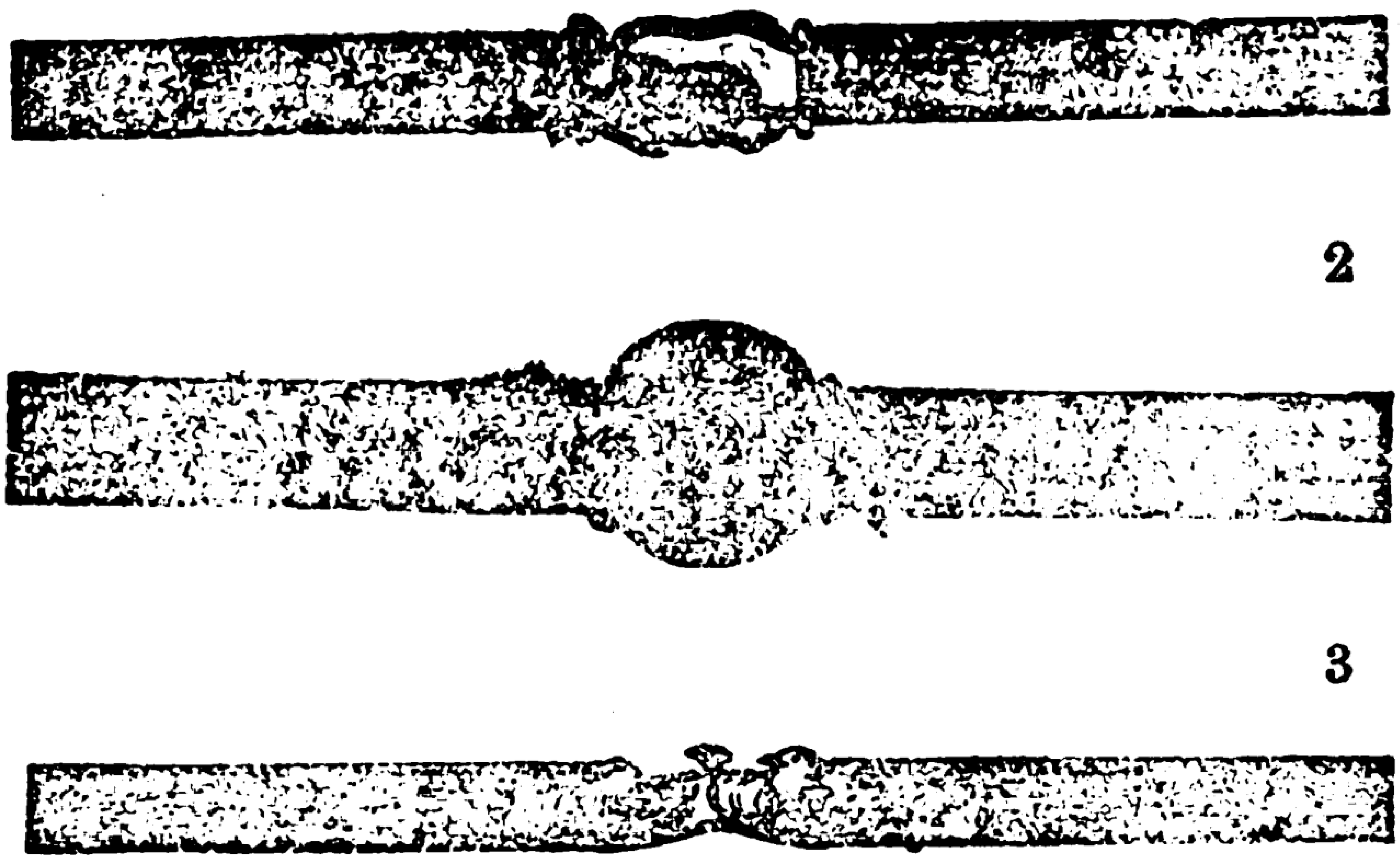
Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

# 流行の帶締

1

2

3



# 印章入指環

一圖　二圖　三圖



上圖新形帶締めは孰れも第一流の名匠が彫刻せし品に有之此の外意匠彫刻とも種々時好に適し候品取揃へ置き候間御一覽給り度候

1 十八金松竹梅の透し彫……………十七圓より

2 十八金ヒスイ、オパール應用月に雁の圖……………………廿八圓より

3 十八金同上水に都鳥の圖…………十五圓より

上圖新案意匠登錄允許印章入指環は考案最も嶄新にして時勢の必要を穿ちたる外觀優美にして實用に適し今や紳士間の流行品と相成申候

一圖は外觀にして二圖は開きたる所三圖は即ち印章を取り出したる所

十八金製十七圓五十錢より同上寶石入十七圓五十錢より

東京日本橋人形町通り

# 澤田治助

電話浪花二五六九番

振替貯金一一二七三

眠れる聖女



大江原色版部製版

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

女子文壇の廣告により御申込の節は其旨御書添を乞ふ

選者 青年 名家 懸賞大募集 毎回 當選 卅名

(毎月一回一日發行)

# 新文林

(定期增刊一年四回)

十一月 (口繪 壯嚴・才媛・金蘭帖 四葉) 第九號

定價壹册金拾錢郵稅壹錢六册郵稅共割引金六拾錢十二册同金壹圓貳拾錢

十一月一日發行

卷頭作品要目

▲小說 隣室(隣室の二人は誰?? 其物語る所は何??)……德田秋聲

▲小說 沒我(結婚問題に惱む可憐孃の事實的告白)……霞外孃

▲小說 歌の譜(戀あり涙あり 悲痛!慘憺!)……石丸梅外

▲文藝評壇 自然主義管見……蘆谷芦村

▲新詩 妹のうせけるに……佐々木愛湖

▲史論 明智光秀(史界空前の大斷案)……石丸紫水

▲飜譯 老婆(ツルゲネフ)……野村冷膓

▲文界時評 斷續語(文壇の大警鉦茲に響く)……渡邊光風

外 正欄數篇 全國秀才才媛投稿二千餘章揭載

十一月十日發行

秋季第二增刊

## 文藝宮

▲迷の信……芦谷芦村

▲楕圓石……渡邊光風

▲九環鳥……湖蝶園

◎その晩……眞山青果

◎煩悶……細越夏村

▲葉子……遠藤早泉

▲二十前後……峯村白影

▲文林談叢……石丸梅外

外投稿詩文滿載

發賣所 東京神田三河町一丁目十九番地 〔振替口座番號三八一五番〕 博報堂書店



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

# 聲惡しき人又は聲出ぬ方の新福音

## ●美き聲の出る新藥

（藥名ウエーヌス）

藥價 壹劑 小包送料共 壹圓拾五錢
特製 參圓拾五錢

人の美は聲にあり……人の愛は聲にあり

▲聲美しくして—淑女は窈窕たり—▲聲麗しくして—男子は威厳あり▲聲は人格を高尚ならしむる要素なり—謠曲家、演説家、音樂家、藝人は聲音即ち其人の生命なり

發聲藥は古來世に甚だ多し然れども其確効あるは恐らくは疑はし。獨り此「ウエーヌス」の發明者は十有餘年間發聲生理の原理を研究し初めて確實に美聲を發する方法を自得せり。「ウエーヌス」は實に無上の發聲藥として千古未曾有世界唯一の靈劑なり。何程音聲惡しき方又は聲出ぬ人にても本劑特別製分を服すれば直に全治し充分なる美聲を發するを確證す

## 「ウエーヌス」有効感謝狀

近着の分二三を左に拔載す

私儀此度當市興行の際非常に音聲を痛め候處貴舖より「ウエーヌス」と申す藥頂戴仕り服藥候處早速全快に至り實に其効神の如きに驚入申候依て玆に御禮及證明仕候也

明治四十一年二月五日　竹本大島太夫㊞

拜啓妾儀時々音聲をいため色々の藥を用ひ居り候處更に効能もなく拾貳時中苦勞致居り候際はからずも當市出勤中貴舖の「ウエーヌス」をいただき候に忽ち音聲も本復仕り難有存じ候眞に其効驗の大なること驚入申候乍失敬以紙上御禮申上候也

明治四十年壹月　大阪女義太夫　長廣㊞

拜啓小生儀過般咽喉に異狀を生じ從來の美音(?!)は再び小生自身さへも聞く事能はずと存じ當業上頗る困却罷在候處貴製の「ウエーヌス」を服用する僅に二回にして全く本復仕候段偏に貴館の賜に有之候間玆に以書面謝辭申述べ併せて音聲を以て世に立つの大方諸君が必携の良劑たる事を證明致候也

明治四十年三月廿四日　新派俳優　菊池武成㊞

專賣元　東京市神田五軒町拾九番地　日新館藥房

---

# 有効保險 前代未發 秘傳奇術

全壹册正價郵税共 拾五錢▲郵券代用は四拾五錢封送の事

（目錄大要）神經衰弱の新療法●陰萎病を必治する新法●陰門の爛れを治する法●消渇を必治する法●頑癬の必治法●人造麝香の製法●上等香水製法●香袋製法●美顔クリーム製造法●音聲を清亮にする法●齒痛即治藥製法●髮の脱落するを止むる法●化粧石鹸製法●西洋白粉製法●毛髮必生法●臭汗治法●白髮を染る法●毛髮の光澤を美にする新藥●齒磨粉製法●西洋梳油製造新法●にきび即治法●ほくろを落す法●ピットル酒製法●夏日室内を爽涼にする法●羅紗類を汚せるインキ斑痕を除く法●●白瓜を一年新鮮に貯ふ法●蚤を驅除する眞法●氷を即時製造する法●百年長壽の奇法●生涯病に罹らざる奇法●人の生死を豫知する法●船中より海の底を見る法●百日眠らず體衰へざる法●拔毛劑新法●寢入たる者に答へしむる法●禿頭病必治法●寢入りたる男女の心中を知る法●白なまず即治法●五十の老婆を二八の娘に變ずる法●脚氣病必治法●妖怪變化を見顯はす神術●人體不死の奇法●千里一足飛行の神術●盜人を見顯はす神術●女に惚れらるゝ藥法●硬き毛髮を柔軟にする法●思ふ女をなびかす藥法●堅き女の氣を狂はす藥法●陰莖を長大にする藥法●そばかす必治法●女を閨屋にて泣す神藥●夢に戀人と語る訣術●見染し女を手に入れる神法●待人來る神術●一生戀中變らぬ秘訣●悋氣深き女を治する藥法●閨中の秘藥●即座に男精を增す法●毒蟲に螫れたる時腫ぬ特効藥●避食の仙術●神速に精力を強む法●即座隱身術●人を眠らす秘法即ち催眠術●顔赤く吹出物生ずるを治する法●過房を治する妙法●多情を抑制する秘法●色慾なき女に情を發せしむる法●記臆力を增進する法●女孕みの仙術●男女梅毒の有無を知る法●淫婦觀破の奇術●黑字夜光の奇術●老人終身號取りの奇術●腋臭を治する法●色を白くする内服劑新法●寶丹の藥法●腹痛速治術●疥癬病の藥法●生たる聲を遠方へ送る法●服腑を治する法●黄疸を治する法●皺肌を直す秘法●味增の損じたるを直す法●麻病の治法●月經の不順を治する法●疝氣の妙劑●齒痛を治する法●陰部の臭きを治する法●陰部の虱を去る法●にきびを去る最新法●頭髮を長くする法●毛生藥の最新法●梅毒必治の新法●便毒必治の新法●下疳を治する奇法●胃病の新劑●百日咳の妙法●肺病必治の新藥●中風豫防の新法●凍痔の妙法●衣服に酒のしみたるを洗はずして落す法●火傷即治の秘法●シヤクリ即治法●聲を能くする新術●白髮豫防新法●土藏の鼠穴を塞ぎ再び明けぬ法●夜小便を治する秘法●頭痔を治する法●耳だれを治する法●いほを取る法●わさを拔く新法●乳の出る妙藥●陰部の跡痔治する法●虎列拉病療治簡易法●梅霜豫防の奇法●思ふ時目を覺す法●年齢により事房の度數●病氣前知の奇術●男女全體の色を白くし且つ艶美ならしむる法●蕁酒を製造する法●富を造るの秘法●一時に數拾匹の鼠を捕獲する秘法●夏帽子洗濯新法●盤の污染を落す新法●新しき漆器の漆氣を止る法●簡易美顔術新法●衣服に油の付たるを落す眞法▲以下數拾法略す（合計壹百四十法あり）着金即刻送本す

專賣元　東京市神田區五軒町拾九番地　日新館商店

女子文壇の廣告によりて御申込の節は其旨御書添を乞ふ

# 有益多趣味◎燈下の好伴侶

文學士 中村枯林先生著

（最新刊）

# 女學生日記文範

全一册

總洋布美本
挿畫十二個
定價金五拾錢
郵稅六錢

▲女子文壇讀者諸姉！日記文の好摸範は撰者枯林先生の手よりいでたり、苟も本誌愛讀者は讀まざるべからざるの書。

▲如何に日記はしるさるべきか、煩雜の方法によらずして一躍直に堂に上らんと欲するものは、この書を繙け！

▲枯林先生女子敎育に從事せらるゝ多年、女學生に對して慊焉たらざるものあり、筆を呵してこの書成る、いさ子は實に先生理想の少女なり、果して現實に遂に得べからざる底の少女なるや否や、知らんと欲するものは、この書を繙け！

▲この書世にいでゝより先生に書を寄せて、いさ子の如き少女今日世は要求すれども現實に求むべからざるを恨むといさ子とは果して如何なる少女ぞ

▲たゞに文範といはず、心清くなつかしきいさ子の面目紙上に躍如たり、男女老幼を問はず、心篤き姉、やさしき妹、たのもしき子を得んと希ふものは、この書を繙け！

▲行文易にして雅、而も詩趣汪溢、滾々として盡きざる淸泉の如きはそれ先生の筆か、讀過の間自ら修養の資となるところ少からず、疑ふものはこの書を繙け！

發兌元 東京市日本橋區本町（振替口座八壹五番） 金港堂書籍株式會社

# 舶來實用浮石鹼

## レックス




英國ホッヅソン、エント
シンプソン會社特製

會社の自慢本品の特點

浮石鹼にして香氣に高きはレックスの特點なり
價格の低きは本品の特點なり
實用に適するは會社の自慢とする處なり
論より證據實地御使用を乞ふ

千九百〇八年八月
最新輸入品

東洋輸入元
東京 エスシー商店
（電話浪花一六一四番）

# 誌友面影（八十）

（續々お寫眞の寄贈を望む　お返し致しますから）



（東京）秋月千鶴子

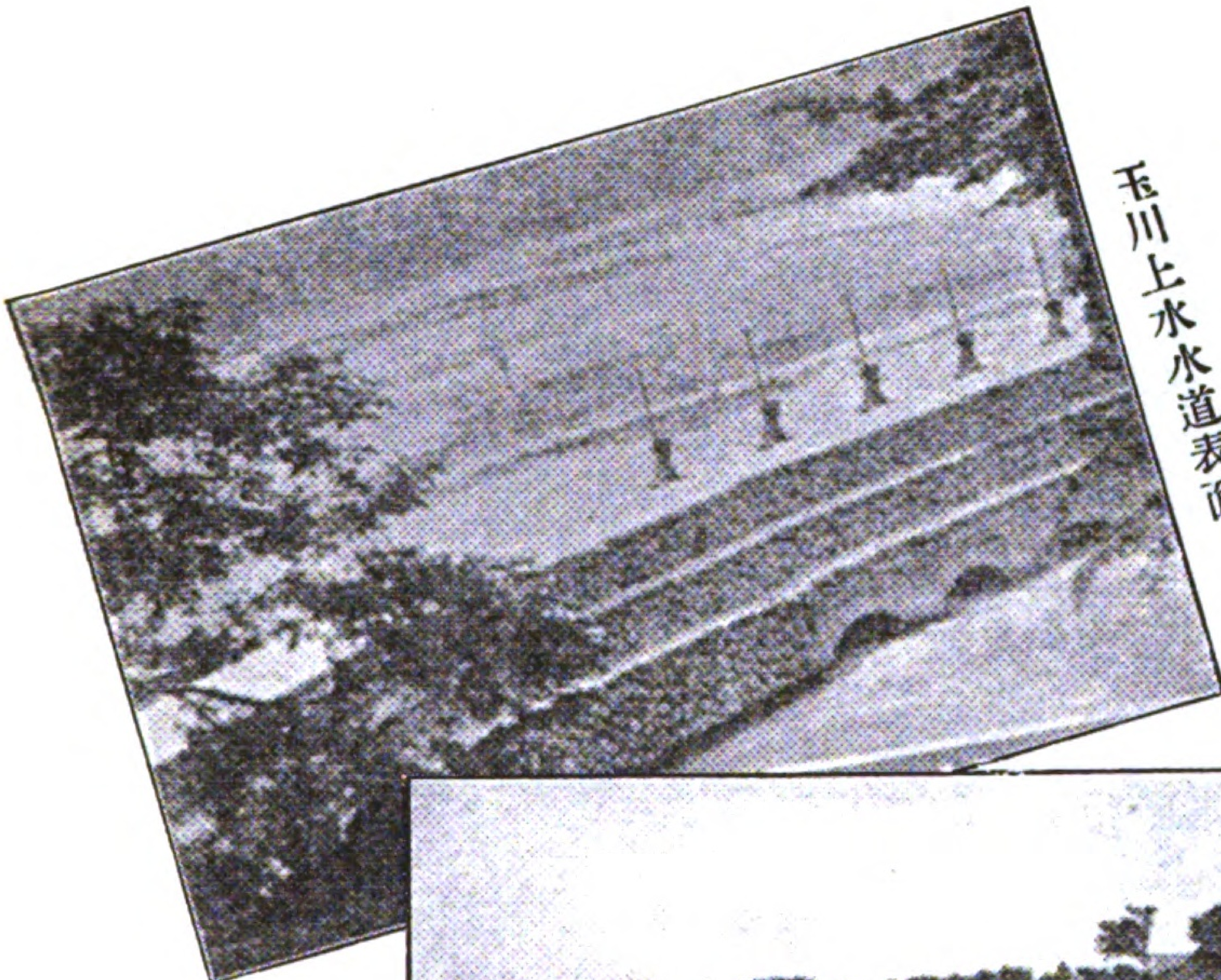
（福島）野邊靜枝子

（上毛）紫城子

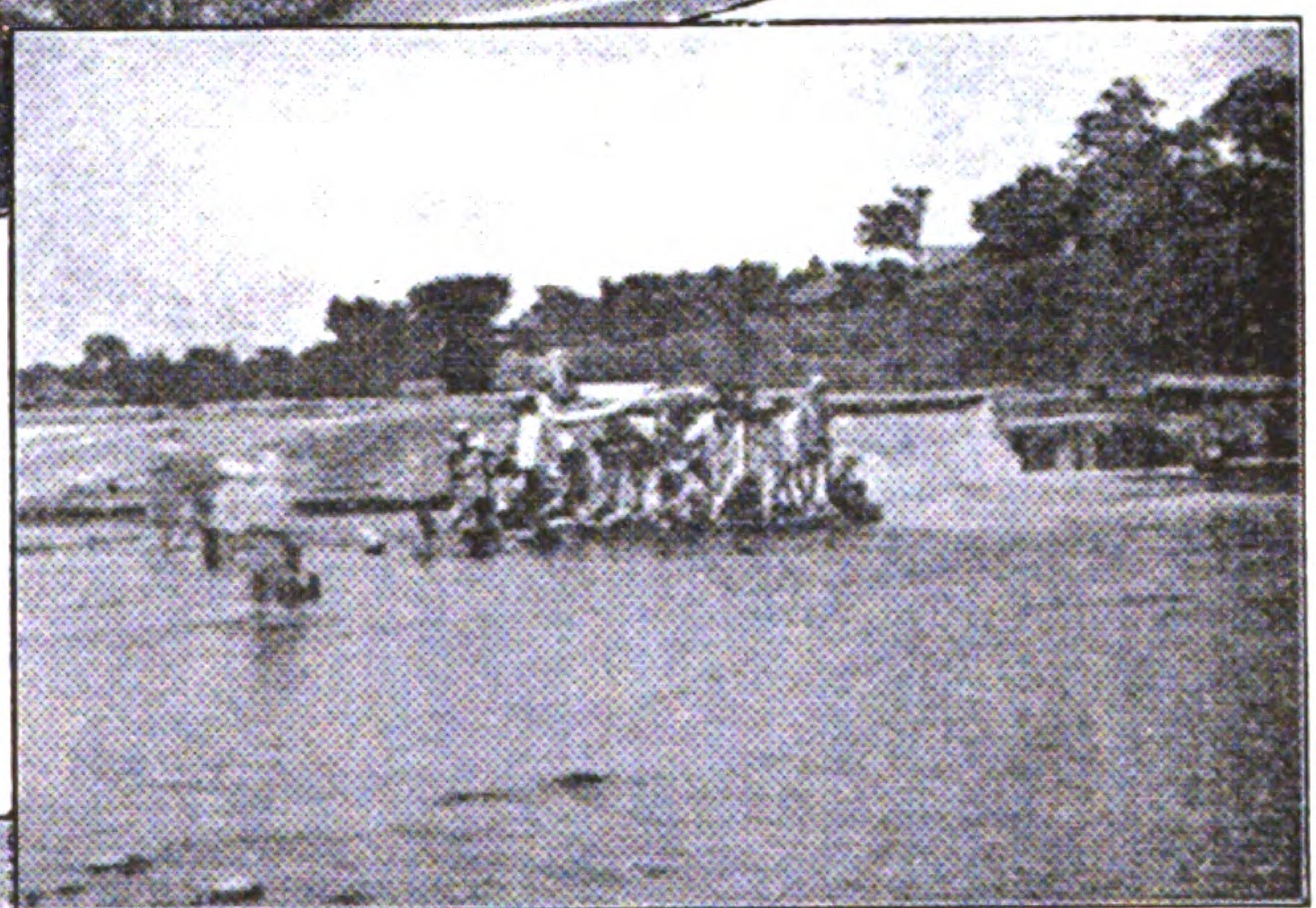
（宮崎）桑たか子

（橫濱）山本くに江子

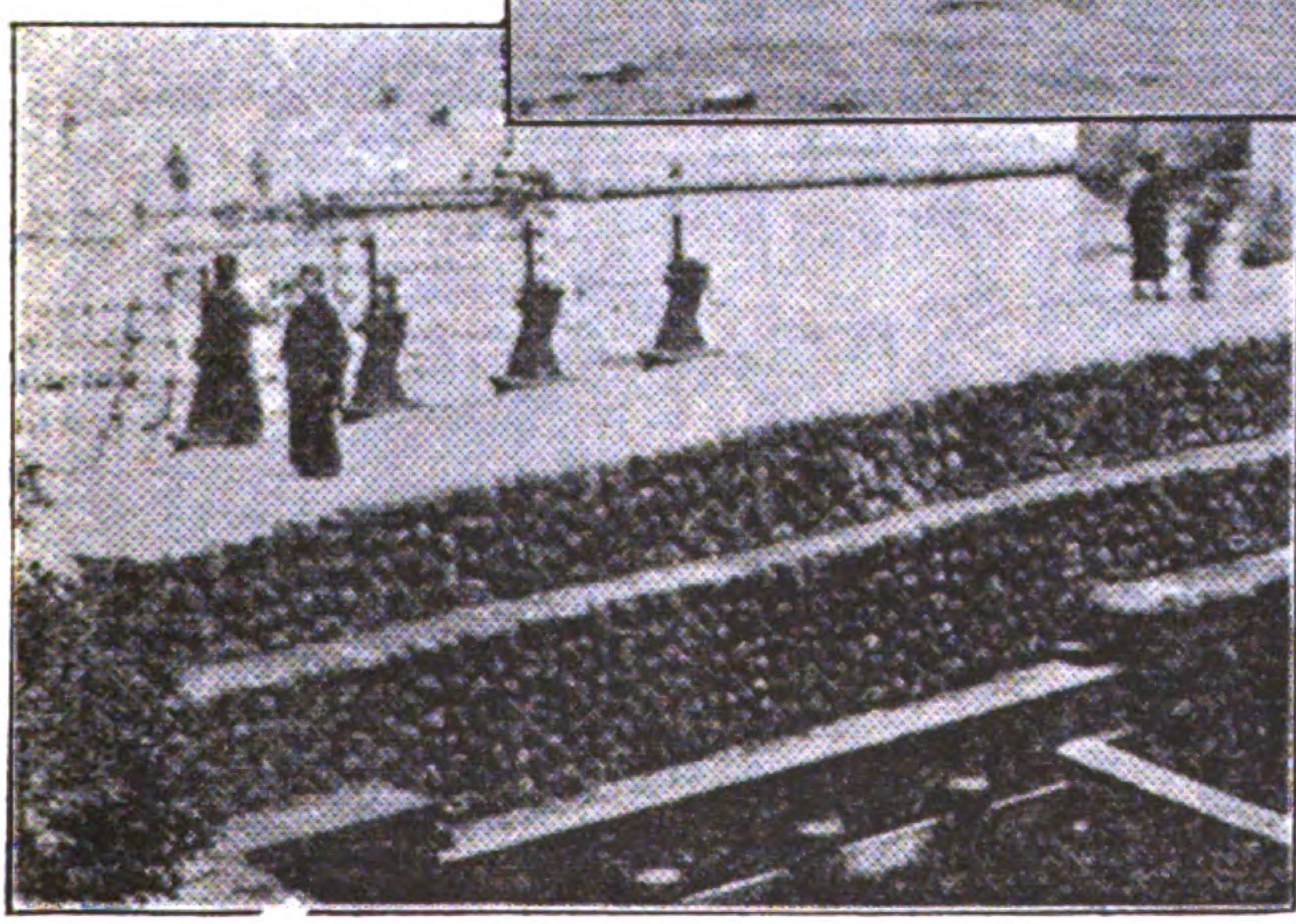
Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA



玉川上水水道表面



玉川鮎漁



（森田志満子寄）

玉川上水水道外面

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

女子文壇の廣告により御申込の節は其旨御書添を乞ふ

# 惡筆の人と能書人

とはどれほどの損徳がありましよか。若し躊躇されて本會に入會なさらぬときは永い一生一代の間に於てどれ程の大損大恥辱でしよ。

## 機械的に上達する

如何なる惡筆の人にても本會獨特の特許速成の方法によつて練習すれば僅少の時日にて上達すること機械的であることは之迄教授したる多數會員の成蹟に依つて明かに證明されて居る

顧問 伯爵 東久世通禧閣下 ◎楷行草三體及假名文字とも六ケ月卒業

書者 文部省習字檢定試驗委員 稻川雲谿先生及外講師大家數名

見本 詳細會則無料送呈 一 東京本郷森川町 電話下谷三〇一番

帝國習字速成學會

# 新發明美容 肉體色白新劑

本劑は近時佛國パリス貴紳淑女間に最新流行の發明劑にして如何程色黒き男女にても特別製貮劑を用ゆれば忽ち肉體純白色に變化し艶美の容貌となるを確證す世上種々雑多の白色藥を用ひて奏効なき人は速に本劑を試み見よ眼前に峻烈なる特効を實驗に奇効顯著の確證新劑價は並製金壹圓貮拾錢特別製分壹圓八拾錢

# 飲んで色白くなる世界唯一輸入新藥

## 根本的色白くなる内服劑 サーサパリラ

價壹劑二圓七拾錢▲參劑七圓九拾錢▲五劑拾貮圓拾錢

英國ロンドン「ペーゴイン」製造の「サーサパリラ」は峻烈なる清血劑にして頑強なる皮膚病、猛惡なる慢性梅毒痔毒リウマチス等の病毒及び惡血毒血惡液を體外に排泄し血液を清淨にし且つ精神を爽快にし根本的に肉色を純白艶美ならしむる奇効顯著の内服水劑なり（注意）從來種々の外用塗布的化粧水及誇大廣告の流粉白粉等を用ひ其無効に歎じつゝある各位は速に此「サーサパリラ」を試みよ奏効頗る迅速確實なり（今回英國より輸入一當館にて一手專賣致候、色白新劑と「サーサパリラ」と内外双方併用せば奏効頗る迅速確實なり

# 色白特効 ペーアス石鹸

壹個代價送料共八拾九錢▲三個函入同上貮圓參拾錢

此石鹸は世界第一等の貴品にして化粧品の大王たることは苟も泰西の事情に通ずる者の熟知する所なれば今更喋々贅辯を要せず嘗だ單に其主眼たる特効の一二を揭げん皮膚を潤澤軟密にし色を白くし、粗糙質を治す而して此石鹸特有の神効なり且つ此石鹸は香氣頗る佳良にして使用後五時間は芳香馥郁として身體に附着し離るゝは館主の實驗保證する所なり、乞ふ昨今世上に續々顯出し誇大の廣告を以て世人を瞞着する内國製の粗悪品と玉瓦混同視すること勿れ昨年輸入の五萬個は夙に賣切れ久しく品切中の處今回拾萬個着荷せり速に御注文を望む）

以上參種 專賣元 東京神田區五軒町拾九番地 日新館藥房

# 月やくおろし

本劑は胃腸を痛めず子宮を害せず如何程長き月經閉止も必ず忽ち快通流下する特効あり本劑參劑分を用ゆれば二三ヶ月滯りたる月經にてもキレーに流下す又特別製分を用ふれば半年以上月經閉止及び血塊にても必ず立處ろに流經す且つ月經不適月經不順より起る子宮病血の道を全治し多年滯りの古血及惡血毒血を一掃するを確證す但し本劑は其奏効極めて峻烈顯著なるも毫も衛生無害なり婦人諸君安心して試藥あれ價は一劑分七拾錢貮劑分壹圓廿錢參劑分壹圓七拾錢特別製分貮圓參拾錢（注意）本劑の大盛を羨み近時續々怪しき無効なる類似僞藥頗はる用藥者は深く注意ありて一手專賣元日新館藥房一の名稱に注目し購求あらんことを乞ふ



# 世界無比 最新發明藥 あざ

入墨は廿日ほくろそばかす、なまづ、いぼは拾日目に必ず美麗に除去すること保險附

新發明藥にして患部の大小輕重を問はず容易に根治し假令顔面たりとも毫も痕跡を殘さず無痛に除去し得らるゝことを確證す故に之が用ゆべき患ひある人は速に用ひて天然の美質を完うせよ來館者へは山の如き全治者の感謝状及び除去したるあざ、ほくろ、そばかす、いぼ等の實物を示すべし實に世界唯一の新藥也但し本劑は其製劑を二種に區別し一はあざ、入墨、ほくろを除去し又一はそばかす、なまづ、いぼを除去するものとす故に注文者は各自除去せんと望む所の病名及患部の模様を詳細明記して申込あれ左すれば其症に適應する藥を送付すべし價は各一劑分壹圓拾錢參劑分參圓拾錢六劑分五圓拾錢（患部の面積大なる人は大劑を求むるを德用とす）金拾錢づゝにて郵券代用貮割増し着金即刻小包郵送す

以上貮藥 專賣元 東京市神田五軒町拾九番地 日新館藥房



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

女子文壇の廣告により御申込の節は其旨御書添を乞ふ

全紙悉く活字文字に満つ 婦人雑誌界の女皇

記事親切

# 婦人世界

材料豐富

十一月一日發行 毎月一回 三巻十三號 一冊拾五錢 郵税一錢五厘 半年分郵税共一圓五錢 一年二圓

▲外人に嫁した日本婦人の實例 …… 村井弦齋夫人

▲初産の當時父の日記 …… 既城子

▲寄宿舍の瓦斯使用實驗 …… 嘉悦孝子

▲小兒は如何なる玩具を長く持つか …… 岸邊幼稚園長

▲姙婦と産婆 …… 醫學博士 榊順次郎

▲意地惡き姑に事へて十年貞節を守りし嫁の實例 …… 山脇高等女學校長 山脇房子

▲娘を嫁にやりし時言ひ聞かせたる教訓八ヶ條 …… 海軍機關大佐夫人 武田貢子

▲三年間シャムにて皇后女學校に教へた時の苦心 …… 學習院女學部教授 安井哲子

▲日本女子大學校生徒は他校の生徒と如何に違ふか …… 日本女子大學校長 成瀬仁藏

▲小說家より女優となりて初めて舞臺に上りし時の所感 …… 佐藤露英

▲奥原晴翠の山水畫と上村松園の美人畫

▲日本服は何處に隱袋を附くべきか

▲手輕な西洋料理 …… 弦齋夫人

▲雁に關する古今の文學

▲有益なる我が家の實驗

▲野津元帥と時事新報の美人逸話

▲母の急病に四里の夜道を駈けつけし發明家の夫人の苦心 …… 仁科遠平夫人終子

東京京橋南紺屋町十二 實業之日本社 （郵便振替貯金口座參貳六番）（電話新橋八七四番） 賣捌 全國書店

（丙の三）


水おしろい
本舗東亰
大和屋

# 可愛いゝ顔



（磐城）春川静江寄

（横濱）山本さわ子寄

（横濱）山本操子寄

（宮城）駒澤きく子寄

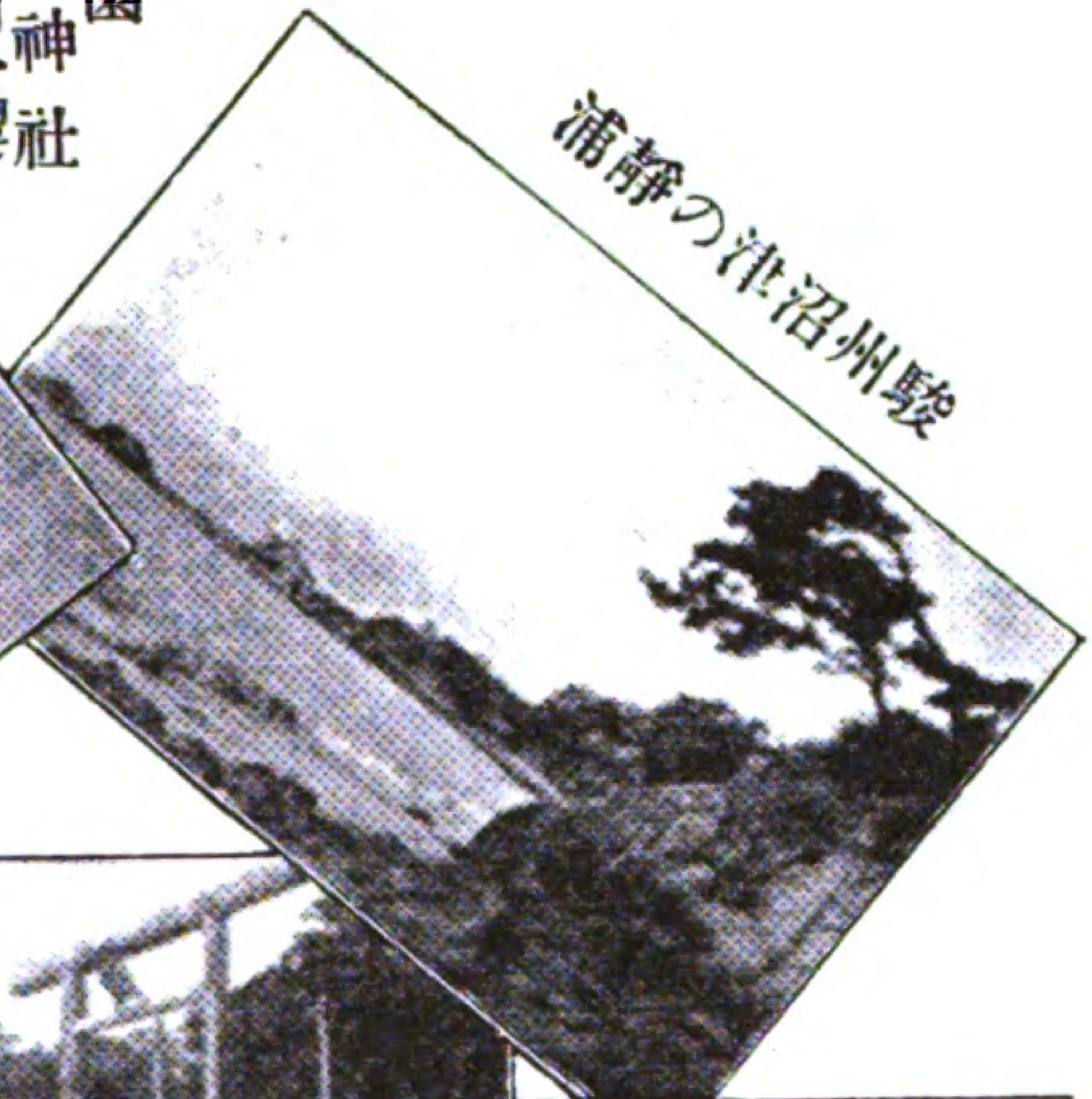
（松江）草村瑩子寄

高知公園 藤並神社（山内一豊を祭る）





下総市川の利根の渡船



駿州沼津の静浦



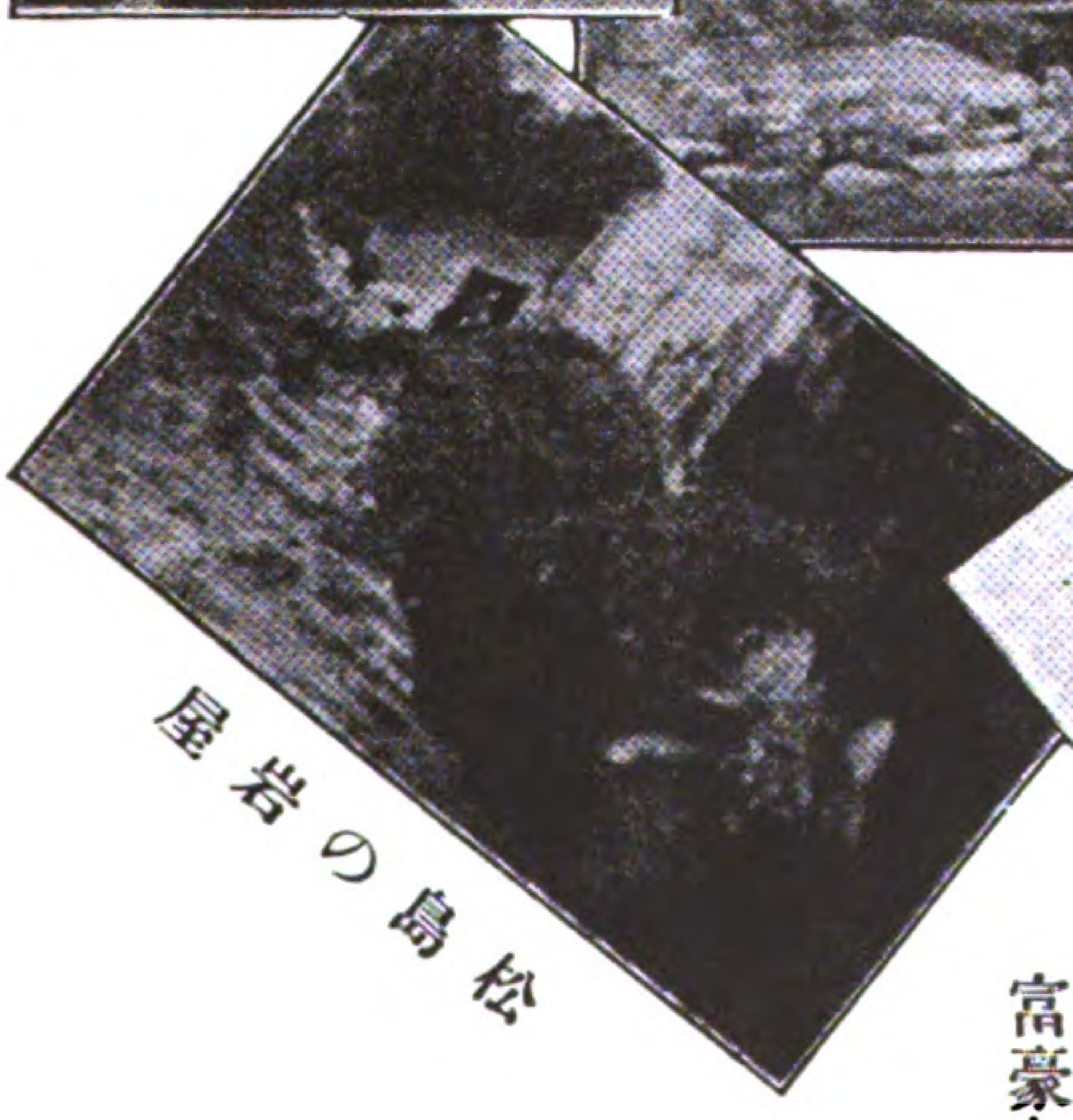
越後 信の川渡船



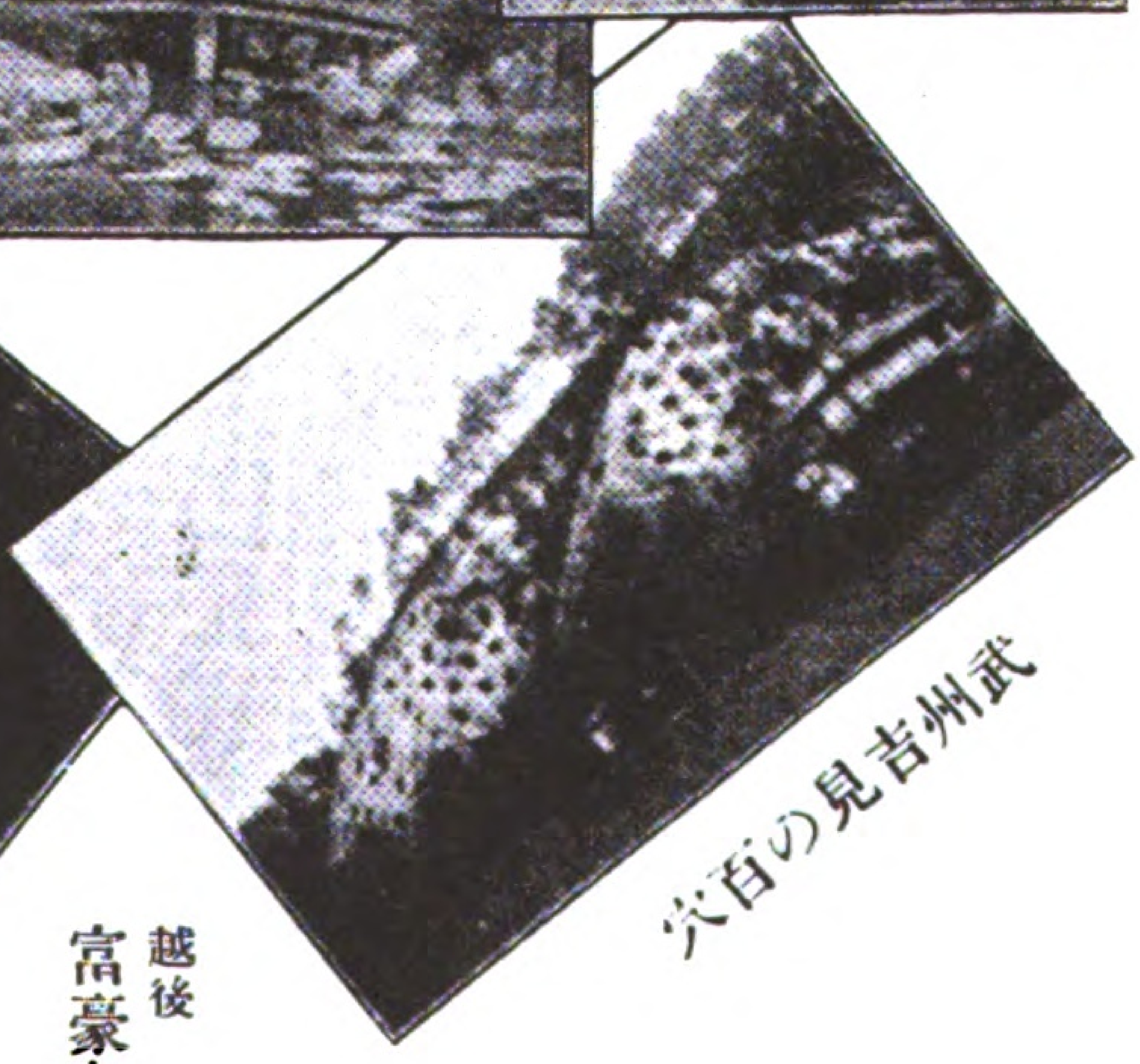
越後 清津川の橋



越後 富豪之庭園



松島の岩屋



武州吉見の百穴

吉田さく子・板橋唯子・山崎新子・山内静子・森田仲子・川畑花子の諸孃寄贈

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

# 女學部新設

## 實用女學講義錄發行

▲本會は中學講義錄の發行に從ふこと既に五年通信敎授に於ける甚深の經驗を基礎となし今回更に女學部を新設して『實用女學講義錄』を發行せり。
▲講習期一ヶ年半、此間に於いて高等女學校程度の學課は勿論、本邦家庭の事情に照らし女子必須の諸科目を講說し圓滿なる主婦を作る事を目的とす
▲講義錄は每月二回發行とし講師は敎育に經驗深き斯道專門の名家のみ也講述極めて平易、總ふり假名の談話體なれば何人も解し難き憂なかる可し。
▲每月女學雜誌『姬百合』を發行して會員に限り每號無料進呈す『姬百合』は現代知名の女子敎育家及び專門大家の訓話學說創作及び會員の投稿を揭ぐ
▲會長尾崎行雄親しく本部を監せらる。組織整頓し取扱最も懇切也。且つ會費極めて低廉、都會一ヶ月の遊學費を以て優に全學科を修了する事を得べし

◉新學期開始——至急入會者に限り入會金全免すべし◉

見本つき規則 無料進呈

# 大日本國民中學會女學部

東京駿河臺 電話本局三千〇四番 振替口座四千二百番

# 梅毒根治新劑

本劑（藥名ドクトル）は幾多の研究實驗を重ね多年辛苦經營の結果成功したる最新最良の藥物なれば現世紀に於る唯一の

**ばい毒根治特効**

新藥なり故に黴部及黴毒に關聯して續發する諸症（即ちばいどく。ひゑかさ。しつ毒。かんそう。よこね。ようばいそう。たいどく。瘡毒。ろいれき。骨がらみ。べんどく。ふしぶしのいたみ等）ならば如何なる頑固難症にても特別製分にて**誓つて根治**することを確證す從來醫療賣藥等百方手を盡すも全治の効なくして困難せる患者は速に本劑を試服し其病毒を根底より驅逐斷絕したる後の生命健康を保全せよ。藥價壹劑分壹圓拾錢貳劑分壹圓九拾錢特別製分參圓六拾錢

## 生殖機病特効新劑……（獨逸新輸入藥）

拾錠入壹劑 藥價送料共壹圓九十錢 郵券貳割增

### ◎內服 ヨヒンビン

本劑は獨逸國伯林大學敎授スピーゲル氏の發見に係る男女**生殖機不能**即ち**陰萎病**陽物無力遺精、夢精、早漏、過房、元氣衰弱、老衰無精力生殖虛弱手淫に起因する諸病早老者精液九

**腎虛神經衰弱**等に用ひ輕症は四五劑重症は八日

症、缺乏不姙**快美**減少及び**短小者**慢性難症は拾參劑にて根治の目

的を達せしむ天下無比**可驚奇効**ある最新發見藥也**精力**を**增進**し生殖器を強健にし

**勃興**して**情慾**を著しく**發動**せしめ人生の最大**快樂**を得んと望む者は早く試みよ峻烈偉大

特効**如電光**と同一視することなかれ本劑の卓效は高名なる醫師に世にありふれたる誇大奇言を羅列する內地製無効賣藥

其に就て承合せば明白なり

### ◎奏効確證 美容新劑 やせる藥

壹劑分價送料共參圓廿錢 貳劑分六圓（特別製分九圓拾錢）着金即刻送藥す

本劑（藥名ヨードチリン錠）は學理實驗に基きしたる現世紀唯一の發明劑にて血ぶとり、あぶらぶとり、酒ぶとり、顏赤くえてり、のぼせ症、卒中症、等總て肥滿質多血質脂肪過多質の人用ゆれば無害にして著しく體量を減じ脂肪を適度に脫し美容健康を保ち程よくやせる特効藥なり故に彼の見苦しくふとりたるを苦にする諸君は速に本劑を用ひ其驚くべき偉大なる奇効を知られよ

## ▲世界唯一 麻病消渇の根治新藥

# 麻滅（りんめつ）

麻滅は最も進步したる最新の麻病消渇即治療確證藥なり、本劑はありふれたる普通の賣藥と異なり殺菌學上効力頗る峻烈な病原の一新藥を主劑とし**麻病消渇**の病原たるゴノコッケン一を忽ち**滅殺**する處に基き製したる是を內服し新藥に付き**根治**するを確證す症は壹劑重症は特別製分根底より必ず根治確證す但し從來の洗滌劑の如き迂遠無効有害の姑息藥と異なり奏効確實峻烈なるだけそれだけ藥價不廉なり用藥者諒めよ藥價壹圓拾錢特別製貳圓拾錢

郵券代用は二割增しの事

# 腋臭 わきが

## 根治確證新發見藥

醫療賣藥百方手を盡せし如何程頑固劇烈の慢性わきがにても**誓て根治**し決して再發或は他病を起す憂なき廿世紀的改良根治新藥なり速に試み苦惱を脫せよ價は輕症根治分六拾錢重症根治分壹圓廿錢頑固劇烈の慢性症根治分貳圓卅錢着金即刻送藥す郵券代用必ず二割增の事

### ◎毛の必ず生る確證藥

藥價送料共 特別製大瓶貳圓 中瓶壹圓卅錢 上等壹圓廿錢

本劑は米國醫學博士の發明に依り學理實驗に徵したる世界無比の生毛藥なり、即ち男女共腫物の痕、はつぼうはげの痕、やけどの痕、禿頭、其他及はゑぎわの薄き人、まゆげ口ひげの薄き人、其他總て毛のあるべき所に毛なき人等に劑大瓶二個を用ゆれば忍ち毛髮を發生する特効あることを確證す本劑は從來ありふれたる種々雜多の毛生藥とは其効勿論同日に語るべきものにあらず眞に天地月鼈の大差あるに付幸に玉石混同視すること勿れ

以上六藥專賣元 東京市神田五軒町拾九番地

# 日新館藥房

（電話下谷五四六番）


Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

# 發賣御案内

## 最新式造花用鐵線

何に本品の斯用として好適せるかは御試用の上知り給ふべし郵券貳錢封入御申込次第直送

美術造花材料商　天野卯兵衛

東京市日本橋區横山町壹丁目拾六番地

特許電話浪花一六四三番

電信略號(アマウ)

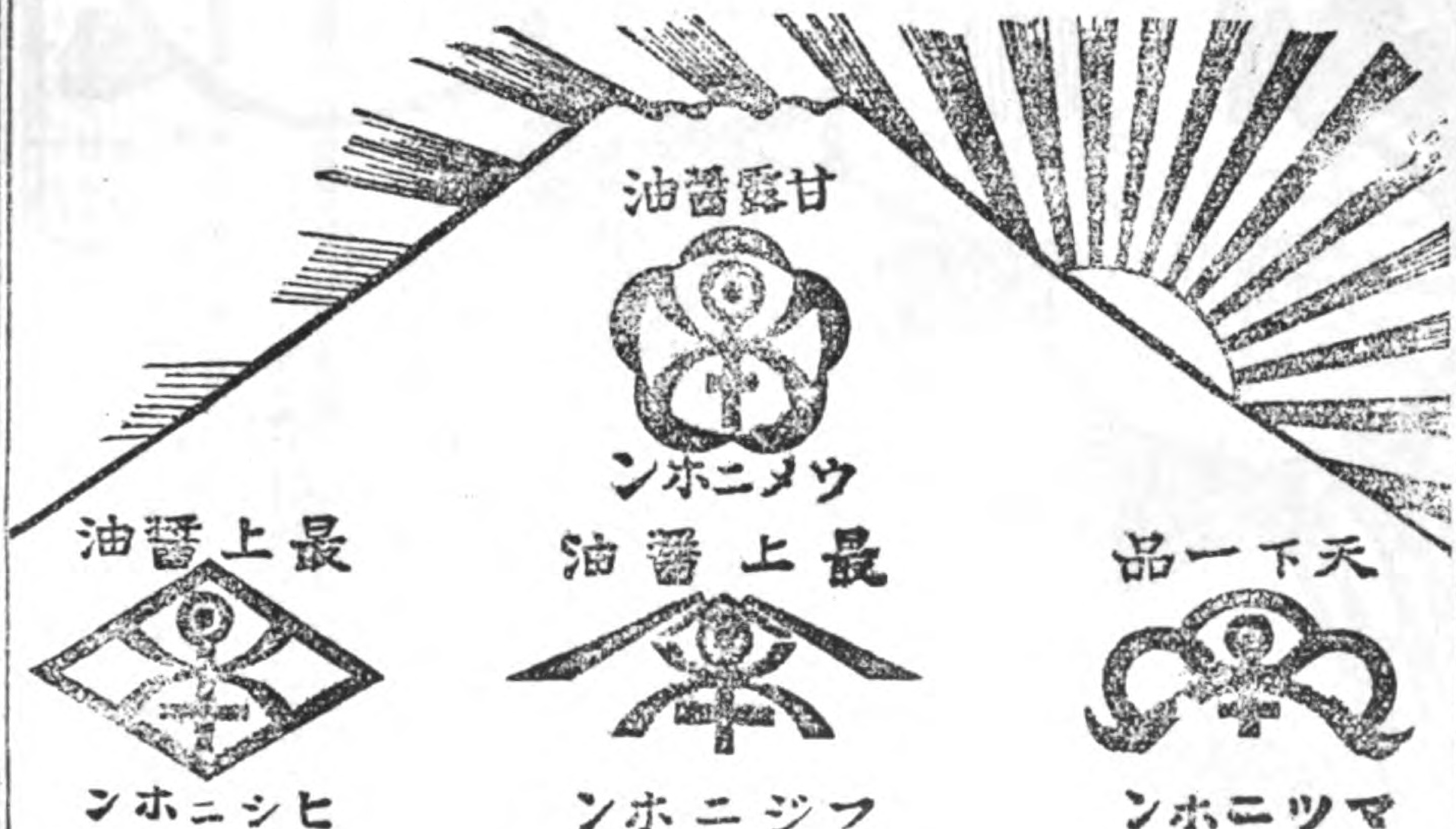
振替口座四九七〇番

營業案内御入用なれば郵券四錢封入御申込みあれ

女子文壇の廣告により御申込の節は其旨御書添を乞ふ

# 醬油釀造界の一大革新

# 最良醬油




◉資本金壹千萬圓

釀造元

**日本醬油釀造株式會社**

東京深川區小名木川通　電話浪花「長」三七七三番 一五九五番

特色

製造清潔
品質佳良
黴を生せず
價格低廉

特色

弊社は前人未發の新發明にかゝる嶄新にして完全なる鈴木式釀造方法及機械的裝置により精良無比　醬油を釀造販賣す

特約販賣所

東京日本橋區北新堀町　電話浪花「長」一四六番

合資會社**日本醬油東京販賣所**

其他　東京酒類問屋組合酒類仲買店及各地小賣店にて販賣致候間御用命願上候



女子文壇 第四年第十六號

紀元二五六八年　（明治四十一年十一月一日發行）　西暦1908

# 模倣

記者は前號に於いて女子の虚榮心を戒めた、精神的の虚榮を排斥したから、潜かに自ら覺醒された方もあらう、又眞の感情であるか、虚榮であるか自分では判斷がつかぬと言た方もあるが是等は自覺と云ふことを誤られたのである、其事に就いては他日更に言ふ場合もあるでせう、茲には又針を刺した序に、もう一つ違つた苦い藥を諸孃に呑ませやうと思ふ、それは外でもない模倣と云ふことです、多くは文藝の作物の上に就いて言ふのです、此の模倣時代と云ふものは、誰にでもあることで、殊に女子は先天的に模倣性に出來て居るから、免れられない短所であらうと思ふ、何んな名家でも初めは模倣のあるものです。併し眞にえらくならう、眞に好い作物をこしらへてみやうと思ふたら、出來得る限り、極力、此模倣に反抗し、此模倣を避けて寄せつけないやうにせねばなりません、いつまでたつても模倣ばかりして居たのでは、自分の作の眞の價値を表現す時がありません、何んな好い文句でも、美しい言葉でも、之は他のだと思へば、借用しないやうに、其所を一つそれよりも好いものにするとか、美しくするとか考案をしなほすのが上達する所以です、模倣とは早く言へば人眞似です。

十一月（小）

日曜　一日　八日　十五日　廿二日　廿九日

祭日　天長節　三日　新嘗祭　廿四日

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

# 本誌の大革新

## 到る所に吹聽せらるべき快擧

明治四十二年一月一日を以て創刊第五年に相當する本誌は、文學の大勢と女子讀書界の進歩に鑑み、紙面の大擴張を實行することに致しました。

一歩一歩と發展して來た本誌は、決して突飛に輕薄なる革新は企てないつもりです、愛讀諸君に充分の信用と滿足を與へる爲の意義ある活動です。

そこで大いに紙數を增加して優に分量ある大雜誌とします、從つて諸孃の投稿も澤山に載せることが出來、本欄の記事も多方面になるは勿論、雜誌全體に渉りて、材料の範圍が博くなります、定價は其割を以て增すだけてすから、依然として此種雜誌中の最も廉なるものです。

（改正定價表は百二十頁にあり就て見よ）

努めて編輯を親切にし、體裁を完美にすることは、今改めて言ふまでもなく、愛讀諸君の熟知らるゝ處でせう、けれども此際層一層の好い考慮を用ゐ、**若き婦人**の**機關**として、我國唯一の本誌を益す善きものにしたいと思ひます。

紙面の擴張に伴ふて本欄の如きも、文壇の問題となるべき**大家**の**傑作**、文藝修養の基礎となるべき詩歌文章の**新式評釋**、一般の婦人が心得となるべき先輩の**重要**なる**談話**、併せて批評、報導、娛樂に關する文字を盛んにします。

以上、茲には方針の大體だけを述べて置きます、實際のことは其月々の雜誌に就いて御覧を願ひたい。

但し、紙數增加の結果として從來の定期增刊を廢し、春夏秋冬の四回に、新工夫を凝らしたる大冊の增刊を發行いたします。

又從來の「日記文」を「家庭日記」と改め、「文壇餘興」を「お話」と改め、外に「散文詩」「少女文壇」の二欄を增置します、投稿の詳細は別項（十六頁）を見て下さい。

# 女子と財産

山路愛山

今の女子教育に就いて、根本的に間違つてゐる事が一つあると思ふ、それは女子の生活と云ふ事を顧みないで、たゞ〳〵賢母良妻を仕立上ることに傾いて居るが、家あつて後ち賢母良妻も役に立つので、其家と云ふことを眼中に置かず、又女子の獨立と云ふことも念はないて、所謂賢母良妻を仕立上た所が、或る塲合には持つて行きどころに困る、折角の賢母良妻も役に立たなくなる。

元來吾國の女子――人の女房たるものには昔は相當の財産を所有して居たもので、一家の相續者は勿論のこと、娘が幾人あつても親はそれ〳〵財産を分配しただから嫁入して女房となつても財産は持つて居たので彼の頼朝の室政子の如き、又足利尊氏の室赤𣘺氏の如き、夫に對して相當の權勢を持つてゐたのも、畢竟女房に財産があつたからて、獨立心が强かつた、鎌倉時代、足利時代の女には大抵財産があつた、所が德川氏になつて、此制度が無くなり、女子は財産と云ふものが無い、所謂三階に家なして、貞操とか服從とか云ふ婦人の德を以て唯一の無形の財産とした、それも好いが一家の生計にも困るやうな塲合に、只服從し、只貞操を盡くしたゞけては生存が出來なくなる、幸ひ良人が働く人であれば可いが、然うてない塲合は共難義をするばかりて、折角の貞操も用ゐ塲所に困る、妻に財産があればそれに越したことはない、假令財産は無くとも、生活の苦境に立つて之を凌ぎ、之と戰ひ、之に克つてゆくだけの教育があつて欲しい、現代の教育は其點に缺けて居ると思ふ。

今、我國の民法ては女子にも財産を所有することを認めてゐる、一體親たるものは女の子にも財産を所有すべきものであらうと思ふけれど、いろ〳〵事情があつて未だ其所まてはゆかぬけれど、財産の無い女を世間に出さうとするのに、財産あるものとして教育する

のは、其根本が間違つてゐる。

例へば學校では音樂を敎へる、ピアノやヴアヰオリンを敎へる、けれども我等の家にはピアノやヴアヰオリンは無い、また然う云ふものを弄ぶやうな家へ嫁入すか何うかは分らぬ、凡てが斯う云ふ風に生活も充分餘裕のある家の妻たるやうに敎育されてゐるが、實際の世の中は決して然うでない、生存競爭はます／＼烈しくなる、初めは豊かだと思つて嫁入した家でも、何んなことで悲境に陷り、生活困難の塲合が起らぬとも限らぬ、又良人が亡くなつた塲合も想像しなければならぬ、一家が沈淪して浮む瀬のない時に、今のやうな賢母良妻では間に合はぬ、もつと實際的の、働き得る女でなくてはならぬ、只良人と共に屈托して、依賴するより外に何の能もない女は困る、事實に於て今の世の中は生計に餘裕のある家と云ふては少いのだから多くの女子を敎育するのに、其等にあてはまるやうに敎育して貰ひたい

極く少數の上流社會、即ち貴婦人など言はれる身分の人は、使ふべき財產もあるのだから、好きなことをして遊んでも居られやうが、全般の社會には、今の學校で仕上るやうな賢母良妻ばかりでは實際持つて行き塲所がない、此根本問題を解決して、女子の敎育をしてもらひたいと思ふ。强ち賢母良妻を不可と云ふのではない、勿論結構だが根本的敎育の施し方に違つてゐる所があると思ふ。

追々は女子の生活狀態も今のやうではあるまい、人種と人種の競爭、階級と階級との衝突なども起つて來やうし、男子の職業を女子が占めるやうになつて、男子と女子の職業上の生存競爭も起るであらうし、女子でも財產を持つて居る方が安全だと云ふことになると、何うしても女子敎育も其方針を取つて、女子自身の財產を保護し得られるだけの考も持たせるやうにせねばならぬ。（談話、文責在記者）

▲口繪の說明　今度の口繪はドイツの畫家で且裝飾美術家として有名なウイルヘルム、フオン、フオルツの作です、「眠れる聖女」は三十五才の時の作で、聖徒が遊び疲れて眠つてゐる處へ、天使が現れて吉夢を誘ふて居る處です、殊に注意すべきは其天使の畫きかたで伊太利風の固い處がなく、ドイツ風の活々した面影があります（香）

# 顔見ぬ女

兒玉花外

十三夜のキラ〳〵した月は、墨田川の中流に映つて墨色の船の影が宛然夢のやう、搖てあらう、水面から、折々亡靈の細い手の如うに現はれる。
吾妻橋を渡つて、雨霽りの蛇目傘一ツと、日和下駄二ツ三ツがカラコロと木板に響く。傘の主は確かに本所方面から來た女だ。
私も無意識に渡つて中見世の手前迄て來て居ッた、萬燈に一時に目はパッとする。
觀世音は矢張り賑うてゐる。眞白い鳩が明月にうか〳〵れてか堂の家根裏にク、ク、と啼く、豆賣の老婆さんは、今頃昔の儲けた夢を見てるのであらう、石の上に豆が少し計り月に光ッてゐる。
子守女の哀しい唄が、薄暗い御堂の廻廊に聞える。
私は頭を低れて、大門を出て右に曲ると、秋の灯に古着を售る晒店など、毎晩の縁日らしい　旅から旅へ漂浪の世間師が種々の物品を賣ッて居る。
私は其處を通つて行くと、稍廣い十坪斗りの場所に人の群集が築かれてゐる。
共同便處の板圍の側に、一人の五十男が尺八を吹いて居るのだ。
曲は今ま『鳥も通はぬ八丈ケ島……』の追分を吹奏つてゐる、―悲調―竹管も手も顫へて、ヒタと盲いた兩眼が月に凄い。蒼白い額に垂れた蓬髮は汗か露に濡れてゐる。
曲は矢張り追分節だ、此男餘程之れが得意とみえる。甲の高い續いては絕え、絕えては續く行方定めぬ水の流れるやうな美音に、聽者は皆醉はされてゐる。……歌ふ千金の聲は那處に消えてゆくのか惜むべしだ。
此男、自身も其曲に醉ふて居るのか、口から暫時も笛を離さない。敢て金錢を乞ふとは爲ない。
か、群集の眼には情も、淚も無い。月に薄れても滿天の秋星は光を射て、此の盲樂師の頭上に落してゐる。

と、女だと意つた。袖垣をサと來て又サと斗り逸れ去つた。——跡に盲藥師の前に銀貨が一個キラリと煌つた。

私は、女の首の片方が正に塗られて白かつたと見た。彼は若しや吾妻橋の上で渡會ッた傘の中の女では莫つたか？　（完）

# 何をか賣る

千葉江東

◎近頃「ソニヤ、コヴルヴスキー」と云ふ本を讀みました中に、忘れられぬ一句を獲ました。ソニヤ、コヴルヴスキーと云ふのは露國の女秀才の名で、此の婦人は數學の天才であります、獨逸の大學へ入つた時には、教授さへも驚いた程の天才であります。然し一面には文學の才にも秀でゝ居る、有名な露國文豪ドストウエスキーなどとは、仲の好い友達で、多少の著作もあります。然し此人の傳記は別として、忘られぬ一句とは何でありませう。

◎ソニヤの姉に、アニータと云ふ婦人があります、此の婦人は文學の方面に、非常な嗜好を持つたが、どうも頑固な父は、此婦人の文學者生活を許しません。止むを得ず家を飛び出して、著作に從事する、遂には原稿を賣つて、伯林で生活して居た、夫れを本國で聞いた、父が悲嘆と怒りの餘り言つた事が夫れです。

御身は已に其の著作を賣つた、此の上御身が何時如何なる場合、御身の身體を賣らぬと云ふ事を、私がどうして保證されやうか。

◎唯だ之れだけです、之だけではあるが、已に其の著作を賣つた、此上何時身體を賣らぬと云ふ保證が出來る乎、何と云ふ痛切な、深酷な言葉でありませう。誠や文學と女性、委しく云へば、文學を弄ぶ女性に對しては、社會の誘惑や、世間の迫害は意想外に劇しい之は文學を味ひ、はた文學を嗜まれる諸嬢に對して、殊に注意して欲い事と存じます。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

◎御覧なさい、近頃までの閨秀作家としての方々は如何なる生活、如何なる一生を終られましたか。樋口一葉、村田琴仲、田澤稲舟、伊藤響花、北田薄氷、巌本かし子、伊藤政子、國木田治子、長谷川時雨、此等の人の三分の二は、悉く寂しい、甚しきに至つては、悲惨な生活さへもした又た爲しつゝある人々です。又其の殘りの方々と云つても、果して幸福と云へるか否か、夫れさへ疑はしい月日の下に、其日を送つた、或は送りつゝある作家方です。

◎之と違つて文學を一時の感興とする、三宅花圃、小金井きみ子、古在紫琴、瀬沼夏葉、大塚楠緒子などの方々は、比較的幸福な家庭を營て居ります。閨秀文學界に於ける、專問文學家と、嗜好的文學家の相違は斯の如きものがあります。私は別に、何方がどうと云ふ價値は付けません、又た批判は致しません、唯だ閨秀文學界の、實世間に觸れた現情は斯ふ云ふものだと云ふ事を顯はして、諸孃の翫味を願ふ次第であります。

◎今の閨秀文壇て、以上の外に文章家としては、嘉納治五郎夫人、菓子、鳥居龍藏夫人きみ子、共に擬古體の立派な文章を書きます。然し之れからの女性が、擬古體の文章を用ふべき必要があるか否かは、頗るの疑問だと思ひます。或る女學校では、文章體以外の文章は作らせぬと云ひますが、私はどうしても、言文一致體、口語體が、矢張り將來の男女共通の文體だと思ひます。

◎前のソニヤの父が言つた節操を賣ると云ふ、事をいろ〳〵に書いてある。佛國文豪ユーゴーは、有名な其の「哀史」の中て「彼女は僅かな其の殘せる一つをも賣らねばならぬ境遇に差迫つた」と言つて居ます。夫れから之も同國のゾラは。其の特色のある著作「夢」の中て、「彼の女は打紐を賣ると云ふ言前て、あらゆる物を賣つた」と書いて在ります。女の節操が、女の總てであること、最後の立場てあることは、如何なる文豪も一致して居ります。

◎或る人はゾラの著作を以て、全く道德の念の無い獸のやうな文人、又た著作と考へて居るやうです。然

し之は大きな間違ではありますまいか。其の「夢」などには、婦人の節操を盛んに說いて居ります、「處女の貞潔は天使の姉妹で、あらゆる善德の持物で、惡魔の敗北で、信仰の主君である」と說いてあるのです。

◎此頃諸孃の御覽になる小說には、夫婦の愛を描いたものは多いでせう、母子の愛を描いたものは何程かありませう。母子の愛を描いて、人を泣かすものはユーゴーの作物に多いのです、手近くは「哀史」にも、「九十三年」にも、母の子に對する愛情は、どれ程强いものであるか、實に深く、深く描かれて居ります。ユーゴー先生は有名な「女は弱し、然し母は强し」の不朽な言葉を殘した文豪で、此の人は、非常な子供好きでありました。諸孃は時々、斯う云ふ性質の小說を讀んで頂きたいものです。

◎私は近古の婦人中で、「八犬傳」の著者、曲亭馬琴の嫁と云ふ人に、少なからぬ感興を動かされる一人です。御存知でもありませう　馬琴が老人になつて盲目になり畢生の大作「八犬傳」ももう僅かで終結になる、然し如何に勢力絕倫の馬琴でも、俄盲では筆を執る譯には往かぬ、さればとて別に筆を執らする人は無い、止むを得ず、自分の息子の嫁に、口授の儘を筆記さした。處が其の嫁さん、夫れほど文學の素養は無い、よしあつたにしても、稀世の學者たる馬琴ほどに物事を知つてる筈は無い、夫れに一字々々文字の畫まで口授して、筆記さする面倒は、殆んど泣きたくなる程であつたとは、馬琴翁自身、「八犬傳」の後にある「四外剩筆」の中に書いてあります。思ふに泣きたくなつたのは、馬琴ばかりではありますまい、嫁さんも又たさうでありましたらう。

◎然し日本唯一の大小說「里見八犬傳」は、此の嫁さんの力で完結された。即ち此嫁さんは無名の英雄であります。若し此の嫁さんに日記或は感想錄があつたなら、どれ程面白いものでありましたらう。若し地を換へて、諸孃が此の嫁さんの地位に立たれたと假定したなら、如何な事をされたと思はれますか。

◎文學も、嗜好とし、娛樂として居る中は樂みです




Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

今日の世界文學界に有名な女性て、併も並ならぬ高位に居られる、ルーマニヤの皇后雅號をカルマン、シルヴと云ふ方があります、皇后自身て書かれた「婦人の使命」と云ふ論文は、私の愛讀する一つてありますが其中に、自分は八歳の折、沙翁の著作を面白いと思つて讀んだと云はれて居ります、如何に鋭敏な才能のある方かは解ります、然し婦人として、皇后として、貞淑賢良、兼備した婦人てある事も定論てす。畏くも我日本の　皇后陛下も、歌人として世界に通つて居られます。

◎何時か三輪田元道さんの御話を伺つた折に、兎角今日の若い女性の文章は、佛教の感化を受けた思想が多いとありました。私も左様思ひます。夫れに他の一つは、思想が型に嵌つて居る、月を見れば悲しいとか花を見れば喜ばしいとか、もう先から極つて居る、夫れに主觀て文章を作らなければ、文章が出來ぬやうに思つて居られる人が多い、だから思想の現はし方が自由て無い。直ぐ悲しいとか、嬉しいとか、感情が出る。勿論感情は女性の生命てあるから、感情の出るのは止むを得ぬとするも、書かうとする材料を客にして、感情其ものが主となるやうなのは、斷じて好い事ではありますまい。

◎昔からの我が國女性の書いたもので、紀行や景物を書いた文章は決して尠く無い。然し自然其ものを、ありのまゝに能く描いた著作は餘り見受けません。淺間の煙を見ては、我胸に燃ゆる思とか、凡て「彼」を其儘に据置いて寫生する事をせずに、何ても「我」のものとして書くと云ふ處に缺點があつたやうてす、然して此の弊害は、今に至つても猶去らないやうてす私はどうも之に慊らぬやうに思ひます。

◎英國の閨秀文人て、ミットフォルド孃と云ふ人の書いた、我が村と云ふ、有名な散文集があるのは御存じてせう。之は孃が父と共に或る田舍村へ移住して、一生を獨身て暮す中に、其の村の周圍、自然、生活、人物などを、寫生的に描いた文集てありまして、情も景も、大人しく、柔かに、極めて自然に描かれて居ります。若い女性方も、自分を矯めずに、斯う云ふ態度

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て、斯んな觀察で自分の周圍を書かれたなら、嘸ぞ面白いものが出來るだらうと思ひます。元來女性は其の纖細な描寫と觀察に於て、確かに男性より一步を抽いて居るものですから。

○此頃の新聞に、小說好きの妙齡の女性が、小說中に、自分と同じやうな境遇があるのを見て、夫を見まねに死んだと云ふ事がありました。死なぬまでも斯んな例は能くあります。然し之が考へ處です、小說は人間の處生術を敎訓する物ではありません、よし敎訓があつても、夫は第二義になつて居る。其の主とする處は感情の高潮を面のあたりにあるやうに描き出して、人を泣かしめ、同情さする個處にある、小說の目的は夫れて足りますが、實世間は夫れては往けません。小說の道は感情ばかりて步行ける、然し實世間には感情と共に、理性も必要です、意志も必要です。其の區別も構はずに。實世間に居る人が、直ちに小說界の人となる、是に至らしむるが、或は小說の第一目的かも知れません、夫れだけ作物の價値の加はる處かも知れませんが、實世間に居る人に取つては實に迷惑です、私は飽までも、小說と實世間を、一緒に混ぜられぬ事を諸嬢に御勸め申したいのです

## 樂屋

鈴木秋風

園子は庭傳ひに扉を押して入つた。室の中は白熱瓦斯の光鮮やかに輝やいて、たゞさへ暖かい、花やかな浮に浮た春の夜は、年若い男女を包む煙草の煙、人のいきれ、それに香油や香水の匂が混じて鼻を衝て來るので、たゞもう夢見る樣に、恍惚として了うのである。

「いよウ、御兩人！——それは今我が輩が園子樣と並んて入つて來た處に假定したんてすよ。」

ピアノの脇て切りに我が顏を眞黒に染めて居た田中が、恁う云て拍手をする騷に、園子は赤くなつて、がやく饒舌つて居る一團の女子の群にかくれた。丁度



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

次ぎの間から拍手の聲が聞へて、今番組の演藝を終たらしい御殿女中の風をした少女等が七八人、どや〳〵と此方に入つて來る。
其處へ米俵を被つた吉野邊が出て來て、室の中を一わたり見廻したが、
「大谷様、活人畫ですよ。今度は。」
「はア、もう舞台の方はいゝんてしようね。」
と云つて、勾當内侍に扮した婦人が出て行く。
「おい、吉野邊。」
と云ふ聲と共に、附髯をしてシルクハットを被た水津の首が、ひよつこり窓の外から顯はれたが、莞爾して、
「おや〳〵、君の其態ア何だ、米俵なんぞ冠りやがつて、餓死年生れの人間ぢやあるまいし。」
「馬鹿ア言へ。」
と俵の吉野邊は、シルクハットの頭を一つ叩くと、帽子が大きかつた爲か、づぶりと眼まて入つてかくれたので、多勢は一度に哄然と笑つた。
「やいていつ！」
と水津は顏をしかめたが、すると今度は附髯の髯が取れて下に落ちる。人々は再び哄然と笑ふ。
水津は眞赤になつて、窓から飛んて入つて、今落した髯を拾ひ上げたが、ピアノの鍵盤の上に鏡を立て掛て、切りに墨を塗て居る田中のあるのに氣が附いて、
「ヤ、盛んな事をやつてますな。」
「はゝ。」
と田中は笑つて、やがて墨を塗り終ると其頭へ白木綿をまきつける、宛ら印度人。
「一寸、誰様ても可いてすが、」と田中は御殿女中の集まつてる中へホワイトシャツを持つて來て、「これを一つ着せて下さいませんか。」
「まア印度人！」と園子は驚いた樣に云て、眞黒な田中の顏を熟々と見詰たが、「お一人ぢや着られないの？」
「えゝ、頭に木綿を紮付たもんてすからね、支へつちやつて不可ないんてすよ。」
「ほゝゝ、お顏がヒリ〳〵するてしよう。」
「するのしないのつて、向うて引張り、此方て引張り

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

方々で綱引き見たいな事をやつてるんてす、はゝゝ。」
「ぢやア、もう少し此方へお寄んなさいな。」
と園子は其ホワイトシャツを着せてやる。
「多謝々々。」
「中々入らないわねえ。田中樣、貴君お頭の木綿を取らなきや不可なくつてよ。」
「そんな事をしちやア夜が明けつちまいます、どうか此儘で。」
「だつて中々入らないのよ。」
「一生懸命になりやア入りますよ。」
「不可ませんよ、其麽お顏をして、物を有仰るのは。可笑しくつて、可笑しくつて、中々手が思ふ樣に利かないんですもの。」
「其麽に可笑しいんてすか、ても恁うなりや誰だか解らんてしよう。」
「えゝ、そりやア解らなくつてよ。」
「假裝したロメオに似てましよう——カピユーレツト家の舞踏會の晩の。」
「どうてすか。」
「どうてすかは情無い！そして、貴孃は差當りジユリエツトの役目だ。ね、ロメオは恁うしてジユリエツトの手を振りますね。」
と云ひさま、凝然と園子の手を握ると、
「あら、厭な田中樣。」
と園子は赤くなつて振りもぎつて逃げ出した。それて今被せ掛けて居たシャツは猫が袋を被つた樣に、半分から上が、ふら〳〵とするので、婦人連はそれを見ると拱と笑つた。
「園子樣、やりつ放しぢや不可ませんよ、これぢやア如何する事も出來ない。」
と園子の傍に寄つて行くので、園子は今度は扉を押して庭の方に逃げて行く。
「あら、妾厭ですよ—」
「厭ですよは情無い、」田中は其跡を追ひ乍ら、「園子樣園子樣、They pray, grant thou, lest faith turn to despair……」



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Tennyson's famous "Princess." Well that piece was dramatized by a certain Englishman and was given yesterday out-of-dours.

名な『王女』と云ふ叙事詩を某英國人が脚本に仕組て其を外國婦人方が昨日庭園で演ぜられたので御座います。

C. How beautiful it must have been. I wish I had seen it.

丙：嘸綺麗な事でしたらう．拜見し度う御座いました。

A. Sorry you missed it. But the most beautiful part for me was not the play.

甲：殘念で御座いましたね．併し私の目に一番美しく見えましたのは，演劇でないのです。

B. Then what was it?

乙：其なら何で御座いました?

A. The spectacle which the audience presented. They were in full dress and their gay colors in the green lawn under the clear blue sky were just like a dream.

甲：見物人の呈した光景で御座います。皆正服で，華美な服裝が霽れ渡つた蒼天の下，青草に映ずる樣は夢の樣に綺麗で御座いました。

C. Where was the stage?

丙：舞臺は何處で御座いましたか。

A. A high terrace with the back-ground of trees and shrubbery was the stage. And several hundreds of chairs were placed on the lawn facing the terrace.

甲：小高い芝生で　樹木が背景になつた處で御座いまして，澤山の倚子が其方に向けて排列してありました。

B. Were their many ladies and gentlemen?

乙：紳士，御婦人が大勢でしたか。

A. Mostly foreign ladies, but I was much surprised to see so many young Japanese girls there.

甲：多くは外人婦人でしたが，日本の若い御孃樣方の多いには驚きました。

C. Do you think they understood the play?

丙：其劇が御分りでしたらうか?

A. Rather doubtful.

甲：怪しいと思ひます。

B. That was why I did not care to go.

乙：其ですから，私は參りませんのでした。　（つゞく）





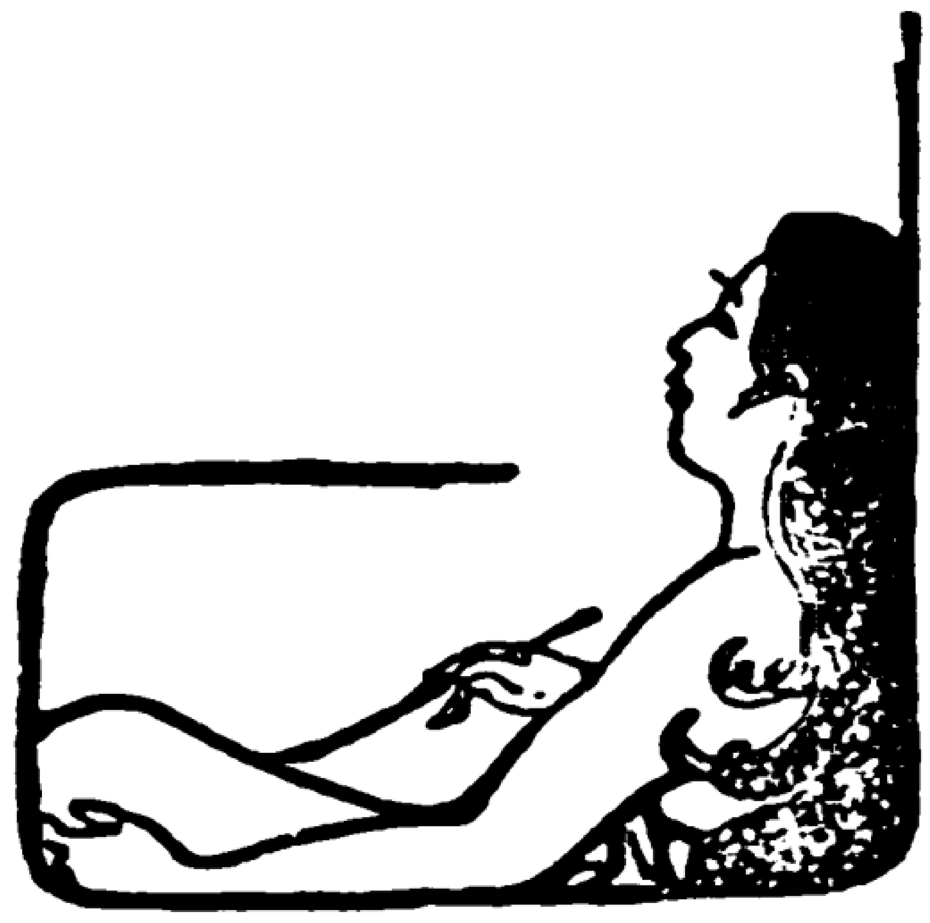


Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

# 英　　文

（第四年第十一回）

女子英學塾講師 河井道子



## "The Princess."

A. Did you go to see "The Princess" yesterday?

B. I did not, though a ticket was given to me. Was it a success?

A. Yes it was. You do not know nhat you missed. But what did you do with the ticket?

B. I gave it to my cousin who is a better English scholar than I.

C. Please tell me what you are talking about?

A. Excuse me, I thought everybody heard about the play given by some foreign ladies yesterday at Mr. Sonoda's garden.

B. And it was for the benefit of the Okayama Orphanage.

C. And the play was "The Princess," was it?

A. You must have heard Lord

## 王女

甲：昨日『王女』を御覧に入來しやいましたか。

乙：切符は外から貰ひましたが，參りませんてした．盛んて御座いましたか？

甲：盛て御座いました．貴女入來しやらないて，大變損をなさいましたよ．切符は如何なさつて？

乙：私より英語上手な從弟に遣りました。

丙：一體何の御噺て御座いますの？

甲　マー御免下さい．私は誰ても，昨日園田氏の庭園て外國婦人方の催になつた演劇の事を御聞と思ひ失禮致しました。

乙：其は岡山孤子院の爲に擧行されたのてす。

丙：其劇が王女と申しましたのてすか。

甲：ハイ．彼のテニソン卿の有



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

# 新らしき三つの欄（投・稿・注・意）

## 家庭日記

日記文のうちで美文風のものは美文欄に收め、今後は家庭日記として日記文を募ります、就いては家庭に關係したことなら美文風のものでも、亦實用的のものでも宜しいことになるのです、實用的と言ひますと家庭に關する心得や、實地の出來ごとや、文學を離れたものでもかまはないと云ふことです大要を擧げて見ますと左のやうなことです

▲家庭で行つてゐること、見たこと聞いたこと、出來ごとのいろ〳〵。
▲衣服、食物、住居のことは勿論、廣く生活上の新しい經驗や、失敗や疑問など、何でもよし。
▲其日のうちに起つたことなら物質的のことでも、精神的のことでも。
▲成るべく實地の有り儘を書くと云ふことを主眼とします。
▲小さい子供達の教育のことでも、若い奥樣の家庭改良意見でも、女子の年になつた家庭の日記なら歡んで迎へます
▲行數は二十四字詰三十行限りです（本月十五日締切）

## 散文詩

昨今新しく興つて來た口語の新體詩を作つて御らんなさい、特に言つて置きますが我が口語詩は未だ詩歌と云ふほどの響が出て居ません、先づ文章にしては少し調子があり、匂ひがあり、形が違うと云ふ位の處ですそれでもよろしい、散文詩と云ふものは西洋にもあるのですから一つの文學として起しても宜しいでせう、只、今の處では何の規則も、作法も、模範もありませんから、諸嬢が思ふやうに詩らしい感じを口語で表はせばよろしい、選者は實際に選評する時に當り、其作に就いて一々批評もし、指針も示さうと思つてゐます行數は二十五行を越えないやうにねがひます。（本月十五日締切）

## 少女文壇

▲少女諸嬢の爲に「少女文壇」と云ふ一欄を設けます▲少女文壇の投稿は十五歳以下の少女に限ります▲姓名の傍へ必ず生年月を書して下さい▲生年月の分らぬものは載せません▲代作らしく思はれるものも載せません▲少女文壇に載せるものは作文の唱歌と和歌に限ります▲作文は短いものを下さい題は何でも御勝手です▲唱歌も餘り長くないもので、學校で歌ふやうなものを作つて下さい▲和歌は一人に三首まではよろしい▲以上何れても子供らしく優しいのを取ります▲書いた紙には必ず「少女文壇」と云ふ字を書き添えて下さい▲字はいくら假名が多くてもよろしいが、はつきり分るやうに書いて下さい（本月十五日までに）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

女子文壇の廣告により御申込の節は其旨御書添を乞ふ

面白い爲になる好讀物

# 勅語物語 菊の下水

文部省普通學務局長 松村茂助序 畫伯 黒崎修齊 意匠挿畫

文部省視學官文學士 吉岡郷甫・塚本小治郎合作

和裝美本全壹冊 定價金參拾五錢 郵税六錢

毎篇密挿書入

天皇陛下が我々に賜つた教育勅語の御趣旨を諸君にすぐおわかりなるやうに面白い可愛らしいお話に書いたもので讀て爲になる本です

# 入學要書

寶文館編輯所編

## 中學校 實業學校 高等女學校 入學受驗準備要書

●入學試驗係員の指示に基て著せり▲答案上に見えたる誤謬を詳説す▲各科各種の難問題と解説とを掲ぐ

袖珍全壹冊 定價卅五錢 郵税六錢

## 中學校 實業學校 高等女學校 入學受驗算術問題及解説

●入學試驗係員の指示に基て著せり▲入學に要する算術問題を詳説す▲答案上に見えたる誤謬は悉く載す

洋裝全壹冊 定價參拾錢 郵税六錢

寶文館編輯所編纂

●中學校 高等女學校 入學受驗豫備教科書

洋裝全壹冊 定價貳拾五錢 郵税四錢

寶文館編輯所編纂

●中學校 高等女學校 入學受驗豫備獨修書

洋裝全壹冊 定價四拾錢 郵税六錢

前國定教科書編纂委員横山德次郎著

●中學校 高等女學校 入學受驗準備書

洋裝全壹冊 定價參拾五錢 郵税六錢

## ▲▲假名遣改正に付學生要書▼▼

寶文館編纂 新式字音假名遣便覽 定價六錢郵税貳錢

寶文館編纂 新式國語假名遣便覽 定價八錢郵税貳錢

古谷知新著 新案字音假名遣法 定價六錢郵税貳錢

古谷知新著 新案國語假名遣法 定價六錢郵税貳錢

振替口座二八〇番 東京日本橋本石町

發兌 寶文館

大坂市東區備後町 振替口座六九一番

女子文壇の廣告により御申込の節は其旨御書添を乞ふ

▲紙數二百四十頁▼

空前の大高評

# 紅楓

新刊

▲本號に限り正價金二十錢【郵稅一錢五厘】▼

表紙及口繪

断崖……服部愿夫筆

秋の色（縱長額面）……（原色寫眞）

羊飼ひの少女……（仝上）

## 秋季大附錄

△氣質論……文學博士 坪内逍遥

此れ博士が特に筆を執りて本誌の爲めに寄稿せられたる者、論議深遠眞に近來稀に見るの快論文也。青年にして文を志す者之を讀まば大に啓發する所ある可し。

△小說 頽廢……徳田秋聲

△小說 幸不幸……小栗籌子

秋聲氏の特色は人生の哀愁を寫すにあり、即ち『頽廢』は氏が苦心の傑作にして。閨秀小說家の一人たる籌子女史の新作と共に今秋文壇の一大光彩なり。

## 青年文壇

○論文○美文○新體詩○評釋文○寫生文○人物評論○日記文○消息短文○小品文○新口語詩○和歌○俳句○漢詩○スケッチ

## 各欄選者

○徳田秋聲 ○西村醉夢 ○河井醉茗 ○中内文學士 ○小笠原盧舟 ○服部愿夫

○中島孤島 ○小川未明 ○尾上柴舟 ○高濱虛子 ○矢部白雨 ○前田夕暮

發行所 東京神田旅籠町一丁目廿三 文光堂

賣捌 東京堂○北隆館○上田屋 東海堂○良明堂○至誠堂


（戌の二）

女子文壇の廣告に依り御申込の節は其旨御書添を乞ふ

投稿歡迎

投稿雜誌中特異の光彩を放てるは本誌也

# 新文壇

大々活躍

▶十一月號　一日發行　定價　一册拾壹錢　六册六拾錢　送共◀

▲卷頭の大文字

◎詩　前田林外

◉小說　落伍者　山本露葉

▲詩　松山白洋

本誌は文壇思潮の先導として專門大家の意見を紹介す

## 新口語詩論

蒲原有明
平木白星
前田林外
山本露葉
河井醉茗
岩野泡鳴

投稿欄出色の文字山の如し

毎月募集

◉論文◉叙事抒情文◉小說◉和歌◉俳句◉小品文◉消息文◉漢詩◉新體詩◉誌友倶樂部

▲入賞者毎號數十名　▲投稿〆切毎月十五日限

東京下谷區谷中眞島町四番地　日本文藝會

東洋

# 婦人畫報

毎月一回　一日發行　定價金廿五錢　郵税一錢五厘

◎本誌は書報中の泰斗にして婦人雜誌中の女王なり。

◎婦人界の出來事は本誌を置いて他にかくも親切叮嚀に報導するものはあらず、

◎毎號二十六頁の優美なる寫眞版は天下獨歩ともいふべし。

◎讀物は穩健忠實を旨とし、家庭の好指導者たり。

◎婦人にして本誌を讀まざれば時世に後るゝと共に、社交上一大損失あるは明かなり。

◎中流以上の家の應接間には必ず本誌を備ふ。

増刊　女學校畫報

十月十五日發行の本誌は各女學校の外形と內容一目瞭然、女學校に入學せんとする者、現在學生、及び保護者の好參考書たり

發行所　神田小川町四一　東京社

女子文壇の廣告により御申込の節は其旨御書添を乞ふ

# 自宅職業

男にても女にても如何なる遠地にても容易に出來得る一日壹圓内外の利益ある確實にして有望なる自宅職業あり郵劵拾錢を送れば着順に就業の手續書及製品見本を送る尚ほ製造品は永年の取引を契約す望の人は至急申込べし

東京神田金澤町二十二　鈴木商會

# 色黒　にきび　吹出好評嘖々

たるクヴルーの最新療法にて全治せし故同病困難者へ救ゆ郵劵三錢送れば誓て全治美人の幸福を與へます

東京下谷區初音町四の十四女子美術學校　前長田

（戊の四）



# 隆鼻術

注射療法に依らず自宅にて簡易にして完全に鼻高くする手術を發明す貳錢郵劵送れ説明書呈す

東京小石川柳町　東洋堂美容部

# 三大療法

濟世の爲初版壹萬部限り無代進呈す送料封入至急申込あれ

壹部三拾錢　送料貳錢

**神經病** 神經衰弱脳脊髄心臓胃腸生殖器各部の神經衰弱ヒステリー血の道ヒポコンデリー

**胃腸病** 胃急性慢性胃加答兒アトニー胃潰瘍胃癌消化不良胃痛腸加答兒（下痢）

**肺病** 肺結核肋膜炎肺尖加答兒等……

我社は救世の大事業として各病専門博士の指導により完成せる三大療法なり各患者は一讀再生全快の幸福を得よ本書は治療攝生法の外殊に各博士の臨床實驗せる治療藥を詳説せり

東京京橋越前堀　醫藥新報社出版部

妾事小供の時より薄毛にて種々の藥を試みしも効なかりし所洋行中なりし醫學博士令夫人より奇藥を得是迄の薄毛も濃くなり又毛の生へざりし所へ迄毛生へし嬉しさの餘り困る方に告たし三錢郵劵を添へ御照會あれ

東京市京橋區越前堀　河村愛子



# 脱毛術發見

男女毛深き人僅か十分間に害なく毛を抜き亦發毛を止める秘法あり貳錢郵劵送れ呈す

東京市小石川柳町　東洋堂藥院

産科婦人科専門 醫學士北畠孝夫先生閲

最近
# 婦人病心得
子宮病自宅療法

女の一番つらい病は。子宮の諸病であるが。此病にかかりし婦人は。大抵之れを秘して、適當の手當をなさず。亦妙齢の頃などに。月經の閉止とか。不順等あれば、獨り心を痛めて。素人的の通經劑などを試み、遂には恐ろしき難病となつて、生涯の苦みを遺すことのあるのは。洵に痛歎の極である◎著者は多年の實驗と。最近の學説を基礎とし。（婦人病者の心得）と題し左の各項に分ちて丁寧親切に詳説せり◎病める婦人は勿論一般の婦女は。本書を一讀して、自宅の療法を會得せよ。當分の內無代進呈す送料貳錢封入至急申込まれよ。

目次

婦人病の總論◎子宮病血の道（ヒステリー）の原因病理及び自宅療法◎神經衰弱、貧血、萎黄病とは如何及其療法◎しらちながちの病理及其根治法◎月經時の手當月經諸病の療法◎妊娠の原理、受胎すべき場合、姙婦の攝生、つわりの養生法

發行所 東京築地新榮町四ノ一（電話新橋三千六百一） 笹岡省三

ちしれもくせも
もはへうけあい
二大奇法

妾の手がけた方で此病にて諸種の買藥して癒らぬ人も悉く治りし故夫れて皆様の進めにより御披露し升御問合せは往復はがきにて御申込あれ

女髪師 東京麹町區飯田町四ノ十六 安部歌子

# 洋畫講義錄
洋畫講義錄は水彩畫を始め其他油繪木炭畫ペン畫鉛筆畫肖像畫等すべて一切の洋畫に關する事を詳細に講述す每號美麗なる挿畫數多あり、每月一回發行、一年卒業、會費月卅六錢、詳細規則無料進呈

執筆 三宅克己先生 岡田三郎助先生 大下藤次郎先生 中澤弘光先生 外大家十數名

新學期開始 東京市麻布飯倉四丁目 大日本繪畫講習會

# 繪畫講習錄
繪畫講習錄は日本畫の技術と之に關する各種の學科とを平易懇切に教授し如何なる初學者と雖も忽ちにして上達せしむ每號美麗なる繪畫數葉を挿入す、每月二回發行一年卒業會費月卅六錢、詳細規則無料進呈

執筆 川端玉章先生 荒木寛畝先生 寺崎廣業先生 梶田半古先生 外大家十數名

◎色白くなる秘法◎
いか程色黒き御方にても色白くなる奇法を郵券二錢封入申込の方に御知らせ申上升
東京小石川柳町 森義郎



女子文壇の廣告によりお申込の節は其旨御書添を乞ふ


●青少年文學雜誌●

# 新文星

第二巻第二號より根本的の大改善大發展をなし記事精選紙數増加す。

又投書は添删批評必ず掲載するの規定を設けたり

●本誌は日本全國青少年諸氏の一大筆戰場にして又文章和歌俳句等研究者の良教師なり、來れ、同好の諸子！見よ大改善後の大雜誌新文星を！

毎月一回十五日發行●郵券一割増
六冊（半年分）前金送料共三十二錢
十二冊（一年分）同五十八錢
一年分拂込者を院友として優待す

東京澁谷道玄阪上（新築移轉）
育英書院雜誌部
振替貯金第八六四貳番（必二錢増）


女子文壇の來春號より大發展の豫告本號卷頭二三頁にあり、必讀あれ


辯護士
特許代理業者

東京日本橋本石町一丁目三
頓宮雄藏
（電話本局二八八三番）

女子文壇の廣告により御申込の節は其旨御書添を乞ふ

# 毛のはへる藥

多年實驗の生毛劑にして特効驚くべき奇藥

一回一圓 全●送平二 圓半●三圓 半送料十錢

# 美容散 やせる藥

●血ぶとり、あぶらぶとり、酒ぶとり、顔赤く、のぼせ症等總の肥胖質の人用ゐて害なく身體美容となる保證藥なり

●定價(一週)七十錢(三週)二圓(五週)三圓廿錢送費十錢



にせ物御注意

# 皮膚病專門藥

あせも いんきん たむし
あか鼻 ざくろ鼻 あぶら
ぜにがさ ひぜん わきが

本劑は獨逸國皮膚病研究所專用法劑にして特製一瓶に全治保證又おいてむの憂なし

小瓶五十錢中瓶一圓大瓶一圓五十錢特製二圓送料十錢

專賣本舗 東京本郷區本郷三丁目 電話下谷二二一九番 新宮藥館

# しらがの毛の人に告

●二瓶小一組卅錢 中五十錢 大一圓 前金無送料

取次人至急申込め 明細書 郵券二錢

我輕便白毛赤毛染液は中流以上の人々に愛用せらるゝ新藥にて他の品とは大なる相違也

本液劑は獨逸醫學博士の發明したる原料に小店が多年實驗し來りし藥劑を加味したる新藥にて既に一度にても御試用の方は御承知の如く手拭をかぶる世話もいらずして僅か十分間にて染み上り黒き光澤を發しどす紫きがゝりてなく眞の烏の羽の如き見榮えありて如何に強く洗ひ濯ぐ共一旦染め上りし後は決して禿げる憂ひなく他の物へ染め付く氣づかひもなく頭地へ付くも洗へば奇麗に落ち皮膚にも無害毛も切らず太くする憂もなきことは小店の堅く保證するところに有之候

白毛赤毛染所 岡田商店

東京市日本橋區本材木町三の四

女子文壇の廣告により御申込の節は其旨御書添を乞ふ

（明治卅四年創刊）
（懸賞文學雑誌）

▷本誌は何故に多數の青年に愛讀さるゝ？◁

# 秀才文壇

秋季増刊
**紅楓**（紙數二百五十頁　正價金二十錢）
十月十日新刊

十一月は**八卷廿三廿四號**發行

◎卷頭……文壇諸名家

△毎號懸賞募集項目▽

○短篇小説……德田秋聲選
◎新體詩……馬場孤蝶選
○美文　◎評論文　○新口語詩……小川未明選
◎和歌……尾上柴舟　前田夕暮選
○俳句……岡本松濱選
◎寫生文　○小品文　◎評釋文……矢部白雨選
○漢詩……鹿舟選
◎スケッチ……服部愿夫選

定價表
◎一册郵税共金十一錢　◎六册前金六十三錢　◎十三册増刊共前金一圓四十錢　◎廿六册増刊二回共前金二圓五十五錢

第三卷第十一號

# 少年之友

益々大好評

△美麗口繪▽
○ジャン、ダーク軍頭に立ちて指揮す……服部愿夫筆
○少年繪手本……古洞宗方筆
△鴛鴦△泊り舟△鹿△茸

△主なる讀物は▽
◎妖怪宮（益々佳境に入る）……白雨
○珍奇の動物……はくう
○立志小説 涙の郷……秋畝
○僕は小獵夫である……頓夫
◎米國艦隊來航　○十一月の日記……記者
◎知惠競爭　◎繪さがし

新題
少年文壇（普通文○日記文○短詩○はがき文○和歌○俳句○お笑草○新考物○友達會○筆蹟○スケッチ）

無比廉價　一册金五錢郵税五厘　六册郵税共前金廿七錢○十二册前金五拾四錢

發兌元　東京神田區旅籠町一丁目　**文光堂**（振替口座壹九五五番）
賣捌　東京堂　北隆館　東海堂　良明堂　至誠堂　上田屋

（戊の八）



# 美文

編輯局選

▲規定　本欄は他の各欄以外の一般の文章を採録す、二十四字三十行以内、用紙は半紙又は罫紙、一人一章に限る事、投書締切は毎月十五日、賞品は甲種懸賞規定に據る。

## 天　○をさなどき

神田英子

女の子が今の樣に筒袖を着なかつたので、ぢみな縞甲斐絹の羽織の袖で、横なでをしてはよくお祖母樣に、「ツレ又ー」と小言を云はれた。お幾つと問はれて、「三ツちゆ」と丸こい手の親指と小指とをあやふく曲げて見せた時分。………

隣の珠つきやに同年の女の子が居た。私よくけんかをして、泣き乍ら家へかけ込むと、すぐ後から貸して上げた人形を持つて來て、店先へほうり出し乍ら、あかんべえをしては行つてしまう。私は其の顔を能く覺へて居る。聞けばその後ごむ風船をかんで、のどがふさがつて死んだ相だ。之を聞いた時云ひ知らぬ感じが胸にせまつた。四つの時分、姉樣の復習のじやまをするので、古い百人一首の本があつたのをあてがはれたが、畫がついて居たので、大變好きになつてしまつた。數へる人も根が強くて、一年斗りの中にあんしやうの出來るやうに成た。併し今はもうかたなしで、天智天皇持統天皇と、つゞけると、もう後が出ないと云ふ風。恥かしい思をする度に、此の畫を思ひ出す。お母樣の御病氣の非常にはげしかつた年があつた。人は大勢出入りするけれど、たれ一人ちやほや云ふ者もない。皆心配な悲しい顔ばかり。玄關にはお醫者の車が幾臺も下りて居る。私は毎日唐紙によつて泣いて居た。人々の笑顔の中に、五年を過ぎた私は、いつも人は笑つて居るものだと思つて居た。姉樣は學校へ行つてしまふし、下女から小僧まで人と云ふ人は病室に行つてしまふて、だれもかまつてくれぬのがうらめしくつて、泣いて居たのだ。淋しい心。………夫はいつても思ひ出せるが、あゝ何と云へば宜いのか、………筆や言葉に現せない心、………あゝ矢つ張り淋しい心。之より外に云ふ言葉がない。何につけても思ひ出さるゝは幼時てあります。

可憐なる回想記、飾らざるを愛す(評)

## 地　○思ひ出て

大阪府　寺部君子

小學校を出て、裁縫學校三年級に入學仕た初期の試驗

に四ッ身の綿入が出た、据合す迄では無事に出來たが偖て褄の處に成ると、皆樣のは衽が三四分で誠に仕樣さう故さつ／＼となさるのに、私のは强い羽二重金巾で其上七分もらかすので眞個に仕惡い、什麽仕ても巧く行かぬ、仕直せば仕直す程見惡く成る、人に遲れまいと燥るから猶出來ぬ、思はず膝の上にホロリと一滴窃と見ると皆の視線が等しく此方を向いて居たので、ハッと上氣仕て了てそこらがぼうと仕て來た、先生は知らぬ顏仕て被入る、堪らぬ樣に成つたので先生にはお腹が痛み升から歸して下さいと斷つて歸つて來た。其でも又來る意りで一寸畳んだ儘方付けずに、若來なんだ時にはとお隣の人に賴んで置いた。歸つてからも氣に掛るのでお晝濟むとすぐ行て、氣に成る褄を見ると奇麗に仕直て有る、あらと思はず聲を出すと其處に被入した春木先生は莞爾笑ひ乍「田原さん貴女のは餘程仕惡さうでしたから、一寸直して上げました既其處ては點を取りませんから他を能く成さい」と有仰た、私は肩の重りが取れた樣に覺えて、嬉いやら極り惡いやら、又アヽは有仰る物の什うで點は佳い事有るまいと心配で成らなかつた。何日も意地惡るの高橋樣が、腹痛は既う癒りましたの等と親切さうに態とお尋ねなさるので、あの時斗りは消えても了へる物ならばと思ひました。

此れに懲りて一生懸命勉强仕たお蔭て三學期の被布は樂々と縫へそして好く出來たので、我乍此度は誰にも負けまいと一人思うて居た。

春木先生は家事の都合で、學校を御退き成さる事に成つて、慥か四月の中旬に送別會が有つたので私は夢かと斗り驚いた、實に御優しい親切な好い先生ですから、皆々先生／＼と慕うて居たので有る。先生がお別の御挨拶遊ばした時には、廣い會堂が寂として唯歔啜る樣な音がそこゝに聞える。其が濟むと俄に悲しくて成らぬので、一人燒板にもたれて泣いた、彼方へ行かうと顏を上げると、春木先生が敎員室の入口に立て被入て此方を見て私を手招きなさる。其位懷かしい先生が呼んで下さるのに、何と思うてか、只泣顏見らるゝが恥かしさに、こちらへ走て來て仕舞た。あの時先生のお目の縁の紅かゝつたのは今に覺えて居る。私は又後で御目に掛れると思うて居たが既其れ限りで有つた。あの時何故お側へ行か無かつたのだらう、先生は何と思召たて有らうと氣の付いた時は既う十日の菊とやらて遲かつた。噫懷しい先生、今は何處に被入るて有らう。今日妹が好きな先生がお歸り成さるの、私悲しいわと言たつので、私も遂い昔の事が偲ばれて。

何てもないやうなことを、何てもないやうに書いて、其處に文章の面白みが出てくるのだから、文字の働きと云ふものも不思議なものである（評）

【人】○寺の老孃

赤坂　さゆり

赤坂一つ木通は、昔の一つ木原。往し大永四年正月十三日、北條氏綱、上杉朝興に勝ち、敵首を實檢したるは、今近衛歩兵第二旅團の所在地にもや。秋風颯々たる夕、燈影蕭條、讀みさしたる五代記より、可憐なる寺の老孃を想ひおこして。

一つ木原の古戰場其の名は北條五代記に、微かながらも尋ね得れど、あはれ朝に、綠樹蔭こまやかなる稻荷坂を下る人も、夕に、呼べば應へん氷川の森を、三分坂の上に望む人も、いかで想はん大永の昔、勝ち誇りたる北條氏綱の、鱗形なる旗印。赤坂臺にて累き門あるは、ただ此の眞宗寺一つ。其の寺の孃樣、名のみは孃樣なれど、齡既に五十を過ぎ、愛品も無ければ、愛嬌も無き、さながら丸出しの田舍人なり。されど學和漢に通じ、なかなかの物識り。殊に一つ木原の戰ひ話は、學生にも、職人にも、一度は必らず聽かすにてありき。うべこそ花屋の小僧、老孃を捕へて『お寺の先生』と云ふ。

昨は、三五の月明なりき。萬籟既に收まりて、寂々たる堂後の一室。今し讀書に厭きたる老孃、フト立ち上りて小窓を推せば、天心の



天賞　朝寒　水戸市上市八幡町　中川靜江

氷輪、満地の清光。斯の玉の如き中秋の夜色は、端なくも再び、天地を一笑に附し去れる老婦の情火を煽りぬ――重き唇、凄くも揺ぎて。

「われ未だ涙あり……」

あゝ未だ乾かざる老嬢の紅涙、あはれ何に濺しや。人生不幸の人多しと雖も、斯る婦人の上に出づる者なからん。

＊　＊　＊　＊　＊

一つ木原の戰ひ話、そが强き語調の底には、戀に破れし、弱き人の心は無きか、噫。

今、東京のまんなかで、古戰場の話を持出すなどは、われ／＼のやうな、いつも新しく／＼とあこがれて居る者に、何よりの好い「休らひ」を得るであらう、思ひ切つた着眼には少からず驚かされたけれど、本文は思つたほどに其人も、其事柄も出て居ない、はしがきを見て力んだ甲斐の無いのを惜む（評）

秀逸

## ○お嫁様

本郷　朝井松子

隣村へ輿入するお嫁さんがじき此の下道を通ると云ふので、宿の婆さんにつれられて歩き辛い蕎麥畑を漸く越えてだら／＼坂の上に出ると、右手の畑に一人の男が呆然鍬を杖にして立つて居る後ろ姿を、早くも婆さんが見付けて「寅さんよ！」「……」「寅さんちゆうに何呆然して居るだね」エッと振向くとたん、私と視線がピッタリ合つたので氣まり惡るげに下向いて鍬の土を足の先で落す「とう／＼新田の庄さんにお花つ子取られつちまつたでないかハ……」坂を下りて崖に添うて右へ曲ると、そこに赤や白の涎掛をした石地藏が在る、其の前に七八人寄つてわや／＼咄をしてはアハ…笑つて居る、私も此の中間入りしたが本當の國言葉を遣はれては何が面白いのやら可笑しいのやら、さつぱり譯が分からない、する内に、「そら行列が」誰だか云ふた、成程向ふの山の麓から二三人男が先に立つてぞろぞろ出て來る「嫁樣、とても立派だな！」「エラお花さん別品に成つたで、をら魂消たわ」左右に美しき小蒲團を高く積み重ねて、馬に横乘した嫁樣は、黒縮緬の裾模樣、金茶地の繻珍の丸帶、と云ふ東京風の好みだが、只惜むらくは、緋の半襟と雪の樣な袖口から、赤らんだ太い手をによつきり出したのが如何にも見苦しい、けれども道美人と云はれる丈有つて、目鼻立の揃つた愛くるしい女だ「婿樣もいゝ男だな……」「何程嫁樣幸福せ者だか」「どれがお婿さん？」と婆さんの袖を引くと「それ夫がッ」とお嫁さんの後に從へる袴羽織の人を指したので、お婿さん希見な顏してこちらを向いた「ヤー婿樣、東京の孃樣見るてねーよー」、お花さん案じるてないか」皆どつと笑つた、お婿さんは俯向いた、お嫁さんは振り返つた、次はお媒ださうだが折ふしポッ／＼降るせいで有らう、頭から桐油紙を冠つて顏丈出して、馬の上でむくり／＼動いて居る樣の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

可笑しさ……どうして吹き出さずに居られなかつた、後は何れも杢兵衛さんとか田五作殿とても云ひ相な人達が七八人、一々叮嚀に挨拶して行つた、先づ是れて行列を見だので元の道へ返つて來て蕎麥畑へ出ると、ふとさつきの男の事が胸に浮んで四方を見廻したが影も形も無い、婆さんも思ひ出してか「寅さん」の話をし初めた、聽けばお花さんと寅さんとは、幼い時からの友達て大の仲好……村の誰彼も大方末は……と噂して居たが、此の界隈ての物持の庄さんとかに想はれてとう／＼お花さんを横取されたさうな、ほんの笑ひ草の樣に話して居るが、私は失戀の人の心中を察しては坐ろ同情の涙を禁じ得なかつた。

此君の筆は何處かに滑稽の才あり、而かも卑しからず、餘裕もあり品格もあり、深く修養して行つたら美文の一家を爲すだらうと思ふ幸いに努めたまへ（評）

## ○針醫

水戸　重子

最う五六日行くのだけれど、何時も、男ばかり、今日は女の方てもいればよいが、などと考へながら玄關に來て見ると、やつぱり男の下駄ばかりだ、何時もの茶の間へ來て番を待つて居ると、中氣をして九年、生き延びたと云ふ老人が、お話をしかけるがよく舌がまわらないので、誰もだまつてるので、先生がお答事なさる、早く終ればよい、などと思ひながらお針も打つのを見て居ると、「始終痛ますか」「なあに時々いたむのです」「うーむよう氣のせいだ」足の方からよく、もむんて「さあようございます」今度は自分の番、帶をといて先生の前へ座ると、先づ脈を見て、仰向きに寢る胸からお腹へ針を打つ、實に、好い氣持になる、大變な勵氣だつておつしやる、見る處がないので、先生の顏を見ると、髮を伸ばして、目は細くつて、近眼、大きい歯を出して、口を明いて、ずうと、向ふの壁の方を見て居らつしやる、顏お可笑くなつてくるのを、チツト、こらへて居る、針を打つた後を靜かにさすつて「さあ起きなさい」庭の方を向いて座る、肩をコツコツパタパタもんてお針を打つ、まあ痛い事、思はずゾツとして目を眠むつて顏をしかめて居ると、脊を打つてから兩手を打つ、いたかないので目を開いて庭を見ると、オモトがある事、數へたら十一鉢あつた、打つた後を丁寧にもむて、スースーと、柔かい手てなてて「さあようご座います」一寸お叩頭して、帶を〆て「ありがたうございました」つて云ふと、先生がお歸りですかお大切になさい。

筆が輕く動いて、思ふ通りの事を言つてゐる、それて一寸も餘計なことや、無用なことは言はぬ、言つても面白いところをつかまへるだけの眼がある（評）

## ○新らしき着物

神奈川　須美子

おなみさんから「貴女早く歸つて着せて御上げなさいな、どんなにお嬉びになるか、知れませんよ」と云はれて、お話を止めて、歸つて來ると、垣根の處に遊んて居た妹は、飛んて來て袂にすがり乍ら「姉さん今日は誰のおべゝなの」と云つて風呂敷包を見上げる、私は笑ひ乍ら「これはどこかの、きく子、さんと云ふ孃樣のですよ」といふと「それじやお内の、きく、のてないの」と、一寸失望したらしいので「ほんとはね此處に居るきくさんのですよ」と、いふと、ニッコリして「あの絹江さんの樣なの」といひ乍ら、早く見たさう、私も早く着せて見たいので、家に上ると早速廣げて、「さあ着てご覽」と手早く着せてやる、今迄勝手に被居た母さんも出て來て「おゝいゝおべゝですこと」と云はれて、猶も乘り氣になつて袖を、前にしたり、後にしたり、いろ／＼の素振、そこへ恰度父さんが歸つて被居て、「やあどこの孃樣かと思つたら、きくさんだつたか大層いゝお召を着て」と云はれて「こんなにおたもが大きいの」と後にやつて見せる「きくさん此のおべゝは母さんと、父さんとに、買つて戴いたのですから、御禮を仰有い」といふと、早速手をついて「ありがとう」と、ソコ／＼にして、私の膝の上に腰掛けて居る御兩親一所に、「ハイ／＼亦買つて上げやうね、今度はもつとよいのをね」、「エヽそれじや姉さんがお祭りに着た樣なのがいゝの」、今度は私が「あんな惡いのては駄目ですから、赤い形の付いた立派なのを買つてお戴きなさいな」、「いやよ、きくは光つたのがすき」と眞面目くさつて云つて居るので皆なで「まあ」と云つたぎり笑ひ出して仕舞つた、やがて母さんがこんな小さな子でさへ、物のよい惡いのを知つて、あんなこと云ふんですもの、大きな方が、何だかだと、仰有るのは無理もありませんね」と父さんの方をご覽になると「さうだ無理もない、之からも、どうぞたくさん」と意味ありさうに微笑まれた。

何うしても女（評）

## ○亂れ雲

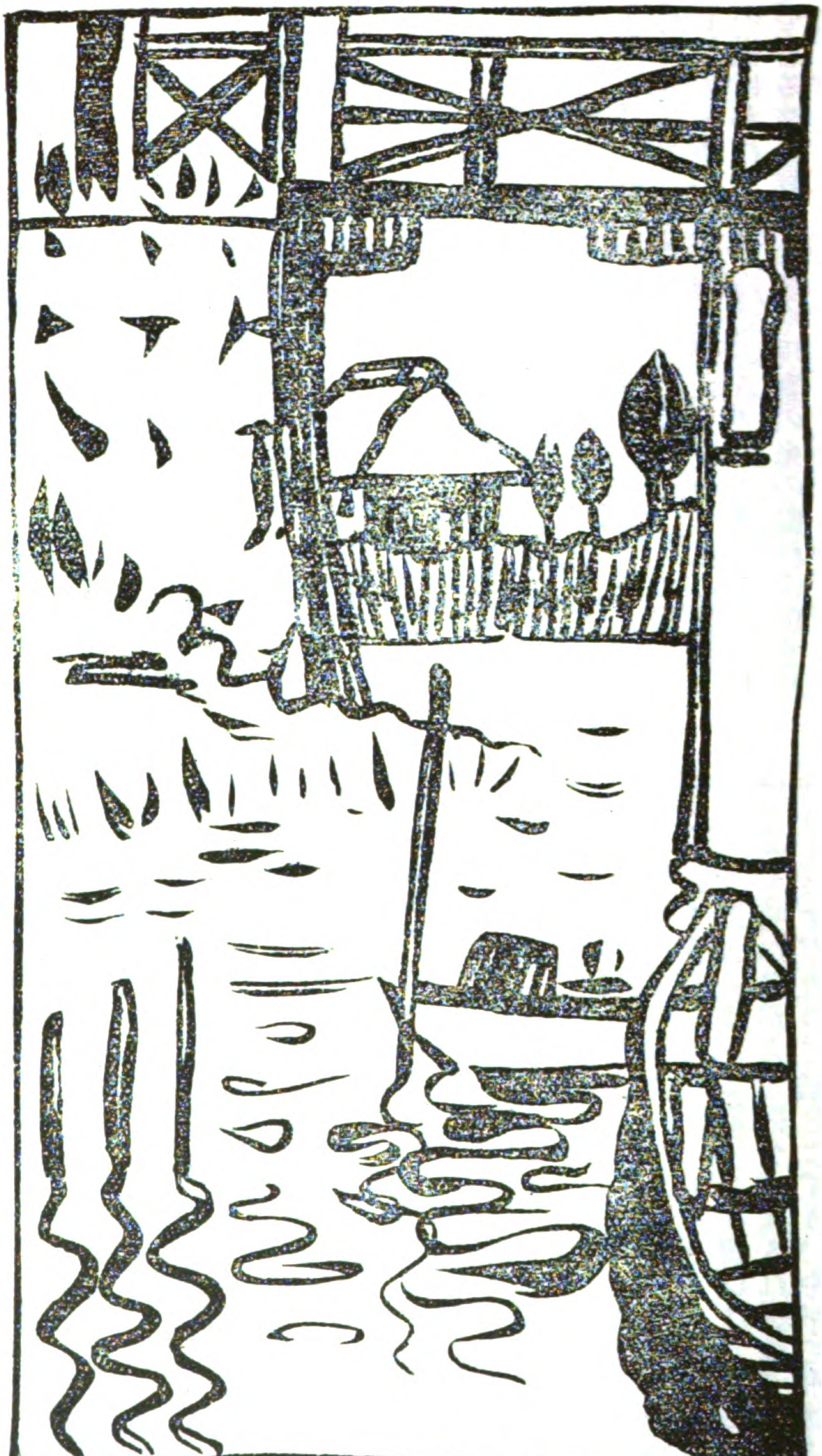
羽後　菊池りう子

爛々と烈しく燃える夏の沈みがけの日を、灰色の岩の樣な雲が幾峰も幾峰もむく／＼と湧き出て包んてしまつて薄紅と青と交つた空と、其峰との境から黄金の縁を取つた樣に僅三寸許り峰のまに／＼烈しい日光は輝いて居る、あの雲の岩！岩の蔭には愛と熱とに輝いた國があつてそこには美しい／＼白衣の少女が烈しい百合の香の中に手をとり交して歌つて居るのであらう。そして私の悌人もそこに交つて百の少女の愛の美に生きて居るのではあるまいか?!きつと、然だ！　私は爛々と輝いた日が出るのをまつた、けれどもう日は岩の蔭から一寸も出ずに沈んて行くのだ！と思つた時何か知らずに熱い涙がほろ／＼と落た、丁度私の心！灰色の冷い／＼意志の雲が悶々と起つて情火を包む、それ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ても情火は荒まじひ勢て出様々々とした、冷い雲はのろ〳〵とさはがずに情火を包む、それても情火は燃え強く光る、私はジッと雲の減をまつた、けれどそれははかない！雲は又のたり〳〵と漸々其小い光をも包またとうと苛つてる間に遂に人は去つた！　灰色の雲の中央が圓形に僅ほころびた、小さい日の光はそれてもふと廣がる、噫光は消えた、光は遂にのまれた。三寸の笹縁も今は二寸一寸と沈んて了ふ、噫かうして後は悶

地賞　橋の下　仙臺市茂市ヶ坂一三　鹽澤まこと



々と暗い／＼灰色の雲となつて了ふのだ。東の方にボッと桃色の餘光を殘したまゝ！。私の心もさうだつた冷いのろりとした意志の雲が僅破れて情火が射る樣にとれた時があつた、私はそれをまつた。冷い雲の破れて破れて影も形もなくなるのを祈つた。けれど私の意志は尙執着して光の中であせつてる間に遂に人は去つた、人は私の心も知らずに孤を歎きながら死と云ふ扉の中に入つて了つた。否私は長く現を共に人とあつても燃える樣な思を人に語る事は出來なかつたらう！確に。人は去つた。不自由な軀を離れた魂は自由に天をかけつて愛しい魂とも觸れる事が出來るのだらうと私は思ふ、そんなら彼人の魂も逍遙つゝある切な私の魂を知つたてあらう、知つてふれ樣としてるのではあるまいか。同じ現の世にあつても中に紫の雲が漂つて此方の山と彼方の山とは遂にさゝやく事が出來なかつた一方の山はくづれた、くづれた山は自由に土となり石となりして一方の山にさゝやく事が出來る。そんなら：日は全く沈んだ。僅な殘光も今は薄れ／＼て居る。噫かうして／＼夢の樣な魂の接近をまつて私の青春は沈だ日の樣にかれて行くのである。僅に殘る若い光もかうして居る間に意志の雲や現實の糸の亂れに包まれてまかれて消えてしまふのであるもの——。

私は双の眼に溢るゝ涙を抑へて灰色の天地に立つた。

放縦なる空想の天地にあこがれてゐる女の想ひは斯ふもあらうか、あゝ藝術の國は美くしい（評）

## ○お彼岸

芝區　うめ子

佛樣のお花を秋海棠と取りかへる。珊瑚樹のやうに赤くなつた莖に手をかけると、廣い葉の上に悠然とひかへて居つた雨蛙が、驚いてぴよんと飛んで植込の方にさつさと逃げてゆく。まだ居はしまいかと氣味わるく花瓶にさしてゐると、薄桃色の花がゆら／＼とゆれて朝露がぽたりと手に落ちて冷やつとする。水を入れやうと臺所にゆくと母さんと姉さんは、お萩の製造最中母さんは一寸手を桶の中でぬらしては、お釜の中からお飯を杓子で掌にのせて、ぽん／＼とたゝきつける樣にして握つてゐらつしやる。私も眞似してやつて見たがとても熱くて形がよくなる迄やつてゐられない。急いで木鉢の中に入れると、いやな恰好して手のあとがついてゐる、ごまかしてしまほうと思つて餡をつけると、これもうまくゆかない。姉さんは傍で笑つてゐらつしやる。これを入れてをくと、後できつと兄さんに冷かされるから、甘いかしらなどゝいひながら食べてしまふ。母さんは「お前のお手傳ひは食べるだけらしいな」と笑ひながら、握つては入れ握つては入れる。姉さんはすぐ取つて餡をなすり、やがて木鉢に一ぱい出來た。お初穗を佛樣に上げ、お重に詰めたのをもつてお隣にゆく。萩のたれかゝつてゐる裏の木戸を明け

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て入いると、おばさんは洗濯していらしつた「まあおばさんお洗濯これはおいしかないんてすがみいちやんにだうぞ」「まあよくお早くてきましたね、みいは今一寸おばあさんとお墓参りにてかけましたの、どうもお馳走様、よろしく〳〵」とおばさんは重箱の上に半紙を四つ折りにしてのせて下さる。後の方てボタリと音がして、柿の青いのがころ〳〵と二三尺向ふへ轉がつてゆく、雞が二羽かけて來て一寸突ついて見たが、澁かつたと見えて烈しく首をふつて嘴を地面にこすりつけてゐる。家へは入いると今しがた上げたらしいかをりがぷんと鼻をうつ。又裏て柿が落ちたやうだ。

寫生文のわざとらしい弊を抜けて居るだけに、此文は好い(評)

### ○望の月

釜山　富永清子

「お前が大坂に行つた時は丁度十五の時だつたね、あの年佐賀のおばさんがね、自分の國では女の子が十五歳の時の十五夜に、空が美しく晴れて、奇麗に月が出たならば其人は一生運が良い、然し若しも曇つて居たならば之れと反對に運が惡いと、古から言い傳へられているつて、其話を聞いたものだから、十五夜の月を待つて居たところがね、出たには出たが空が曇つて月がはつきりして居ないから、また夜半に起きて見たら此度は、誠に美しう輝いて居たよ」

と晩餐の時に、母は恁う話された、あゝ！親の慈悲！何にも譬へやうが無い。

こんな迷ひ事を聞いても、子の運不運を試めして下さる、數へて見ると、もう三年昔だ、月が曇つて居た時は、甚麽にもの學んで居る旅の子の上をお案じ遊ばした事てあらう！……わざ〳〵夜半にまて起きて見て下すつたのか、月の晴れたのをお覽んなされた時は……やはり我が子も幸運兒て有つたと、さぞかし涙てお欣びなされたて有らう。

口やかましく言はれた時は、嫌やな母樣だと、思ふたのも、能くよく考へると皆自分が惡いからだ、愛兒の行末幸多かれとのみ心から、善に矯めて下さつたのだ、それを假にもせよ恨めしいと云ふ觀念を抱いたのは、あゝ惡かつた惡かつた、何と云ふ不幸な子だらう！……

今日は八月十五日。空は美しく晴れ渡つて月は、鏡のやうに澄み切つて居る、電氣燈を欺くと言はうか?! 畫を欺くと言はうか?! 龍頭山の松の枝振が手に取る樣に見えて、いつもキラ〳〵と瞬いて居る星が今夜は淡く見える。噫今年十五の少女の爲めに、非常に欣ぶので有る。其母親の心中は、今どんなに躍つて居るてあらうか……。

言ふことも月の光のやうに、すつきりしてゐる、少しの瑕も濁りもない(評)



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

## ○見ずに居られぬ

長岡市　土田りた

交換局から自分に、市外通話の相違があるから至急出局しろとの手紙が來た。自分は母につげた、母は早く行て來よとのお言葉、袴もそこ〱に胸の動悸は稍々早やく、暫らくして歸宅した。

母にどんな間違いかはしらねど。「そんな一?「そそう」があつてはいけないから、これから琴の稽古や東京へ原稿を出す事はおやめなさい、そんな本見ることはきつぱりおやめなさい、さうして局の方を熱心にやればそれてたくさんだから！そんなにあれやり、これやりするから間違いがあるんてす」と、にがい顔して云ふた。自分は泣きたくなつた。

隣室に入つて泣きながらかう思つたのである、琴なんかやめよう、琴なんか彈いてる身分ではないから雜誌や讀物はよそう……學校に居つた時は一番劣て困つてそれから氣がついて卒業して雜誌に投書して……と、決心したけれど全つたく左樣して居たら局の方がをろそかになるてあらう自分は熱心にやつてる積だけど：私はまつたく人より「そそう」か多い、お母樣の仰しやるのも御無理はない、老いたお母樣に心配させようよりきつぱりやめて仕まはう」と、それからこれこれからあれと思ひ續けた。それから習らい始ぢめの琴も投書もやめた、以來はなんだか面白くなくて沈んだ、姓名は土田、形は人間、働いては居るけれど、職務は前よりまぢめてない、只「女子文壇」が見たい投書がしたいと思ふばかり、琴はやめても居られるが女子文壇はどうしてもやめて居られない、投書がしたくなつて四ヶ月も見なかつた女子文壇もまた母にかくして手にした、交換局て少こしづゝの休憩時間に少こしづゝ考がえ少こしづゝ認めて、幾日が幾日がかゝつて書きあげた。

どうしても見ずに居られない、つまらないのだけど、ふるい〱出した、出したら次ぎの文壇が待ち遠ほしくてならない。

これもほんたうらしい（評）

## ○四年間のわがテニス界

沼津町　涼風

私が櫻花爛漫たる四月に此の女學校に足を入れてから四年間テニス界はどんな有樣て私の級が進むだか一寸書て見ましやう、足を入れたばかりて上級生が無上にこはい一年生の時はテニスをやり度ても上の方が上手だからはづかしくてやれない一年間は隅の方のコートて暮した。二年級になると、一級下が出來たのてそろそろ頭が上るまた。上級の方がよんて下さるので行く氣にもなるやつて見るとおもしろい愉快だ隅の方のコートはいやになつてくる。もまれ〱て追々上手にな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

る、それて二年の時に當校中第一等の組になつてしまつた二學期に大會があつた。其時我級の二人は三年は申すまでもなく四年生おもしのいだそして三年の或る人達は大いに憤た二年の時チヤンピオンてあつたのは、光子さん、壽子さん、衣さん菊子さん、俊子さん、愛子さん、

人買ほし店



名古屋市押切町七丁目　きよし

松枝さん、花子さん、金子さん達てあつた、臨期應變に玉を出す人もあれど野心ボツ／＼たる玉を出す人もありすなほの玉の人もあれば、ひねくれたのもありますまちがつて居る十一月に受持の教師が來られた女子高師のチヤンピていらしやつたと校長は照會された。隨分御上手

だ、見て居つても自然にステキッと云ひ度くなる。先生が大さう御熱心になさるのでます〳〵盛んになつた三年の初めに體操の女教師が上つた先生も上手で御好き三年になると光子さんは福島の磐城女學校へ御轉學衣子さんも成女學校へ金子さんは御退學然しまだ〳〵運動器具室の出入は繁かつた、ラケットやネットは巾をきかして居つた、二學期になると、松枝、花子の二孃は急にラケットをなげられた、あゝ五人のチャンを失つた、然しまだ〳〵盛んであつたそして一年生が上手なのでたのしみにして居つた、三年の終り頃に受持教師が急に御引越、皆一度に落膽してしまつただから勢衰へざるを得ない。

四年の今日は誰一人さあ致しましようとラケット取る人がない、折角たのもしかつた二年生もちつともやらないからさしも出入の繁かつた器具室も人の足音もしない、ラケットはワキにかけられたまゝ仕様なささうにブラリと下つて居る、巾をきかしたネットも今は見る影もなく室の隅の方にチョンジョクなつて居る。高慢さうに上の方や下の方をヒュー〳〵飛んで歩いたボールは教員（體操）の机の引出の中にゴロ〳〵して居る、かつては沼津へと云つて高慢にして居つたコートもふみにじられて居る。

當年の運動家文技にも拙なからず（評）

## ○水泳

埼玉縣　岩田ふさ子

朝からむし暑くて、空には四國、北海道形したむく〳〵と白い雲が、たえず行來して居る、其間から照る日のあつい事、夕立の模樣がある。日の出るといつしよに前の小川では「ドシンバタ〳〵」水泳の音がして、きやッ〳〵とさわぐ聲が手にとるやうに聞える。樂しさうだ事と思ふと、どうあつても行きたい、けれど母樣に叱られる其筈、體を見ると銅のやうで、背は又黑いのだもの、他人に笑はれるからよそうと本を見る、けれど泳げると思ふと何の欲もなく水泳がしたい。「どぶん」と高い處からでも飛び下りたやうな音がすると、又キャッ〳〵とさわぐ聲がする。さあ行きたい母樣はと見るとせつせとお仕事を仕ておいでなさる。そつと掛竿から手拭を取り裏庭から遠廻をして、野菜畑を横ぎつて、一目散に川を目がけて走る。來て見ると友だちはもう澤山泳いだと見えて、唇は紫色になり岩の上に背を乾して居る、其樣はまるで龜の子のやう。もう嬉しくて急ぎ着物ぬぎ腰卷一つになつてザブリと飛び込むと、水晶のやうな水がぱつと散つて、足にさわる小砂も心地よい、昨年は少しも泳げなくて、つまらなかつたが今年は大威張り、自分の丈の四倍もある深い處でも、平氣で泳いで行ける。面白くて嬉しくて鬼の首でも取つたやうな氣になる。淺瀨で片方の足をつゝ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

躍り、ばちや／＼して居る者を見ると、どうして泳げぬだらうと、自分も昨年まではそうであつた事も忘れて、可笑しく見える。向ふの岩まで泳ぎくらをと友は云ふ、一二三とかけ聲て足音をそろへて泳ぐ。と何のはづみか友と私はかち合つて、二人もブク／＼／＼。驚き力の限りもがき浮き上つて淺瀬へ出て見ると、目鼻耳へ水が這入つて其苦しさ。今朝結つた髪からはだら／＼雫がたる。大急ぎて髪を乾してすまして母樣の側へ行くと、一寸ふり向いて私の顔を眺め「又水泳ぎ仕ましたね」とほゝ笑まれた。
（これは七年前の小學日誌より）

女だけに眼を引く（評）

## ○秋の日

和歌山市　伏見八千子

まあ此樣に少なくなつてと言ひながら、お姉樣はしきりに小椽先で髪を解いて居られます、あのめつきりお痩せなさつた事以前はいつも髪結のお近はんがお孃さんのお髪は多すぎて困りますつて口くせの樣に言はれて居たのにもう數へる程しかないわ、それにしても病がどんなにお苦しかつたのでしようと思つて涙の眼を椽先の雁來紅にそらすと、つと振向なさつて冬ちやんキリを出して下さいなと仰しやる、妾はハイとお返事をしてすぐ傍の鏡臺の引出から二束の入髪を出して姉さんの手に渡すと健康であつた時はこんなものゝお世話にならなかつたのにと述懐なさる、そうねえと答へると、もうあんなに生えて來ないだらふかねといつて悲しさふに鼠の尾ほどしかない髪を右の手に握つてじれつたそふにばさつと左右にお振りなさる、だつてお身體さへ恢復すればじき生えて來ますわ、そうだらうかと片笑みなさる、お姉さんは髪性だものといふと、ホヽヽヽとお笑ひなさつて、だつてこんなに澤山の人等に厄介になるようになつては駄目よ、澤山の人つて姉さんと聞くと、冬ちやんは知らないけど大阪の場末町に行くと紙屑や布切を山の樣に積んできたない澤山の人達は其の中から髪の毛を撰り出して居るのよ其れが此のキリになるのですもの幾人の髪がはいつて居るか知れませんは、そうでしようかといふと、これ御覧此の丈の短かいのは冬ちやんの樣な年格好の娘のでつやのあるのは椿油を澤山用ゆる女ので光澤がなくつて茶色なのは病人なのか死人のなのよ、まあいやなつて眼をみはると、そんなにおつかないのつて可笑さうになさる、早くお結ひなさいなと言とそうねと云乍ら頻に入髪を眺て居らつしやる、短かい秋の日は庭前の花木槿に薄づいて片隅の芒葎ては馬追虫が一匹鳴き出しました。

入髪の由來が珍しい（評）




Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

○見えざりし月　鹿兒島　谷山さゑ

嗚呼、如何して、あれまでしてきた、川路さんと絶交する事が出來やう？川路さんは、今日は私に、不變お機嫌が惡かつたけれど、自分が同情しお機嫌の良い樣にのみ、せんとすれば、先生へ譯を申しあげなくてはならない、先生に誠のまゝを申しあげんとすれば川路さんは私を憎み終にあんな風になつて交りを絶つ樣な事になるかも知れない。だとて川路さんとは、どこまでも、離れる事のできないお友達だから、御機嫌の良い樣にのみせんと、川路さんの意にのみ、從ふのは只眼の前に迷つて、眞の親切でない、と、思つたから昨日は川路さんにすまないと思つたけれど、歸する道は誠の一ッと、思ひ切ッて全く川路さんのお傳言とはあべこべに誠のまゝを、先生に申しあげたのだ、それを、かくしもしないで、虚言の何時までも、つき通さるゝものでないからと、良く御わかりなさるやうに、眞心から昨日の事を申しあげた考へだけれど、今日になるとあんなに、お機嫌が惡るくて、見もおしなさらない。あゝ……、それでもやッぱし、自分の謝しやうが足りないのか知らん。否、自分は、眞心から、謝すのだ。川路さんが惡るい、實際、人情も、慈悲もない誠もない方なんだ、彼の方と親しくすればこそ、他の御友達から笑はれもするのだ、あゝ今の中、思ひ切つて、絶交するにきまつてゐる、きつと絶交する。外にお友達は、澤山ある。と、かく決心して私は胸を撫で下して、天を仰いだ。先きまでは、清く澄んでゐた月は、何空（どこ）にか一向見當らない。前の川の水音に時々鈴虫が何所ともなくに、……、倚ほ耳すますと、あゝ、我が胸は何時の間にか、黑雲に被はれて、耳さへ重く美しい音も早や、聞えぬ樣になつた。

あゝ赦せ……、なるほど世の中に道なる道は誠の一ッである。さらば自分はこの道を踏んでゐたらうか。あゝ赦せ……、半分だに……。それに自分が、對手に對する如何を省みず、唯先方の心のみ忖度して、川路さんは、不誠だ、不人情だ、無慈悲であると、思つたのは、兎角自分の邪推で、あゝ自分のあらぬ良心にのみ眼がつき、先方をのみ怨んだ。さうすると、怨みを受けし川路さんは、倚ほ〳〵怨を增さるゝてあらう。かくなるとかへつて惡人なる勢力で善人の友を引落す樣なものである。あゝそこには氣づかず、なぜ川路さんを無暗に怨んだらう、あゝなぜ、今夜自分は川路さんと、絶交するなんて、果てしもない考へがでたのだらう？！。あゝ月はやつぱし、清く澄んでゐたのだ、水の虫の音は倚ほ一しきりに。

○夜の裾野　小石川　井上小菊

一瀉千里の勢ひて沙走りを下つて、時計を見たら六時半、頂上から丁度三時間、大骨折つて登山たのが、あまり早かつたのと愉快だつたので、あつけないよう

馬返しの茶屋に暫く休んで居合せた、馬と云つても四頭しかないで疲れた者が乗る事となつた私も其中間なので、殘念とは思つたが、仕方がない、遂に馬上の人となつて夜の裾野を辿り初めた、元より馬などに乗つた事のないので物珍らしく少しは御尻が痛かつたが、夫れも初めの内、遂には慣れて學校で



小春日　青森　立花とも子

（ダンス）をやる時のやう、（ピアノ）ならぬ女馬子の面白い鄙歌の節と、馬の一足毎にゆれる體の調子とがよく合つて、何よりも愉快だつた、がいつからうつとりとなつて今迄のくたびれは夢のやう、自然阪道の少し急な所へ來たので、あつと眼を開けるとあたりはもう暗い、向ふを見ると、馬に乗つた長い大きな影法

師、よく見ると自分なので思はず振り返ると中空に今恰度雲間に入らんとしつゝある朧月、微かな光りを輝やかして居る倘後を顧れば、富士は美しい綠の衣地をまとうて月の光に反射されて、八合目あたりの、谷間にある萬年の雪が、きら／＼と光る、形は夫れほど良くはない、夫れも其のはず、或る小部分しか見えないからであらう、然し三里の裾野も餘程先きへ近くなつたと見へ、かすかに見へた燈火の三四點だん／＼近くなつた、神々しい森、あれは須走り口の淺間神社の本社だとは馬子に聞いた、其の左手の方に富士山の子のような山がぼんやり見へる、馬子も名を知らぬと云ふ月が雲にかくれた、草間にすだく蟲の音が止んだ、雲は晴れた、私の一間許り先きに入らしやる兄樣、さつきから落ちそうになつては驚いたような風をして入らしつたが、急にあたりを見廻して又うつとり、私は（兄樣私丁度繪卷の中にあるやうな心地がしますわ）と云へば後を向いて、（中道を半分して頂上したのは今日だつたね）と、につこり後は互に深い溜息、一足先きの七八人組の道者の腰の鈴の音は愈々近く馬の足はます／＼早くなつた。

○雨の大通り　日本橋　吉田さく

さすがは大通り、雨がふつても、小間物店には、二三人立止て居ます、「姉樣約束のリボン買て、頂戴、」可愛らしい聲でお袖をひつぱつて中々歩かない、今日はこんなに雨がふりますから、水天宮樣の日になさい、優しく下髮の後から、手をかけて、コートのすその引ずる程、こゞみながら蛇の目の傘に入れてなだめて居ると、凉しい目には早涙を浮べる、私は、まあ可憐らしいと思て居ると、其れては買て上げませうと、店に入る、少女は嬉しげに笑ひながら、白い手で赤、黃、紫など見くらべる、私は優しい姉樣の方が、まけたと思はずほゝ笑んだ、すると後ろからふいに肩をたゝいて「先程よんでるのに聞えませんの」と云ひながら息をはづませて居る「まあ花子さん、しばらくでしたね」「雨がふつていけませんはね、どちらへ、私、糸屋、「そうですか、私、束髮の中へさす物、買ふのですから、松本まできて下さいな」云はれて、二人ならびながら、いろ／＼話をして歩るいて居ますと「道がせまいのに、がちや／＼下駄をならして、あてつけに云はれて驚ろいてふり返ると、唐人まげに結て、友禪の羽織きた、美しい子、後に居る、意氣な人は、氣の毒さうに袖をひく、私は、はつと思て、小さくなつて、花子さんの傘の中へ入れていたゞいたが、前の呉服屋て笑ふような氣もしまするので急いで寫眞屋の前まで來た、左がはの柳の葉はちら／＼散て泥濘まみれる、私はふと二人て通た、時分を思ひ出して「去年は樂しみでしたねえ」と云つた。花さんは笑ひながら「えゝ毎朝氣もちの好い川岸を通て、たしか四月でしたね、福井樓の前に立止たのは、「そう／＼ほんとに好い聲てしたねえ」花子さんは今さらのようにうつとりして居たが、「今私つまらないの、」きつと唇をかんで伏目になつた、浪花町々々電車通りには、はげしい人の足音「此處でしたね、」二人の思ひは同じてあつた。

# お伽噺

巖谷小波先生選



△規定 新しきお伽噺を創作すること、投書は總振假名つきにて二十四字詰八十行まで、用紙は前同斷、締切は毎月十五日、一人一章以上を許さず、懸賞は乙種の規定に據る。

## 地 ○二つの鏡

伯耆 新田ふみ子

都から、五六里離れて、萩園村と云つて、戸數が、五六百もあらうと云ふ、大村がありました、此の大村に、萩田家と、云つて古くからの、豪家て、大さうあはれみ深い、家がありましたが、奇妙な事には、何ても、先祖代々から、傳つてゐる、長さ三尺位、巾、二尺五寸位、の石造りの、大きな、箱の寶物があつたさうてあります、そして、代々の遺言て「開けてはならぬ」と、かたく傳へてありました、ですから誰れ一人として、何物が、中には入つてゐるか知る人が、なかつたのです、たゞ村の者が、好い加減な、推量て口口に、宮の神だの、いや、お化だのと、云つてゐました、又、ある物識り先生は「仁愛の神が宿つてゐらつしやる、それて、あんなに萩田家があはれみ深いのてある」と何處からても、得意顔に話してゐました、兎に角不思議極まる、寶物なのてした、處がいよ〳〵、何物てあるかゞ分つて、來ました、元來、萩田家には二人の美屋子さんと、不美子さんと、云ふ、可愛らしい、孃さんがありました、美屋子さんは、お年が十四、不美子さんは、十二、何れも、花をあざむく、美しい容貌てした、のみならず、二人とも、大變氣立が、やさしうて、下女、下男、は元より、村の者ども、皆感心せぬ、者はありませんてした。

或る日の事てありました。美屋子さん、不美子さんは、仲よく道て、遊んてゐらつしやいました。處が、向ふから、汚れた、破れた、衣服を着て、髮は、白髮の、おまけに腰のかゞんだ、一人の婆さんが來居るのてす。やがて、近づいて、道べりの石に、苦しさうに、腰を据え身體を杖に、もたらして、二人の孃さんを羨しさうに見て、居ましたが、遂々婆さんは「もし〳〵、お孃さん」と、聲をかけました。あくまでも、心立のやさしい、美屋子さんに、不美子さんは、可愛い、笑を、一寸、お含みになつて、ふりむきなさいますと、婆さんは、泪を、ボタリ、ボタリ、地の上に落



Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

して、居ます。二人は、可愛さうに、思つて「お婆さん、どこか、お惡いのですか」と、優しく、問はれました。婆さんは「いゝえ、どこも、惡くは、ありませんが、私にも、十三になる娘の子がありますのに、簪一本ささせる事も出來ませんのですから、孃さん方の美しいお召物を見たり、み櫛の美麗なのを、見ると、も、もう悲しくてたまりません」つて、泣き、出しました。美屋子さん、不美子さんは、さも、氣の毒さうに、耳をすまして、聞いて、いらしやいましたが、凉しい、お目には、露が一ぱいたまつてゐました。不美子さんが、お頭に、



手を、おやりに、なつたかと、思ふと、此間お父樣から、土産に戴きなさつた、美しい、簪をおぬきになり「姉さん、此簪、上げませうね」と、お云ひに、なつたかと思ふと、早や、婆さんの手に渡されてありました。つゞいて、美屋子さんは、お召しになつて居る、友仙縮緬の被布をおぬぎになり「これをお婆さんの、お娘さんに、着せて上げて下さい」つて、心から申されました。婆さんのよろこびと、云ひ、驚きと云ひ、一方でなかつたのです。美しい簪に、結構な、お召、夢かと、ばかり思ひました。有難なみだを、流して、あつく、お禮を申し



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ました。美屋子さん、不美子さんは、云はれんうれしさ、樂しさ、を小さい、胸に、いだきつゝお家にお歸りになりました。……其夜の、事でありました。二人は、すや／＼と、よく眠つて、ゐらつしやいました、すると、凛と、したお聲て、「美屋子、不美子、一寸、起きなさい」つて、呼ぶものがありました、二人は「ハ、」と、返事をなさつて、すぐ、お起きになりました、そして、小さい、お手を行儀よく、ついて「何誰てすか？」と一寸お見上げなさいますと、白い、裝飾をなすつた、丈の高い、白い口ひげの、澤山、生えて、居る、お老人さんが、二つの大きな、鏡を持つていらつしやいました。二人は、吃驚なさつて、可愛い、お頭を、お下げになりました。すると、お老人さんは、やさしく「孃や此の鏡を御覧な」と、云ひながら、二つの鏡を、二人の前に、出されました。二孃は、ふつと、お顔をお上げになると、まあ、驚くぢやありませんか、今日二人が、乞食婆さんに、簪や、被布を、お上げになる處が、うつゝてゐました。オヤつて、一時に、目をまるくなされた。お老人さんは、ニッコリと、お笑ひに、なつて「お前がたは感心ぢや、わしはな、よく聞け、此萩田家の、寶物だぞ、代々、仁愛の、ふかいのには、滿足して居るが、お前方は、別けて感心ぢや、今日も、あの乞食婆さんには、わしが姿をかへて、お前方のやさしい氣立を一つ、試みて、やつたのぢやつた、賞與に、この鏡をやる、此の鏡は、わしだぞ、わしは此の鏡だぞ」と、云はれたかと思ふと、直ぐ、煙の樣になつて、消えて終いました。……二人は、目をぱつと、おあけになると、お日樣は、まぶしさうに、ひかりを、さしてゐらつしやいました。美屋子さんは「妾鏡をもらつたわ」といはれると、不美子さんも「妾もよ」と、おつしやいました。可笑いので、夢話をして見られたら、不思議や、同じかつたので、枕元をよく／＼御覧になると、立派な、錦の袋に、鏡が二つは入つてゐました、父上、母上も驚かれ、且つは、喜ばれて、直に、寶物の箱を出して、見られましたら、ふたがあいて、居たと云ふことて、ありました。

（評）慈悲博愛の意を寓したる好教訓談、たゞし文字の洗錬を欠くは遺憾です。

## 〔人〕○口なし嫁

徳島縣勝浦郡多家良村八多　大久保桂子

或山里に一人の若者がありました、性質はこの上もな

い吝嗇で、隣の人とさへ話もせぬ位の變りものでした、所が或年の暮、其若者をよく知つて居る媒酌人が、口のない嫁を世話に來ました、直ぐ話は纏り、黄道吉日も無事に濟んて其當時は仲睦じく暮らして居ました、或夜の事である、其嫁が人の寢靜まるのを待つて、二階へ行つたので、若者は今頃何の用があるか知らんと思つて、後から密と尾けて隣の室の襖を細く明けて覗いて居た、其れとは知らずに、美しく結ふて居た髮を壞して其中にある大きな口でいろ／＼食事をしてゐるのを見て驚いて周章て丶外へ逃げ出した。

其物音に嫁は「ヤア失策つた見られた上は」つて血相變へてその後を追ひかけた。

若者はこ丶まで來れば大丈夫と思つて、大きな猿辷の木で休んで居た、暫らくすると足音が聞へるので、見ると嫁が此方へ來る樣子なので急いで其木に上つて息を殺して居た、やがて其下へに來て上らふとする、然し女の事だから上れない、やがて懷から油の瓶を出してしきりに塗つて居る、又上らふとする以前よりは猶更難かしいので自暴自棄になつて家に歸つて大きな鋸を持つて來た、暫らく其木を挽き初めた、若者は直ちに隣の木に移つた、其れと知らずにある限りの力を以て挽くので大きな音をして仆れた、嫁が見へないので若者は恐る／＼下りて見ると、あはれや無慚にも其木に敷かれて死んて居るので安心して歸つた。

其後若者は大に今迄の事を後悔して遂には羨まれるような善良な人となりましたとさ

（評）地方的口碑かと思はれますなか／＼おもしろく感じました。

秀逸

## ○二人長者

静岡縣　土屋いそ子

或所に、誠に正直な爺さんがありました。この爺さんは飛脚で毎日々々人の使をして居りましたが、或る日のこと、隣村迄使に行つて其の歸りに、大きな袋に金の澤山入つて居るのを拾いました。拾つたのはい丶が今迄貧乏計りして、此樣な大金を見た事もなければ、持つた事もないので、たゞもう嬉しいやら怖いやらで、大切にして疊の下え隱して置き、仕事に出る時にはいつも「人が見たら石になれ／＼」と言つて、其の上を叩いて行きます。そして歸つて來ると袋の中をのぞいて金になつて居ると「占めたッ」と手をうつてさも安心したという樣な顏を致します。此れを隣りの欲張り爺さんが見て、ハテ變な事をいふ爺さんだ、何が隱し

てあるのだらう？見たいものだと始終思つて居りました。或る日欲張り爺さんは正直な爺さんから留守居を頼まれたので、早

水枯

速承諾して爺さんの行つた後て、そつと疊をはぐつて見るとては如何に！大判、小判、二分金、一分銀等と云ふその頃の金貨銀貨の出來たてのやつが、ピカ〳〵と目を射るばかり、爺さんは忽ち惡い心を出して、「これはひとつ石と取りかへてやれ」とすつかり小石と取りかへて了ひました。其樣な事とは少しも知らない正直な爺さんは、使から歸つてすぐに袋をのぞいて見ました。する



とすつかり石になつて居りますので「オ、お前はよく石になつて呉れた、其れて俺も安心した」と一人てほく〳〵喜んで居ります。この樣子を見た隣りの爺さんは、グット胸にこたへて「ア、惡い事をした」と思つてすぐ正直の爺さんのところへ來て、自分のした事を少しも隱さず話して、さて言ふには「私も以後心を入れかへて決して欲を深くしたり人を羨んだり致しません」と眞心こめて申しましたので正直の爺さんも大喜びて、今迄の金の事を殘らず話して、さて言ふには「てすから此の金を資本として旅へ

青森 中川しづえ

出てうんと金儲けをしちやあ如何ですーと、そこで相談も定まり、二人は旅仕度をして住み馴れた自分達の里を後に出立致しました。旅へ出てからは大變評判がよく、やがて大金持ちとなり家へ歸つて二人共一生安樂に暮らしましたとさ。

（評）よくある筋ですが結末の所が御意匠です。

## ○冬物語り　麻布　幽　子

昔々此世界にはあのさびしい寒い冬がありませんでした。何日も長閑な春や心地のいゝ夏さては空氣の清らかな秋がつゞいて居りました。今其冬の出來たわけをお話し致しませう。

一體此世界は男神と女神のお二人が支配していらつしやるのです男神は天を治めて霞をたなびかせたり強い日光や涼しい風を地上に送つて下さいますと女神は地を治めて櫻をお咲かせなさつたり青葉を御作りなさつたりなさいます。お二人は誠にお仲もむつましう御坐いまして人間もいゝ時節許りで誠に幸ひてしたたゞ種さへ蒔て置けばお花ても穀物でも皆お二人が育てゝ下さいますもの。お二人の中にたつた一人の姫様が御坐いましたそれはそれは愛らしい方でしたが丁度十五のお年の時下界の王様から御使が參りまして是非姫をよこす樣に申して參りました王様は姫をお腰元にするつもりだつたのです姫様の御驚きは申す迄もなく男神女神も一も二もなく御ことはりなさいましたが下界の王様はなかなか承知なさいませぬ。もとより惡い方のたゞ力をのみほこつていらつしやる方ですから或日姫様のお花をつんていらしやるところをいきなりさらひお自分の馬車にのせとうどう暗い暗い下界の國へつれていらつしやいました。時は丁度秋で母の女神は遠い畑を見廻りに行かれ父の男神は時雨を作るに急がしく誰も姫様のさけびを聞くものはありませんでした。

姫は下界で王様に毎日腰元になる樣進められますがどうして承知なさいませうたゞ室に閉ぢ込つてなつかしい父母の事さては美しい此世界の事許り考へて泣いていらつしやいましたそして一日も早く家に歸れる樣いのつて御出てなさいました。王樣は立派な飾やお寳を以つて姫の心を誘ひましたが姫は聞き入れませんでした。王樣は遂にむち打ちました姫はあまりの苦痛にとうどう王樣に下界につれられた日から今日迄三ケ月の間は毎年こゝに來ますからどうぞ父樣母樣の所にかへして下さる樣願ひました王樣も仕方なしに滿足してこの世界まで姫を返されました。姫はまあどんなにうれしかつたでせう男神女神の御喜も例へ様がない位てした。けれど春がたつて夏が來やがて秋もくれる頃いつも下界から御迎が參ります姫は毎年三ケ月を下界に送らなければなりませぬ。男神女神もとより覺悟はして居るものゝいよいよ姫の姿が見えなくなるともうかなしみに堪えられませぬ。でも男神はさすがに勢はないながらも日も御てらしなされば雨も御ふらせなさいますが女神はどうしてもあきらめられませぬ。ていくら日が照つても雨がふつてもお花一つ御作りなさらず穀物一つ御手を御つけなさいませぬ。世界のさびしい景色の中を風の神のみはお二人の勢のないのを喜んで荒れ廻ります。男神は時々奇麗な雪をふらせて僅かに人間をなぐさめて下さいます。此時を冬とは名づけるので御坐います。

（評）この種のものは毎號最も多い樣ですが本篇はやゝよく出來て居りました。

# 和歌

與謝野晶子先生選



△規定　新興の短詩と稱せらるゝ新派の和歌を募る、原稿には新派和歌と明記し、半紙に認め一人一首限り、原稿には本名を記入すること、締切は前同斷、懸賞品は丙種に據る。

**天**　伊賀上野池町　山村龍子

われ君を知らざりし日はこの心强かりしかな君もさなりや

**地**　岩手　富士根小枝子

わが太息天雲となり高のぼれ君が國へと雨ふらすべく

**人**　奈良市中院町　清水良子

秋の風しみ〴〵吹きぬ石切りと木をひく人をのせたる舟を

**秀逸**

○秋田縣　伊藤悌子

十月や落葉々々をあつめ焚く中に小さき我が家を見ぬ

○鹿兒島　山下敏枝

秋の雨悲しからずやみ柩の中に眠むれる人に泌むべき

○伊勢　今村はつ子

木がらしの山吹く如くわがことをのゝしり去れる君にしるぬと

○佐渡　谷川桂子

奈良の世のゆめもかへすや夕雲の流るゝ塔に鳴出でし鐘

○茨城　荒木りき子

人戀へば鹿の一聲うら悲しうかゞひてみる秋の夜の霧

○熊本市　宮崎幸枝

紅いちご玉をつゞりてうつくしき五月の朝の薄らやの中

○德島　大久保桂子

木枯は獅子の吠ゆらんさまをして野邊の銀杏をゆるがして行く

○大阪市　山内溪子

幾よろづ白銀の星うく空を歩む心地に朝の野をゆく

○麻布　三浦美砂子

得し後に失ひしには勝りある今の悶をなぐさめてあり

○上毛　伏島直子

うしなひぬ戀しき人もたらちねも八聲の鷄の目醒せしより

○千葉　今井花子

みほとけの來ます夕か白はちすほのに薫りて月清く輝る

○佐賀市　田中美枝子

眞萩ちる山の泉に水鏡したまふらむか秋のおん神
○　王子　山脇數子

おほらかに物いう君と砂金とる眼の如き己が心と
○　甲斐國　勝村もりよ

君にあへば瞳まづ伏す浄瑠璃の鏡に向ふ罪人の如
○　大阪　大島ひちえ

死なる神柔き肌してわが傍にそひねするかと身そゞのゝきし
○　羽前　千代子

日にそむき蔭好み咲く紅の花に似たるかな淋しき心
○　芝　長谷川靜江

限りなき來世をちかひ相泣きぬ塔のもとなる露野の路に
○　横須賀　渡邊八重子

いくさかち玉殿を得て一國の王となりたる人のごとわれ
○　千葉　高濱霞子

おん瞳あゝ旭日の宿るらむ向ひていとゞまぶしさ思ふ
○　本郷　朝井松子

冷やけき風は西より生れ來てものをおもへとうながしてゆく
○　山城　八田文子

しろがねのかざしを見たり星祭る人のむれゆく人中にして
○　愛知縣　永田舞鶴

君戀ふるこゝろや炎猛くもえ君をも燒かんおのれともに
○　常陸　大久保愛花

鳥も去れ花もとく散れ君まさぬさびしき春よ何さびしかれ
○　福井縣　片山千里

いつしかに胸に咲きたる美しき花は朽ちけり實ともならずに
○　攝津　春乃子

亡き父のことば優しきなつかしきみ聲となりぬ眞清水の音
○　秩父　近藤とく子

海のはて千里彼方の戀人を見し夢さめぬ潮寄る音に
○　陸前　小野寺みさを子

さら／＼と風に葉ずれの音涼し白楊高き根方を行けば
○　土浦町　左近女史

夏菊の赤きは家のひたこふるこゝろのそこと見そなはせ君
○　中津町　やま川

故郷の秋もかくやと戸によりて涙して見ぬ落つる木の葉を
○　上總國　松崎かつ子

雲わけて入りにし小野の夕雲雀今ぞおちくるあさつゆの床
○　上毛　柳澤元子

秋雨は細き糸もて天地をこまかくとぢて斷つひまぞなき
○　兵庫縣　南春子

夢さめて徐爽かりし曉をうたてつめたき秋の初風
○　若狹　蝶夢子

花の影うつれる川に緋鼻緒の小さき草履の流れゆく見ゆ
○　茨城縣　日下部陽緑子

我が庭の千草に宿る白露の玉數く見れば秋や來ぬらむ
○　信濃　駒澤ひろ子

こゝろよしほの／＼明けし野の果に銀河流れて風ふく朝よ
○　茨城縣　金澤仁子

子を偲ぶ冷たき胸や冬枯の花なき廣野さまよふ心地
○　山口縣　岸村文子

野の草は霧の幕打ち白銀の露の車に日を迎へけり
○　秩父　近藤すみ子

おかしくもまくらに近ふなく虫の聲にわすらゝ夜のながさかな

○　大阪　田中静子

牛を追ふ童の背に日は落ちて田の面十里に鐘なりわたる

○　尾張　岡田信子

まはゆしや黄金の冠山の端に今あらはれて小鳥鳴くなり

○　美作　性全みれ代

秋の風淋しう吹きぬ山住のわが黒髪を亂しみだして

○　岐阜縣　日野歌や

小雨ふる夜中淋しや戸一重に虫鳴く聲を一人聞くかな

○　岡山市　三船いその

賤の女の草刈る籠に露帶びし哀れやさしき女郎花かな

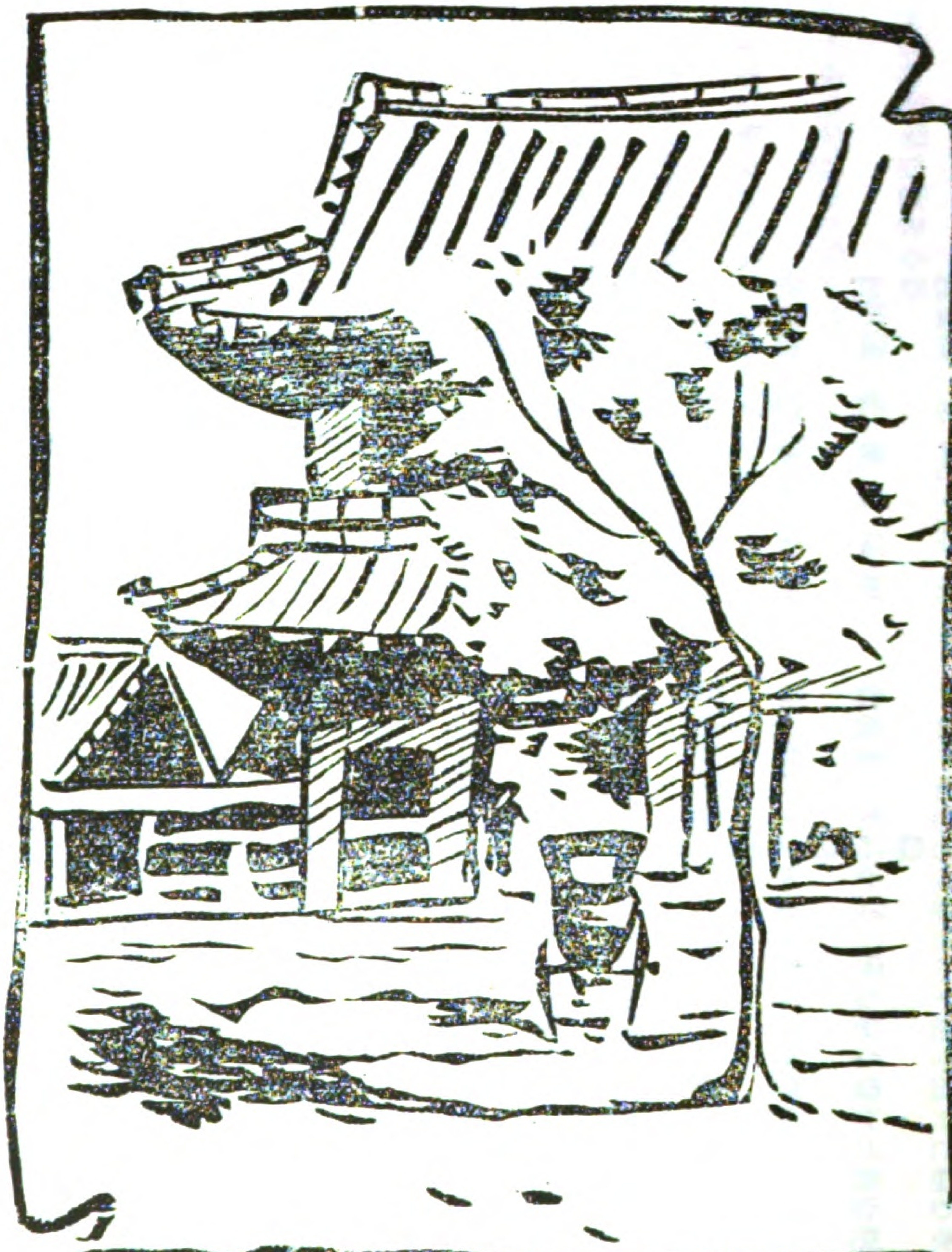
○　茨城　道江子

よく咲かばよく散れかしと我が戀の運命をはなにそとさゝやきぬ

○　長崎市　北尾季子

輝ける夕日にはえてあか〱ともみじ美し瀧の水上

○　肥後　戸崎うめ



山門

なびき伏す萩の月ほそに日は入りて名殘りわびしく寺の鐘なる

○　岐阜縣　吉田みゝ子

我が胸に思の雲の重なりて淋しさ添ふる秋の夜の雨

愛知　福田しげ子

○　大阪府　金田香雲子

夕暮の鐘を聞きつゝ別れたる君は山阪今上り行く

○　京都市　堀尾婦美

萩の露ほろ〱袖にこぼれ散り夕べ淋しく遠の鐘なる

○　千葉縣　北田榮子

夢さめて胸の思の深き夜をみそら遙に雁の聲する

○　芝區　うめ子

あさがほは紫色の盃に戀の美酒たゝへてさきぬ

○　栃木　大塚溪流子

さびしさに西の小窓をおしやりて庭の落葉にそゝぐ雨見る

○　札幌　篠原靜枝

石狩の川風さむき舟宿に旅の秋しる牽牛花のはな

○　愛媛縣　村井今子

君住みし館の籬破れけり恨みは長し青柳の糸



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

○　京都市　なてし子

はるく\と遠きみそらを眺めやり袖かみしめぬたなばたの宵

○　神戸　岩子

友どちと共にやすらふ松かげに淋しく咲ける山萩の花

○　丹後國　吉田せき子

露の玉のこして晴るゝ村雨の千草にまじる姫百合の花

○　牛込　兒松吉江

さわぎつる萬歳さりて下京の柳にかすむ春の夜の月

○　牛込　高橋そと子

白百合を守りの神よ紅ときて花瓣そむる子を微笑み給へ

○　仙臺市　白ばら子

姿美くし姉が嫁きに縫ふ衣の上に葉月の月まどかなり

○　下總　若杉とり子

地を踏む闘えの人か我ははた闘えの地を踏むに生れし

○　日本橋　松下稲子

雲うすくなびく空より白がれの神の矢くだる夕月夜かな

○　樺太　踏石啟

露しげき秋草の野に分け入れば弱き音たてゝ蟋蟀の啼く

○　伊賀　岡本いさを

われうつろ木からみからめるそのつよき蔓のちからに堪えがたきかな

○　本郷　山賀さく子

憂き身につきぬ涙のうつし世をかた時もとく去らむとぞおもふ

○　横濱市　相樂きみ子

淋しさの胸にせまりし暮の鐘きゆるひゞきも細々として

○　千葉縣　津根川信子

斯る時友いまさばと思ひつゝ獨り歌讀む初秋の空

○　徳島縣　中村かつ子

夢さめし心にまたもあらたなる夢を見ることかなしさになく

○　駿河　泉とし子

何事の秘密かひそむつと押せど開きも得せず我が胸の扉は

○　三河　宮田梅子

わびしくも岸打つ浪と諸共に三年はすぎぬ離れ小島に

○　埼玉縣　墨田智子

秋の風うしろ寒げに馬車一つ秩父へ歸る夕ぐれにして

○　横濱市　相樂さみ子

日の神は今山の端に入りましてなばしま涼し秋の初風

○　兵庫縣　橋きみ子

我が戀ふる故郷人に送らばや年月かけてかきしこの袷を

○　堺市　川野清子

緋牡丹は君が情の火のもゆる色に咲きけり小さき園に

○　山形縣　大瀧くしは

夕ばえて紅葉散りくる山のをちをなれし山がつあふぎつゝ行く

○　備前　松本もと子

秋の雨ひれもすふりぬ古庭の百の木立にみなしづくして

○　岩代國　川名直子

山荘の姫を思ふと目閉づればむかしめくさま夢ひくおぼゆ

○　福島縣　添田松子

露やうきおもちやつらき秋の夜にみだれがちなる虫のこゑく\

○　千葉縣　松本勝子

長月のすゑ野の尾花うら枯て招くかひなき秋の別れ路

○　南總　渡邊皎月子

群雀羽音せはしく立ち行きて鳴子に殘る秋の風かな

○　茨城縣　來栖勝子

池の面にうつる影さへにほうかな黄菊白菊今盛りにて

○　栃木縣　墨子いつ子

山松のこかげの岩に休らひつむすぶ泉ぞ夏を忘るゝ

○　南總　森ふみ子

山深く獨り微笑む白百合のそれにも似たる君の御姿

○　奈良　大圓勝江

ふみよめど心はゆかずこひしさに又とり出てつ友のうつしゑ

○　大阪市　石川ふさ子

花すゝきうち招けどもしをり戸は風より外にとふ人もなし

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

○　南豐　薔のゝ　瑠璃子

うらぶれて人懐かしき夕まぐれ彼方に飛びぬてら色の雲

○　羽後　菊池りう子

古琴の絃の音色の吉凶をうらなひ給ふつれ〴〵の君

○　静岡市　杉山健君

紅ひの薔薇一輪摘まば足る幾つ香れる花の中より

○　德島　藪内みより

君と我が「思よ通へ」橋と神架け給ふ七彩の虹

○　磐城國　城取きよ子

さらぬだに夕淋しきつれ〴〵に君が昔の歌おもひ出ぬ

○　横須賀　原田安子

いだきとればなかば眠りてほゝ笑みて乳ぶさもとむる小さき神よ

○　長野市　西條梅子

暴き懊煩を我れに断て花のひつぎに安く眠りぬ

○　大阪　紅女

見るがうちに行きかふ船も絶え〴〵にたち隱したり秋の川霧

○　京都市　武部柳葉女

戀君を見ずてとしふる我が胸は虫鳴く秋の荒野の如し

○　琴子

うれしくもうちながめけり月と日を二見が浦のありあけの空

○　香川縣　野木百惠

ありとある香はなてど温室の花に蝶來ぬがうらめし

○　静岡縣　清子

雁がれも渡らぬ夜の大空に獨りすむ月いとゞさびしき

○　美作　はなえ子

秋花は讀むる人も多かれどさびしき冬の月は人見ず

○　大連　樽本千枝

世をのろふおのが胸にもたゞ一つ君榮へよと祈りにしかな

○　大阪　鎌田春枝

主もなき城の御堀に夏の日は靈に咲きたるおもだかを見る

○　下野　川田よし子

草刈の殘し置きたる女郎花人待つらしくたつ夕かな

○　千葉縣　北田秀子

心して歩めや月のみ給へな萩の路よらばこぼれむ白露なれば

○　千葉縣　吉井光子

七重八重遠山の端にうす雲の掛るは星の夕暮かも

○　大阪　順子

我黒髮いともたふとし七尺の紫たゝる藤花に似る

○　紀伊　三浦久美

月落て雁がれそらを渡るなり茅屋はさびしき秋の風ふく

○　牛込區　塚原けん子

亡き母の墓に詣づる少女子のたもとぬれけり糸萩の露

○　伊豆　堀井りゑ子

霜月や雲一朶なき紺青のみ空に白う高き富士かな

○　千葉縣　三森ゆき

鎮守の杉の大木木がらしに生きてぞ動く夕日をあびて

○　神奈川縣　小林英子

天にゐます姫の簪の地に落ッて花となりけり美しき菊

○　秋田縣　萩原トヨ子

山黒く水灰色の朧夜に笛の音きくはさびしかりけり

○　近江國　梅女

ある時は頭巾の人をくらがりに見かへる如き思せられて

○　大阪市　岩澤愛子

秋の夜は松に聲なく更たけて弦月のかげ淡くあるかな

○　大阪市　宮崎雄子

菱の實をあさる舟の少女子に夕日うすれて湖しづかなり

○　備前　藤原しづ子

世にまさぬ君がかたみの梅子は昔ながらにくれなゐにして

○　神戸　益子

手まれきて園生に遊ぶ少女子に高き窓よりうた投げやりぬ

○　北米　合星曉子

懐かしき友の便を待つ身にはメールと聞きぬ猫のなき聲

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

○

長野市　富田わかば

夕立のはれてあとなき庭の面につゆ重げなる紅ばらの花

○

長門　藤井禎子

なき人の御墓とりまく女郎花さびしく手折り髪にかざしぬ

○

高橋とら子

風清み月すみ渡る磯のへに秋涼しき少女子のむれ

○

下關　豐子

波の音は遠きかたにもきこゆなりまつ影清き磯をしゆけば

○

上總　今井敢子

夕顔の中に花見しよろこびの心してわれ君見たりけり

○

牛込區　平塚白百合

やしろみち赤きとりゐを前にして日ぐらしきゝて涼しくなりぬ

○

滋賀縣　磨志鶴

朝夕のけはひにつかふ此水に姿をうつす糸柳かな

○

大阪　枯尾花

なつかしき君はかへらず杜鵑一聲かなし山里の夜

○

西茨城　田村波津子

縣居の秋野の景をうつさんと繪の具ときつつ日をおくるかな

○

山口縣　深山鶯

母君にこの日わかれしおのが身は垣に離れし朝顔のごと

○

深川　白百合子

ほの〳〵と御空のあかうなりゆきてやがて出てたり春の夜の月

○

岡山縣　廣瀨初枝

富士の根もいつか寂しく見へ初めて裾野さやかに秋風の吹く

○

淺草　梶水仙子

時雨降る窓の無花果色づきてわが病む床を覗き見るかな

○

下野　小林芳子

牛牽ける童は行きて日は暮れぬ千里の枯野風さわぐかな

○

大阪府　谷東愛子

秋草の咲き亂れたる野邊にたち心もとなく君待つわれは

○

静岡　植木いし

面影の似し御方とみ名よべば騎いそがせぬ秋逝く夕

○

長崎　野百合子

眞帆片帆濱に消えゆくおち方ををかしと見れば鐘なる夕

○

徳島縣　野澤榮子

小夜更けて小窓のほとりかすかなる笛の音きこえ心みだれぬ

○

磐城國　佐藤勝代

ある人を慕ひて泣きしわが庭の草は赤みて菊の花咲く

○

廣島縣　富田玉代

澄み渡る月影消き池に立ち露をかざせる白菊の花

○

大和　我澤素枝

彼の君と吉野の川に舟うかべ月を賞でにし日もありしかな

○

下野　小林てる子

うす絹の裳流して天姫がすぎますらむか月朧なり

○

静岡縣　小長谷貞子

此の流れ君住む里に續くよと萩の花のせ笹舟をやる

○

相模　藤原下枝

君に別れ歸る淋しき森の中ほのめく灯かげ立ちとまり見る

○

佐世保市　鈴木綠子

亡き母のかたみの衣手にふれて昔をこふる涙こぼれぬ

○

茨城　佐賀遐子

秋の夜をひとり物編む手をやめて君がことばのいくつ[illegible]かぬ

○

上毛　みどり

百合の露額にうけて此の花のこの露の如あらむと祈る

○

周防　内山滿子

山にすむ小兎の眼に眞白なる雪の世界のひろうつらむ

○

[illegible]市町　並木蝶子

朝顔の小さく咲きぬ竹垣も破れかゝりし[illegible]月ゆふべ

○

熊本　高根ちか子

行く秋のよごと〳〵に鳴きほそるつゆの命の虫にも似ずや

○

筑前　田中とよ子

胸の野の珍花慕ふて蝶の群翩寄るを母は我に打てとや

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

○　佐賀縣　交野こはぎ
金色の雲うすれゆく夕暮のみ空に細き月を見るかな

○　京城　ゆかり
日の神は瑠璃の天の戸押し明けていで給ひけり高麗の國にも

○　薩摩　逆瀬川俊子
胸の野につばさやすむる黒き蝶われはらはんに餘りに弱き

○　若松　三史
山路の紅葉輪げさの旅僧の衣にちりぬあかつきのみち

○　上毛　淺香いよ女
淋しさは身にしむばかりおもほえて虫の音をきくわれ一人かな

○　相模　柏原美奈子
冷やけき夜の森出て初秋の湖の星仰ぎ見るかな

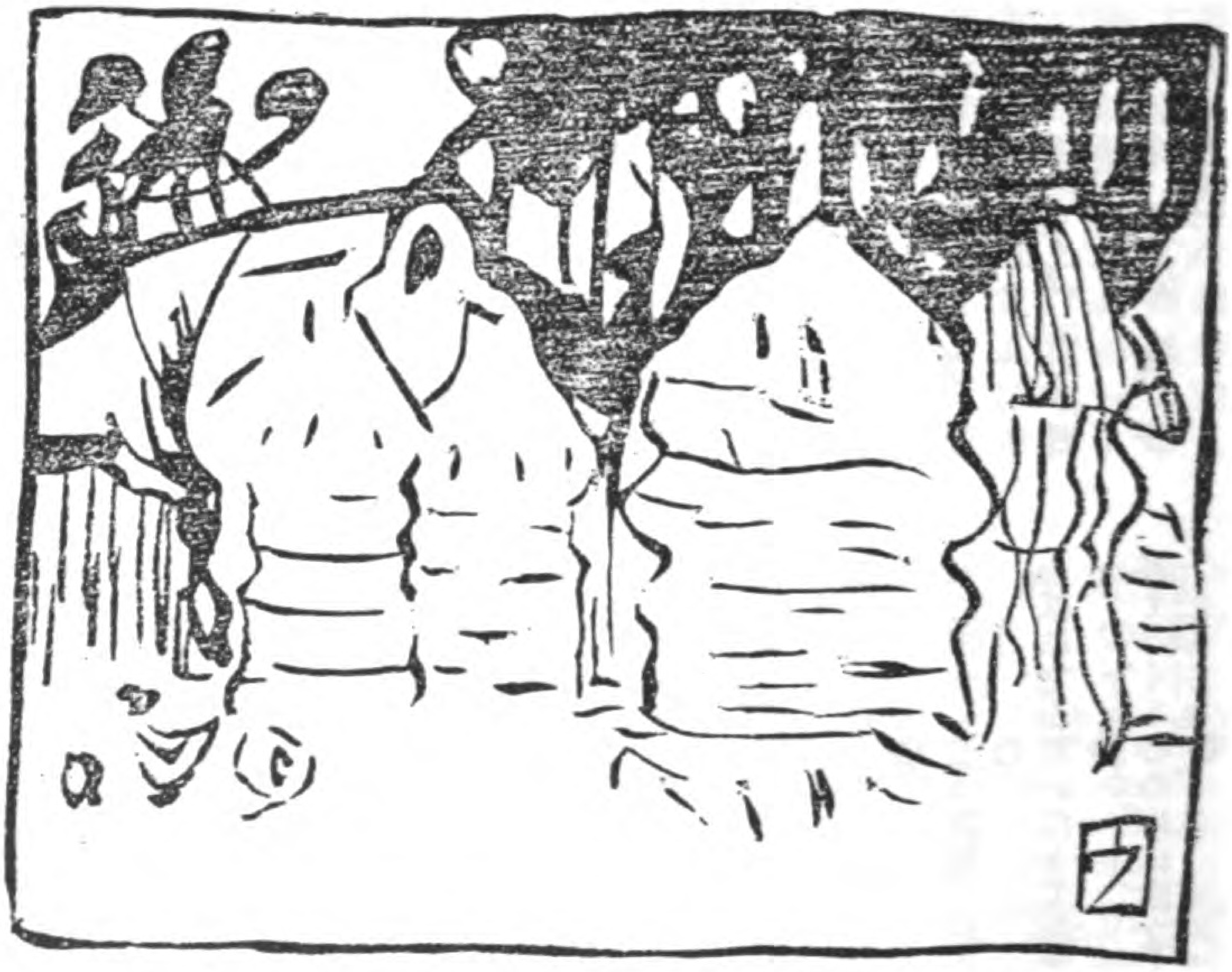
○　三重縣　田中てる子
うすがすむ林の中のこひ人の家見て春の朝はうれしき

○　尾張　月子
夕暮を青葉若葉の雨細うふればさびしやもの思ふ人

○　下谷區　露子
秘めおける千束の文をやける夜は涙もかれて死ぬべくおもほゆ

○　羽前　花なし草
見し夢の萌黄の蚊帳をぬけいでゝ朝の戸に見る白百合の花

○　下野國　瀧澤秀子
秋の宵母が糸ひくかたわらに幼き人と栗の皮むく



隅の家　北川うめ子

○　三重縣　たか子
峯を越え大木並ぶ林越え芊はなてる野にてる月よ

○　福島縣　秋野みのる
君を見しひと日はうれし思ひ出はうづまきおこる煙の如き

○　大阪市　田宮瀟菊
この一夜人には人の悲しさを蟲には蟲の悲しさをきく

○　南　仲子
湯の里のはかなきもりゐひれもすやはてなき海も倦じはてたり

○　三重縣　糸子
曉をつぐる鐘の音に秋の姫の瞳に似たる露こぼれけり

○　伊勢　杉田たか子
夕間暮大谷渡る旅僧の錫杖の音いとどさびしき

○　靜岡縣　富永朋子女
夕ごとに我は立ち居ぬ加茂の里山茱に水白ければ

○　常陸國　宮本楓子
美くしき未だ戀知らぬ七少女花の冠し華やぎし夢

○　神戸市　小沖りよ子
小雨して木々の葉落ちぬわが母のゆき給ひにし日に似たる哉

○　茨城縣　濱田いち子
君言はずわれももとよりもの云はず極熱のぼり胸にせまりぬ

○　信濃　淡紅子
ふと胸に春の潮湧くたまゆらもふたたび夢は見じとおもへば



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

○　三河　鈴木けい子
病む窓の桐の一葉の地に落ちてそゞろ悲しき初秋はきぬ
○　濱津　みなしご
鼓走るときゆららにうこく黒髪の飾りに似たり露のながるる
○　山梨縣　瀧澤とめ子
わが白き頸じの榮へにかけまくと如眞珠の光りたづれにしかな
○　茨城縣　宮本竹風子
風寒く秋今行くか紅葉ちり枯れにし菊に虫は死ぬらめ
○　安房　山本たか子
毎朝にあらたあらたに咲きかはろうれしきものは朝顔の花
○　佐賀縣　青木くい子
さなきだに淋しき秋を小夜更けてねられぬ閨に月のもりきぬ
○　三重縣　德永たつ子
衣ぬへと鳴く虫の音にさとされて燈火のもとに針はこぶかな
○　横濱市　安川久子
白萩は伏しでしづれぬかるかやは仰ぎて搖れぬ夕ぐれの雨
○　下谷　横谷秀子
里に入れば背出千町の八千重浪はろに浮ぶはわが少さき家
○　越後　みつ子
またあらず悲しくわれの見つるかな君がとつぎし木の間の村を
○　越後　みつ子
秋の風千草の花の上を吹き戸に立つ我の涙さそひぬ
○　秋田縣　谷口幸子
たそがれぬ物憂き身にはひとしほの淋しさ勝る秋の風ふく
○　伊豫　井上いち子
靜まりて夜はたゞ更けぬ我胸はものにさわぎてやゝ高う鳴る
○　下谷　細谷鏡子
ふとなせし事のあしきと知りしより心の鬼にむちうたれつゝ
○　平戸　伊知子
紅の色して咲ける朝顔は君にふさへり夏の日の朝
○　岐阜縣　後藤すゞゑ
鐘の音に日かげ沈みて夕まぐれ冷めたき風に白萩のちる
○　駿河　村山幸
雲はれて月影清き海原に小舟の一つ島はなれゆく
○　神戸　樋口元和
病める身は心さわがず草の戸の明方うれし初秋の風
○　姫路市　矢島芳子
紫の雲たなびける峯の上にほのめくものか櫛形の月
○　品川　萬千田野里子
もやの中に百合の花の香たゝよひてほのかに明けぬふるさとの野邊
○　岩代　長谷川みつ子
四の空月冴え澄みて空高したふとくもあろか白菊の花
○　函館　大塚富子
いさゝ川草花流し手を打てる少女の姿神に似るかな
○　愛知縣　三井たか子
七草の咲きみだれたる秋の野は月もおもしろ虫の音もよし
○　京橋　柴田千代子
遠く／＼見えずなるまで後影見送る人は氷とならむ
○　山形市　みたき
秋なれば紅葉にまさる花はなく見る度びごとに歎うたはるゝ
○　秋田縣　佐々木貞子
草深く虫の音繁き野に出て今宵も待たん花に似し人
○　伊勢　大原靜子
ほこりかに白き帆高くひらめきぬ秋となりたる大き港に
○　岩代　三浦入重子
あはれなる思いだきて秋花の咲くべき夜なり月清くして
○　越後　松山けん子
高くひくゝ心の海に波立ちぬ君の御聲の遠なる近き
○　熊本市　野菊
亡き母の膝にすがりて語りしを芭蕉の音に破られてけり
○　日本橋　吉田さく
いとにくし君と遊ばむ一日だに春の小雨の小やみだになし

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

# 短篇小說

小栗風葉先生選



▲規定　純潔清新なる短篇小說を望む、凡て振假名つき二十四字詰入十行以內とす、用紙は半紙又は罫紙を用ゐ一人一篇を限りとす、締切は毎月十五日、懸賞品は甲種規定に據る。

## 天　◯一人限り

三浦三崎二町谷　田中久子

千住の工場も愈々駄目といふ事に成つてお兼の家は世帶を疊み、年の瀬を越す迄と云ふ約束で、本所の以前から別懇にして居る大塚といふ家へ同居してから、もう一月も過ぎて了つた。夫の房次郎は大塚と一所に深川あたりの工場へ通つて居る。

お兼は去年の春から秋になる迄、強い肋膜を病つたので未だに治り切らず、ぶら〳〵した體を火鉢へ靠せてわづか二間限りの見通す室で大塚の女房と母親と、洋傘の內職をしてゐるのを見て居るのが窮屈でならなかつた。夫に伜の豊二といふ十一に成るのが溫和しいのに何故か此家へ來てから、二つも年上の好ちやんといふのと喧嘩をしては泣かされて來る。喧嘩ぢやあ無い虐められて來るんだ、とお兼は思つてゐるけれど、世話に成てると云ふ義理にからまれて是非なく大聲に叱つてやる。夫が何よりお兼には辛く切ない事であつた、て夫には學校へやりさへすれば、半日は好ちやんに虐められる心配も無からうと云ふ事で、豊二の月謝をこしらへる爲にお兼は先月から淺草の或るボール箱を貼る工場へ通ふ事にきめたのであつた。

病み上りの冷え切つた足を紺足袋に包むで日和下駄を穿き、縮みに形を置いた半纒羽織の左の腋へお辨當を持つた手を入れて、電車の通りを寒さうに砂に卷かれ乍ら毎朝通ふ事に成つた。

大通りへ出る角の藥屋で即効紙を買つて、指の先で四角く千切ると直こめかみへ貼つてまた歩き出した。

かうして歩いてる間は毎も昔の事を考へる。五年前元の工場の盛だつた時代の事——あの頃は下女も使つて居た、家も新らしい二階家に住つてゐた——夫が過ぎて姑が死んで樂に成つたと思ふ間なく工場がいけなく成つて是非なく千住へ流れて行つた事、千住では畑中の長家で夫でも二間在たから親子三人に故鄕から勉強に來て居る妹を置いて、お兼は他の裁縫をして稼い

だ。そして神田の裁縫學校へ通ふ妹の電車賃だけを貢いてやつてゐた。電車賃といつては僅だけれど其爲此方へ差支が出來てはと思つてお兼は夜の更ける迄精を出して倍も餘計な仕事をした、が嬉しい事は言ふに言はれない。四月に漸と卒業した時も、お兼は自分獨りの功でゞもあるかのやうに喜んだ。

けれども其爲の疲れか、妹のお琴が國から母を呼むで他人の二階に借り住みをするやうに成つてから直、お兼は肋膜を病ひ出したのてあつた。母親とお琴が代る〴〵宿つての看病で秋に成ると又人並の體には成つたけれど、夫からは俯向い



てする裁縫などは絶對に禁じられて了つたのであつた高い藥代を拂つてた間の苦しかつた事を思へば今からして他の家に寄つてゐる位何でも無いんだと、無理に思つても見るけれど心よわいお兼には矢つ張り肩身が狹く、自分達に關係の無い主人の叱言にもはら〳〵する。工場に通ふのは夫から逃れられる道でもあつた。

お兼はふと立止つた。一寸考へたがどうも頭痛が强くするので其まゝ左へ曲つた。五六間行つた刷屋の二階に母と妹とが居るのである。

＊　＊　＊　＊

「おや阿母樣かと思つたら……」と針の手を止めて

窓の下からお琴は莞爾した。邊りには友禪の美しいのが亂れてゐる。「あゝ又お邪魔に、どうも頭痛がして仕樣がないの」とお辨當を置いて其處へ座つた。「まあ困るわねへ、餘り無理なさるからでせう」「どうも弱つちまう」とお兼は小鼻の傍から額までつるりと撫てゝ吐息をした。お琴は火鉢を押して「ぢやお寐なさる方がいゝでせうよちつと靜かに……」「あゝお邪魔だらうけど……阿母樣は？」「えゝ糸買ひに」とお琴は立つて床を敷く、お兼は直搔巻の衿に深く額を埋めて寐た。

「本當に姉樣の體にも困るわねへ」とお琴は又針をとり始める、お兼は床の中でもたゞもだ〳〵してゐるぎり眠れやうともしない。

八時過、母親が歸つて來た。「おや又どこか惡いの？」と突立つた儘で訊く。お兼はつひ面倒で眠つたふりの儘でゐると「えゝ、頭痛がするからつて」とお琴が代つて言つた「餘り無理をするからさね、房さんだつて始めのやうなら本當にお兼もいゝんだけれど……夫だからせめてお前だけでも運よくねえ……」「糸は？」「買つて來たよ、そして歸りに寄つて來たの木村樣へ。階下の女房さんの話ではね、唯さんの方ではもうどうせ定つた事なんだから一日も早く一所に成つた方がいゝけれど、あの二階ぢやあどうも、つて云つてるとさ、ホヽヽヽ夫やあ奇麗好な人だつてねえ、お琴と二人したら甚麽に板の間が光るだらうつてオホヽヽヽ散々笑つて來たのさ」「厭だまあ」「本當さあね、だから早速家を探さうよ八疊に二疊位の二階がよからうつて、其處で兩方共幾何かづゝ出來た曉には方々へも立派に知らせる事にしたら……つて言ふ今朝の話なんだがね」「えゝ」「だから今日はお兼にも打明けやうぢやないかね」「姉さんに？何だか變ねえ」「其麽事をいつ迄言つてる心意だえホヽヽヽ」。例に似ぬ若々しい母親の笑聲に驚き乍らお兼は床の中で頻りに耳を澄してゐた。

お琴の縁談……だと思ふと何故か額が熱くなるやうな氣持で、終ひには怪しく涙が溢れて來た。自分に只一つの慰安の場所も軈て破壞されて了はねばならぬもう外には安々と足を延ばす事の出來る所すらない、と思ふともう止度なく涙があふれる。

ふと今日は土曜日だと云ふ事に氣がつくと、お兼は矢も楯も堪らなく豊に逢ひ度く成つた。と急に氣があせり出して十時が鳴るのを待つやうにして起き上つた

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「もうちつと寐てお居てよ」「さうなさいよ」と二人が止めるのも訊かずにほつれた髮を撫で上げ乍ら、今朝の冷え切つたお辨當箱を持つて立つた。「大事におしよ」「本當よ姉さん」とお琴も母親の後から階子を降りて來る。「お陰樣で大變樂に成たやうだよ」と云ひ〳〵降りたが先刻の話をきかされるのが何となしに怖ろしいやうなので、逃れるやうに下駄をはいてさつさと挨拶をして露路口を出るとホッとした。

薄日はあたつてゐ乍ら、空つ風が砂をまく廣い通りを、お兼は寂しい心の中に小さな〳〵喜びを包むで歩いた。もう豐許りだ、私のものは豐ばかりだ、とさう思ひ乍ら袂の中で巾着の重さを計つて見て、其中から幾らか摘み出すと丁度通りがゝりの餅菓子やへ寄つて甘納豆を買つた。豐が大好な甘納豆、私が歸りつく迄には豐も學校から歸つてゐやう、と思ひ〳〵袂の中で固く其袋を握つてあるいた。

工場の事も忘れてゐる、月末の近い事も忘れてゐる、今晩の酒代の無い事も忘れてゐる、たゞ豐の唇のうすい、やせた寒さうな顔を思ひうかべ乍らお兼は家の方へとたどつて居た。

(評) 若くして所帶の苦勞に追はるゝ哀れな女の境遇、感情共に遺憾無く現はれてゐる。妹の縁談を睡つた振して聞いてゐると云ふのも面白いし、自分の唯一の慰安所を失ふやうな氣がして、涙の零れると云ふのも尤もらしい。結末に行つて、子供の事を思ひ〳〵、何も彼も忘れて家へ歸ると云ふのが稍惡とらしく思はれたが、それは選者の獨斷かも分らぬ。此作者は年も未だ若い女性だらうが、其世故に長けた觀察、老熟なる筆致、他日の進境こそ思ひやらるゝ。

## 〔八〕○灯ともしごろ

備前御津郡島田村　松本元子

『周さんどうも、お邪魔いたしました、お母さんがお歸りなさつたら、よろしく申して下さい』周造の妻の母親は晩くならぬ間にかへると云ふので立ちかける。

『小芳、それでは歸るぞ』少し大きな聲をする、小芳は勝手から前掛けて手を拭きながら出てきて。

『もう歸るんですか、ぢやア私も一寸其處までまゐりませう』いそ〳〵前掛けをはづしかける。

『暑いから、お大切になさい』

周造は立つたなりて、云つて『小芳、お母さんを送つて行くなら、花子を伴れて行けよ』ヂロリと眼が光る。小芳は默つて、花子を背負ふて、母親を送つて表へ出た。角の質屋の土藏にうすい夕日のさす頃である。

『お母さん、あの通りなんてすからね、鳥渡送つてく

るのにさへ、あんな睨み方をするんですよ、」

「周さんといふ人も變な人だな、あんな様子では出世が出來さうもない、まア何て口無調法な人なんだらうね。」

「それて、近頃は意地の惡るいことばかり云つて私を苦しめるんですよ、以前にはそうてもなかつたのですが……」

「お前はそれて、沈默て居るかえ、かもう事はないから云つてやるがよい、意氣地のない癖に女房を困らすんだね」



つれ〲

京都　濱邊鳳窓女

「それもな普通の事を云ふのなら何てすが、前身が、看護婦だから、お前は怪しい……まアこんな事を云

ふのですよ、花子が、お前の面に似て居る、俺には些とも似て居らんまア、酷いことを云ふのですからね、それにお母さんはお母さんて、もう吝嗇い一方て、私になどは一文だつて、餘計なお錢なんか持たせないんですからね……」

「まア、周さんも馬鹿な人だね、そんな馬鹿なことを云つて、樣の惡るい、嫁てから三年になる女房に碌に衣類もこしらへてくれないて、意氣地のない人に限つて、家てわが儘、出放題を云ふものですよ、云ふ事もあらうに、よう其樣ことが云へたもんだ、お前何にも弱身を見せることはないよ、此方には何も暗いところはないし」

二人はしばらく默つて、裏町の淋しい通りを並んでゆく。

「お前もう歸つた方が宜からうよ、あんまり晩くなつても可けまい」母親が立ち止まつた。

「え丶、もう少し行きませう角まて行きませう」

二人はまた歩き出した。蟬が屋敷の內て鳴いて居る。

「京都の姉さんは、あれから小供が生きませんか」

思ひだした如に小芳が尋ねる、

「どうだかね、もう生きても宜い時分だにね、まアあれは河田さんの腕がしつかりしてるからね」

「京都の姉さんが一番幸福てすね、私はもう二年、三年ばかし會いません、」背の花子がグス〱云ひだした

「花ちやん、泣かんのですよ、甘々買つてあげますよ」

小芳は花子をゆすり上げてすかす。

「まア小芳、女といふものは心棒が大切だからな、もう子供が出來て見れば、今更、ごた〱を起してもならんし、其內には周さんだつて、何時までも、其樣ぢやあるまいからね。もう、此處て別れませう、暇があつたらお出て、ゆつくらと話さうからね」

「さうですか、では此處から歸りませう、まだ暑いから養生なさらんと可けませんよ」

親子は其處て別れた。

小芳は急に暗い々々心になつた。意氣地のない夫と矢かましい姑との間に、何の快樂も、光明もなく、日を送る儚ないわが身を顧みて、何とも知れぬ悲哀をおぼえた。もう三月ばかり月經がない……妊娠の苦痛……出產と共に古りゆくわが身……夢の如に乙女の時代が胸に浮ぶ、町にはもう灯がついた。

（評）愛情も希望も無い夫に冊いて、不諧な抱き〱暮らして行く女の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

弱い心が、簡潔な筆で巧みに描かれてゐる。妊娠の苦痛や、出產に伴ふ我身の衰頽を感ずる結末の邊も、大膽に言つたらば、近代的婦人の痛切な苦悶の發表とも認められる。是で今少し筆が老熟てあつたらばと思つた。

**秀逸**

## ○月桂冠

松山　芳枝子

（一）

いつも主席を爭ふて負けた事の無い私が、どうした事か大切の卒業間際に、死んでも離し度く無いと思つてた月桂冠をうばはれてしまつた。その方は私より五つ年上、今年二十二である。平素勉强家、眞摯家として先生には大變受けが可く、小和田たみゑと云つた。

此の間千歲會の歸るさに友と二人、來月は新聞記者のお嫁さんにならうと云ふ美しく着飾つたたみゑさんを中に樂しく談り合ひ乍ら、小川に沿ふた町のまがり角まで來た時に、たみゑさんはふと、こんな事を云ふた

「考へて見ると一所に卒業した人の中で、私が一番先きに行くのだから、何だか……」と心から出たようしみ〳〵云つたが、私は其の心がにくらしくてたまらなかつた、何を云つてるのだらう、心にも無い事、たみゑさんはきつと皆より先へ嫁くのを、ほこつて居るのだ、そんなに先へ嫁くのがほこらしいのか、嬉しいのか「知らなかつた、口惜しい！」齒切してあつい涙はボタ〳〵と頰を傳ふて流れる。歸つてから居間へは入ると何か知ら不安ていら〳〵してたまらない。

「御飯をお食り」と優しく招んで下さる母樣にそむいて、机に靠れた儘、色々な事を考へて居た「あの小指のは、きつとエンゲーヂリングだらう、藥指のも隨分立派だつたが……忌々しい、あのこれ見よがしの動作は、あんな心とはほんとうに知らなかつたよ」

「淺ましい！」と云つた私は柱を見つめたまゝ、ほてつた頰に、嘲りの笑さえたゝえられる。

（二）

たみゑさんが嫁入つてから一月の後、夏休みの中頃に私の緣談もとゝのつた、自分から無茶に破つた前のに比較して宜い方でも無い。見合のすんだ日の午後に、中庭に落ちたピンを拾ひに椽へ出た時、

「あれも變な子ですよねえ、あんなに進めた前のをさかず……」「そうだアハヽヽヽ」と中の間の父母の話しを聞いて「お父母は私の心を何と思つてゐらつしやるのだらう厭な事だ」と思つた。

私の嫁くのも眼前にせまつた前の日の朝、これが名殘

りの高島田を何かの思ひに亂されつゝ、こはして髮を洗つたが、かはかす間、居間のカーテンをまくつて窓へ腰を下した。雨上りの大變氣持の宜い朝だ、日の影は早、床板を五寸程下つた所まで來て居るが、垣のかげの朝顏は未だシツトリと露をふくんで居る。私は一つ〳〵の髮の先きからボタリ〳〵滴が落ちて來るのをヂツと手に受けて居つたが、ふと志賀さんを思ひ出した。とその瞬間、不安の念はムラ〳〵とおそつて來たそして弱い心は今力ある何者かに壓せられる樣、感じる。

志賀さんは二十一である、そして私よりは二年前の卒業生て一年の頃から早、二人は親友の度を通りこして居つた、志賀さんが卒業の當時、高い希望の光にあこがれた事は大變な物て、それは兩親から身體が弱いからと目的の學校へは入る事を、許されなかつた、猶火の手はさかんにもえた、その時分私は、はげしい血を吐く樣な手紙を幾度と無く受け取つたのてある。變り者てあつたゞけ、去年の秋師を戀ふて、もだえたのが元となつて、今は高濱の海邊に敗殘れた肉塊は養つて居るが、それ以來度々出す手紙にも一回の返事も、もたらさなかつた。心配して居ると廿日程以前に來たのはそれは只、短いものであつた。

あゝ――過去における記憶の破壞――私はその句を、思ひ出して全身の血潮が、にえ返る樣てあつた。

「私は如何しても、志賀さんに對してお嫁に行かれ無い樣な氣がする、氣の毒だ、志賀さんのためには、生命も何も惜しくは無いと云つたつけ、あんなに魂も身體も死にかゝつて居る人を、私として放つておくのは、眞實無情だ、志賀さんとしても、私が嫁くのを知つたら氣持の宜い事は無からう、口悔しがる事はわかつて居る、すまないねえ、ほんとうにすまない、もう二月か三月か猶豫があるのなら、今に飛んて行つて心のかぎり慰めて上げるのに、許して下さい、あんな淋しい所に一人殘しておいて、どんなにやつれてゐらつしやるだらう……」と思ひが高くなる程、頰がほてつて、頭は割れさうてある。そして側ら、たみゑさんの笑顏がふつと浮かむと、

「と云つて、たみゑさんに對して強腹だから、矢張早くお嫁に行く方を私は望むのだ、早く嫁こう、そして一日も早く、この事をたみゑさんの耳に入れて安堵がしたい、たみゑさんは御機嫌かしら……」早くも志賀さんを忘れて、私は笑顏で室を出ていそ〳〵と髮を

結ふため奥の四疊半へは入つた。

（評）友人に對する競爭心から、戀を捨てゝ心無き結婚をする、女性の皮肉な特性を捉へた點は面白いが、何だか是だけでは僞のやうに思はれる。文章に假名違ひが多い。

## 夕涼み

青森　松尾ちよ子

て居たくせに」

いつもから良人の氣永は知つて居るけれど今日は表家を貸しておく家の主人が中風て急に死んだと云ふに

## ○天氣者

大阪　西戸政江子

### 上

淋しげな秋の夕日を受けて隱居に獨り老眼鏡をかけて汚ない古本をひつくり返へしては首傾けて居る藤吉を見るともうお新は苛々として「まあ貴方眞間にどうして居なさるんだよ、一度でも表家へ出な濟まんじやおへんかいな眞間に貴方の氣樂にも呆れますよ」と忙しさうに口を動かして「それも普通の人ならほつたらかしてども濟みますけんど子息樣達は京都の何たら云ふ學校の先生やて貴方から云ふ



顔出し一つせず我おかまいなしと云ふやうに好きな古本を見ては樂しんで居るのでもうお新は腹が立つやら口惜しいやらでギリ〱唇を咬んで、

「そんな人達ですもの此方の仕てやつたことはちやん〳〵と禮をしますよ」と唾を呑んで眉と眉の間を忙しさうに動かす、これがお新の癖なので……、

「まあそう八釜しい云ふても仕樣がないがな」藤吉さんは恐々と口の中で、それでも古本から目を離さない、キリツと眉を上げたお新は「えツ此の良人は何んと云ふ人だらういつもお世話になつてゝこんなときこそ、貴方が一番にいつて色々の手傳をせんならんのに、三文にもならん古本なんか見てゝどこが面白いのだらう」と口を尖らして半ば自暴氣味にチヨツと舌打して「ね貴方」急き立てゝ居る折から表家の奥樣が水屋の方から一寸首を出して、

「叔母さん」と小さな聲で呼んだので「ハイ〳〵」と飛んで去つたが暫らくして濡手を拭き〳〵バケツ持つて忙しさうに來たが未だ藤吉の古本を眺めて居るので

「若しツ」とバケツをガチヤンと音さした、

藤吉は吃驚して顏を上げた、眼鏡を治し〳〵「そやかてお前、近所の人かて誰れも行かせんし葬式の日に一寸出たらそれで濟むがな」とまだ何か云ふとするのをお新は眞辛度さうに下駄をコツ〳〵鳴しながら「阿呆らしい近所から誰れが來ますい、そうやて貴方に出て下さいつてさつきからあんなに云つて居るじやありませんか京都の子息樣も直き歸つて來ますよ、貴方のずゞしいにも呆きれる早くなさいツ」と金切聲上げて地團駄踏む。

「今行くよ」と藤吉は無性々々に腰を上げた、表では鉦の音、茶碗の音、下駄の音で騷々しい、又水屋の方から叔母さんと呼ぶ。

折からガラ〳〵と三臺の人力車、お新はものをも云はずあはてゝ表へ走つて行く。

## 下

その七日目、

今しがた紡績會社の五時が鳴つた、何處も夕方は忙しいもの今まで水道口でペチヤ〳〵と八釜しく騷いで居た近所のお神さん連も、お新が例のブツ〳〵小言を言ひながら出て來たのでソヲ來たと云はんばかりに洗いものもそこ〳〵家の中へ馳け込む、お新はそれらを尻目にかけながら自暴にバケツを投り出してザーと水を出しながらチヨツと舌打して邊りを見廻したが折よくそこへ來合せた一人の女をもう自分の味方を得たやうに、

「ねお竹さん、私はもう腹が立つて腹が立つて御飯も

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

食はない始末さ、馬鹿々々しいね」女は亦かと面をしかめて、
「そんなもんですよ今の若い者なんか學校の先生だの何だのつて鬚生やして威張つて居てもみんなそんな薄情な者ですよ」
「地體家の良人が音無しいからだよ、ジヤラ〳〵と人に話も出來やせん、よい樣にされたんだよ」
「まさかね、ホヽヽヽ」
お新さんとしては無理もないだらう死んだときはやれ何處、それ何處、と下女の樣に追い使はれてその揚句の果が一度の挨拶で奧樣まで京都へ引越して仕舞つたのだ、
「子息さんも立派な人ですがね」女も仕方なしに……
……人間の皮着た畜生でさ」と憎さうに「武雄が子息の事さ――京都へ來いと云ひますので行きますとどうてせう人を散々使ふておいて歸りますつて勝手にも程がある。
藤吉が出て來た、風呂敷包を持つて、大方貸本屋へ行くのだらう、傍へ來て、
「一寸行くぜ」
お新は一寸顏を上げたなり返事も仕ない。

＊　＊　＊　＊　＊

貸家札が脫がれた、此の頃はお新さんもご機嫌がよい。

（評）表を人に貸して、自分達は裏の狹い隱居家に暮らしてゐる、つゞまやかな夫婦者、ノツソリした亭主にガラ〳〵した女房、會話の大阪辯も能く調和して、如何にも上方者にありさうなと思はれるが、文章に句點の打つて無いのは讀み惜い。

## ○花屋

三河　紫苑子

養蠶が流行つて來てから、村の樣子の變化つたことは僅少でない。一般に家屋の大きくなつたのが特に目につく。それも綺麗といふよりは、廣いのを欲むといふ有樣だ。今の所、田地よりは家屋といふ樣な感念が一般村民の頭に行き渡つてゐる。古は北風を防禦ぐ爲の背戶裏の壁なども崩き落されて、格子戶が閉てられてある。極く熱心家の中には、田地を賣つて蠶室を建てた者も少なくない。
途數年前まで、蔬菜が作つてあつた畑へ桑が植ゑ込まれた。綿畑が桑畑に變化つた。瓜畑も、粟畑も、麥畑も、悉うして次第々々に桑畑になる。
花屋さんの家もその例には洩れない。
花屋さんは名を長藏さんと呼ぶ。花屋といつても本

職は勿論農てあるから、固よりさう大したものてはない。六畝位と思はるゝ屋敷畑の一部を利用して、植木やら、草花やらが配置よく植ゑ込まれてあるので、家の弟など、臆面もなく貰ひに行く。恐ろしく腰の曲つた穢ない婆さんがゐて、

「井戸端のを掘いてお行き」と云ふのが癖だ。井戸端には捨草、むかて草、石竹などの雑草花が植はつてゐる。

豊橋邊の植木屋が、

「長藏さんは。」と尋ねて來る所を見ると、多少名が知れてゐるらしい。大抵隔日位には、削けた腫へ紐付の脚袢を穿つて、夏向きは大きな菅笠を冠つて、癖のある歩き方て、紅や白の花を賣に出かける。がこの頃は植木なんか根こそげにどし〳〵賣る様子だ。嫁さんが滅相蠶飼ひが上手だから、桑でも植ゑる考へかも知れぬ。

長藏さんの屋敷は可成ひろい。土井の稲荷と云ふ深い籔疊に續いてゐるので、昔は狐が澤山ゐたとか、長藏さんの家て何か御馳走てもしてゐると脊戸口へ來て茫乎覗いてゐる。婆さんが、

「惡事をするてないぞ。」と云つて、餅や、おこはをやつたんだつて、子供の時分母がさも凄さうに語つたとがある。それを何と思つてか長藏さんはこの頃截り開きだした。チヨン髷黨を脱して、進歩黨に入る過渡期と言はゞ言へやう。要り頭が餘程經濟的になつて來たのだ。この様子ては、屋敷を取捲いた高い杉垣も頓は桑でも植はるか知れぬ。

何時ぞや自分の父がこんなとを云つた。

「何にしろ長藏さんは優い。一文なしから兎に角あれだけの身代にしたのだから。」

「固は开麽に貧らなかつたの。」

「隨分貧困かつたさなあ、長藏さんの親父さの代にやこの盆と正月には定まつたやうに麦をかりに來たものだ。」

「長藏さんのお父さんといふのはどんな人だつたのですか。」

「そりや勤勉い人て何時行つても草鞋がけてゐて、お飯なんか上つて食べたとはないといふ位な人だからなあ。」

「それだに身代はよう作らなかつたのね、賭博でもしたのですか。」

「工面が下手だつたとらあな。朝から晩まで一生懸命

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に働いてもとりまはしといふことをしないから他人の半分も仕事が出來なかつたのだ。其所へ行くと長藏さんなんか優いものだ。工面はよし、勘考はよし。」

この話を聞いた時私は何だか長藏さんの親父さんが見える様な氣がした。無口な、人の影を厭ふ様な灰色の暗い顔。

子供の時分、私は長藏さんの家は婆さんの澤山ある家だと思つた。て不審て堪らず、母に、

「長藏さんの家には婆さんが澤山ある。」

と云ふと、

「お婆さんじやないお母さんだ。」



[illegible] 水月しづえ

「お母さんが二人あるの。」

「猫脊の婆さんはあれは長藏さんの姉さんだ。」

是れて先づ不審も霽れた。長藏さんの姉さんは一度嫁入つたのだが、離縁になつて歸つてからは二度緣付かうともせず弟にかゝつて居候をしてゐるのだ、とこれは後て父から聞いた。

こゝて鳥渡長藏さんの性質をいふなら大きなとの出來ない正直一方の人だ。拾ひ物なんか五厘錢一箇だつて隱しおふせず、警察へ届け出る程だ。だから村ては堅い人だと云つてゐる。堅い人には相違ないが

私に言はすれば小心なんだ。長藏さん程の小心者も珍らしい。これで將碁もさせば、狂俳もやる。さばけた淨瑠璃なんか高聲にやるのだから可笑しい。村芝居では矢口の渡しのお舟をやつたさうだが、長藏さんに女役はちと不向きの感がある。

長藏さんの姉さんは遂この間死んだ。夏蠶が上簇する日だ。お隣りから言ひつぎが來ると、葉を擴げ乍ら母が怎う云つた。

「明日の葬式だと云ふが、死んだのは怎うも昨日の樣だよ。どんな鹽梅かと思つて蠶を見せて貰ひに行つた時、寐室に蚊帳が吊つてあつたが、それこそぐつすりとも言はなんだ。」と。

然し奈何に上簇が忙しいからとて、長藏さんの樣な小心者に、そんな仕打が出來るか怎うか疑はしい。

突然大きな聲がしたので、不圖見ると、朝日を脊に一杯浴びて長藏さんが、鋏で花を剪つてゐる。今日は綺麗に頭を剃つてゐる。繻絆と脚胖との間に丸く露れた膝こぶしが黒い、鋏の音がちやき〳〵と爽に聞える。大低五六本剪ると、烏渡と花ぶりを見て横手の脊の中へ入れる。脊の中の花は桔梗と女郎花が一番多い刈萱や鷄頭も混ぜてある。皆露にしつとり濡れてゐる其の傍に今年四才になる次男の國次が白い息を吐き乍ら蹲踞んでゐたが、

「チつこいのう。」と言つて、脊の花に一寸手を觸れて見る。「そ、それを弄るじやない、彼所へ行け、花畑を出て居れ」と言つたが國次は默つて蹲踞んでゐる。

「おせん〳〵。」と今度は妻の名をよんで「國を其方へ呼べ、花を弄つて仕樣がない。」といふと蠶に桑をやつてゐた嫁さんが、「國よ、邪魔をせるじやないぞ、此方へ來い、此方へ來い。お母が佳い物をやるから。」と大聲で云ふ。國さんはしぶ〳〵花畑を出る。

最後の紫苑を一本剪つて、それを脊に入れると、くり〳〵頭へ菅笠を冠つて、

「行つて來るぞ。」と嫁さんにいふて出て行く。

「お父。お父。」と小さな下駄をカチ〳〵鳴して國さんは其の迹を趁つたが、門口まで行くと立止まつて、野路行く父の後姿を見てゐる。

長藏さんは未だ若い。四十になるやならずと云ふのだから、こつ〳〵と蟻の如き其の勤勉は、此の先どんな發達をすることか

（評）復雜した家庭を萬遍なく、何所までも客觀的に描寫した所が善い。筆は蕪雜だ。此作者も恐らく男子だらうが、男が殊更ら女名前を用ゐる其心事を怪しむ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

# 日記文

中村文學士選



▲規定　文體は問はざれど日記に限ること、實際の日記其儘にても可なり、二十四字詰三十行以內、用紙前同斷、一人一章限り、投書締切毎月十五日、懸賞品は乙種規定に據る。

## 天　○日記の一節

松山市本町三丁目二八　大本花代

盆の十四日なり。立てど座れど、又まろべども、肌は汗もて、しとゞにうるほひ、團扇の風さへ生ぬるし。其の午下り、巽の空に鼠色の入道雲、頭をもたぐるよと見る〳〵一天かき曇りバラ〳〵と瓦をうつ雨の音す、すは干し物をな濡らせそと、下駄引つ掛けて裏口を走り出て、洗濯物をかひ込む折りしも、何をぐず〳〵、早や來ずば、あたら日蓋もだい無しぞと、罵しる聲に振り向き仰げば、隣の物干臺に主の四十男、可笑しや赤裸にて地團太踏みつゝ、妻なる人を呼ばふなり。可笑しさに口抑へつゝも我が事の樣に鼻白みて再びは得見ず廂の蔭に、そと隱れぬ。椽に腰打ちかけて、今入れし着物の皺を延し霧を吹きて疊む程に、雨の脚愈々繁く、雷さへおどろしう、家をも飛ばさんず風の勢。恐ろしとばかり耳を覆ひて、母の膝にうつ伏しつゝ、あはれ暑さも厭はじな、疾く〳〵止みね、早や晴れかしと、ひたすらに念ずれども雨は何時晴るべくも見えず。何に、戸惑ひけむ、小鼠の、襖の間に可笑しげなる顏かしげて動かねど、猫も恐れてや、橫にらみせしまゝ行いて捕えんともせで、膝の上に圓うなりしも、笑止や。灯ともす頃、雨も止みて凉しくなりぬ。亡き姉の魂迎ふとて焚く煙の、夕顏の葉をかすめて、末細く御空に消ゆるを眺めつゝ、三人は互に、千々につきぬ思ひ出の糸を手ぐるなりき。母上は御佛の御名唱へつゝ果敢なげなる火の中に芋殼折りくべ、扨て椽につい居る、妾を眺めて、菊代も御身と同じく十七なりきと、面そむけ給ふ。

（評）夕立のおどろ〳〵しさ、詞に盡さずして小鼠と猫とを以て察せしむ。眞に入神の筆といふべし。

## 地　○五月二十九日

小石川區戸崎町五番地　都根子

御庭は塵一つ殘さず淸められ、障子も貼り變へられ、疊が靑く心地よい香がする―乾草かをる初夏の野を行く時の樣なーアヽ待ち詫びた御里開も明日に成つた。嬉しい〳〵胸がわく〳〵して何にも手につかない。常より手傳人がふえたので方々で華な笑が起る。でも待



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

遠しい。時計の針を一度に廻して明日に仕てし舞たい
御庭から辰ちやんが來て「嬉しいわ」つて云ふ。何知ら
ず相見てほゝゑむ。辰様、姉様にどれから御話しませ
う？ーどつさり有るわーね旅行遊ばした伊豆山の景色
伺ひませうかーゑゝと點頭く。小姉様！姉様は朝から
外の方は午後から？ーそうよ、ね辰ちやん、どんな色
でせうね？御召は、摸様は、御帯は、御紋は何てせう
！樂しみね！早く明日に成ればいゝと辰ちやんがさも
待遠しさうに足ずりする。いゝな僕の兄様がふえてと
不意に後て白總に成た許の附屬の弟が云ふ。私にだつ
てとヤッキに成つて妹が爭ふ。何だい。男は男の味方
だぞとゑばりながらとん／＼御椽を踏で行てしまふ。
憎らしいわ、ほんとうにと辰ちやんはさも口惜しさう
：此度の兄様はどんな方てせう。早く御目に掛り度い
ワ四谷から姉様も兄様も御見えに成るんてせうと辰ち
やんの聲の高さ。さうよ嬉しいわ。久振て姉妹四人揃
つて御話がつき無いてせう。切もなくお話に花を咲せ
てゐると夕飯のお使。其時も只笑みかはして明日の話
て持ち切て賑かなこと。嬉しい中で苦しいのは堅い帶
を胸立にきうつとしめる事です。――今夜は辰ちやん
とお床を並べるつもり。思ふ様、姉様を想ひ浮べて話
し合ひ度いので。：サラ／＼と微な音、雨かしらと窓
を開くと若竹の葉ずれてす。明日は晴天てせう！必と
今宵私共の夢に入る姉様のお姿はどんなてせう。(五月
二十九日)

(評) あす逢はむ姉のおもかげ身に添ひて眠られぬ夜半の長くもあるかな。

秀逸

## ○太陽の日記　大阪　美都子

今朝、むつくと顔を出すと、「今日は御天氣らしいヂ」
と先づ下界の聲が聞こえた。どこの家だか、さつぱり
わからないが、美しい花が垣根にそうて咲いて居たか
ら、そつと、覗ぞくと、そろ／＼と、しぼみ始めた、
什麼やらあの花は自分を嫌つて居るらしいが然しうれ
しい事には、其時其傍に居た、女の人間が、何だかき
たない様に板に布をへばりつけて居たが自分の行く方
／＼へ持つて行つた。
其から、だん／＼と歩いて居ると青々と繁つた林とか
籔とかゞあつて其間に川が流れて居る。ほんたうに、
人間の行かない所は、美しいものだ。然しこゝから餘
り遠いので林や籔はまるで箒か柴のやうて、小川なん
か糸くずの様に見えて居る。
晝頃だと、思ふが、あちこちの家の澤山ある所から「ド
ーン」「ドーン」……あの日露戰爭の時によく、聞
いた、大砲とかいふものだ、什麼やらどこの都會ても
一日に一度は、乾度鳴らすらしい、あの戰爭の時には
日に何度聞かされたか知れなかつた。
それから一つと、下界ては今夏だヂ、あの雨さんの固

のやうな中で澤山の人が「あつい〱〱」と泳いで居た、下界を見て居ると、ほんたうにおもしろくてたまらない

それから、あゝ何時だつたか時計がないからわからないが雨さんと親類の雷さんと、やつて來て「どうか！暫く私共に時間を貸して下さい」「どうしてだ」と尋ねたら「あまりねむたくて、仕方がありませんから一寸一と働き致します」といきなりザーザーザー雷さんも得意になつて思ふ存分あれまはり、おまけに十八番の光をピカツーピカツー。

下界の人間らは面白い程あわてゝ、海から出るやら、干した物を入れるやら、並大抵の混雑ぢやない、然し二人とも歸つてからは、草や木は青々として居た、其頃下界の人間らは、着物をかへて團扇もつて涼しようにして居た。もつと見て居やうかと思つたが、友人の御月様がこれから、お出ましになるのだからと思つて早々今西へ走るのださア早くこの日記を書いて、それから大西洋を、渡つて、アメリカを起してやりませう！

いこひ　名古屋　寺澤信子

（評）着眼奇抜。



## ○故郷日記の一節

栃木縣　青木多歌子

舊八月十五日ほかほかとてり出して此頃になきよき日なり、冷かき丑寅風に吹き遅れたる稲の花、今日は真白に咲けるも嬉し、四五日續かせたき物かな等と皆々語り合ふ。

麻挽き初めてより今日て十日、やゝ手づきてきたれど

も、猶足のいたみに堪へず、休み勝なれば、さなくても拙なき手はいたう引後れて、心のみ焦る折柄、思ひ掛けなく幸子樣來給ふ。五つばかりの愛らしき女の子をつれ給ひ、髮さへ初々しきまげに結び、緋の手柄ふさひて、さても品よき奥樣になり結ひしよ。一年も逢はぬ間にいたふ更け給ひしと云へば、義理てふ文字にからまれて等と淋しく笑み給ふ。女の子は母さん／＼とつきまとへば、何くれとなくいたはり給ふ。生まぬ子を子と呼ぶ、十八の母君、去年の若やかなるお姿を思ひていと痛はしうおぼえぬ。

養家への歸りがけとか、上りもせて歸り給ふに、止めんも心なき業と、村はづれまで連れ立ちて別れぬ。あまりに突然なる短かき逢瀬は、日頃の積る思ひを晴らすによしなかりき。

夕方より雲出て待ちわびし三五の月もあはれ雲のとりことなりぬ。歌人ならぬ我さへいと口惜しう覺ゆるをまして花鳥風月を友とする風流人の失望や、思ひやらるゝ、草葉にすだく虫の音も、今宵は只ならず、あはれ身にしみぬ。

片いなかの侘しさは、語らんに心會ひたる友もなく、歌學ばんにも師と賴む人もなく、口薬鐵砲の音、又は浮かれ男の鼻唄の聞ゆるのみ。

されど虫の音のみは都に勝るべし。

（評）結句重し。

## ○人知らぬ悶　下野國　草方華子

み空は輝き渡るとばかり晴れたれど、快しとも覺えず邊りの長閑さ逌に春なりき。十時思ひがけなうも美津子樣訪れ給ふ。此身と共に此頃まで、二〇三高地の髮よなど道行くに嘲られしを、憎くや露滴るゝと許り匂やかに結ばれたる丸髷、品のよさ限りなし、物語り二つ三つして歸らる、某がしの奥樣姿見せんず爲と許り思ひなされて、妙に切りたる口上の、何となう嫉く口惜う胸裂かれぬるもうたてし。程もなう遠近の家々にて豆撒く聲す、今日は節分なり、此豆に又歲一つ加りて二十六となるかに思ひ至りては、云ひ知れぬ悶を覺え身も世もあらず、袖に顔して泣き崩れぬ。折から廣間の方に、かるた遊びするならむ「鬼も十七蛇も二十」と可愛き弟の聲す、花の盛り已に逝きて妾はや人生の半ばを暮し了んぬ。年改まれりとて何の嬉しきとやはある、恐となく宣ひそ、彼方此方の噂耳にする身は其昔の如正月の樂み如何ならんを尋ね問ふ可き暇しなければ……。

＊　＊　＊　＊　＊　＊

又なきよき日、梅の花眞白に世は穩なり。春着の新らしきに勇める兒等は樂しげなり。年首の祝言述べんとてや、往き來ふ人のいと忙げなるも、今日のみは長閑けく覺ゆ。年賀の人交る／＼來て父上と語りて去る。妾は古るき顏人に合はするも辛かりければ、終日書讀み

て書齋に籠り居りぬ。寂しさいはん方なし。夕方俥の轟くに窓開け見れば、何れの新郎新婦にやあらむ、打並びて行く。何となう胸苦しうなりて溜息のみぞ出でぬ。

（評）自ら囚へて憂鬱に沈まばいよ／＼人よりうとまれむ。自然に對しての讃美と文藝に對しての趣味を喚起せよ。春はやがて君が胸にわかむ。

## ○小春日記

京都　紫苑

十一日。庭の山茶花始めて三つ咲く。一枝に花二つを付けたり。父上の命日なれば手折りて供ふ。午後お隣の嫗様例の袢纏姿にて入らせらる。今日も貞様（嫗様の子）の放蕩話にて、泣いて／＼歸つて行かれた。後で何だか自分もつまらない氣がしてならなかつた。夕方ばら／＼と少し時雨れた。

十二日。去年の冬一心に兄様が世話したものだから秋海棠が今年は澤山花が咲いた。恰度眞盛りである。冬期休暇のお歸りに見せて上げ樣と思つて、鹽積にして置く。

今日中の豫定の羽織も早く出來たので、讀みさした詩集を讀む。窓から入る風が涼しいより、寧ろ寒い樣であつた。

十三日。江田島の兄様よりお手紙が來る。櫻の返り咲きが二輪封じ込めてある。「いつの間にこんなに風流になつたのだらう」と母様が笑はる。今日は朝から姉様の粗い着物を、自分のに仕立て直す。そして平凡に暮れてしまつた。ほんとに氣がつかなかつたが、今日は早や蟬の聲を聞かなかつた。

（評）何となくやさしき情こもれり。

## ○日記の夏より

本鄕　田村きみ子

九月十日。太陽の何に羞らいてか。朝霧の中より丸らかな面に愛嬌の笑みをたゝへて。輝く眼を現はししが晝近き頃より。銀色の薄き雲の袂に姿をかくし果てぬ優しい月の仇姿を松の緑葉越しに眺め入りて。心もすが／＼しく夜の更け行くとは思はてありき。

十一日。空、麗らかに暖かう。午砲の響きてより巷の塵埃を吹きすさみぬ。されど屋の棟高くもつれ糸のやう往き來るさの便信の線に憩ひて。喧しく囀りし軒雀の胸も安らかに翼を縮めしのみ塒には歸らず。作物には親しみのなき都人の、二百廿日も無難にて秋の收穫も見事ならんと、喜びの聲もて語り合へるを聞きて。妾には嬉しくも可笑しく覺えぬ。

十二日。明けて口惜しき曇空。汗にまみれし單衣の襟垢洗滌して乾く間もあらばこそ。しく／＼と孀き乙女の涙雨、降り出でてしに干し竿もろ共抱へて室に吊す。「干し物を生け捕りにする俄雨」の川柳を思ひ浮びて。妾の態のそれに似て違はざりしならんと一人可笑しく興に入りぬ。青疊にポタリと一と雫。曇りの見えぬ大



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

空に明星のやう美くしく思ひなされてとみには拭はでおきぬ。室は暗く憂陶しく雨さへ強く音たて寂しさの増りて。死の旅に誘はれし心地して哀れ悲しの涙は冷たく頬を傳はり。果ては淺ましき人の運命に泣き居たりしが。暮れてより風に雨霽れて庭の小笹の音は睦の咡きのやう。枝葉を樹々の交ゆるは喜びの謠ひのやう。籠の外より雫するは亂れし小琴のやう樂しく面白く耳朶に入りて。上野の近き森より惜まず捨てし三つの鐘の音を微かに聞きて。誠に打ち出だせしを數へしに兩手にてあまらざりけり。その手そのまゝ故郷の空をみつめて伏し拜みて夢を結びはじめしが。胸の糸は綾になりて思ひの外時を仇にすごしてけり。

(評) 星の上の一雫、明星とみし心のやさしさ、うれし。

## ○登山日記

王子　平澤政子

八月一日。晴、嬉しくて、よもすがら夢につかずして明けぬ。仕度もそこそこに、午前六時發の下り列車にて飯田町を發す。一行は三名、服装は輕く。荷物は、至極簡單。幾つかの驛をすぎて猶止まざる列車は、初對面なる地を見せて、程なく八王子驛。ここを出づれば隧道、又隧道、人も我も蒸暑さに身の置き處なき程の困り方　汗にまみれつつ、大月に、下車せしは、午前十一時半。中食して、車中の熱を洗ひ、一時三十分發の富士馬車にのる。すると、夕立、雷光は、恰も白刃の如く　千山横はる間を縫うて、吉田驛につきし頃雨やみ東京館に投宿せしは、七時すぎ。

二日。晴、四時に起床す。長き金剛杖を手に、わらじの足もすばやく出來れば、强力も一切の荷を脊負ひたり。仰げば、無限の天をつき、時ならぬ鶯の音も節面白く頻りなり。强力のほてらしげに語るも興あり。いと細き道を右に入りて程行けば、きくもおかしき胎内をくぐり再び歩を運び、中の茶屋をへて、馬返しにつく。山を登るにつれて體は斜に一合目、二合目を過ぎて三合目で中食、漸く登りて、まだ日は早けれど八合目に泊る。二時なりき。三時頃より雨ふる。明日は頂上雨がやめばよいが、今宵は床につく。

三日、晴、人聲にひかれ三時起床、力餅をかぢり綿入を身を纏ひ、猶も登るは暗夜を辿るのであつた。漸くにて、頂上につく。杖をつきては、六根清淨一足上るにはウードッコイと辛さもますが、どこやら興もありし。將に、東天は紅ならんとし、やがて、御來光を拜した。鉢の峯々もいと自然に千尋もあらん、かの洞もつもりてたへぬ雲白く、げに昔の樣も浮び出て、さながら三伏の暑さを忘れた。濛濛たる中にスルガ灣を目の下に見て友に筆送る。銀明水の側を御殿場に向つて下れば七合目よりの砂走りは、眞の愉快。太郎坊についたのが十一時半中食して、ガタ馬車で御殿場に至り上り列車に乗りて夜八時江の島に宿る。

(評) 過といふふしなけれど、記せる文字の[illegible]なるに、捨つる事の惜しくて。

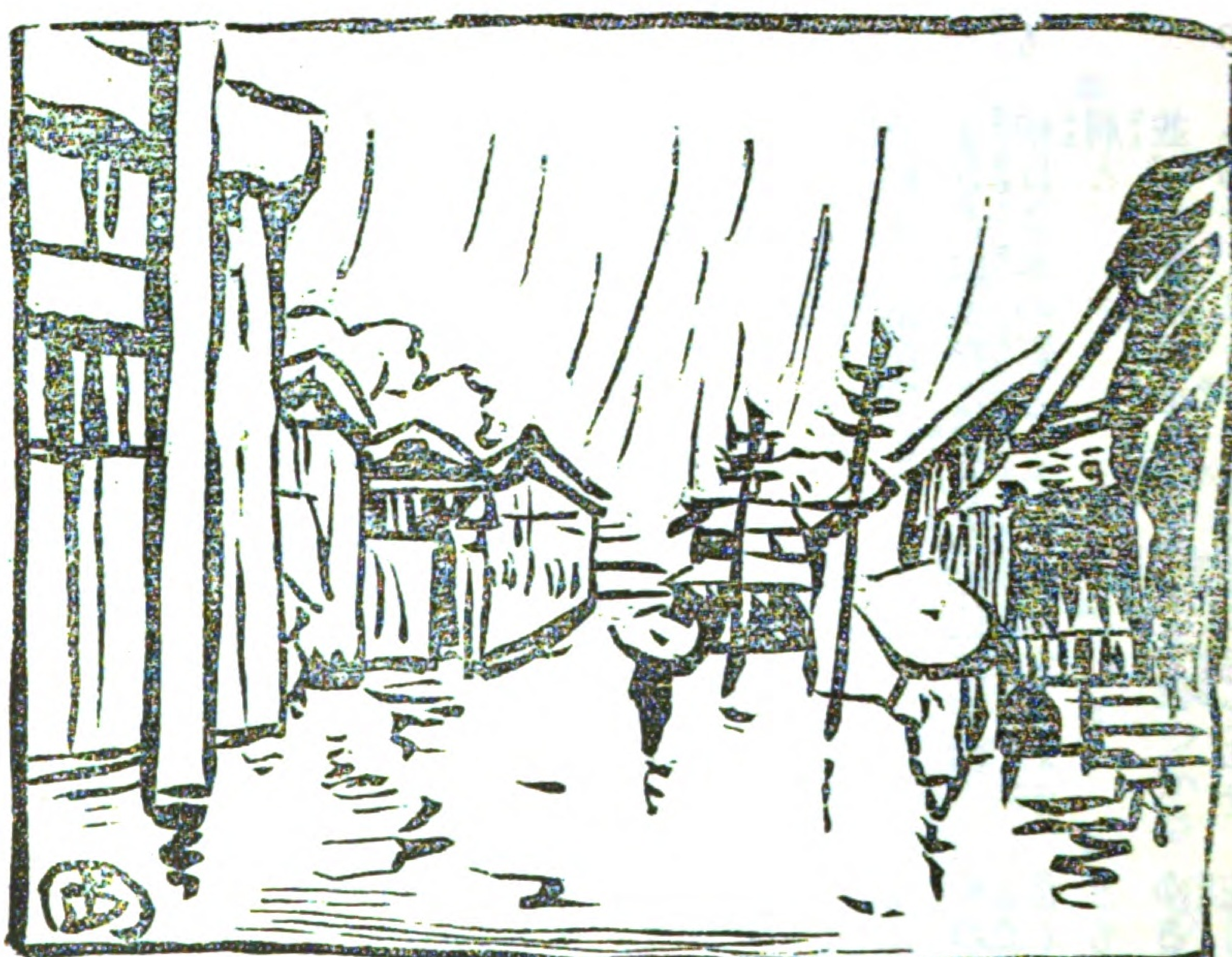
## ○朝起（日記の一節）

香川縣　瀬高やす子

八月廿日。昨日さんざん笑はれて伺た朝起の秘訣とか「打とけて若もまどろむ事あらば夢驚かせ我枕上」三度唱へてお辭儀して寝たせいか目がパッチリ開た、時計を見ると四時半、奮勵一番とび起きて集め置たお浴衣、お目覺前に濯いて置かうと音立てぬやう裏に出る。まだ薄暗く、讃岐小富士は濃紫の雲に包まれ、有明月淡く斜に懸て、そよとの音もない、曉の靜さを破るまいと、心して汲上た水さつと盥に移すと、朝の生氣はひやりと頬を撫でゝ胸へと流れ入る刹那の心地よさ避暑も海水浴もいらぬ、いらぬと、さけびたくなる。やつと終て濡椽に腰を掛け白紫絞など明け行く空に咲き揃た垣の朝顏を、まだ覺めきらぬ夢　名ごりてもたどるやうに、茫然と望めてゐると、「おやおやおや―」大きな聲、吃驚して見ると、兄様が寝むさうな目をして、雫くのたる物乾を見て破入る、「ほゝゝゝそんなにお驚き遊したの、今朝から規則改正ですもの」わざと冷然して居ると、「どうかお天氣にだけは、別狀のないやうに願いたいね」、「あら！、よくつてよ、そんな事被仰るからほゝゝゝ手拭が落ちて、土だらけだわ」「や！、此は神罰的面、恐るべしへ」、そこそこ井戸端の方へ。ほゝゝゝ自分ながら、あまり笑聲が高かつたので、ハッと思つた。

（評）可。

雨の街　神田　白井つな子





# 新體詩

横瀬夜雨先生選



凡て振假名をつくること
懸賞は乙種の規定に據る

## 天　〇夜の青葉

信濃　太田きし子

ものゝ憂に色あらば、青さぞ吾れの
憂なる。
青き憂よ夜の青葉、
暗きなげきよ夜の青葉、
冷たき胸に手をくみて、
冷たき幹に耳あつれば、
くぼみたる眼のいぢらしう、
なだめの涙湧かしめぬ、たゞ甲斐も
なく。
あゝされど頬につたひては、
たちまち冷えて——みぶるふよ木の
葉さながら。
川添の葦間に物の音てそあれ、「さら
さら」
底ひくう、かすかに消ゆる大なる呼
吸の如き——。
耳すませば「さらさら」
立よどみ、ふり返り
いくたび足のすくみけむ。
奈落の人の
吾が魂をいざなはんとて、遠くより
走り來るかも、
たゞ音のみ——。
淋し姿や十八日の月の、
半身はそげて、
きら星の群をはなれて、
合歡木の葉かげに、
すきとほりたる青き光を地にぞひく
細長き木の影と、わづかに丸きわが
肩と
並べる影のさても寂しき。
（あけくれを目に見ぬ君に思をはせ
て、
心よはき吾は涙の愛子、
夜の青葉の姿ゆかしむ。——）

「ほそ長き木の影とわづかに圓きわが肩と並べる影」の寂しさは誰しも言はむ、「青き愁よ夜の青葉、暗きなげきよ夜の青葉」に至りては、瞑想以外に學んで得べからざる句なり。暗黒面を見る目の鋭さは遠く山田邦子に及ばねど、剪紅裁緑の技はやがて彼に亞ぐになんなんとす、自愛せよ。

## 地　〇黒髪

下總　若杉とり子

母はあれど世にはぐれたるわれなれ
ば、
父の手にさへ撫でられぬ
冷たき櫛の歯のくゞり
痛さはせめて忍びつゝ
束ね來し髪のともすれば
涙にぬれて
ともに悶えし十七とせや
ゆるせ黒髪。
花もかざゝぬ緑濃き色
幾尺は肩にあまれど



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

吾は小女子
恥かし、人の掌には
一條だにも觸れまじと
すねてゆくわれなが
ら
『心』を照らすたいま
つの
愛の火あらば
頭にさゝげて
暗き『生』と行き、
燒き盡さるゝとも惜
しと思はじ
十七とせを涙にのび
し
あゝ黒髮。

迂徊なく餘裕なくあふり立てる樣に人に迫る詩だ。どこで息を吐いて讀んだらよいのかあまり直角式で困る。頭に火を戴く事は面白いけれ共丑の時參りと間違はれぬやう願ひます。

室池



人 ○何處へ

信濃　小野つかさ

尼ケ崎　とよ子

もの憂い軀を坂の上の樹にもたせて
ぼう〳〵眉を木下の風に吹かせなが
ら、
曇つた目でうつとりと坂の方を見つ
めた。

下から可愛い少女が―
―トボ〳〵と、
さも〳〵つかれた樣に
のぼつて來る、
まあ何處から來たのだ
らう――、
さうして何處へゆくの
だらう――。

『どこから來たの』鳥
渡顏をあげたばかり、
『あなた一體どこへゆ
くの……』
怖れを含んだ羞らひの
目で、
やつぱし鳥渡見たばかり。

草履の音はだん〳〵遠くなつてゆく
淡暗い道の夕を何處まであの音は續
くだらう、
――わたしの魂ぢやないかしら――

「わたしの魂ぢやないかしら」とは言はなんだ方が面白かつたと思ひます。ばた〳〵と足音たて丶遠ざかりゆく兒を靈魂の行方に寄せては、意味も何にもない、子供はたゞ子供として說明せなんだ方がよかつた。

**秀逸**

## ○さすらひ

東京　遠藤　竹乃

葉ずれ寂しき風の音に
眞夏の力衰へて
天の母神戀ふる仰ぎ眼や
秋は迫りぬ草に木に
秀峰の影淡くして
靜寂を語る星の微光
あゝ今美しき日は山に
帳かゝげて隱れけり

草の景色の靜かなる
秋の大野にありなしの
幻影したふたましひは
あどりたゆげに辿りつゝ
(岳より湧きて
谷に回る
雲よ高きに
浮びては
何處に行くか
　ひとりのみ
われは地の上に
生れ落ちて
「現實」に泣く
身なるもの

現實の力にふれて聲を忍んで泣くもの豈君一人のみならんや、われらの一つなる心、われらが玉の胸は傷けられる、かくてなほ詩に生き、宗教に活るものは幸なるかな。

## ○失戀

牛込　のむら

夜の神は
眞黑なる兩翼もて
光明の世をば掩ひぬ
闇の色迫り來て
言ひ知れぬ寂寥は
つと觸れぬ
胸の琴線に
空にさやかの月影は
嬋娟き人の
優眉にも似れど
戀に醉ふ子の和胸に
射放ちし矢の弓絃とも見ん
射られし矢の
的となりぬる身の運命
痛手に耐へて肉戰慄ひ
血潮は胸に高湧けど
なかなかに拔き去も得ず
征矢受けし
胸を抱て
煩悶に懊腦に
しゞまなる闇の夜に
失なひし儚なき影を
偲ぶ刹那

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

流れ入る――
寂寥の氣や
しみじみと。

薄命の人、薄命の賦をつくる、失戀果して眞なりや。月影を射放ちし矢の注にたとふるは、いかが。初夜月似一張弓といふ詩あり、天の原ふりさけ見れば白眞弓はりてかけたる夜みちは行かむといふ歌あり。矢を射放ちし弓とも見たとありたし。

## ○疑惑の霧

奈良縣　中富よしみ

憧れ多き十八の
若き心に堪へやらで
こゞしき石をふみさくみ
ひたかけり行く深山路や。
谷をこすとしては息づき
尾を行くとしてはつまづいて
山の幾重はむら〳〵と
疑惑の霧のふたがりぬ。
ふたぎし霧はたまゆらに
濃くもわが身をとりまきぬ
あはれ心はわだつみの
孤島に殘る人の如。
今はと魂は身を捨てゝ
閉せる霧に分け入れば
嬉しや己が行くまゝに
道はひらけぬほの〳〵と。
つかれを忍び霧の中
長きをわびつ行く程に
忽ちはれて花の野や
戀のくにはら輝けり。

賀名生は歴史上著名の地、賀名生の名によりてはじめて君の名を覺えてからもう一年になる、進歩しなくてはならぬ筈だ。

## ○はぎ尾花

山城　八田文子

野に山に白露の玉しき、
このねぬる朝風
秋の色わき西の海より、
床の上錦おりなし、
衣すり行く――。
ひく琴の音かそも、
二人のなげき――、
玉萩にほひこぼるゝ、
ます穗のすゝき袖の秋風に、
ゆれぬ悲しみはそれならぬか――。
(尾花雄々しと萩のみぬ、
萩の女優しと尾花みぬ、
招きまねかれ淺はかに、
こひしぬされど、
「嫉妬」の風に
泣きふしぬ二人――。)
優しき野菊弔ひしが、
こひはならず――、はかなき世や、
枯れしすみれの袖に、
ひら〳〵と夢みて舞ひし、
小蝶弔ひぬ。



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

優しき小蝶——、
よろこびぬ二人、萩の女の秘言を
尾花に傳へぬ、尾花の——、
二人の君は悲になきし
日なれど——、甘き
こひはさかりぬ。

『新體詩蝶と空の外よめず』。君にすゝむ一杯の酒、醉うて劒を拔いて彼の口を裂け。

## ○星の幸

山梨　井上　笹波

星光る
野末の椎の高きが上に
曾てわれ——
靜寂の胸抱きて
瑠璃の小窓の黄金の甕
たゝひてし戀の甘酒を
此世ながらの歡樂に
そと醉ひたしの切の願ひ
物おづる小女心の
世にかくれ暗にまがひて
ひたすらの「願望」成りぬ



あゝ星の幸！
目閉づればまだ見ぬ美し國の
百花香ひ蝶はをどる
誘惑の嵐
身をめぐるとも荒ぶとも
君故のこの「赤心」はもらさじな
あゝ其の星の幸！

星の幸といふ意味がはつきりしない、星其ものが歌うてゐるのか、人の子が星を歌うてゐるのか、人の子だとすると椎の木へのぼつて祈つたのですか。

## ○氷室守

靜岡　森下　花子

紅の燈火榮ゆる、四つ辻の
ガラスの簾垂れその奥の丸卓に、
緑なす美酒をあげつ若人が、
薔薇の香に淫れの歌に、笑み合へる、
その杯の音も、其宵も仄かに見ゆれ、
谷深う日すがら氷室もる眼に。
あなうら悲し現には、赤銅の、
色くすぶれる荒男ども、絶間なう



大鋸に挽き分かつ、大氷塊の
鋭き響、はたや冷たき男等が、
眼に見守られ、わが胸も、
わかき日の温みは知らず凝るかな。
しかはあれ市のどよみの遠音こそ
うつゝと眼瞑れば、わが胸に、
響くをおぼゆ。——今もなほ

大氷塊を鋸で挽く者が有つて、獰猛なる人夫頭の見張りまであるとすると、函館あたりの景と見える。氷室とはそんな大きなものではあるまい。君は氷室の意義を明確に知つてゐるのだらうか。敢て問ふ。

## ○此の思

千葉縣　今井　政子

此の思、君は知らずや七彩の
珍の珠もてつらねたる、
大日の玉の兎の人戀ひて
とはに燃えたる大熱の
その如き、もだえにあらぬ執念の、
想ひのわれに燃ゆものを、
仰ぎ見て、常暗に世をしろしめす
み空の華とうたはるゝ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

星の世の、み國の奥も
戀ひといふ
奇しきみ花の咲くとか
や
此の思ひ、君はしらず
やあゝかくて
われはさけびぬ「深山
路の
谷川の、汀に咲ける白
白合の
青葉の風にゆるに似し
美くしき、君がみ姿に」
緋にもゆる
花戀ふてふの、こゝろ
とも
君したふあつき想ひは
胸の野に
いとみだれぬる、——
夕ぐれの
雲紅きなぎさに立てば
濃みどりの

おはり　　陸奥　釜澤ひでゝ子



丈なすみぐしかゝげたる
夕ぐれの、君ぞ戀ひしき
あゝ君に
何ぞといはむこの想ひ——

あなたは女でせう女であつて丈なす髪をかゝぐる人を戀ひするとは何事です、怪しからない。

## ○白毫光

岩代　木内雪子

こゝなる濁世の廣野を闇
に放浪心のえ堪ずなりて
無盡の燈にあこがれぬれ
ば
煩壊の都を——ぬけてぞ
行かむ。
かくてや、——噫——
吾れ涅槃の村に光明を浴
びにし安眠の象生と
瑞樹の蔭にうまいもせん
と





Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ふとしも深入る――寂たる森に。
秀樹の葉蔭に漏れ來る妙音、あゝこは梵音
辿りてこしに。いつこぞや寶樓
靈場――、白毫光にきらめく、
――あゝそは夢か――。

あんまり上手すぎるので困る。

○孤子　王子　山脇　數子

子が齡加れば親も年積る――と、
思はぬでもなかつたが――。
「さらぬ別れ――只一瞥」との、
み言葉に何故反いた。
「只一瞥」――只一人――
墓に草が生びたどらう、
歸鄕りたい――
でも知つた人は誰れもゐない。
奈何せう、
泣いたつて駄目だ、
といふに
又涙が――。

あれ雁が啼く。
頭が茫然となつて來た
――眠むい――
少時寢て直ぐ起きやう。

世の中にさらぬ別れのなくもがな千代もと祈る人の子のため、業平。

○蝶　長岡　土田　りた

さんどうの花に胡瓜の花に
白き蝶々がたづね來た
せまい畑に蝶々は
餘念なく白花にとまり黃花にとまり
其日其日をたのしめり。

幼しあどけなし。

---

▲いつも百人からの、人の詩を沒書にせればならぬのだから、にくまれてもゐよう怨めしくも思はれてゐよう、化けて來ぬのはまだいゝと思ふほどで、なるべくなら一人一人に、こゝがいけませんとか、かういふ野蠻なもんくはホッテントツトあたりへ行かれば通用しないとか、書いてかへしてやりたい。頼まれもしないのに大きなおせわだけれど、さう思ふ。

▲しかし毎號公にする詩と評語とに對して、氣に入らぬ人もあらうに抗議を申込んで來る者のないのはあきたらぬ。そんなで詩が上達するわけはない。自分などは、先生でもあり兄きでもある所の醉茗に喰つてかゝつて度々手こずらしたものだ。遠慮することはないぢやありませんか。

▲たとへば、雌の蛩を捕へて籠に入れたら、雄に焦れて鳴くといふ詩をよこした人がある、自分は採らない。それをなぜ採らないか、夜雨は蛩がおつかないのでいやがつたのかとように思ふばかりでは駄目だ。

▲亡き父の墓にまうでゝ、「閉ぢたる目をば今一度、ひらかせ玉へわが爲に」といふのもあつた、涙をナイアガラの瀧の流れにたとへたのと同じだ。

▲戀性男子の連中の作には、ずゐぶん目を張りて見るほどのも有り有りしたが、片ばしから退治たので大槪よこさなくなつた、男ならさうあるべき筈だ。諺にいはずや、をなご好きなら、八丈へいきやれ、八丈、ばかしはをなご島。

▲自分は好んで人の非を發いて直とするまでに冷酷の人間ではない、けれど度々警告するにもかゝはらず今以て男のいたづらが絕えぬのがなげかはしいのだ。『女子文壇』の詩の撰者としては、女の人に味方して男の人を排斥する義務がある、況んやなまず男をや。

九月二十七日(夜雨)

---

○撰外課題の詩を募る、第一回は『草』。特に、根本まつ江子君、長曾我部菊子君、河野まき子君、太田きし子君、山田くにえ子君、に囑す。十一月十五日までに『草』に關する詩を作りて寄稿せられんことを望む。第二課題及人撰は來月發表すべし。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

# 新論文

編輯局選

▲規定　論文と云へどむつかしき事に限らずやさしき議論を歓迎す、同じく二十四字詰三十行以内、半紙又は罫紙に認め一人一章限り、投書締切は毎月十五日、懸賞は乙種に據る。

## 天　○わが名

松山　草村瑩子

誰れでもかは知りませんが、自分の名は何と云ふことなしに悪く思はれることがあります。妾などもよく、何て自分の名はつまらない名だらうなど丶考へることがあります。けれどこれは云ふまでもなく意味のないおろかな考へです、またその名をつけて下さつた親達へ對してもまことに不孝なことです。

妾は名は最もよくその人の親の眞心――理想のあらはれてゐるものであらうと思ひます。雪子とつけられたお心には、心も容貌も雪の如く清かれと、花とつけた名の中には、妾も行も花のやうに美くしかれと云ふ、親たちのお心がこもつてゐるのだらうと思ひます。自分の名の善い悪いを考へたりするのは、意味のない、そして不孝のことです。

妾は本誌を讀むたびに、多くの方がみな御自分の名をそのまゝ使つてゐられるのが誠に嬉しう御座います。また女の方の雅號と云ふことも考へものでせう。雅號も決して悪くはありませんけれど、妾は、女は女らしい雅號がつけたいと思ひます、本誌などによく百合とか撫子とか、眞砂とかひし花とか、これらが雅號でしたなら。まことにやさしい、なつかしい、女らしい雅號だと思ひます。

けれど妾はやはり本名をそのまゝ使ふが最も好いことと思ひます。それに女の名はどんな名でも、どこかやさしい美くしい響があるものです。

女子に相應した論です（評）

## 地　○風葉様

日本橋　松下稲子

まあたいそれた批評なんて、生意氣の樣ですわね、失禮をもかへり見ず妾は本誌の小説選者小栗風葉先生に就て感じた事を少しく述べましよふ。

紅葉先生の門下生である諸大家の中にも先生は常に最新思潮に後れず、水平線の上に現れて居られる態度は實際に失禮な申分ですが妾は感心に堪へません。

先生のお作を拜見するに近年の中でも「青春」時代と今日とは大變な相違がある樣に思れます、「青春」の時代

は重に技巧と云ふ方に重きを置れた樣に思はれます。て、最近の先生のお作を拜見しますと、餘程趣きが違つて居る樣です。何となく鋭い「性」の響きを味ふことが出來る樣思はれます、女髮結や一夜はたしかに其の匂いがある樣てありませんか。

ある方はこんな事を仰いました。風葉は技巧に走つていかんと、たいそれて反駁など云ふのてはありませんが、妾は先生から技巧を去つたならば、先生の先生たる、言葉を換れば風葉の風葉たる長所を失ふのだと思はれます、離れても先生の作を讀んで感ずるのは匂い滴る、技巧の點てはありませんか、てありますから妾は露骨に無飾に書かれた天才よりも青春とか未亡人のやうなのがよいと思ひます。

今一つ先生の文章、妾は漱石先生と二葉亭樣と先生のお三人は明治の大文章家であると思ひます、漱石先生が酒脫てあれば二葉亭樣のはさらりとして垢脫けてそして云ふに云はれぬ趣きがあり、先生の文章は何と例へましようか、色ならば紫音ならば三絃、大に例へば京人、妾は常に先生の文章を學んでゐます。

風葉樣がお聞きになつたらばさぞおかしく思召すて御座いましようが、妾の感じた先生はこれてあります。

風葉氏、御名の知己に感謝したまふてせう、生意氣な點は選者代つて風葉氏に謝す（評）

人

## ○親友につきて

美作　杉山花枝

私は本誌新年號の小說「角」を讀みまして其當時は思ひました、如何に人心が輕薄に成つても親友間にまさかそんな事がと然し近頃思ひ當りました。

芳子樣は私の幼い時からの親友です、どちらも兄弟が無いので二人は實の姉妹と思つて親しんで居ました。一昨年の春二人共目出度小學校を卒へ、手を取つて上京し同じ學校に入學しましたが、不幸は私の身に降つて。昨年の夏家の柱とたのむ、父が逝きましたので致し方無く私は心成らずも、故里に母と共に淋びしい月を眺める樣に成つたのてす。別れる折は芳子樣わざわざ新橋迄送つて下さいました、二人て泣いて別れた、其後もお互いに音信を仕合つて、親しく交つて居ました、いつも姉妹と思つて。其親しい芳子樣が去る三月頃からふとお便りが無くなりました、此方から出した手紙に返事が來ぬ、はじめの間は何かの御都合と思つて居ましたが、三月四月五六と月日は過ぎ、私から幾ら出しても一度の御音信も無い。

かうして過ぎて八月の始め或る夕方私が使ひの歸るさはたと行合つた人は、懷かしい、芳子樣、オヤ芳樣御久しふ、御幾りは……と丁寧に御挨拶申し上げるときわめて應揚に「暫く……」と仰つたなり御同伴の殿

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

服飾帽の方と御手を取つて靴音高く行き過ぎて仕舞はれました。

私は始めて小説「角」を悟りました。然し私はあの「角」の中の一人とは決して成るまい、と思ひますの。此後何時迄も芳子樣は矢張り親友と思ひ寒暑の音づれは屹度忘れ無い考へです、其中には芳子樣のお心も直り元の親しい友と成るでせふ。よし又成ら無かつても私の心さへ變らずいつ迄も友を忘れ無いて居たなら、あの「角」の樣な情無い結果を見る事は無からうと思つて居ます。此考へあつてこそ親友です（評）

金魚賣　名古屋　きよし



**秀逸**

## ○弔詞について

沼津　八四六

私は先日父を失ひましたのです、其爲友人から受けました悔狀は葉書が十五通に封書が三通有りました、其時は私は受けた來簡も碌々拜見する勇氣は有りませんでしたが其に就て一寸思ひ付きました事が有りました、一寸述べてみますれば、先づ悔狀として受けて一番私が嬉しかつたのは濱松の茂樣のて御座いました、先天的の御達筆の上に

一層の意を注いておながしなすつた御文面は極やさしい候文の封書て、凡てがどう見ても眞に同情して下さつた御心が泌々私に通じた樣な氣のする有りがたい御文てした私はいまだに繰り返しては心を慰めておりますのてす、變つて、葉書てから云ふのが有りました、美代さんいけなかつたね、お父上お死去なすつたつて、ほんと？お察しゝてよ、と云ふ吊文てす、これも慥かに同情して下さつたのには違いないのてすが、涙を流して居る受身の私が事實の白狀を云へば、どうも浮いた悔みの樣て餘り先きのお心が私に通じないやうに思はれましたのてす、て私は、一體悔を受けるのは其人に取りますと實につらい事てす、御存知の方も有りませうが、てすから可成多く先樣に同情して上げなくてはなりますまいと思ひますから、やはり充分に同情を表せる丈に注意した文を送らなくてはならないと思ひました其處て考へ升と、どうも同情を表はす場合には口語文よりも却て眞をこめた普通の候文の方が强い樣に思はれました、尙其上はどうしても封書の方が同情を表はすには勝つて居るとつく〴〵思ひましたのてす、て以後は私も吊文など出す時には少しの手間や時間の事を云はず必ず叮嚀に認めた封書を送つてそして先方を幾分なりお慰め出來る樣に致したいと感じました。まだ申事も有りますが、實は今日が父の初七日てまだごた〳〵して居りますから一寸思い付いた事を少し申ました次第でございます。

口語體、文語體の何れても眞情から出た悔みなら人を動かすのは勿論てす、先づ候文の方が無難てせう、口語體て輕浮な文句の吊詞が來たら腹の立つたのは至當てす（評）

## ○食時に於ける談話

熊本　近野春子

或日少し所要があつて、知人を訪問しました時、色々と長くなつて、遂に夕飯の御馳走になりました。其の家には、勇樣とて可愛い御子が居られましたが、何か思出されたか、一寸箸を置いて莞爾し乍ら、「御母樣あのね。」と話し掛けられまするると、豫て嚴格の聞へある奧樣は、「御飯の間は話など不行儀てす。」と叱られましたが、其節坊ちやんの何共云へぬ氣まづい御顏を見て、妾も何だか不愉快てなりませんてした。妾しとこの御飯の時ときたら、ムシヤ〳〵食べては、御父樣の滑稽が出る、御母樣の世間話がはづむ、弟は學校の遊戯だと云つて手を廣げる、大聲て笑ふのてす成程嚴格な御方が見たら、さぞ不行儀とても見ゆるてしようが、妾は不行儀など云ふ點よりも、一家團欒の和氣を遺憾なく發揮すると云ふ利益の方が、どうも澤山な樣に思はれます。よく新聞などて見受けますが、西洋の主婦たる者は、御馳走の方よりも、一層卓上の談話が、重んぜられて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ゐる相てす。成程尤もな事と思はれます。例ひ如何なる旨ひ御料理ても、そう生張面て居ては、割合に旨くありませんが、是に反して、色々と卓上の談話に花を咲かしたら、不味い物ても、割合に美味を覺ゆるのは、間違ひも無い事です。

一も西洋二も西洋と、無暗に西風に阿るのは、忌むべき事乍ら。他人の長所を取つて、自分の短所を償ふのは、無論大に賞す可き事だと思はれますれば、食卓上の談話に就ては、なる可く西洋風に參り度ひものてす他山の石を取つて、自家の用に供するは、智ある者の取る可き事だと考へます。

家庭の參考とすべきお話てす(評)

## ○體格檢査

小石川　弦子

貞子樣、當地の各學校ては漸次、體格檢査の行はれる時季となりました、さればそれについて、私の感想を述べてみませう。

さて學校の體格檢査ほどあてにならぬものはございますまい、なぜなれば、たゞ、形式的に、ほんの申わけまでに、眼をひつくりかへしたり、耳をつゝいたり、聽診器をかけたり、しはいたしますが、時間でいへば、そう三分とはかゝりますまい、それも上半身だけで、下半身は少しもみないのてすから、たとへ脚氣などがあつてもわかりますまい、診ないてわからないのは無理もありませぬ、けれど診ておきながら、鼻や咽喉や、胃のわるいのを、知つてか知らずか、可としてしまふのてすもの、こんなあてにならぬ、不親切無責任な診察法がありませうか、かの柳澤樣など胃弱でゐらつしやるのてすけど、檢査の結果は可でした、又私もその一人て、鼻と咽喉がわるく毎日病院通をしてをりますのに、それでもやはり可でした、柳澤樣や私などの病氣は傳染する怖もないてせうからいゝ樣なもの丶、萬一傳染菌をもてる人があつてもそのまゝにしておいた時には、その結果は實に懼るべきものてありませう、或は、醫師には何等の損失もない、否むしろ利益になる事てあるからと云ふ樣な、淺墓な考へからして、か樣な、診かたをするのでせうか、それてはあまりに、自分勝手て、青年子女をおもはぬの甚だしきてありませう、殊に、國家と云ふかん念のあるものなら、その樣な、利己主義の行爲のてきるものではありますまい。

されば、學校の方ても深く注意なし、校醫の方でもまじめに、誠心誠意をもつて、診察してもらひたいとおもひます、そはたゞ我らの爲ばかりてはなく、第一自己の信用にも係はる事てすから、一寸右まで。

女學校の體格檢査などゝ云ふものには、いろ〳〵論ずべき事があらうと思はれますけれど、此作者のは大して目新しいこともありません(評)



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

### ○まけじ魂

岩手　つぼみ

凡べて世にある人には、誰にもまけじ魂程大切な重んずべきものはないだらうと思ひます。もし人々にこのまけじ魂がなかつたならば、自分の身も國も共に亡びてしまう事がありませう。

たとへば、外國と戰爭するにも、また私等が物を學ぶにも、まけじ魂がなかつたなら、勝利を得る事も出來ず、物を覺える事も出來ないでせう。けれども、やゝもすればこの魂は、たゞ競爭心を起させ、果ては、自分の力の足らないのは思はず、人に及ばなかつたのをむやみに口惜しがつたり、或は自分は人の上になり度いといふ心から、自分の智は磨かうとはせず、他の人は、何でも自分よりは劣つてくれゝばよいなど思つたり、時としては虛榮心などを起させたりすることがないとも限りませんから、たゞ〳〵自分の希望と目的とに對してこのまけじ魂を養なつて行つたなら、決して競爭心や虛榮心などの起る筈が、ないだらうと思ひます。毎日たゆみなく世を照らして居る太陽と、絶え間なくめぐつて居る時計の針とを見ては、まけじ魂を呼び起して、其の業につとめたなら、これ程潔く高いまけじ魂はないでせう。私はこんな事を思ひます。けれども、日の暮れ方に顧ると、自分には死んだ魂より外にあると思はれません。どうにかして、この尊いまけじ魂を養ない度いものと思つて居ります。

### ○廣告

千葉縣　志摩子

今の新聞雜誌に出る廣告を見るに、容易に目に付くやうに、大きな活字を用ゐてやれ肺病新藥やれ兒童寫眞器やれ空前無比の大著書とか、數へ來らば枚擧するに暇なき次第であります。

肺病患者が何々名醫、何々病院あらゆる名醫病院或は轉地療養して甲斐なき者が、只一服の藥で全快する道理がない、前途有爲の青年が肺病に罹つて僅かの藥で全快するなら此又、醫師にかゝる必要は全然ない。

又兒童寫眞器の廣告文中に曰く「數才の兒童も易く寫す事を得、且普通の寫眞と異らず一時に何百枚も寫す事を得る」等は全く虛だ。僅か三十錢や四十錢で普通の寫眞と異ならないなら、今の寫眞師が百圓二百圓の高い金を出す必要は更にない。

空前無比の大著書とか買ふて見れば、つまらないものが多い。

近頃の人間は狡猾だから廣告文に「讀まれぬ」ように諸孃も注意してもらいたい。

### ○本誌新體詩投書家短評

札幌　篠原靜枝

太田きし子樣、本誌には一體に中國近傍の人――取りわけて信濃の人が多く見えますが、きし子樣など其の中でも名のある方、詩は其の人の性格を表すもの、つく〳〵とそのお優しい姿が偲ばれます。

ます＜お勉めなさいまし。

木村春江様。塵くさい大坂の空氣を吸うて居なさる人ですが、そのお作りになる詩は、一體に清新で――何所と言うとなく女性の美が溢れてをります。

八島れん子様。難句を使はぬ詩を作る方、何となく人生の眞が現はれて居ります。一寸お伺ひ申しますが、若しや貴郎は高村黒潮とか申す方でなくて？いつぞや夜雨先生も不審がつて居ましたから。高村さんなら、「秀才文壇」「中學文壇」「新文林」の雄將軍ですわねえ、貴郎男のくせに女子の後に出るのは、おほゝ。横關春子様。口語詩としていゝけれども、眞の詩としては餘り感服しませんわ。あの秀才文壇に出て居らつしやるのは貴女の兄さん？大層御上手ですのねえ、おついでの折によろしく。井上笹波様、貴郎はどうしても詩は駄目よ、矢張小説てなくては、近頃の活動は大したものねえ、

片側町　　近江　若井きく子



杉山じゆん子様。此人は女でないのよ、而も立派な銀行員よ。皆さん九月の新文林を見て御覧なさい。

豐田しげ子様。都會に居つて田舍を詩に歌う人、だから立派なのが出來ないと思ひます。貴孃は小學教員が志望だつてねえ、小學教員！何といふ詩的てせう。田村花子様。東京のお人のせいか、その詩も大層ハイカラですのねえ。音樂にも堪能てすつて、羨ましいことまだまだ書く人が御座いますが、こゝて三十行てすから筆を止めます。御免。

◎庭訓

横濱　宮部みち

庭訓往來といふ名は、明治の前からありますが、家庭といふ名詞は、新しい意味て世に現れて來ました、英語の「ホーム」の譯であります、或る人の解釋によりますと國家と併せて一國の獨立に大關係のある文字てある、と云うことてす、英米人が、ふ

だん口にしてゐます、There is no good place like Home の文字は、今日英米のあるわけてあります、「我がホームに似たるよき所なし」、と、いふ言より力あるものはこの世にありますまい、世間の人は、やゝもすると、家庭の文字を、あさく解して、子供の遊びごと、勝手元のこと、客の馳走ぶりのこと位に見るのが多ふございます。

近頃は何ごとも、かの國粹を持て囃す時代でありますから、家庭の敎を初め、萬事古い事をたずねて、衣裝の染色も上代ぶりか、元ろくぶりに走つてゐますが、三四年の後には、又、かはるてありませう。

## ○田舍者

東京　由　壺井

「どうせ田舍者だもの」と、よく東京の人の口から聞きますが、田舍者は、そんなに下に見たものでしようか。

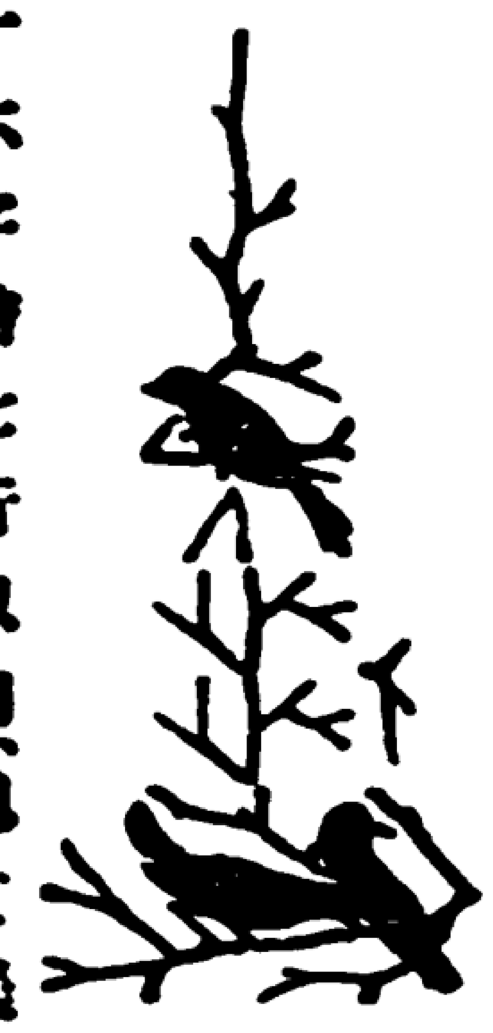
田舍者、其れは自然を友として居た丈あつて、實に呑氣て氣性は悠つたりとして居ります。馬鹿正直て、人の前をつくろつたり、御世辭一つ言ふてはなし、上の人に取り入るといふ才氣にも乏しく、氣が利かないといふ、所はまあ、純粹の江戸っ子のチャキ／＼には、一寸御氣に召さないのは當然てすが、併し、そこがまあ田舍人の美しい特點かと思はれます。

都の人は、頭の尖からしつぽの端まて、氣に氣を利かして、恁ふすれば可笑しいのあゝすれば見つともないのと、人に笑はれぬよう見下げられないように、様々にその風恰好に骨を折りますが、それがどうてしよう、田舍人を御覽なさいまし、田舍其儘の質朴な田舍縞を以つて、田舍の風田舍の恰好て、平氣て東京の町を歩いて居ります「あれは田舍者よ」と嘲笑の色て見返つたとて、何とも思ひませぬ、何かしやべつて居るな、と思ふ位なもので、平氣てはづかしいとも思はねばきまりが惡いとも思ひませぬ、何んと美しい邪のない心てしよう、私は實に此心を深く愛します、私も田舍出の片破、其故に賞めるのてはありません、如何なる人の立場から見ても、又論理學上から見ても、自然の美しい道理かと思はれます、希はくは、此心此風を以つて、東京へ出、永久に保たせて、活動して頂きたいと思つて居ますが、處が、そうはいかない方が澤山あります、五年とたち十年とたつに從つて、東京化されてしまうのは、實に殘念の事と思ひます、併し田舍人は、一般上から見れば、意志强固て正直といふ、心は、永久に消えなからうと思ひます。

田舍者、其れは實に美しい文句てはありませぬか、それを都の人は嘲りの聲で見下げます、私は此一聲聞く毎に憤つとしますから、一寸感じた儘誌上を汚しました、御許し下さい。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

# 短文　[illegible]



**規定**　十六字詰七行以内、總て振假名を付くること、締切前月末日、懸賞は丙種に據る。

### 天　○縣道

長門長府 岡方　田中　華子

夏の日は明るい。長いながい縣道を生活に疲れた、戀の無い夫婦者がゆく。男はしりからげて、女は足袋はだしてある。短い影が二つ、女はとかく後れ勝ちにとぼ／＼と、男はそれを待たうともしないで、足早にサッサと歩いてゐる。

此頃の小説にありさう

### 地　○白粉の花

羽後酒田寺町　菊池りう子

此宵も暮れかゝるぼんやりした一丁許りの白粉の花畑に妹は早く實がなつて白粉が零れる樣にと立ちつくして居る。何故そんなに實が欲しいときくと毎朝、姉樣の頰が他の嬢樣より餘り黑いからと云ふ。嗚花よ！一人を失つた私の頰はよし黑くとも五年後に可憐の妹が嫁ぐ其宵こそ雪より白い實をぼろ／＼零してくれよ！

一町の白粉畑を賞やらう

### 人　○町の夜

名古屋市榎町　吉田　たま

お針の手を休めて洋燈を瞶てゐると母さまが申されました。て久振りに表へても出て氣を晴らすがいゝと表口に立つて見ましたが相變らず人通りなく、お豊さん處から淡き灯が表に流れて、一しほ寂寞とした夜でありました。

何の意味か分らない意味がある。

## 秀逸

### ○秋

駿河　天野ふじ子

何んといふ靜かな日和でせう、其畫ながら四顧は闃然として干した豌豆の莢が爆ぜる音のみパチ／＼と聽えます。途端遙か向ふの田圃で鳴子がカラン／＼と鳴りました。すると何處に隱れて居つたのか雀の群がパッと繪のやうに舞颺りました。

純粹の日本畫

### ○外の聲

和歌山　伏見八千子

お義母樣のもいていらつした色のよい茄子を糠漬にして居ると木槿垣の外を二三人の子守が「煮ても燒いても食はれぬものは舅婆樣と石臼と」聲を揃えて歌ひながら通り過ぎました、嫁て未だ二月にならない妾、小さい胸の片隅に秋風の吹くのを覺えました。

社會の罪

○御嫁樣　麻布　幽子

品のいゝ高島田にべつこうの櫛こうがいさして黑の御紋付に白茶の厚板高く結んだ美くしい人の車を中に五臺の車は通り過ぎた。あの夢見る樣な御樣子御婚禮を何と思つていらつしやるてせう。御嫁樣御婚禮それはほんとに樂しいものてせうか。

見る人は百人の心、嫁入るは一人の心

○道行く人　京城　山中琴月

朝から机にもたれて外を見て居ると野菜を肩にしたきたない支那人が、のそり〱とやつて來る後から桃色水色等に色も取りどりに可愛い學校通ひの、韓童日本紳士、魚屋さては白衣をきた韓翁、駒ひく童等が、行きすぎると右の四つ辻から交換手がぞろ〱と出て來る、郵便屋が、かけて來る、山の方からがた〱と俥が來ると世間はしばらく靜になつた折から向ふのあんずの木に朝鮮烏がザクザクとなき出した。

ザク〱嗚く烏は流石朝鮮なり

○私の部屋　府下　照井みどり

東南のお庭に向つた、四疊半が私と妹のお部屋なので、妹は今年音樂學校の二年生、私は女子美術の西洋畫科てす。晝は二人共居りませんが夜に成と私は机て鉛筆畫の摸寫、妹はギオリンのお稽古、庭ては草雲雀が銀の鈴を振る如な聲て、秋の哀を唱つて居ります。

皆さんに樂まれますよ

○露草　信濃　花影子

古神樣は燃ゆる樣な少女の胸の赤き液と、潔き靑年の藍の液とを合せた紫を、春美はしい野の花にお預けになつた。麗かにさす日の暖かさに藍は陽炎と登つて了つたけれど、秋風吹く日露に返つて、晝は咲き得ず隱れがちなる露草の花となつた。

新草花物語

○花の御所　麹町　今川ひさし

私のすきな事はお庭のめづらしい花や散歩の折々に見つけた美しい草花などを淺草紙にはさみ、重い物て押へて、花のかわいた頃、取出してブックに入れますと何時迄も天然の色を失はぬ美しいお花の本を造る事てす。

春の卷が最も澤山

○愛と貧　秋田縣　齋藤よの子

一臺の車に世帶道具を山程積み上げて後から四十恰好の女將さん五六人の子供を連れてついて行く、少し後になつた主人は荐りに小犬を追ひ立てゝゐる可愛小犬は追はれてはついて來又追はれてはついて來る車が堀邊を行く時主人はとうとう愛犬を水の中に蹴落した。

犬など養つてゐる餘裕はないと思つたのてあらう、かわいさうに

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

○スイッチョ　梅香

火を慕ふのてせうか、夜になると、スイッチョが内へはいつてきますの、さうして障子に止まつて、それは／＼好い聲て鳴いて居ります、が露の無い處は可愛相と思ふてそつと捕へて芝の中へ放してやりますが、又はいつて來ますよ。

畫より火を慕ふ

○絃聲　牛込　野村光子

月明りにほの白い御廊下を踏んで離座敷へ行きかゝると、御笛の役目相務め―仲國にては候はずや　と健様御得意の琵琶歌、我足音に破るに忍びず其儘膝を落して、塗障子に倚て小督の一曲を聞いた、朗とした御聲の餘韻に白芙蓉が散るのである。



作家の態度

夜長　板橋　服部鶴江

○私の希望　京都市　北村いく

そんなに廣くなくてもよい。四季の草花の美しく咲き亂れた花園の中央へ讀書室を建てゝ、一生處女のまゝ其の室で女子文壇がよみたい。

只其中の一つがかなはない

○書く夜　信濃　太田きし子

目がしぶつて筆が紙の上にポチ／＼と跡をつける、切ない、立つて歩く、心が清々する、また座つて書く、どうがまんをしても、またしぶる、机の上に伏して考へる不思議に目は冴へる嬉しい、かうして一時までも二時までも拙ない筆をふるつては投書します

苦心慘憺

○兄と妹　弘前市　春子

暑中休暇で歸省なすつた、兄樣も、早明朝は都へゐらつしやるのだ。僅五十日の間に、何度喧嘩したか知れない。何時もお母樣に、御前達は幾歲になる迄、騷ぐのだらうつて、叱られた。それでも、いざ御立ちとなると、悲しくなる。親身の兄妹とは、こんなものかしら。

所謂兄さんでなくて、ほんたうの兄さん

○習慣　京都　淸水たみ子

私は毎夜やすみます前に常着を始め其日暫らくの間でも來た着物や帶は必ずたゝんで布團の下に敷てねます一度でも、おこたれば翌日は着心地が惡くありますが是も習慣の一ッであると思ひます。

脫ぎ放しにして置く人は此習慣の半分もならひたまへ

○お隣の人　四谷　富美子

二三日前にお隣へ若い夫婦らしい人が引越して來た、幾日過ぎてもお蕎麥も配らなければ挨拶にも來ない。朝九時頃に起きて一日中笛の音や笑ひ聲がして居る、祖母樣が「若い者は仕樣がない」と云つて居らした。

又知らぬ間にひきこしてゆく

○本誌の賜物　泉きよの

私は、七人兄弟の丁度中でございますが、二人の兄は淸國へ、一人の姉は東京へ參て居りますので、家には九つになる妹と、其下が二人居るだけでございます、餘りに年が隔たつて居りますので、自づと話相手にもなりませんから、何時も淋しい淋しいとのみ過ごして居ましたが、昨年の夏、不圖本誌を拜讀しましてからは常に大勢の御姉樣方の中に交つてる樣な氣がしまして、以前の寂しさは全く消え失せて終ひました。

文學の慰藉とは此事です

○人々　熊本　野菊

私の處では東京をお江戶と云ふ人、十圓を十兩といふ人、子供を餓鬼と叱る人、やたらに篦棒々々と云ふ人日の出を拜む人、百姓をどん百姓と云ふ人等のいろいろがあります、そして其人々の心が又さま〳〵にちがつてゐます。

要するに古い人

○親　香川　みどり子

奥歯に物の、はさまつたやうな、故郷の父母を、思ひながら、尋常二年生に、父母の恩を、知らない方はないでしようと尋ねました。すると、一人の子が、先生、あたし、お父樣も、お母樣も、ないのよと云ふので私はそつと、目を被ひました。

先生は

○給仕　信濃　犬飼春江

私は給仕に出る事が嫌ひてお客樣が見えますと、自分の居間にはいつて出て行きませんから其度毎に母樣に

叱られて時々無理にだされましたので、此頃は漸くなれました。
今に何ともなくなります

○野の家　京都　島本妙子

私の家は夏草のしげみに埋れさうな野中の一つ家てあります、夏は夕月の宵等垣近う盥を運んて湯あみしますと、前からも、後からも蛙がひよこひよこ這ひ出して、はては行水の捨場にもこまる程てす。
蛙の國に行水

○思ひ　鹿島郡　佐藤よしを

今宵十六夜。月はまだ登らない。空のお星の幾つかゞ或はこぼれはせないだらうか？、そよ吹く風に落ちた桐の一葉は可愛らしい朝顏を掩ふた。しきりなく虫の音は悲哀を歌てゐる。病多き私も朝顏の樣てはないかと泣いた。月はまだ登らない。
月はまだ登らないと云ふ靜に全景と、感情とが融和して居る

○ひすて　本郷　明石

私の居る家のなまくら息、私が學校から歸ると、今日は活動寫眞を見に行ふと一人ぎめ大喜び「私はね縫かけの袴て優等點を取らなくつちやまだ行かれないのよ」つて云てやつたら、またもごろり、ほんになまくらさんもしようのない者ね、私いやになつてよ。
なまくらさん一本參つた

○關西の風俗　京都　青柳いと

京都は衣服に奢るところ、大坂は食物に金を捨るところ、奈良は暇さへあれば横になるところ、堺は出來るだけ建築を立派にする所てす。だから私の地方ては「京の着倒れ大坂の食倒れ大和の寢倒れ堺の建倒れ」と申します。
まだ知らない人の爲に

○朝　群馬　泉花子

雲が晴た、赤城榛名子持淺間の山々がヌツと首を出した、森かげから馬士がきた追分節と鈴の音とが一所になつて、漸々廣く田川畑丘あらゆる所へ流れて行く、それてゆれたか足許の撫子は露をホロリこぼした。

○秋　下谷　細谷鏡子

小川の水は、さらさらと小さな音をたてゝ流れて居る、さえた月が水にうつゝて、ゆらゆらして居るのが、まるてういて居る樣に見える、草むらては虫がしきりと啼いて居る、あゝ私はやつぱり秋がすきだ。

○我家　越後　瀧澤けん子

私の家は野中の一軒茶屋てす、一番先に休んだのが遞送馬車の馬方二人て其次が上京の學生が三人其次が温泉入浴の客だと申して男女八人其次が巡査が一人其次が出稼ぎに行く女が四人來ました、今度はどんな人が來るてしやうなどゝ母と二人が笑つて居ます。

○見た時　下野　青木多歌子

仄かに夕もやの迫つてくる頃とぼとぼ行く若僧を見ては小說「春」の岸本を思ひ、若い尼さんを見ては「黑潮」の道子姫を思ひ、肺病患者を見ては西さんを思ひ、樂し氣な母子連を見ては亡き母を戀ふ、そして尼さんを見た時と母子連を見た時とが一番悲しう御座います。

○松笠拾ひ　讃岐　君子

しつとりと露ばんた夏草を、素足にはいた草履

てふみしだきながら斑山へ松笠拾ひに行く。時々小鳥がチヽと鳴いてはすぐ元の靜寂に返る二人共無言なので。やがて籠は一杯になる。一夏を祖母の許に島で暮すべく來た私は、これで毎晩風呂をたてゝ上げませう。

### ○記者樣へ　北蓙　瑞　枝　女

記者樣本當に厭な方よ幾萬と云ふ沒書は紙屑籠にうなつてゐるでしようこはくはないこと、：こはくないようにお數へしましようか？それはれおやすいことよ、みんなのせてやるの。

### ○らしさ　新潟縣　山崎しん子

女の女らしきと、男の男らしきとは誰が目より見ても見よきもの、女の男らしきと、男の女らしきとは、いと見醜し、女は女らしかるべし、男は男らしかるべし、女の女らしきは男の男らしきが如し、天賦の特色を失ひては何事も見劣りせらるゝものよ。

### ○犬　大阪　靜　子

私が參ります、雜物屋には、かはゆらしい、犬が居ります、名をエスと申します、參りますといつも、きものを、よごしますから、困つております、今朝も、よふやく、てきあがりましたあはせを、きて、すどをあけますと、何こに居りましたか、その犬が出てきまして、むれへとびつきました。

### ○龜の子　土佐　初　雪

私は平日の樣に裏の井戸に水汲に行きますと、一匹の小龜が濱の方に樂しさうに泳ひてゐました。こんな事が二三度あつた後、或日私の留守に弟が大龜々井戸から捕つてきて池へ入れたさうです。其後は小龜の遊んでゐるのを見ませんで定めし親に別れ永き月日を淋しく送るでしやう我身にくらべて可愛さうでなりません。

### ○感化　千葉縣　岡本　寒月

寄宿舍にばかり居れば、何を喰べても甘いように感じませんが、歸省しますと、何を喰べても皆辛く思はれます、それが牛月も經ますと、辛く感じません、それで再び寄宿に歸れば馬鹿に甘くて不味ですが、亦直ぐに慣れてしまいます。

### ○椎の實　下總　節　子

去年の水で庭の椎の木がかれたので弟が大變落膽いたしましたそれもそのはづ毎朝彩しいのもわすれてたれより早くおきては夜中の嵐に吹きおとされた椎の實をひろつてきては大手柄にしてゐたんですもの。

### ○花嫁花婿　紀伊　室井白蘋子

今しがた野良から暮れて歸つた花嫁お米は門川の石の上に下りて夕餐の米を磨いて居る、少し川下では花婿與作が鼻唄を唄ひながら牛を洗ふて居る。丁度雲が切り開いて夕月が覗き込むだ思はず見合した二人は嫣笑り、

### ○華燭の典　青森縣　西村みや子

今度當地出身の海軍中尉の方が當地の富豪の令孃美子君と綠水館に於て華燭の典をあげた、そしたら一時に男女十五名計りの失戀者が出來た

### ○私の庭　彼志　安井せつ子

私の庭は兄樣にまけ度くないと、毎日海邊に參りまして小さい石や貝殻を拾ひまして色々と飾りましたから只今は誠に美しくなりました、小さいお池には金魚が泳いて居りましたり又紅葉の葉が浮いて居ります。

### ○今の世　中津町　や　ま　川

火のある所に必ず烟ありと謂うが、今の世は手品師のからくり鬮、烟があつて火がない。

### ○叔母の家　埼玉縣　近藤とく子

叔母の家は小山を一つ越へた彼方で小高い岡の上の極く靜かな處です。庭の周りの垣根の外は崖で其の下は小川です。清く澄んだ水がゆるやかに流てゐますから夏は川風が吹き上げて涼しく、客は釣する人などが見えます。

### ○散步　長野市　小　夜　子

今年五才になる妹を連れて野外へ散步に行きましたそしてお盆の食べる桑とお米の取れる稻と晝顏の花と紫草とを數へてやりましたお茄子と南瓜ともろこしとは實物が成つて居るからじぶんて見つけて大よろこびをいたしました。

### ○虹の橋　阿波　中村かつ子

私は絲の菜を綾に織つた着物に、眞珠のやうな美くしい色の糸で造らへた帶をしめ、黄金の翅をつけて、空へ舞ひ上り、天の宮の星姫樣と連れだつて、虹の橋の欄干て、私の詩と、星姫樣のお琴と合奏して歌つて見たうございます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

### ○となり　京都市　上村綾子

隣のお千代さんとこは、子供が、六人居て、父さんは大工て、とん／＼木をうち、釘打付けるやかましさ、それに、子供は泣くやら、笑ふやら、お千代さんは、横ばち巻て、うん／＼、うめく、御飯は、出來る、雨は、降り出す着物は、ぬれる、下駄は、切る、と云ふ仕末、實に／＼、目もあてられぬ程の、氣の毒てある。

### ○蚊のお嫁入　信濃　淡紅子

私の地方ては、八月の八朔には、今迄居た蚊が皆、鹿島の要石の所へ、お嫁に行つて了うから、其後の蚊は皆跛や、片目の不具ばかりだと云うて此頃からボツ／＼蚊帳を離るのてございます。

### ○月の光　駿河　睦月久子

廣い／＼園の只眞中て、清い大理石の氣高い女像の様に、銀の光をあびながら、思ひました。このなり微妙の音楽と、胡蝶の優舞につれて、花の香につゝまれながら、この月にゆらぐ、霧の中へ音もなく消え入りたいと。



晩歸　尼ケ崎　とよ子

### ○五月雨　安藝　手島まさ子

母様が亡くなつてから五年以來如何なる日にも毎日の糸つむぎ、由の臺へは、黄色な少さい、きのこが生へたが、嗚妾はいつ幸福の芽が吹き出てるのであらう。

### ○私の村　羽前　澄谷拾参子

私の村は栗郷と云ひます、村名が栗の郷てありながらどうしたのか、栗があまり出ないて、林檎が澤山出ます、なぜでせう、私氣がすまなくつて、いつも祖母様に御伺ひしますが私の満足し得るやうなこと敎へて下さらないの祖母様も御知りてないのか知ら。

### ○私の豐年　熊本縣　高根ちか

私方には柿の木が五本ありまして皆私の物てす そして今年は五本とも澤山なつて居ますから私の豐年てす それて喰べた餘りは賣りまして女子文壇の代りに致します。

### ○花見　大和　我澤素枝

私の故郷は大和の國吉野山てあります、毎年春になりますれば親しいお友だちの、花子様、秀子様、濱子様、のお三人に私と妹の房子も合せて五人、私の内の二階て女子文壇を讀みながら、花見をいたします、明年は是非、記者様のお越しをお願ひ申したいものです。

### ○河畔　失名

私は毎晩お湯から上るとすぐ其ぼうつと上氣した顔を冷やす爲に後の利根川岸に逍遙ひます折柄涼しい濱風は時々スーと吹ひて來て何とも云

へない異い心地が致しますあたりは森として人聲もなく只微に聞ゆるはゴーゴーと凄い波の音斗り實に夜の濱邊は一入でございます。

○八朔　播磨　北山　花代

私の村では舊八月一日に「ハッサク」といつて村中休みます其休みがすみましたらゆかたを着て居る人は一人もありません霜殿もしません夜は十時か十一時頃迄皆仕事をしますあそこやこゝでは老人が絲つむぎをして居る歌が聞えます。

○親の恩　姫路市　本郷　光枝

不圖眼がさめると、母上の御姿が見へぬ。昨日も其前の日も見へなかつた。實は不思議でならなかつたが、不圖、母上は、妾の病をなをさうと明神様に祈つて居られるのではなからうかと思ひつくと、親の御恩が今更胸にしみてとめどなく涙が零れる。

○雨をたとへて　牛込　平塚百合子

四期の雨を女にたとへると、春雨は美しい人が靜に泣いてゐるやうな、夏の雨は裏店の女房が子供を叱るやうな、秋雨は、青春の期を過したなかこちわぶるやうな、冬の雨は狂女が白い齒を出してくるつてゐるやうな氣がします。

○お薬頂戴！　下野　小林　芳子

三月前から病んでゐなされた娘さんが危篤といふので上を下、見舞の人は引きも切らず。只獨寂聞て人形さんを弄つてゐた美以ちやんは、やがて戸棚から小さな瓶を出して玄關からお庭の方へ。『美以ちやん何處へ？』と聞けば『母様のお薬頂戴！』と可愛い眼を上げる。私は堪らなくなつて泣いた。

○挿花　三河　鳥居ふさ子

今度の挿花月並會にはこれぞと云ふ花もないので傑剛ときめた處がうまく行かない數度やる内にどうやら花らしくなつたので先生に見て戴たら上等〳〵と仰しやつたから明日の挿花は傑剛の内では一等をしめる考へでしたが葉がしほれたので下から一等になつた。

○同じ四人　仙臺　桂　子

私は同じ郡の、同じ町の同じ小學校の同じ級から四人同じ仙臺の同じ女學校に、通學して居ります。いつも四人集つて、いろ〳〵家の事小學校時代の事を話して、遊びます。ほんとうに樂しくあります。殊に四人揃つて休暇に歸省する程、嬉しい事はありません。

○好きな事　福島縣　笠間　きの

春は、青黄紅など織り出せる、自然の毛布の上を、遠慮なく散歩すること、夏は南窓押し開き白く昇れる月を見ながら、飯畑の下に書を讀むこと、秋は散る、可愛の紅葉、踏みながら、立田の姫を訪問れること。

○蕉花　京都府　三宅　とし

しつとりと力ある雅趣に富て香氣高い芭蕉の花を一重が與た。一布目鮮な苞脱れて列ぶ白玉の蕾に露の甘きを滴々と。なき男君は玻璃に透た満々の辛苦を受ては笑顔け給ひ蕉布の襦を最愛し給ふたと承てイザとて御影に薦め参らする兩の手に零るは其涙。

○自然　淺草　筑紫ふみ子

自然の景色の美を稱した土地。公園となつたといふので急に道路が出來る。木はきられる。草は刈られる。茶屋が建つ。運動場が出來る。大分様子が變つて俗興甚だしき土地とはなつた。然し非自然となげく勿れ。これ人間てふ動物の營作によつて起こつた注目すべき自然の變遷の一である。

○ある夜　長野市　富田わかば

あれもだめこれもいけないと云ふ風でどうしても思想がまとまらないもう時計は十二時過ぎ雨がしめ〳〵と降つて居る桐の葉か知らん一つパサリと落ちた淋しい晩だフット見上げるとオルガンの上の白い野菊がさあ御休みなさいと云うて居るやうに見える。

○柿の木　龜山町　跡見　清子

我が家のすみに先祖から植えられてある大きなふるびた柿の木があります、そして毎年わたくしの顔の様なきれいな柿實がたくさんなります私は熟るのをまつて妹と竹でたたき落してしりあひのおともだちにわけてあげるのがなによりのたのしみです。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

# 俳句

内藤鳴雪先生選



▲規定　先人を模倣せざる獨創の佳句を望む用紙は半紙を用ゐ、一人一句以上の投吟を許さず、締切は毎月十五日とす、懸賞は丙種の規定に據る。

**天**

秋風や暮れて明るき小倉山　徳島縣植郡學島村　堤　芳野

**地**

菊を手に車下りたつ上臈達　陸中一關　黑澤美津子

**人**

足もとを低う飛ぶなり秋の蝶　靜岡縣岡部町　小長谷貞子

**秀逸**

薫風や佛をきざむ木屑より　和歌山　伏見八千代

門に咲き庭に咲く菊の盛り哉　秋田　紫川女

秋風や笠を斜めの法師連れ　秋田　きさ子

語らざる石人石馬霜白し　岩代　木内ゆき子

夢一つ見たる蚊帳の別れ哉　大和　酒井すゑ子

---

田毎來て田螺を拾ふ日和哉　陸前　石川破寛女

月高く勇士の墓を照しけり　下谷　横谷秀子

植木師の鋏なつかし菊日和　横濱市　安川久子

野を渡り山を渡りて秋の風　越後　瀧澤みつ子

雁なきて飛び行く方は吳か越か　靜岡市　根岸艮子

眉上の簪をかしさよ初時雨　函館　湯田きん子

黍吹くや二百十日の荒れ殘り　姫路市　矢島芳子

疊かへ衣かへして新茶かな　南品川　萬千田野里

朝さむや秘藏の太刀に油ひく　美濃　傍島小枝子

大雨に庭の姫ゆり折れ伏しぬ　下谷　細谷鏡子

鳥一羽なかぬは秋の思ひかな　新潟縣　宮山つぎ子

燒け跡は雨となりけり秋の暮　鹿兒島　山下繁枝

大空をぼかして峯の紅葉かな　本郷　田村きみ子

天の川白う曉けたる船路かな　長崎市　天ケ瀨さだ子

秋の水つめたき色となりにけり　福井縣　片山千里

秋日和燈臺高く聳へけり　伊勢　かすみ

砧打つ貧の一燈なつかしき　伊勢　今井まさ子

橋守の朝顔づくり籬かな　信濃　駒澤ひろ子

戀人に化くる狐や芒原　芝　すゝき子

月落ちて溫泉烟深ししもばしら　岩代　三浦八重子

南窓に病養ふ小春かな　長門 二宮多摩子
絶え〳〵に蟋蟀や秋の夜半　仙臺 三好まさる
うそ寒きお白粉花や朝の月　大阪市 はな子
垣のぞく往來の人や菊畠　福島縣 入登きよ子
夕立や雲霽るゝ丘の上　豐後 板井賤子
川船に粥啜り合ふ朝寒み　名古屋 鍬岩泣骨女
波の音虫の聲秋の夕かな　若狹 早水その子
十五夜の月見て團扇捨てにけり　茨城縣 荒木利喜子
秋風は吹きぬ寢覺のぬり枕　山口縣 吉田美代子
明月や呼べば答ふる渡し守　大分縣 植田たか子
朝露の中に草かる少女かな　南豐 盤子
蝶老いて詩人の軒に眠りけり　備後 井上年子
行く馬の鼻息太き寒さかな　駿河 齋藤みれ子
初霜のせまりて消えし灯かな　靜岡 杉山征舟
かけ稻に雀かくろゝ時雨かな　上總 松崎かつ子
流れ藻や杭にかゝれば蟲の聲　千葉縣 若梅榮津枝
松蔭に小さき家や砧打つ　青森 馬場千代子
里に住みて嬉しき秋となりにけり　下野 栗原くに子
吾背子と見しは案山子よ朧月　岩代 杉原孝子
夕映に見返る關の紅葉かな　橫須賀 齋藤松代子
狐鳴く大竹藪や星月夜　山口縣 岸村文子
雁とんで故鄕なつかし船の窓　常陸 野村ふく子
野も山もおぼろの月や時鳥　西多摩 森田きよ子
秋近き雲の走りや琵琶の湖　上毛 小林しやう子
日記して扉開く窓や奈良の里　尾張 山田俊子
七草の色とり〳〵に朝の露　尾張 岡田信子
秋そゞろ瀨の水に立ちてけり　紀伊 畑中松枝
庭の木に白き衣干す月夜かな　紀伊 榎本千鳥
朽ち杭に烏鳴いて暮るゝ小川かな　埼玉縣 岩田文窓子
歸り來て着るや故鄕の初袷　東京 高田秀子
鴛鴦の羽根すれ〳〵に泳ぎけり　兵庫 杉山春翠

夕紅葉湖上に浮ぶ畫舟哉　上總 敬女
柳かげ店出して人の鮎をやく　下野 夢の舎なみ子
欄干に蝶とまりけり秋の風　入重子
はら〳〵と散りてもゆかし月の萩　秋田縣 姫城子
しばらくは花の月夜や小室ぶし　山城 入田文子
月出たり生駒の山の左より　攝津 あかれ女
望月の只滔々てむしろかな　丹後 村岡征舟
古寺や樹の間に見えて秋の月　大坂 田中靜子
朝顔の垣の絶間や沼見ゆる　下總 淸宮濱江
野も山も銀の上の朝寒き　大坂市 山内溪子
乘りすてし鐙が小舟や赤とんぼ　牛込 秋雨子
白萩の雫を皿にためて見る　岡山縣 篠原しげ子
玉章のぬれて届きぬ雁の聲　岡山縣 桐本悅子
戰する里の子供や菊畠　上總 田中廣
初汐や十反の帆を卷きあぐる　秋雨子
露を厭ふ夜もあるべし秋の蝶　尾道 野村水枝子
兄弟の合傘するや秋の雨　上總 光子
末なりの南瓜小さく秋立ちぬ　三河 鈴木ケイ
秋の蝶雨の轍に濡れけり　陸中 黑澤美江子
明月や水貫が宿に俳諧師　羽後 松影女
夕露の稻葉に宿るいなご哉　越前 濱野ふさ子
星の戀七つの水にうつりけり　泉南 鐵久子
陣營に馬の蠅打つ兵士かな　肥後 高崎春江子
雨の秋紙燭見せたる女哉　備前 松本もと子
初霜や鷄は庭に落葉搔く　筑前 田中登代子
小倉のさむき老蘇の嵐かな　靜岡 臨月久子
森際の靜かさをなく田螺かな　常陸 靜子
江に月の落ちむとすれば時鳥　堺市 川野淸子
初陣の手柄談や霜の月　日本橋 佐藤秋子
月今宵坐中の人の眉淸き　上毛 みどり
雁過ぎて餘花寒く咲く山路哉　茨城縣 岡部弘子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

# 實用文

谷江風先生選



▲規定　所謂日用の往復文にして、手紙文又はハガキ文の實用を主としたる文字を歡迎す、二十四字詰十五行以内用紙も締切日も前回同斷、懸賞は乙種規定に據る。

【地】

## ○繪師なる叔父へ

上總山武郡瑞穗村　石渡敬子

叔父樣、書題が見付かりましたの。でもお氣に、召さないかと思ひますけど、申上げて見る事に、致しました、昨日の朝、母樣と、梅に、手傳て、頂いて、新らしい四疊半へ引移て、お晝迄に、すつかり綺麗な、お書齋が出來ました。今迄のあの暗い、たゞ廣いお室と異て、飛石傳ひに、直ぐお離亭へ行けますしお泉水も見えて、眞個に、明るいのですよ。そして額はお祖父樣のお似顏のと、今迄、叔父樣に頂いた、水彩畫の中秋のだけのと、繪端書を、澤山掛けました。でお願ひ〱といつた、日本畫の方、急に、書いて、頂きたくつて、書題を探してましたら、恰度、昨日の午後、園田の、綾姉樣がお里歸りで、お寄り遊ばしたのよ。伯母樣と、ご一緒であのお品の好い高髷が際立て水々しく、葡萄色のお振袖が、眞個に、お似合遊ばして、綾姉樣て、申上げるのが恥づかしうございました。一等さき、お書齋を稱めて頂きましたの。それから直ぐお離亭へお案内して、お酒宴が始つたのです。私は、そうつと、庭下駄はいて、萩の茂みに、かくれて、低い聲で、綾姉樣つて、呼むで見ましたら、まあ姉樣のお目の早い直ぐお椽へ、出て、被入て「萩の中に居る方誰」つて、亂菊模樣のお裾にお椽の秋海棠がゆらゆらと、俯向きかけました。姉樣は、微笑むで立て被入います。お時計の鎖が、バラ〱に、ほぐれて褪紅色のおみ帶の孔雀が、バッと、夕日に、映えてました。と、白襟を召した、伯母樣と、小紋の母樣が長いお廊下を、此方へ被入るのが見えます。叔父樣えだけ申上げます。如何でせう？お思召に、叶ひましたらお書に遊ばして、頂藏な、あの秋海棠がすれ〱に咲くお離亭の南のお椽に、お振袖の綾姉樣がお立ち遊ばしてたの……午後の四時頃でした。石燈籠は、もう萩や芙蓉に、かくれて、了てよ。ほゝ私桔梗色のお袖に、お袴てしたの……お想像が、お付き遊ばさなくつて？書題に、ならないつて、お叱り頂くかしら……叔父樣お書き遊ばしてね眞個に、靜がお願ひ致します、左樣なら……。

（評）艶麗の筆斬新の想相待つて金玉の光あり、

## 人　○都の兄に

大阪市　花子

其後は思ひながらの御無沙汰御許し下され度候、母上樣も此頃は餘程御顏の色艶も冴々へて、時折蓐の上に起きなをらせ給ひ、房代が參らす草花に御口ずさみ遊さる迄に相成候まゝ、御心安う思召下されたく候、今朝程吉見樣御訪ね下され、種々面白き事を洒脱な御言葉に、手振りさへ交へさせられて御話し下され、一同笑ひ轉げ申候、其の折御令兄は近頃妙な御病氣に罹らせ候よと御笑ひなされ候が、如何なる御病氣にや御案じ申居候、暑さにまけて延々に相成候肱突、漸く出來上り候まゝ御送申上候、不出來にて御氣には召すまじくも妾が眞心御留置下されて、朝な夕なに御親しみ下され候ならば如何計り嬉れしく候はん、田舍も漸く秋色鮮かに、虫の音色も心地よく聞え初め候、過ぎつる日、靜江樣と活花の料もがなと堤を逍遙申候、其折雜草に交りて露にうなだれ居る尾花が懷に、羽根もいたいげな蝶の憩ひ居るを見出し、餘りのいじらしさに蝶諸共一枝を手折らんものをと引寄せ候ひしに、蝶は一時にぱつと黃なる毒粉を、妾が手の甲に散らし申候、美くしき蝶にも斯る毒を包めるよと驚き申候、末筆ながら讀書の好時機、申上ぐる迄も無之候へ共、御身御大切に遊され候樣花が衷心からの御願にて候、母上樣へは御風邪とのみ申上候、御端書になりと御心休め御差出し遊ばされ度候、聞え上たき事の數々は、宵星の如も候へど筆澁りて得綴れず幾重にも御推の願はしく候、先はあら／＼かしこ。

（評）洒脫の筆よ「美くしき蝶にも」の一句無量の諷意を含むと見られて面白し。

## 秀逸　○磯より姉に

岩代　木内ゆき子

姉さま！秋は今秋風がふく勿來の磯にたゞづんでゐます。あやぶんで下さいますな。私は只一人の幸薄い京子樣を弔ふためなのですから。

寄せては小貝に。引いては岩に小琴を奏ずる浪は。昨日も今日も變りません。しかしその淙々といふ音が人の死の先導者のさゝやきではないかと思つて。もう一人で磯を歩けなくなりましたわ。姉さんは知つて居らつしやるでしようね。京子樣と貫一樣のことを。

おとゝひの夕暮。漁師の子がかけつけて京子樣が死んだといふの。全體ね勿來の磯には古くからのいひ傳えがあつてこゝに佇ずんだ物はきつと死の手に捕はれるつていひますの。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

半分は夢の樣に。磯にかけつけた時には……姉さん…もう死の手に冷たく抱かれた花の樣な京樣が眞白になつて浮び上つてましたの、青白いその面には崇い影が見えました、眞に京樣程氣の毒な方はありませんよ。京樣よもう一度眼をあけて頂戴つて何度も何度も……今私はうつむいて京樣の永久の眠の安らかなやうにと祈つて。「眠りませ」を歌ひましたの。浪が冷かに足を洗つてゆきます。秘密を包んだ勿來の磯は瞬一瞬に暮れて。ゾットしさうな秋風が海の果から吹いて來ます……あゝ歸りましよう……月の光てやつとこれ丈したゝめたの、姉さん。

(評) 妖氣人を襲ふ、才筆と謂ふべし。

せんたく　Y　N



## ○故鄕の友へ

京城　ゆかり

北漢山は秋になつてます〳〵壯嚴な態度に、入日の雲が紅に燃えていろ〳〵の鳥は森だの山だのへ歸へつて行きますが北漢山をさして歸へる鳥は一つもありません、晝間でも北漢山の上を翔る鳥はございませせん、たゞ夜に入つてから雁金が淋しい淋しいこゑて北漢山の方へ鳴いてまいります、其のこゑが私のむねにしみ渡る時は、もう目には涙があふれて居るのです、いろ〳〵なことを考へて睡れない時などに、此の鳥のこゑが致しますと、私はそつと障子をあけて、お緣に出て雁の行方へを眺めるのです、今宵も私はおゑんに出て

彼方の空を眺めて居ますと夜風に冷たい私の頬には血の様な涙が止どもなく流れて故郷の様がむねにみち、嗚呼今から幾年たてば、懸しい懐しい故郷に歸へることが出來るのかしら、けれども幾年の後には故郷の様も變るでしよう、様子が變れば歸つてもやつぱり異郷の様な感がするに違ひありません、いつ迄も昔のまゝであれば宜いけれど。

松原の中の鐵道馬車は近い内に電車になるさうですがほんとうですか、電話も通じたさうですね、皆様御變りありませんか何卒御暇の折は御手紙下さいまし。

あらもう月が麻浦街道の小山の松に危く落ちかゝつて居ます、もうすぐ世界は闇になりましよう、どうぞ御身を御大切に、何時か無事で御逢ひ申すのを待ちましよう。さよなら。

（評）異境の客となりて家郷を想ふ今も昔も變らぬはかゝる際の人の心なり力ある文章なり。

## ○親しき友へ

備後　井上年子

嘉美子様、お手紙有難く拜見致しました。何時も乍ら御美しい筆蹟、いとゞ羨しう存ます。

扨て御文意に依りますと、上京しようと思ふが何うであらうかとのお言葉、井中の蛙見た様な私等が、何う致しまして、到底御相談に乘るだけの資格はございません。然乍ら折角の仰てございますから、たゞ私の思うて居る事だけを不遠慮に申上げます。どうぞ御立腹あそばさないやうにね。

私は決して御勉强あそばすのが惡いとは申しません。いゝえ惡い所では無い、唯今では非常に女子教育を奬勵してる時代ですから充分御勉强遊すが宜しう御座いませう。乍然貴孃が始終私に仰言つていらつしやつた理想は、決して學問や藝術で身を立てない。立派な母として、立派な夫人として、樂しいホームを作りたいとのお言葉でございましたが、若しさうでしたら、唯今の高等女學校卒業で充分ではございますまいか。こう申しますと、何んだか妙に姉さん振るやうでございますが、兎に角一家の主婦として立たうと思へば何うしても學問だけてはいけません。まだ〱外に習ふ事は澤山ございませう。殊に賢母良妻として、立派に婦人の道を踏みたいと云ふ思召なら、猶更、學問よりも人格の修養が必要ではございますまいか。尤此邊は淺學な私共が申上げる迄もございませんが、方今の學校は皆學問や、藝術に重きを置いて、大切な此人格の修養と云ふ事に餘り意を止めて居ない様に思ひますが、此邊は充分にお考へ遊せよ。猶御兩親の御意見にまで背いては御上京遊さないやうに、私は幾重にもお祈り致して置きます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

まあ不遠慮に失禮計り申上げました。どうぞ御免あそばせ。

（評）極めて穏健なる御意見なり筆も生意氣めきし跡とてはなく、美しみはなけれど眞心の溢れたる文なり。

## ○山田くにえ様に

羽後　菊池りう子

濤の音頻に候、花の都にすむ人さへもさらぬだにとうてこまぬかるゝとやらいふ今日此頃、かれとこれとのへだゝりこそは候へ、同じ北の海の佗しき汐の音きゝつゝ語らはむ友もなくて、羽後の平に草に埋るゝ身の淋しさ悲しさは又ひとしほに候。今日はまだきより灰色の雲漂ひ海面あれて、潮のむせび音のたゞならぬにかゝる時にこそと御許様が「北の海」をくりかへし／＼拜讀致し候。渡島の夕にそゝぎ給ふ御身が冷う悲しき涙思ひまゐらせてはもろき身のたゞ／＼御痛はしう、かつは御身がすみ給ふそこには一人なる我姉さへもはべりてかゝる夕や母を慕ひ妹を戀ひて限なく泣く涙は如何許りかと我にもあらでよゝと許りに泣き候ひしがさるにても同じ孤に泣き給ふ御身のいよゝ懐しう。前後も顧みず、かくは拙き筆を走らせ申候、うちあけて申上ぐれば世に御懐しき御名知りまゐらせしは今を初めてには之なく、いまだ世の波風知らぬ十一二の稚兒輪の頃より小女界を姉によみきかされてはいつも拜す御許様が御名に詩の讀方さへ知らぬ小さき身にも、くにえ様とし見れば、幽にも胸おどり何とはなく敬く懐しう現の様に十七の今日迄荒波にもまれ／＼つゝも尚記憶致し居り候處へ痛ましき御詩、さてはあこがれまゐらせし御姿拜し久しう別れ居し姉様にあひたる如くにも懐かしう胸に波うたせ申候、悲しと申てもわびしと申ても秋の内こそ木々の葉も紅してはさすがに風情も候へ私共北の海邊にすむ子等のいとうも悲しう痛ましきはやがて來る長き／＼うら枯の冬にて候ものを！さるにても御互に身に恙だになくば、奇しき運命の如何様にまはりていつの日か御目もじかなはねとも限るまじなどはかなき思にのみあこがれ居り候。何のゆかりもなき妾如き者のか様の事申上げさぞやさぞ御驚きの事と御はづかしうは候へど只々御慕しさの餘りてと不しつけの罪くれ／＼も御許したまはり度候。まづは

（評）流暢なる筆のゆきゝ、よくその情を盡へりといふべし。

## ○貧家のあるを報ずる文

麹町　泉幾

君さん、ありましたよ丁度よさそさなのが。夕あまり、よい月だもので、進さんとぶらりと外へ出ますと、涼しい、虫の聲に、聞惚れて前のだらだら坂を



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

下りて、左に曲り、以前、いらした時、遊びにいつた原ね、あそこに、立つた新らしい家で、立止つて垣根の、夕顔見て居ますと、進さんは、此家は、かし家と云ふのでせう見れば成程札が斜にはられて居ましたそれから今朝いそいで行きましたら、四間で八疊に六疊に四疊半三疊と下女部屋と水道付き四疊半は御書齋向てす、庭もかなりあります、ブランコは、時雄さんのお運動に、あゝ、それから向は、お婆樣向きと云つてよいの、涼しそうな暖かそう、八疊には床もあります、お隣りも靜か相てす家賃は、九圓に水道税、十圓はてますまい敷金は、三ケ月分てすよ、なるたけ、お早く見にいらして下さい、ふさがりますから。皆樣によろしく。

（評）げに實用文なり趣味ある實用文なり。

## 〇樺太より

樺太　繳子

啾々と、西吹く風の、そゞろ身にしむきのふけふ、木の葉はこと〴〵くうら枯れて、樺太は今さびしき〳〵頃に候、日本海の荒波は愈々すさましく、入り來る船も稀に、來ん人は絶えてなく、目にたつは出で行く船にうち乘る人の數多き事に候、名にしおふ樺太の嚴寒にむけてはさもありなん、されど殘る我らが心細さはまたひとしほに候。稀にしても、船通うそのうちこそ心強くもあれ、やう〳〵に北風吼ゆる頃となれば、さしもに荒れし海原もかたく〳〵凍りてさながらに死の海のごと、船の通はんよすがもなくて。いつか吹き來む春風を、鶯の初音まつさきに、まちわぶるあはれ島守る民が心、寂しさの限りに候。風さやかなる頃しも、只管に懷しき故郷の事のみおもひつゞけられて候よ、：さらば

（評）島守る所の悄さもこそと思ひやらるれど心も筆も今少し活氣ありたし男氣ありたし多謝

## 〇都なる師の君に

若松市　山口きみ子

秋風の立ち初めてより、手慣れし扇もいつしか投げ出されつ、庭の小萩が白露は玉と亂れ散り候につけても、いとゞ物の哀深う、ひたすらに都戀しとのみおもひわびり候、師の君樣には如何にながめおはしますらん。此處はいと邊鄙なる山里のさすがに汽車は通ひ候へど海には遠く幾十里をへだて居り參りてより未だ鮮魚てふもの見しこと候はず。されど猪苗代湖の朝晴暮靄さながら小琵琶湖の稱も之あり候由さればにや、先月下旬有栖川宮殿下の御別邸御新築成りて、近く　東宮殿下の行啓の御沙汰も之あり候よし。御別邸拜觀の榮を得て歸りし人の話には、御室の天井は硝子の二重張にて、中に淸水をたゝへ、金魚緋鯉の上に下に游ぎ廻

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

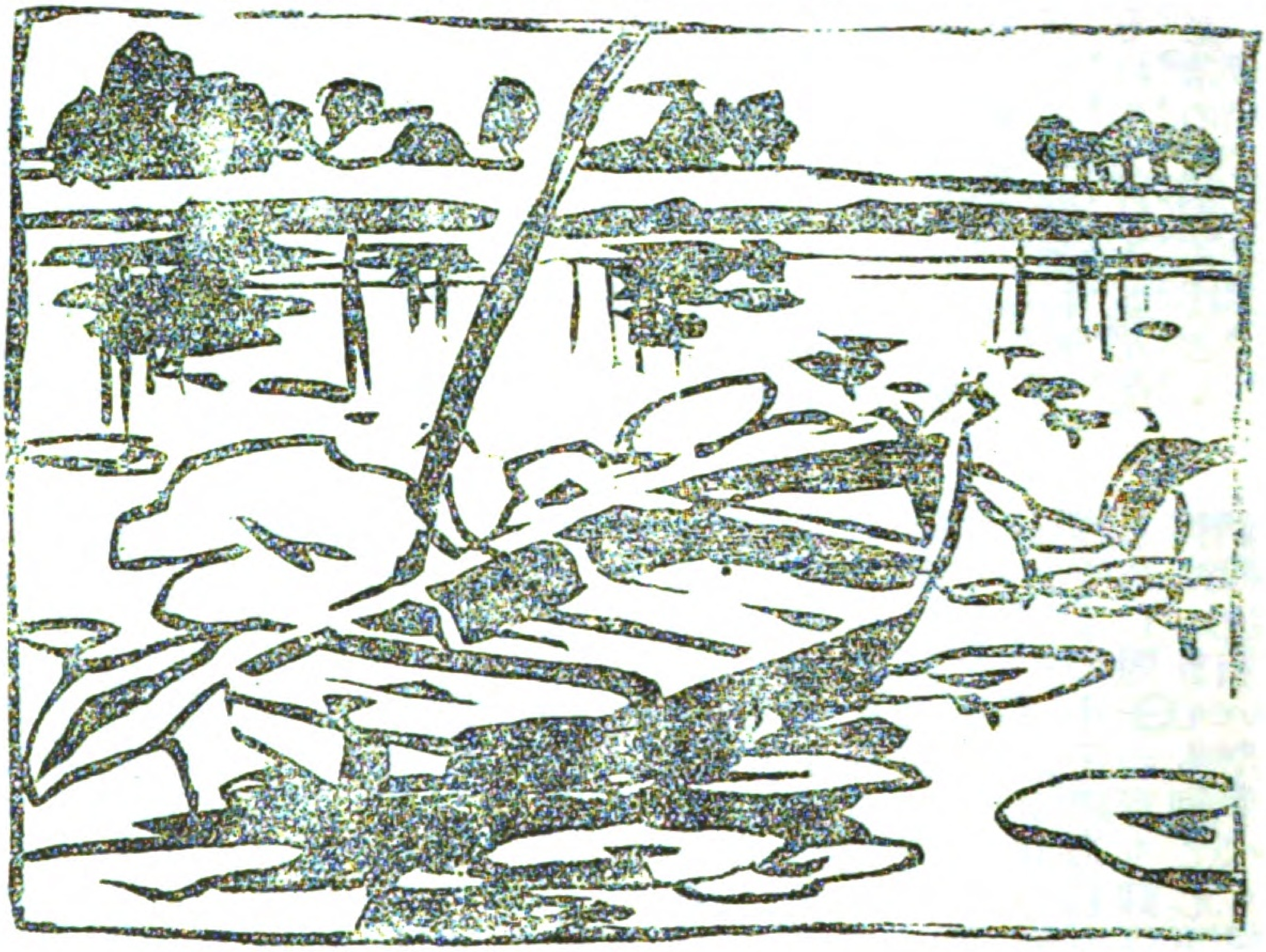
るさま、得も云はれず美しく涼しく候由、一度參りて拜觀をと思ひ候へども、乳呑兒抱へたる身に、汽車はあれど十餘里の行程心にもまかせ申さず候。

さて「殿下行啓の砌に和歌の獻詠を」と、縣知事よりの布達之あり、卑賤の身拙き物を差出し候も、なか／＼に恐れ多き極みと躊躇いたし候ものから、はた、敷島の道ならでは、やんごとなき君の御前に何をかさゝげ參らせんと、漸く思ひ返し、腰折二首ばかり讀み出て申候。御暇に御添削遊し下されたく願奉り候。

ふるさとの秋のあはれも忘れけり、めぐみあまねき君がみかげに。

翁しま八千代の松も今日よりは、君がみかげに色まさるらん。

池畔　尼ヶ崎とよ子



都に在す父を慕ひ、母を慕ひ、姉妹を戀ひ、我が子を戀ひ、戀ひ／＼て徒然のあまりに、曾て御教を受けし國文の書ども取り出し、唯一の友といたし居申候。かしこ

（評）穩かなる文なり

## ○兄上樣へ

福井縣　片山　千里

昨日午後三時無事歸省仕り候五年の年月さまで長しと思ひ候はざりしが、道巾は倍にもなり、藁葺の家はまれになり候て、殆んど別の村かと思ふ樣になり申候村端まで來申候處、八つ位のお下げに結つた愛らしき娘が「姉えちやん」とかけより申候、これが學校より戻れば直ぐ負ふてやりし小菊ちやんかと思へば、只もうこれは／＼と申せしのみにて御座候。

父上も母上も「お前等が行つてから醫師に手をとられ

し事無し」と申され候ひしかど、お二方ともいたく年をとられ、頭には霜を戴き、腰には弓をはられ顏には皺いつぱいよせられ申候て、兄上のあの手紙差し上申候處「眼鏡を持つて來い」と云はれ候て、母上に讀んで聞かせらるゝ父上の御聲いと萵ふ候ひしに、いか程辛ふ候ひしよ「なぜ御膝元にて孝行しなかつた」と叫ぶ聲のいづくよりか聞こゆるかの感致し申候、されは兄上!! 妾は二度と上京する氣にはなり申さず候に付、あの事は美しう御斷りくだされ度、あちらにも當のあることと思ひ候に付、取り敢へずかくは。

（評）「取り敢へず」の文にふさはしき筆の運びの疑きことよ。

## ○友の許に

長門　新田泰子

御氣分すぐれ給はぬよしさてこそとうち驚かれ申候。こゝのほどは少しづゝにてもお快き方にはあらじか、ご食事のいけぬは、さて何よりも氣遣はしく候て、それのみに昨夜一夜案じ參らせ候。かつは常々よりお心掛け給ひし腦のいたみと聞きて、妾はぎくと電氣にても觸れしやう、只々小さき胸は怪しくみだれ申候。過ぎつる日は、ただ永久の夢とのみにこそ思召し候へとは申しあぐべき言葉も知らに、それもこれもおん傷はしき極みに候。心せばき身は、葉末の露のこぼるゝだに得堪へぬ思ひにあなるものを、いつそ諸共にと、妾さへ折にあひてはかゝる恐ろしき心にもなり申すべく候。おん地にもあらばと、はしたなき身なれどそれのみ、日に夜に口惜しく情けなく思ひ居り候。朝は未だうす暗き程より起き出で給ひて、身も心もほど〳〵に働かせ給はんこと願はしく存じ候。別して終日一室になど閉ぢこもりあらんは、げに心なきわざと存じ參らせ候。鄙の自然美、秋の日影暗き田圃に下りたちて、日毎をうら安にうち渡らせ給はんこと願ひあげ候。かしこ。

（評）美しき御筆よ御心さへしのばる

## ○月見に友を招く

四谷仲町　織戶由樹子

今よひは望の月にて候、かはり易き秋の空とはいへ今の分ならば、定めて明月に候はん。古より歌によみ詩に作られて稱へられつる三五のかげも、私共の見たる處にては只好い月とよりほかに、言の葉もござなく月の御神も定めし本意なふおはし候ならん。さはれ之をめづる心はいさゝか古へ人に劣るまじく、むさくるしき草の屋ながら先ほど、妹が近き野邊より折り來りしすゝきそなへて二千里外古人の心思いやりつゝ話しよかさばやと思ひ立ち候、御もてなしの何はなくとも手づくりの小芋のあじも御ほめにあづかりたく、妹がせるめし團子の形も御目にかけたく是非々々夕かたより何はおきても御こし下され度、夜御かへりの折りは必ず御送りいたすべく候へば、御心おきなく御出のほど一重に待居候先はとりいそぎ右までかしこ。

（評）流るゝ筆のさまよこの文得ば行かでは叶はざるべし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

# 新歌謡

編輯局選

▲規定　無邪氣にして野卑ならず、現在の言葉を以て優美の思想を手近にうたふべきこと、是も一人一首限り、投書に新歌謡と明記せよ、用紙及び締切日等は當間斷、賞品は丙種送呈



「天」○

奥州街道炭つけ馬の鈴の響に日が暮れる　下野氏家町櫻野　瀧澤秀子

古驛の暮色、彷彿として眼に浮ぶ

「地」○

朝顔晝顔夕顔さいて油斷する間がありませぬ　伊賀上野池町種豹屋方　岡花子

言ひさうなことで言はなかつた

「人」○

焦れ〳〵てお月の宮へ着いたばかりに目がさめた　府下西多摩郡穎生村　森田志満子

夢の字を入れずに夢をきかしたのは妙

秀逸

○　栃木縣　白萩女

○青い衣を車につんで夏の男神が引いて行く　東京　大井けい子

○昔めく灯に鼓をうては月がしづ〳〵波を出る　福井縣　片山千里

○嫁入したいと思たが今は娘時代に踊りたい　茨城縣　初澤さく子

○若い男女の麥まく空を鳶が舞ひますくる〳〵と　下關市　豊子

○馬關よいとこ汽船も汽車も海もお山もたゞ一目　高知市　伊野龍

○うたは上手な船頭さんが雁のなく頃うたも出ぬ。　若狹　蝶夢子

○月をうしろに我家を前に唄は田植の歸り路　大連　柿本千枝

○母様戀しと書たる手紙今出港るお船が載せて行く　京都　島本妙子

○花の散るのを筏にのせて下りや桂の月の里　茨城　佐賀進子

○妾今年が十九の花よむかへまするよ蝶一羽　横濱　安川久子

○關舎三里の峠を越せばあとの一里は虫月夜

大阪市　山内濱子

○右が山城左は攝津國の境の萩の窓　羽後　榮川女

○裏の松山つい一走り晩のお汁に菌採る　相模　山本文枝

○花は咲いてもまだ戀さかぬ杏小さやまだ十五　釜谷　よし子

○日每〱に日記を見ては一人ほゝ笑む秋の空　上毛　直子

○稲穗そろふた青海原で今日は十五夜いなごとり　三河　天野清子

○尾花招けど私は行けぬよろと使がおそくなる　沼津　八代榮代子

○町に東風吹きや海邊は靜かそれて出て行く漁船　本郷　田村きみ子

○苗のあまりを捨てずに植へて秋にや買ひましよ繻子の帶　備後　井上年子

○春の月夜が濃化粧なれば秋の月夜は洗髮　四谷　富榮子

○棄て行きたやあの花びらに行くは常世か花園か　青森縣　馬場千代子

○秋ははてるに此の朝顏よ寒い風にも咲いてゐる　大阪　四戸政江子

○七月掛つたは昔のことよ今は一夜でお伊勢まで　若狹　池田汐汀女

○秋の風吹きや家内はそろてうらのお山へ栗ひろい　府下　並木蝶子

○今日は嬉しや母御と妾ゝ飼つた秋蠶の繭祝ひ　岡山　寒菊

○龍の都の乙姫樣の膝から吹く海の風　北會津　白井絹江

○果のはてまで見渡すやうに晴てはるかな月の海　牛込　みれ子

○私のお家はあばらやなれどいつも吹のは春の風　福島縣　秋野みのる

○赤い襷と桃色襷前の畑で桑を摘む　越後　瀧澤みつ子

○ざくろ數へて少女が二人桃われ結ふたと下げがみと　山形縣　大瀧くしは

○いろがしろいと若衆にいはれハッと紅かたげがさ　大阪府　榎浪春枝

○君は都でわたしは山で今宵十五夜の月を見る　豐後　菅原芳子

○窓をあくれば有明月の海に白帆が夢のやう　福井縣　池上小芳

○月のない夜は一里ヶ原の白い薄も暗の中　下總　實川柳江

○姉が稲かり兄米搗いて私が飯炊く早稲炊ぎ　大阪　紅女

○私やなりたいあの三日月の船を進める船頭に　香川縣　百嘉子

○桑風吹くなと祈つた爲か二百十日は何處へやら　土佐　門田ふじ子

○やつてください侍女奉公行儀作法がならひたさ　羽後　清藤うた子

○私田舍の機織り娘稲が實れば稲を刈る　美濃　笹島敏子

○うたて植ふたる門田の稲をうたてかりとるゆたか年　磐城　片寄しな子

○紅葉美し夕日にはえて風の吹く度ひら〱と　千葉縣　三森ゆき

○朝の四時から草籠背負つて馬にやる草刈りに行く

# 滑稽談

編輯局選



十六字詰七行以内締切日は毎月十五日懸賞は円種。

【地】

## ○先生の「聊」

鳥取市鍛冶町　上山八重子

私の學校の理科の先生は何事にもよく聊かと仰せられる癖が御座います或時私の宅に入らせられましたが母が自慢の松茸飯を差上げますと、「やこれは聊か美味しい〻」。

【人】

## ○いつから

駿河庵原郡庵原郵便局　齋藤みね子

父「お父さんは子供の時決して噓言はつかなかつたよ」

子「てはいつからつき始めたの」

## ○モデル

若狹　津川汐汀女

春子『夏子さん今度貴殿が女子文壇で天位に當選なすつた小品は何かモデルですか。

夏子『あの磯月ですかあれは風葉先生の磯月を其まゝモデルにしたのよ。

## ○貴婦人

越後　松山けん子

小供「僕の母ちやんは貴婦人だわ」他小供「ナゼ」小供「だつてクラブ洗粉をいつもつかつて居るもの」

## ○無錢旅行

伊豫　中尾　菊枝

朋友と二人て無錢旅行につて出て行つた兄樣が三日目の夕方しほ〳〵と歸つて來ましたから私がなぜつて聞きましたら小さい聲てお錢がなくなつたからつておつしやいました。

## ○縮緬

備中　八重　衣

姉「花ちやん、此緋縮緬てれ、お人形のべゞして上げるから、お顔にする白い縮緬の切をお母さんにもらつてお出てな、花「ア、嬉しい」とよろこび勇んて母居の方へトン〳〵〳〵かけていて、お母さん〳〵姉さんがお人形して下さるのだから白い緋縮緬の切み頂戴な、早く〳〵。

## ○走り

芝　髙橋　房子

六才になる弟が、「姉樣走りつて何」と聞ますから、「一番先に出た物の事よ」といひましたら、「それては家の兄樣は僕の兄弟の走りだれ」

## ○よい香

越後　は　な　子

香水なんてあんなもの大きらひだと常々頑固な事ばかり云つてゐられる父が先日兄と朝顏を見てゐられたが香水を付けてゐらるゝのをしらずに「どの花だかよい香のがあるナー」と感心してゐられたには吹き出さずには居られませんてした。

## ○箸の先

金子かたえ

十二になる妾の妹が夕御飯の時隅の方に一人てニコ〳〵して居るので可笑なと思つて居ると突然に「姉さん妾もう箸の先で御飯が食へてよ」見ると抽の小さな箸を二本握つて居るのです餘り可笑いので家中お汁の冷えるのも知らずに笑つてたのです。

## ○晝寢

下總　髙木きく子

晝寢した兄、目覺めて傍らの妹に向ひ『自己は今何時間計寢たらう』妹『アラ兄さんは自分てれて居た時間を知らないの。』

## ○女爵

栃木縣　岡本ゆき子

「家の兄さんは男爵だね！……」と可愛らしい妹が母に問ふに。

「左樣さなんて美代ちやん！……」

「私が大きくなれば女爵になるんだね――」

## ○勝負

淡路　小泉さと子

妹「兄さんもうお寢みなさるの」

兄「今朝起きる時負けたから寢る時は勝つたら勝負なしだ」

## ○海になつたの？

福井縣　片山千里

子「お父つさん矢放あたりは海になつたんてすね」。

父「馬鹿なつそんな事があるもんかい」。

子「ても叔父さんの手紙に（過日の降雨に日野河の水溢れ多くの田地を流し申候）と書いてありますよ」。

## ○夏やせ

中津町　やま川

ハイカラ令孃ハイカラ紳士『妾コンナニやせてネエ、夏やせてしよ』

『僕故てしよ、夏やせばかりじやなくてよ』『感謝します』

『全くなのよ妾貴君の顏を見るのが否て〳〵』



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA




# 髪（課題）

記者曰　髪と云ふやうなことに就いては最も女子の方に書くことが多かつたと見え、此度の分は殊に澤山集りました、此處に掲載する外、入賞秀逸以下數十篇あるのですが其等は次の號、卽ち增刊「立田姫」に凡て載せるやうにいたしましたから髪の大切な諸孃は併せて御らんなさい。

## 天　○木のかげ

山城伏見新町七丁目　山田　幸子

妹の無い私。それに子供好きなので、いつも近所の女の子を集めて、春は咲く花のかげ、秋は紅葉ちる下て、いろ〳〵の髪を結ふてやるのてす。そして罪のない、可愛らしい顔を見るのがたのしみて、此樣な短い毛がいつかは桃割や、丸髷に結はれるのかと思ふと、つひ自分の行末が淋しう心に、浮ぶのです。

こんな短いもの丶うちにも人生と云ふ意味が含まれて居り、而して少しもわざとらしくない。

## 地　○我まゝ

麹町區內幸町電灯社宅今川內　久　志

東の窓際へ鏡臺を据ゑ、滋紙を敷て取掛ります、每朝の事とて前髪と根は昨日別けたまゝを結直す斗りてす、時に母樣に云れて癖直し仕たり、油を付けたりすると、何うしても思ふ樣に出來ぬ、一度二度結ひ直しても未だ心にみたぬ時は、其まゝ机に向つて本を讀み出すと、母樣が亦我まゝを出したネと云ひながら、丁寧にゆひなほして下さいます。

斯う云ふ母を持つた娘さんは世の仕合せ者。





## 人　○いさゝ川

越後中蒲原郡栃目木村　飛鳥女

髪洗ふ時、家の前の石坂をバタ〳〵下りて小川へそゝぎに出ます。といつでもせゝらぎは私の顏を見て幼時談を語れと申ます。夫れは私が高等小學へはいつた斗りの頃、或朝寐ぼうして髪のほつれたのも構はず學校へ行かうとしました、と祖母樣が、ドレドレつて結ふて下さる、直ぐ大急ぎで鏡も見ず飛び出すと、昔風の男髷て有ましたもの。ソラ角力取髷が來た來た、と皆に笑はれて私は泣きました、が泣き面で歸ると「何だ氣の弱い」と父樣のお目玉、て又此流れて顏洗つて歸宅しましたつけ。それから夙に起きて下手でも獨で當時々々に結ひます。

興味の深い回想談

## 秀逸

### ○嫌な日本髪

下谷　細谷鏡子

私はどう云ふ物か、日本髪がきらいで、十三の年から御下げや、束髪にばかり、結び通して來たのに、此頃母樣がむやみに、日本髪を通めろ、此暑いのに油をこてこてつけて、それ島田、やれ桃割と、暑中休みを幸ひに、髪をおもちやにされるので、いやでたまらない、早く學校が始まつて、又一人で油氣のない束髪に、結びたいと、思つて居ます、ほんとに、日本髪は重いのですもの。

### ○逸話

大阪　紅女

私の祖父が大變面白い方でしたさうです。明治になりましてから男子は散髪となりましたので、祖父もすてゝ置くわけにはいきませんから、ある朝奇麗に髪を結ばして床屋にいつたさうです。家ではどんな顔して歸るだらうと待つて居ました。暫くして祖父はしかつめらしい顔して歸りましたのでふと頭を見ますと、オホヽヽ坊主頭の上に胡結んだ髪を、其のまゝ載せて……。

### ○髪

神田　英子

髪の毛の濃過ぎるのは、顔面が陰氣に見えます。餘り、薄いのも、何となく哀ですけれど。……私、束髪は、目に慣れて居る故か、別に如何つて云へません。たまに、それ者らしいのが、つぶしなんかに、結つて居るのを、見ますが、みゾク〳〵して、何とも云へず好き。桃割れも、美しい髪です。小説中に、書かれるのは、束髪が第一位で、島田、いてう返し、丸まげ。此頃の樣に、思ひますが、違つて居ませうか。

### ○日本髷

京都　濱部風窓

火の付きさうな束髪やイヤに飛び出した廂髪等は洋裝なればいざ知らず日本服は矢張日本髷に限ります、其の内でも一番上品で惚々するのは



新聞　青山中四とり子

丸髷で、殊に彼の雫のたれさうな黒髪の間から、赤いテガラを出した若奥樣など、實に何とも云はれぬ艶なものです、又島田は中々人を選ぶ者で、餘り丈が低い人が結ぶと、猿芝居のやうで、又餘り高い人だと天上につかへさうです、銀杏返しは最廣く用ひられる髷で、上は奥樣より女中に至る迄、たゞその結び方の如何に依つて上品にも卑しくも成るのです、平常は衛生上束髪でもよろしいが晴れの場所は成る可く日本髪の方がよいやうに思ひます。

### ○白百合

品川　静江

逝かれた姉樣のお髪の長さ、お膝の下迄ありました。其れを高松へ嫁ぎなさる晩は高髷になさいましたがほんのり紅さした頬の邊、ふつくりした髪の格好のよさ、お望で召した長い〳〵袖の純白の式着が黒いお髪にうつつて私は姉樣と思ひませんでした。然し其れも昔話になりました。忘れもせぬ去年の六月十三日私が高松へ參りました時、姉樣は白い手を胸の邊に組んで黒い髪は白百合に圍まれ眠つてお居でゞした――何時迄も覺めずに、――が、白臘の樣なお顔、眞黒な髪泌み入る樣な百合の香、私は生涯忘れられません。

### ○喜悲

大連市　林正子

嬉しかつたのは初めて下髪にした時と、見合ひに行くとて高島田に結ふた時父樣が之なら何處に出しても立派なものだと仰しやつた時と、此家へ嫁て初めて丸髷にした時夫がよく似合ふと御らんになつた時です、祭りの朝大事の桃割がこわれていた時と、初産して自まんの髪がすか〳〵に抜けた時は泣きました。

### ○七日髪

静岡　幸子

私は髪を洗つて七日の間は屹度お下げに結びます、そして赤のリボンを掛けます、其れから七日の間マガレツトに、この時は白のリボンを前に赤いのを後へ、其の次の七日間はエス卷に今度はリボンを掛けないで櫛を三枚、其の次は無



Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

雑作にグル〳〵巻いて、淡桃色のリボンを尻丈後の方へ、これを七日續けますと洗ふのです、そして又前の轍に繰り返します。それで學友に、七日髮と云ふあだなを付けられて終ひました。

○髮についての研究　大阪　てる代

おけしから、おかつぱ稚兒髷マーガレット今は白縮緬の丸髷を狗ころ掛にした桃割ですが中々の髮狂人で是迄色々試して見た内油はおぐら屋の白椿に定めました非時も宜うございますが垢が出來て困ります。満島の樣な毛には眞赤の飾物が一等映りよい、又は束髮に白百合の一輪挿した狀、誠に上品な。私の母はお茶筅です、古風なのが何となう床しい思が致します。

○無頓着　京都　西村　榮子

向ひの家に二十二三の美しい方が居られる髮はいつも島田で何か私には分らぬが光る物をかけて毛一條も亂さない樣にして居られる其向ひに居る私は如何でせう其樣事は一向無頓着にテニスがしたいと云ては毎朝二三分間で束ねて學校へゆく此が又髮に付ては大のやかましやの祖母の氣にめさぬ毎度のお說法には必ず向ふのお娘さんが引出される私は其時丈唯々諾々。

○好きな形　京ばし　胡蝶

いくら自分が好きで結ふても其人に似合なかつたなら、はたからみておかしく思われるでせう。で私は一番桃割が好きで結ひますが幸ひお友達からも一番私にはうつるといはれますのでたいていはこれに結ひます、形は前髮を少し大きくふつくり出し、びんはつめかげんにして、たぼをすつと出して、あまり根の上らない桃割に、赤白三枚の丈長、そして蝶の簪をさすのが大好き。

○廂髮のはじめ　遠江　白百合子

毎朝チェリーの油をつけて廂髮に結ひ終つた時の心持のよい事は何とも たとへ樣もありません、私の村で廂髮の先がけは、私が女學校へ入學した時でした、其の時は村の人々は變な髮だなど丶笑ひましたのに、もう今は皆な下女に至るまで廂でなくてはならぬ樣になりました。

○たのしみ　品川　蓁子

私は學校でせう、ですから束髮です、三年このかた日本髮に結つた事がありませんの、そうして母樣が、毛が赤い〳〵と申ますから、ごまの油をこてこてつけて……それに來年十八でせう又學校も卒業しますから早速四月初島田に結ふつもりなの。寫眞にうつして記者樣に御めにかける事よ、たのしくつて胸がどき〳〵するわ。

○髮と性質　大阪　中島きみ子

漆の樣な。長い髮を持つた玉の樣な美人でも、火の付く樣な亂れ髮をして居る人は縹緻に缺けた醜態、房々と美しく髮を結つて居ても、頭痛のする樣な息の強い人は見へ坊で、内部の整理た得せない人、藝妓の髷をまれたがる人は下品で、傘が無用つてな大庇を好く人は氣取屋に見へます、總て髮の結方に女は性質を見られますから、喉の恐らぬ以上いつも美しふ心懸け結方も上品に飾等は分相應に好まなければ成りません、勿論年にもよりますが、鏡と首引きしたり小言は一日で髮結を困らせたりするのは大禁物であります。

○ゐづゝ　長野市　富田　小芳

私は始めゐづゝ油をつけましたが舶來のはサラ〳〵として束髮にはほんとによいと云はれましたのでチエリオイルをつけました所が洗ふ毎に毛が赤くなるので此度はパールや其他色々試みました成程匂ひがよいので夏等は持て來いです然し毛の赤くなりましたこと驚いて又ゐづゝをつけましたらば今では少しは黑く又柔かになりました。

○自分で結ふ　茨城縣　齊藤　もと

自分の頭髮は自分で結ふ方が顏に似合ふ、私等の若い時分は、島田でも丸髷でも獨りで結つたものだ、とお祖母樣が仰しやるので、私も一つ思切つてと、今までの束髮をといて試みに桃割に結ふて見ました、初めは馴れぬ事故、三時間もかゝつてやつと結び上げましたが、五度六度と、度重なりますと手奇麗に時間も少しの間で出來るやうになりました。

○桃割の一夜　横濱　靜江

姉樣の御島田髷がいかにも羨しいので私も桃割に結ぶ。母樣が今夜は坊子枕ではと高枕を出して下さる、どう すまひと枕を紐で結びつけて寢ました。『地震だつ』と弟の聲、驚いて飛起る大急ぎで母樣たちのお部屋へかけこむ、未だ起きて入らつしやる『地震よ』と云へば皆私の顏を見てくつ〳〵とお笑ひなさる、氣がつけ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ばまへ枕がちやんと結びつけてありました。

○鏡と相談　駿河　睦月ひさ

日曜毎に私は裏の掘抜井戸の白銀の流れに、黒髪のみだれを梳きます。裏の畑でチヨイと摘んで、ローズの紅を一本もさして、後へなげれば、油の香もどこへやら、潮風にまつはつて、直きかわきます、生え際の悪いは、愚痴にこぼしても、よくなるわけでは無いと、あきらめて、鏡へ相談しながら、廂髪にゆいます。

○二人の子　芝　すゞこん

毎朝學校へ行く途中きつと松木立の中でむつまじく語り行く二人の幼な兄妹に逢ふのです其時は我しらず振り返て消い〳〵、二人を見送ります、と、少女の下げ髪には愛の糸を結び付る天使のように眞白き蝶が羽音やさしく眠て居るでは有りませんか、あゝそれを見ゝ私の目には何知らず涙がやどるのです。

○十九の今　埼玉縣　近藤とく子

六才の春始めて入學した時ゝ漸く肩迄でしたが尋常卒業の時は前髪丈切り下げて根を思ひ切つて堅くした蝶々髷の大きいのに結つてゐたと思ひます。それから小學全科卒業から女學校一年位の間は結りをつめた束髪十七位の時は随分ひさしにしましたわ、十八には學校卒業しましたから束髪と桃割と半々位でした十九の今は始終桃割。來年は一年中島田に結はふと思ひますの。

○髪と文章　日本橋　松岡千代子

數々の髪を一寸と文章とくらべて見ましよう、先づ上品の高島田に和歌根杏がへしに、俳句、廂髪が短文、マガレツトに新體詩、さらりとした洗がみが新歌謡、而して丸まげに小説とは如何でしよう。

○我が家の寫眞　佐賀縣　変野こはぎ

先づ正面に父様の五分刈りに入字髭の厳格なせ其側に慈愛溢るゝ母様の丸髷姿、兄様はかき分けて少し横むいていらつしやるチックのせいか頭が白つぽく光つてゐる姉様は思ひきつて出した庇に白リボンをかけて澄したもの桃割れに薔薇の花をさして恥かしさうに下むいてゐるのは私、妹は稚兒に結んだお下げに巾廣のリボンをたらして無邪氣に笑つてゐる。

○秋のお祭　香川縣　百惠子

妾は高等小學の、三年生の秋のお祭りに、始めて、お隣りの綾さんと二人に、姉様が桃割に結つて、赤い鹿の子の引裂を掛けて、下さいました、妾等は嬉しくて、晩に寝ても、髪の事が氣になつて、落付いては眠られないの。翌日二人揃つて登校しますと、お友達も男子の方も、先生迄が、にこ〳〵と、妾ら計りご覧遊ばすの、て何だか恥かしくて「お早う」も出ませんでしたわ。

○顔と釣合ふやうに　韓國　久美

一トロに髪と申しますけれど、なか〳〵さうはゆかぬ物、先づ其の人々の顔、たとへば面長の方もあれば丸顔の人もあります故、好く自分の顔と相談して、釣合うやうに結はなければならないと思ひます。

○同じ事　織田哲子

私がお稚兒に結ふて居た頃は毎日姉様に結ふてもらつて居ました根をする時には横へ向いたり動いたりしてお小言をもらつて居ましたそしていつも姉様が「大切な時は少しだから向ふの稲荷山の鳥居を見てじつと辛抱して御居て」と云ふて居られました今は私がそれと同じ事を繰り返しながら妹の房ちやんのお下げを結ふ身となりました。

○髪の袋　北海道　泉濟野

私は九つの春に初めて髪を結て貰ひました、香油でもつけたのでせうか、御母様は衿が汚れるからといふので、紫メレンスの袋でお下げをスツポリと包んで呉れました、初めて髪を結た身の嬉しさは又格別で、勇んで學校へ参りますと、是は又案外にも、大勢の御友達が寄て來て、ヤレ、少ない毛を隠す爲めだとか長い様に見せかける爲めに袋を長くしてあるのだとか、色んな事を言つて何方ゝ相手にして呉れません、私は悲しくて〳〵、耐らず退つてから早速御母様へ話しましたけれどどうしてもとつて呉れません、仕方なしに我慢してゐましたが彼是れ日もたちますと、御母様もどう思召してか袋で包む事を止して呉れました。

○お下げに　福井縣　片山千里

妾の地方では、餘り幼い中から生やすと、髪がよくならぬと云ひまして、十歳位までは、上の方を茶碗のまわり程残して、皆剃つてしまふのですから、武生の高等小學校へ入學した當座、人様は皆もゝわれやら、稚見わやらに結ふて居



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

られますけれども、妾はお下にしか結へなかつたので、どんなに恥かしかつたでせう。

## ○流行と香油

長岡市　佐藤浪子

何事も左様てすけれど髮の結樣程流行遲れの見苦しいものはないと私は思ひます、お美しい方でもすたれた形にお上げ遊ばしてはどうやら間が拔けて田舍げにみえ升、或方は流行〳〵とすぐまねるは宜しくないと仰在るけれど、私は流行形を好みますの、皆樣は如何てす、髮形は其人の品位を現します故、お顏に似合ふやう工夫すると云ふ御說は御無理とは思ひません、終りに私共日本人は黑きを好と致します故油も櫛を原料に採用したのを用ひて、いやが上にも房々と黑くして美しく成らうてはムいませんか。

## ○思ひ出

名古屋市　吉田たま

眼の邊り迄、はらりとさげた振分髮時代‖、「もしもし龜よ、龜さんやう、世界の內にお前程‥‥」と唱ひ乍ら足並揃へて磯ちやんと肩組み、戯れたことが今猶忘れがたみとして、しかと胸に殘されてをります。

おゝその磯ちやん、いまは何處にどう、同じ星霜を送らるゝてせう、妾が八歲、磯ちやんが十歲だと兩手を擧げらるゝ折柄、其の人は獨りの慈母さまに伴れられて遠い〳〵東京とやらへ行かれたと母さまから聞いた事はほのかに覺えて居ります。

## ○はづかしい

岩代　都市廂女

ガッ六ツまでは、ふり分け髮に、七ツ八ツは短い下髮に大きなりボンが頭一ッぱいに、十、十一の頃は前髮さげて御ちご、そして後の短い毛はちよんまげに結ふて居つたので御隣の小母さんに「今日は御祭りだから御供が付いてますれ」と笑れたものでした、それが今ては二〇三高地や桃割に結ふて居ると思ふと昔のことは夢のやう、早く結ふて見たい、しかしはづかしいと思はるゝのは島田や丸髷、いつも見る度にさびしいやうな、なさけない氣がするのは祖母樣の結ふていらつしやるざん切てす。

## ○おさげ

澁谷よし子

私は少さい方のお下げ髮が一番好きてす、五六つの花の樣な乙女子がお下げ髮にして赤いりボンん蝶々の樣にかけて無邪氣に遊んで居るのを見ますと、もう可愛らしくてふるひつきたい程てす私は其のたんびに自分も今一度あんな時代になつて見たいと思ひます。

## ○幼い時

伊勢　八重子

子供の時は毛の成長するを樂しんでゐた、髮の毛が口にくわへられる樣になると嬉しく其に私は大騷赤かつたから馬の尻尾と云はれた、お下げに結へる樣になると每晚お獅子をまわしてお母さんにお目玉頂戴した事もあつた、今は何不足なしの髮になつた、然し前髮に癖のある時は厭やになる、或人女はもと蛇てあるから毛の先きは二つに分れてると云ふ事を聞いた早速見ると果してさうてあつた。

## ○來年は

麻布　幽子

入つまではお河童九つ迄は赤い鹿子等かけてお煙草盆九つからは總前髮の桃割やおちごに結んで房の長いかんざしをさして居りましたが十二の年女學校に登りましてからお下にして巾の廣いりボンで止めて居りました十六からは重に束髮折々は白い丈長をかけて桃割にも結びますそして來年十九のお正月には高島田にゆい度いと思つて居ります。

## ○沿革

鳥取市　上山八重子

私の頭の沿革は先づり〳〵の坊主からお河童、七つの時ヤット五寸程のお下髮に鹿子をかけました。十三の春お稚子に結び初めて、十四のお盆には早やびんをわけて花やかな桃われに致しました、簪も幾本もさしましたのでまるで舞姬の樣な姿、然し漆のやうなフサ〳〵した毛は私の誇てす、それから束髮てすが――不如歸の浪樣のやうな揚卷からいろ〳〵移りまして只今は庇髮、とまれ湯上りの濡羽色のそれに白ばらなどかざした匂ひは文ならでは分りませぬ。

## ○髮の共進會

神田　森千代

おかつぱ、ちよん髷、おたばこ盆、下髮は可愛く、庇髮、マガレットはハイカラ、島田桃割丸髷は品よく、天神、つぶし、花月卷、蝶卷などはけすばつてゐる、銀杏返し、おはこは勇氣だが麻人髷、しやぐま、元祿はじやらついてゐる、高島田は婚禮に千鳥は、お弔ひに、高尙なのは古の婦人の下髮て、束れ髮は無性たらしい、私は今桃割て、白のりボンをさしてゐますが、春になると、白元結白丈長の、島田に結びます。



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

# 學校生活

## 天 ○草むしり

福井縣丹生郡吉野村余田區　片山　千里

左様丁度尋常四年の時でした、お母さんに畠の草をむしれと云ひ付けられたので、一心にとつて居まして、先生のお通りになつたのを知らずに居りましたら、あら先生にお禮をしなかつて、あすはきつと叱られるわと皆が云ひますので、翌日おそるおそる登校しましたら、先生が一同の前へ私をお呼び出しなさいまして、昨日片山さんは私が通るのも知らずに切角と草をむしつて居られた、皆様もあゝいふやうに親達の云ひ付けは、一生懸命にして、さすがは學校へ行く子だと云はれなければなりませんと、賞めてくださつたので、私はわつと嬉し泣に泣きました。

## 人 ○天眞爛漫

新潟縣　丸山　規子

私の、通勤して、居る小學校の、一年生を此の、間、海岸へ、つれて、行きました處が丁度漁夫が舟から大鯛小鯛を、出して居る所でありました。これを見た生徒は、かけよつて大きな緋鯉だの大きな金魚だのと、珍らしさうに、見て居りました。信濃川の畔にすみ、川魚をのみ、見なれて居る兒童でありますから無理もありませんが其時の事を思出すと、私は笑はずに居られません。一年生程天眞爛漫で愛らしいものはないと思ひます。

### ○花園

尾張　志津子

私の學校の運動場の北隅には草花園があつて、年中草花が咲いてゐます、唱歌の時間などには小鳥が飛んで來て愛らしい聲で鳴いて居ることがあります、今は黄白い水仙の花が眞盛りて、清い香りが私の教室まで溢れてきます。

### ○田舎の學校

牛込　平塚白百合

櫻や青桐が校舎よりものびて庭にかげをつくつてゐるて、二十人許の幼い生徒が圓くなつてモシモシ龜よ龜さんよと手をうちながら可愛い口をあいて歌つてゐる、その中央に昔のまんまの丸山先生が白髪の頭をふりたてながらニコニコ一しよになつて歌つてゐる。やつぱり田舎の學校は平和だ。

### ○一年生

岩代　木内　雪子

一年生程無邪氣で可笑しいのは外に有りません騒がしい時には『誰さんがお行儀がよいか』と云ひますと眞直になつて黒板を睨む様に頭を後ろに下げます。墨を磨せますとすぐ黒奴が出來ます。遊戯をすると泣く者が二三人は必然あります。授業中に懐からパンを出してかじられるのには一番困ります。これでもカチカチ山や桃太郎のお話をするときには瞬目をする者なく、目を丸くして聞いて居るのです。

### ○小使さん

後志　安井セツチ

私の學校の小使さんは誠に氣立てのよい人であり升して、毎度もにこ〳〵して日本晴の顔をして居升、そして能く私等生徒の世話をして呉れまして春など農業園に野菜の種をまく時に少しづつ肥料をやつて呉れたり花園の花に水をやつて呉たり致し升、私等生徒達はひまある時の無二の友と致しまして小使さん〳〵と、朝登り升とお早う、歸る時にも左樣ならとわざ〳〵小使室に參る位で御座い升。

# 女醫顧問

東京女醫學校長　鷲山彌生

○●●黒子　妾は左眼の下に大きな黒子がありますが、何とか巧くとる法はありませんか。(千葉、賤女)

『答』　黒子は藥にて容易く拔く事は出來ますが、少しく「アバタ」の如き跡が殘ります、寧ろ藥など御用ひにならずに醫師に御依頼なさるが良いのてす。

○●●腰痛　私の知つて居る方に少しも遠へ行かない方があります、その方がこの頃一寸ても腰を屈める樣な仕事をすると、腰が痛くなり汽車、馬車等へ乘つてもやはりさうてす、これは子宮の位置が變つたからてしやうか、今後一生治らないてしやうか。(名無山)

『答』　御容體の趣きにては子宮病とは考へられますが、位置が變つたのてあるか、炎症があるのてあるか、肥大して居るのてあるか、又腫瘍ても出來て居るのか、診察の上てなければ御答へは出來ません、速に專門醫の治療を御受けなされ、然る上は治らない事はありません



○●●●乳下の痛み　私は時々左の乳の下が痛みます、如何すれば治りますか。(心配女)

『答』　少女時代には乳の周圍の痛む事は往々あります、之は生殖器の發育する現象にて別段心配するには及びません、一定の年齡になれば治ります。

○●●●●歇斯帝里　頭痛、眩暈、心悸亢進、食慾缺乏、嘔吐、視力減退等總て體力衰弱の氣味あり、夜間時としては冷汗又は輕微の發熱あり、或時は意氣消沈し、悲觀し安く、又激怒し安し本年四十八才、ヒステリーなりと思ふが果して然りや(京都、孝行女子)

『答』　容體の趣きに依れば歇斯帝里症狀は備はり居るも、或は他に歇斯帝里を起す可き原因病を有し居らるゝやも計られません、斯の如き疾病を容體而已にて病名を附するは醫師の本分にあらず、相當なる醫師に診斷を仰がる可し。

○●●●子宮病　四十三才の女、卵巣が惡く、本年二月より服藥なし居るが効能見ず、頭痛のせざる時は、腰、胸等がいたみます何卒療法を敎へ下さい(困る女)



『答』　卵巣が惡いとは卵巣に炎症があるのか、又腫瘍にても出來たのか、判然しませんが、兎に角之等の病氣は自宅にて心得可き事は絕體的の安靜と滋養に富みたる流動食になされ、精神の安養を計るを專らとし藥物的及び器械的療法は醫師に御任せなさる爲入院を御薦めします、時としては卵巣を摘出らんければ癒らん事もあります。

○●●●霜やけ　私は霜やけ、雪やけて實に困ります、この豫防法をお敎へ下さい。(山中うの花女)

『答』　霜やけ雪やけは脂肪分の不足より起るものなれば、充分滋養に富みたる肉食をなされ、又肝油、或は「スコット」乳果なる藥を滋藥として一ヶ年間も御つゞけなされたならば、豫防する事が出來ます。

○●●●●乳のこり　私は乳一ツぱかに固い物が出來て非常に痛みます、如何すれば宜しきや(千駄ヶ谷櫓林里子)

『答』　乳線全體が硬くなりて痛めるは、肉腫とか癌腫とか云ふ、惡性の腫瘍が出來て居るのかも知れません、若し然らば一時も早く切除せんければなりません、速かに診察を受けなさるが良ひてす。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

○姙娠前兆？　私は今より三ケ月前結婚しまして、本月は月經がありません、それに時々下腹が痛みます。姙娠の前兆てすか。（北野雪子）

『答』　月經のなく下腹の痛むのは、子宮病にてもありますから、必ず姙娠なりと云ふ御答へは出來ませんが、從來正規ありし月經が休みしときは、先づ姙娠と云ふ考へをなし其攝生をなし居らるゝのが肝要てす。

○夢を見る　私は一年許り前から夜はゆめ許り見て一寸もゆつくりと眠られません、眠れる法が有るならばお敎へ下さい。（下野、心褒女）

『答』　夢は精神の疲勞より起るものなれば餘り非望を企てず、境遇に甘んじ常に精神を安らかに御保ちなされ、而て朝と、夜就眠前とに全身の冷水摩擦を御實行なさる事を御勸めなされ。

○黄齒　私の齒は黄味がゝつて居つて何て磨いても白くなりません、何てみがけば白くなりますか。（京都、稲子）

『答』　齒は酸類にて磨けば白くなる事は出來ますが齒質を害しますから、齒石のなき限りは少し位の黄色は其儘になし置かるゝ方が御爲めです、每食後には何も附けずに單に揚子而巳にて御磨きなされ。

○雜問　（一）膣押し出さるゝとは何んな事てすか。（二）小陰唇の薄白きは宜きか。（三）子宮の下りしは如何にすれば治するか。（四）子宮は指の觸る所にありや。（五）腰痛、頭痛、肩張り等は子宮と關係ありや。（六）子宮膣部と肛門との間は何てすか。（七）ため息は何のせいてすか（茨城、子宮女）

『答』　（一）「膣押し出さるゝ」とは何の事か、如何なる現象か分りません。（二）小陰唇は小女の際は他の皮膚と仝樣白色なるもの　なるも月經來潮後は紫藍色となるのが普通です。（三）子宮脫は或る度までは機械をはめて治ります、が高度のものは手術に依らねば治りません。（四）指にて觸る事は出來ます。（五）子宮病にて腰痛頭痛などを來しますが、他の病氣からも腰痛、頭痛は來る事がありますから、強ち子宮病に特有の症候てはありません。（六）子宮膣部と肛門との間は膣壁を隔てゝ居ります。（七）ため息は不安の念より來るものなれば、精神を快活に持るゝべし。

○隆鼻術　私は生れ付き鼻が低いのてすが、隆鼻器は益あつて害なきか又昨今は個性の輕症鼻加答兒に罹つて居ますが如何てすか。（おかめ女）

『答』　隆鼻器も幾分効がありますが、鼻加答兒のある人には適しません、夫れよりは目下盛んに行はるゝ隆鼻術と稱して鼻の皮下に一種の藥を注入す法が、鼻を高くするには　最も良き法てあります。

○月經少量　私は身體は極健全てすが月經が到つて少ないのてす、これては健全なる子を上げる事は出來んかと心配てなりません、どうぞお敎を乞ふ。（求婚女）

『答』　月經不足ても身體が健全てあれば繁殖には差支ありません、生理的に少なき人にても多數の小供を產みし例は澤山あります、御心配なく御結婚なされ、結婚後多量になる事は往々認むる處てす。

質問諸孃へ

總て藥は其用法如何によつて奏效もあり亦害にもなりますから假令普通藥とても專門の智識なくして用ふることは危險てすそれ故此の欄ては絕對的に藥液療法は申上げぬこゝにしてありますから諸孃も其お積りて質問を願ひます。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

# 女醫顧問

東京女醫學校長　鷲山彌生

○黒子　妾は左眼の下に大きな黒子がありますが、何とか巧くとる法はありませんか。（千葉、賤女）

『答』黒子は藥にて容易く拔く事は出來ますが、少しく「アバタ」の如き跡が殘ります、寶藥など御用ひにならずに醫師に御依賴なさるが宜ひのです。

○腰痛　私の知って居る方に少しも遠へ行かない方があります、その方がこの頃一寸でも腰を屈める樣な仕事をすると、腰が痛くなり汽車、馬車等へ乘ってもやはりさうです、これは子宮の位置が變ったからでしやうか、今後一生治らないでしやうか。（名無山）

『答』御容體の趣きにては子宮病とは考へられますが、位置が變ったのであるか、炎症があるのであるか、肥大して居るのであるか、又腫瘍でも出來て居るのか、診察の上でなければ御答へは出來ません、速に專門醫の治療を御受けなされ、然る上は治らなひ事はありません

○乳下の痛み　私は時々左の乳の下が痛みます、如何すれば治りますか。（心配女）

『答』少女時代には乳の周圍の痛む事は往々あります、之は生殖器の發育する現象にて別段心配するには及びません、一定の年齡になれば治ります。

○歇斯帝里　頭痛、眩暈、心悸亢進、食慾缺乏、嘔吐、視力減退等總て體力衰弱の氣味あり、夜間時としては冷汗又は經微の發熱あり、或時は意氣消沈し、悲觀し安く、又激怒し安し本年四十八才、ヒステリーなりと思ふが果して然りや（京都、孝行女子）

『答』容體の趣きに依れば歇斯帝里症狀は備はり居るも、或は他に歇斯帝里を起す可き原因病を有し居らるゝやも計られません、斯の如き疾病を容體而已にて病名を附するは醫師の本分にあらず、相當なる醫師に診斷を仰がる可し。

○子宮病　四十三才の女、卵巢が惡く、本年二月より服藥なし居るが効能見ず、頭痛のせざる時は、腰、胸等いたみます何卒療法を敎へ下さい（困る女）

『答』卵巢が惡いとは卵巢に炎症があるのか、又腫瘍にても出來たのか、判然しませんが、兎に角之等の病氣は自宅にて心得可き事は絕體的の安靜と滋養に富みたる流動食になされ、精神の安養を計るを專らとし藥物的及び器械的療法は醫師に御任せなさる爲入院を御薦めします、時としては卵巢を摘出らんければ癒らん事もあります。

○霜やけ　私は霜やけ、雪やけて實に困ります、この豫防法をお敎へ下さい。（山中うの花女）

『答』霜やけ雪やけは脂肪分の不足より起るものなれば、充分滋養に富みたる肉食をなされ、又肝油、或は「スコット」乳果なる藥を滋藥として一ヶ年間も御つゞけなされたならば、豫防する事が出來ます。

○乳のこり　私は乳一ッばかに固い物が出來て非常に痛みます、如何すれば宜しきや（千駄ケ谷櫟林里子）

『答』乳線全體が硬くなりて痛めるは、肉腫とか癌腫とか云ふ、惡性の腫瘍が出來て居るのかも知れません、若し然らば一時も早く切除せんければなりません、速かに診察を受けなさるが宜ひです。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

○姙娠前兆？ 私は今より三ヶ月前結婚しまして、本月は月經がありません、それに時々下腹が痛みます。姙娠の前兆ですか。（北野雪子）

『答』 月經のなく下腹の痛むのは、子宮病にてもありますから、必ず姙娠なりと云ふ御答へは出來ませんが、從來正規ありし月經が休みしときは、先づ姙娠と云ふ考へをなし其攝生をなし居らるゝのが肝要です。

○夢を見る 私は一年許り前から夜はゆめ許り見て一寸もゆつくりと眠られません、眠れる法が有るならばお敎へ下さい。（下野、心裒女）

『答』 夢は精神の疲勞より起るものなれば餘り非望を企てず、境遇に甘んじ常に精神を安らかに御保ちなされ、而て朝と、夜就眠前とに全身の冷水摩擦を御實行なさる事を御勸めなされ。

○黄齒 私の齒は黄味がゝつて居つて何て磨いても白くなりません、何てみがけば白くなりますか。（京都、福子）

『答』 齒は酸類にて磨けば白くなる事は出來ますが齒質を害しますから、齒石のなき限りは少し位の黄色は其儘になし置かるゝ方が御爲めです、毎食後には何も附けずに單に揚子而已にて御磨きなされ。

○雜問 （一）膣押し出さるゝとは何んな事ですか。（二）小陰唇の薄白きは宜きか。（三）子宮の下りしは如何にすれば治するか。（四）子宮は指の觸る所にありや。（五）腰痛、頭痛、肩張り等は子宮と關係ありや。（六）子宮膣部と肛門との間は何てすか。（七）ため息は何のせいてすか（茨城、子宮女）

『答』 （一）「膣押し出さるゝ」とは何の事か、如何なる現象か分りません。（二）小陰唇は小女の際は他の皮膚と仝樣白色なるものなるも月經來潮後は紫藍色となるのが普通です。（三）子宮脫は或る度までは機械をはめて治ります、が高度のものは手術に依らねば治りません。（四）指にて觸る事は出來ます。（五）子宮病にて腰痛頭痛などを來しますが、他の病氣からも腰痛、頭痛は來る事がありますから、强ち子宮病に特有の症候てはありません。（六）子宮膣部と肛門との間は膣壁を隔てゝ居ります。（七）ため息は不安の念より來るものなれば、精神を快活に持るゝべし。

○隆鼻術 私は生れ付き鼻が低いのてすが、隆鼻器は益あつて害なきか 又昨今は慢性の輕症鼻加答兒に罹つて居ますが如何ですか。（おかめ女）

『答』 隆鼻器も幾分効がありますが、鼻加答兒のある人には適しません、夫れよりは目下盛んに行はるゝ隆鼻術と稱して鼻の皮下に一種の藥を注入す法が、鼻を高くするには最も良き法であります。

○月經少量 私は身體は極健全ですが月經が到つて少ないのです、これては健全なる子を上げる事は出來んかと心配てなりません、どうぞお敎を乞ふ。（求婚女）

『答』 月經不足ても身體が健全てあれば繁殖には差支ありません、生理的に少なき人にても多數の小供を產みし例は澤山あります、御心配なく御結婚なされ、結婚後多量になる事は往往認むる處です。

## 質問諸孃へ

總て藥は其用法如何によつて奏効もあり亦害にもなりますから 假令普通藥とても專門の智識なくして用ふることは危險です それ故此の欄ては絕對的に藥液療法は申上げぬ こゝにしてありますから諸孃も其お積りて質問を願ひます。





# 讀友倶樂部

生レナガラニシテ知レル者アラズ名僧智識ト雖モ亦人ヨリ學ベルナリ

バイロン

## 開き封

○ひとり子樣に　記者樣、此事を開き封のらんて「ひとり子」樣まて御つたへ下さいませ。ひとり子樣、御名は知りませぬたゞ〳〵御なさけあふれる御言葉に、私はひれもす泣きました、姉にならん、妹と思ひてと云ひよる人は澤山ありますが、皆それは一度か二度の感情まかせの文てかうかろ〳〵しく姉妹のちぎりの出來る譯はないのに、始めからさうさわぎこんてすぐ後足て沙をかけてゆくのて、私はもう此頃手紙は下さつても返事を出すのがつまらなくて ついぞたれにも返事もしないていますけれど、今度のあなた樣の御言葉には心から泣かされました。邦も悲しい運命に泣て居る女てすもの、おひとりの悲しい淋しい思ひは海こえて渡島の國まてひゞきませう、必ず長く御交り申しませうに、御いといなくば御名ともろ共、御悲しみの涙もそへて私にまて御手紙願ひ上ます、私は今函館元町七十一番地に住てゐます(くに子)

○海のほとり　濱近きほとりにおはします皆樣よ私は大變に海が戀しく慕はしくなつかしく思去りがたくどうぞ情ある皆樣、御地の狀況知らせて頂戴な返書の事はいはずもがな（赤坂區青山南町六丁目百十六雲野妙香）

○能く働く方　諸孃樣私しネ本年は例年に比し大變よく働きましたら御蔭で身體も壯健になりましたの、どーかネ氣樂に遊んてる方でなく、よく働いて入らつしやる方は繪葉書や編物の交換して頂戴、尙レースのハイカラ式の巾着お惠み下さいましな、御返禮は屹度いたしますから（大阪市南區北桃谷町三拾四番地古川紫錦）

○白菊の歌　讀友のお方に御願ひ申上ます、私事友達から孝女白菊の歌をかりて書きましたが書きかけて置いたのを小さい妹が畳をべたべたと附けて分らなくなつてしまつたので見て書くことが出來ないのてす、それて皆樣の中て御存じの方は、「夜もやう〳〵に明けはなれ」と言ふ處からお敎へ下さいませんか何卒偏にお願ひ申上ます、御禮は屹度致します（青森縣弘前市品川町八八太田豐）

○地理の研究　讀友の諸孃樣私は地理學を研究いたして居りますのそれてれ諸姉樣國々の風俗、習慣、名物、產物或は各々國の變りし狀況など御知らせ下さい、又各國名所の繪葉書交換も願ひます私もれ遲らぬながら御返事は致します（岡山縣邑久郡朝日村大字西片岡桐木悅子）

○樂譜　諸姉上樣妾しは音樂好きなのよ今妾しヴァヰオリンを稽古致して居りますので譜などは二百册餘り持つて居りますから姉上樣の内に「長唄越後獅子」其他の長唄亦は葬式行進曲の譜御持ち合せの方は御貸し下さるか寫して妾しの持つて居るのと御交換願へないてせうか（京都市一條通千本東入武部𩀱子）

○花　髮に飾る花は夕べの巷に香り、野に咲く花は朝の露にひらく、床にさす花、書にはさむ花、白きもよし紅きもよし、こん春に咲く種にても、何にても花を御惠みあらんとこそ願はしけれ（大分縣中津町千九百九十番地やま川）

○眞面目に　眞面目な繪葉書の御交換を願ひます簡易な英文てならば殊に結構てす、外國切手が數十枚ありますから御望みの方に差上げます（東京、王子、新道池田太吉方山脇數子）

○養蠶の友　讀友諸孃の内て養蠶熱心なる方と交際を願ひます寫眞編物の交換も尙私產婦に必要な助產の薬が不用になつて居ますから御入用の方に幾册ても差上ます（紀伊伊都郡妙寺村志水邦子）

○東京朝日　皆さまの内て東京朝日新聞を讀んで居らつしやる方に御願ひいたしますの、其朝日新聞の中去る八月七日と、仝十九日のがありましたら何卒私に下さいませんか、實は其の朝日新聞の春と云ふ小說をほしいので、御惠み下さつた方にはハガキ文學か秀才文壇を添へて御禮いたします（靜岡縣濱名郡北濱村西美爾）

# 女子文壇臨時增刊

四十二年第一增刊

# 新美文

二月十五日發表

物に驚き易く事に感じ易き青春の人は今や讀むべく語るべく書くべきことの多きに苦しめり、之が大勢の赴く處を知らしむるものは其等若き人の手に成りし文集に如くはなし、殊に現代の隨筆とも稱すべき美文に至りては千變萬化、諸君の思想の自由なるが如く作ることも自由なり、今我社「女子文壇」の臨時增刊として『新美文』を出版し、紙數の大半を此に宛て、併せて一般の文藝作品を募り、例の如き大冊子を編纂して讀書界の空氣を清新ならしめんとす、冀くは競ふて投稿せよ

## 懸賞贈品

○第壹種（凡て正金）

| | |
|---|---|
| 壹等賞 | 金貳拾圓 |
| 貳等賞 | 金拾圓 |
| 自三等至五等賞 | 各金五圓 |
| 自六等至十等賞 | 各金貳圓 |

○第二種（凡て呉服物）

| | |
|---|---|
| 壹等賞 | 價格七圓 |
| 貳等賞 | 價格四圓 |
| 三等賞 | 同貳圓 |

○第三種（凡て呉服物）

| | |
|---|---|
| 壹等賞 | 價格五圓 |
| 貳等賞 | 同三圓 |
| 三等賞 | 同壹圓 |

○別賞（凡て物品）

自一等至十等賞 價格貳圓以內

## 大懸賞募集

投稿締切 十二月廿五日限

## 募集項目

▽第壹種△ 新美文

### 美文

《廿四字詰百行限》

- 感情を主としたる文
- 事實を主としたる文
- 天然を描寫したる文
- 家庭を書けるる文
- 或る人を描ける文
- その日〳〵の日記文
- 旅行して得たる紀行文
- 對話を主としたる文
- 地方的特色のあるる文

投稿諸君は必ず此分類に據るの要なけれども、題を考ふる便宜上假に分類したるのみ、要するに實用的のものを除いて、一般の文章は殆んど美文の系統に屬す。

▽第二種△

- ○小說　總假名付一行廿四字百行
- ○新體詩　總假名付二十行限
- ○論文　一行二十四字三十行限
- ○書簡文　一行二十四字三十行限

▽第三種△

- ○和歌　一首限
- ○俳句　一句限
- ○短文　總假名付一行廿四字五行限
- ○圖畫（別賞）　縱横隨意二寸五分の三寸

△投稿心得摘要

○題と文體とは各自の隨意なり。
○投稿紙は半紙又は原稿紙に限る
○投稿は課題を異にする毎に必ず別の用紙に認むべし。
○投稿は句讀點を施すべし。
○圖點は附すべからず。
○投稿の封筒は東京京橋女子文壇編輯局宛新美文原稿の文字を傍書すべし。
○投稿は必ず自家の作物たるべきこと若し剽窃の疑あるものは入賞無効とす。
○入賞の通知を受けたる者は最近寫眞送付あれ。
○投稿は一切返附せず、不足未納税は謝絶す。
○入賞者へ懸賞品送付は發表一ケ月後たること。

發行所（投稿受付） 東京市京橋區中橋大鋸町十一 女子文壇社

女子文壇の廣告に依り御申込の節は其旨御特添を乞ふ

家庭日常の寶典

家事整理の墨繩

▲博文館女學世界編輯局編纂▲

# 明治四十二年 家庭日記

總クロース金字入類綴本紙數五百餘頁　正價參拾八錢　郵稅拾錢

家庭日記は最も進歩したる、且つ最も文明的なる日記にして新家庭の要求に應じたるもの也、苟も我家の規模を知り我家の地位と品格と勢力とを知らんとする人の机上に缺くべからざる重寶日記なり其の目次左の如し。

- ▲收入明細表
- ▲支出日計表
- ▲出納計算及殘高表
- ▲出納分類表
- ▲家計分類出納表
- ▲貸附契約一覽
- ▲保險契約一覽
- ▲諸關係掛金一覽
- ▲租稅一覽
- ▲年中行事豫記
- ▲家庭重要記錄
- ▲我家の家族
- ▲家庭紀念事項
- ▲戶籍表
- ▲祟廟祭祀日錄
- ▲通學要錄
- ▲兒童生育要錄
- ▲健康要錄
- ▲衣類目錄
- ▲財產目錄
- ▲貸借關係錄
- ▲音物贈答日誌
- ▲通俗日誌
- ▲親族名簿
- ▲備人名簿
- ▲知人名簿
- ▲備忘錄

## 附錄

- 家計安全法（月收百三十圓、七十五圓、五十圓、四十圓、三十圓にて見積りたる生活費の內譯）
- ●交際の心得
- ●音物贈答の栞
- ●見舞の心得
- ●物品の整理
- ●火の要愼心得草
- ●日用心得草
- ●庖廚百事顧問
- ●臺所の整理
- ●料理節用
- ●四季魚菜の風味
- ●お彼岸の配りもの
- ●臺所道具の取扱
- ●飲用水の注意
- ●一週間の仕事配り
- ●子供の衞生
- ●婿えらびの標準
- ●嫁えらびの標準
- ●妻の本領
- ●美顏法 二十五則

新案歌占ひ



▲本書內容の一班▼

本書は始めに一年三百六十五日の日々欄を設き、七曜干支を列記し、天氣、寒暖の各欄を設け、以て日々の事項を記入するに適せしめ更に月の始には其月の行事、季節、食品、花暦の各項を抄記して月令の栞となし、次に此の日記の特色ともいふべきは他の日記簿に類例なき約二百頁に渉る家庭重要記事を始め、交際、通信、音問、祭祀以下日常諸般の事項を分類し洩れて財產、衣類等の品目を掲記して以て複雜なる家事を整理して一目瞭然たらしむ。猶前揭附錄十數次は々事當局者の心得にして朝夕必要なる家政智識にして其他これに必要なる規則をも網羅せり。

家庭日記は日常の家事を整理する金針にして又家道振興の指南車なり、且內容は從來有觸れたる日記簿とは全然面目を異にし統一あり、秩序あり、教訓あり、趣味ある日記にして、眞に一家の重寶たる實質を具備せり。

發賣元　東京日本橋區本町　博文館



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

女子文壇の廣告により御申込の節は其旨御書添を乞ふ

## ◉空前の大安賣

諸大家選評 （四六判五百頁）

### 女子懸賞文集第二

▲定價卅五錢 特價金貳拾錢 郵税六錢

國學院學士小森松風先生著 （菊判二百卅頁）

### 美文作法

▲定價四拾錢 特價金貳拾錢 郵税四錢

國學院學士小森松風先生著 （菊判二百卅頁）

### 言文一致文範

▲定價四拾錢 特價金貳拾錢 郵税四錢

報知新聞記者中村木公君著 （校長肖像入）

### 實地精査 女子遊學便覽

▲定價參拾錢 特價金拾五錢 郵税四錢

右の外「玉蟲」及「朝ばれ」は既に賣切れ絶版仕候

出版元 東京京橋區大鋸町十一 女子文壇社 （振替口座第壹七貳九番）



## 東京買物便法

今般本社にては愛讀諸孃の御便利を計り東京市内に於て發賣する書籍、雜誌は特別に定價の壹割引其他文房具、化粧品、西洋小間物、玩具等有らゆる百般の物品は定價の五分引其外は手數料申受ず誠實に御用達致しますから多少に拘らず遠慮なく御申込下さい

（申込心得書は十月號に載せてあります）

東京市京橋區大鋸町 女子文壇社 買物用達部 （振替口座第壹七貳九番）



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

女子文壇の廣告により御申込の節は其旨御書添を乞ふ

# 新刊女子懸賞文集

此書は文學一通りの者は揃つて居ます

## 文壇の光

▲目次▼

○短篇小說○美文○論文○新體詩○日記文○和歌○お伽噺○書簡文○俳句○短文○スケッチ

附錄　名家新話



全一册　二百五十頁

▲入賞作家肖像及び泰西名畫寫眞密刷

▲原色寫眞美麗畫一枚▲

▲定價金貳拾錢

郵稅壹錢五厘

## 大好評

## 懸賞傑作 文壇の花

▲目次▼

○小說○お伽噺○美文○論文○日記文○書簡文○新體詩○短文○和歌○俳句○圖畫

附錄



全壹册　二百五十頁

▲入賞作家肖像▲及び原色寫眞密刷

▲睡蓮▲石版彩色密刷▲花苑▲

皆美麗の口繪澤山

▲定價金貳拾錢▲

郵稅壹錢五厘（郵券代用壹割增）

東京京橋大鋸町十十一番地

女子文壇社出版

（振替口座第壹七貳九番）



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

一三五富永朋子)

○不用の雜誌　私の手許に不用の雜誌が三四十册あります 切手封入申込の方に差上げます 美新聲文庫は三錢切手封入 ホトヽギス文藝倶樂部明星は五錢切手封入お望みの方は至急申込まれよ(神戸市西宮内町杉山春翠)

○古くても　皆樣の中に面白い小說が御座いましたら御惠み下さい、どんなに古くても汚れてもよいのですから御禮は價以上のもので屹度致します(北海道旭川町三條通十八丁目左十號山本照子)

○手風琴と書物　私は叔父樣から東京土産に手風琴をもらひましたけれども私は不用ですから、左の小說か寫眞器と御交換下さい、後不如歸、夏子、不如歸(岩代本宮町太郎國分方政子)

○私とあなた　誰樣にても左記の通り交換して下さい希ひます。私の『血笑記』と貴方の『其面影』私の『明暗』と貴方の『あららぎ』私の『ゆく雲』『靜夜』の二册と貴方の『海潮音』と以上の交換希望の御方は御一報を願ひます(富山縣出町中町佐藤多美子)

○女學世界　皆樣私の手許に女學世界第八卷第一、二、三、四、六、七、八、十一、十二號等が不用になつて居りますから御入用の方は二錢切手封入にて御申越し下さいませ まちがひなく御送り申ます 何號と云ふ事もついでに御知らせ下さいませ、お望みのを送りますから(尾張國龜崎町櫻井君子)

## 文學顧問

問　記者樣誠に恐縮しますが「新聲」發行所及び、定價を敎へて下さい(滋賀、金田)

答　京橋區南鍋町隆文館發行、定價十五錢 郵税一錢

問　薄田泣菫樣、蒲原有明樣の著書を成る可く多く敎へて下さい。定價と發行所なも願ひます(山口縣、藤井芳子)

答　是もしば〳〵答へてゐますから二種だけを擧げませう泣菫氏の「白羊宮」(定價一圓、京橋區元數寄屋町金尾文淵堂)「二十五絃」(定價一圓、日本橋區通四丁目春陽堂)有明氏の「春鳥集」(定價七十錢、本鄕區東片町本鄕書院)「有明集」(定價七十錢、麴町區飯田町易風社)

問　記者樣、窪田先生御著の新派短歌評釋と云ふ御本は定價はどの位でございますか、また發行所はどちらでございますか 御手數樣ながら御きかせ下さいませ(喜志子)

答　「新派短歌評釋」の發行所は神田雉子町十五玄黃社、定價四十五錢郵税六錢

問　記者樣私は本誌にあります新體詩の意味さへもわからないのです、最も作る事などは出來ませんから意味ばかりもわかるやうになりたいと思ひます、多く本を讀めばよいと云ふ事は度々伺つてましたが先づどんな本がよろしいでせう(宮城松風子)

答　成るたけやさしい詩集から讀み初めるより外に仕方はありますまい、詩歌の名も今まで本欄て幾度も擧げました、又本誌に出る詩が、皆が皆一切わけがわからぬと云ふやうなら、先づ詩とは親類になれないとおあきらめなさる方が宜しい。

問　小說などの會話の句切りや語尾につく……、——、!、?、にはどんな區別があるのですか、御面倒ながら敎へて下さい。(花なし草)

答　…も——も餘り相違はなく、言葉が切れて意味の續くやうな場合に使ふのです、!は强く感動した時に使ふのです、?は疑問のしるしで「か」と云ふ字に當ります、要するに此んな道具立の多く使つてある作は傑作ではありません、大家の作には斯う云ふしるしが殆んど無い。

問　水彩畫を獨習したいと思ひますが初學者によい手本か敎授本が有りましたら發行所定價を敎へて下さい(八重子)

答　三宅克己著、水彩習畫帖宜かるべし。發行所日本橋本町三進文館、定價郵税共三十二錢

## 諸嬢と記者

私事二年前高等小學校卒業後は何のなす業もなく御社發行の文壇を友とし或は師と仰ぎて裁縫ども致して暮して居る者て有ますが決する事ありて無斷家出致して學校にはいりたいと思つて居ますが此の位の資格てはいる學校か或は塾か極かたい處お有ます ならば所在地及び校名等御手數ながらくわしく誌上にて御知らせ下さいませ御願ひ申上ます(南筑愛讀女)(記者曰、第一、女子が無斷て家出するのは、何う云ふ事情があるにせよ、いけません、家を無斷て出た處て、人間が無斷て住み得られる處はないのです、やはり相當の

手續きな經て御出なさい、それから何にならうと云ふ目的も仰らずに只學校とか塾とかな知らせよとは無理です、順序も經ず、目的も立てず、希望もなく、只漠然と學校へ入りたいては困ります、もつと考へなしつかりなさらないと迚も世の中には立てません、やはりお家に入らつしやるのが最も安全です〕○秋も漸く闌になりましたが記者樣にはお變りもありませんか御伺いたします 私は女書翰同致したいのですが宛名は矢張り女子文壇社御中てすか 該顧問の題の橫に●な附けて置くのてすか 又何字詰何行以內といふ規定がありますか一寸御答を乞がひます(大阪蝶子)〔記者曰 圏點はつけずともよし、宛名は其通り字詰は別に規定はありません〕○私は寫眞を送りたいのですが唯送りさへすれば、いゝのてすか、宮崎縣宮崎町橘通四丁目河野方河野とく)(記者曰、左樣)○なつかしの記者樣、甚はしの記者の君、妾の投書はこれにてよろしく御座いますか、又このくらいにかけば讀み惡くはありませんか、それとももつと丁寧にかゝればいかないのて御ざいますか、妾は新らしい愛讀者てありますの、それだからこれ、どうぞ記者樣いろ/\御敎へ下さつて、いろ/\御引立て下さいまし(靜岡縣濱名郡北濱名村西奥隅百三十五宮永朋子女)(記者曰、いろ/\つくめてすれ、書き方はよろしい)○一寸と記者樣に伺ひますが女子文壇社の買物用達部では寫眞用藥品や乾板等寫眞機一切の附屬品は御取次て下さいますか何卒御敎へ下さい(岩代、三浦八重子)(記者曰、取次ぎます)○短文投稿したいてすが封書てすか葉書ですか又一章より多くは書かれませんか(廣島縣、芳孩子)(記者曰、半紙に書いて一章限り)○記者樣伺ます小說や美文はインキにて書たのはいけませんか 又封書はすべて三錢券をはるのですか次の誌上へ御答を願ひます(東京 郡司芳子)(記者曰、インキは不可、封書は勿論三錢切手)○何も知らぬ女さんに、同じ封筒てよろし(記者)○峽よし子さんに、御質問の件、十行內外と改めました○森田なか子さんに、懸賞文集の第三は初めから發行はいたしません○宮城縣、小野寺りよ子さんに、男子の寫眞は困ります○上毛、千鳥子さん、原稿用紙御入用の由、本社用達部へお賴みなさい、但し郵券代用はいけないと思ひます○奥作、一葉子さんに、御申越の件、追々そんなことに致しませう○松本、矢口さだ子さん、御案內ありがたう○福井縣、弥瀧善子。佐世保、北島くま。福岡縣、熊谷つれよ。信濃、青木まさ子。お尋生。京橋、藤野榮子。長岡市。神保とき子。安房、はなすみれ。千葉縣、吉岡燕子。伊勢、かなる子。大津市、八千代。よしえ。よし子。須美子。泉南、敬久子。駿河、大槻まさ子。千代子。防州比呂女。長野縣、名取さわ。阿佐よし子。たけ子。川上すぐ子。以上の諸孃の御申越はそれ/\承りました、一々御返事は申上ませんけれど丁承してゐます

## 寫眞編物交換

○しなり、ひじつき、寫眞帖など御惠み下さる方には不束なる寫眞直に差上げます 私の近所には寫眞師がありますから如何程多數の御申込ても大抵差上げられます、(埼玉縣兒玉郡東兒玉村大字沼上逸見廣子)○親しき諸友の諸孃さま寫眞や繪葉書の交換なして下さいな見にくき寫眞てすけれ共 先着五名へは近江八景繪葉書そへて御返禮致します(滋賀縣近江國滋賀郡坂本村字上坂本大澤なな方大澤よし)○妾しは普れく友垣の寫眞を集めて居ますから 御交情致さる方は御送り下さい早い御方には珍らしい繪葉書と寫眞を御禮いたします(茨城縣稻敷郡岡田村吉川ひらく)○妾は田舍にすむ何も知らぬ一少女ですが繪はがき編物等をお惠み下さい御禮はきつと致します(加賀國石川郡美川中町川原せい)○おなつかしき皆樣 妾は郡の女學校に在學中てす何卒賢明なる皆樣と末永御交りを願ひます 又御寫眞や繪葉書の御交換もよ 美麗なる御繪葉書下さつた方には妾の寫眞差し上げます (栃木縣下都賀郡赤津村大字深澤樋口芳次郎方すい子)○寫眞の交換を願ひますよ 誌友の姿がたが見たくてなりません (牛込原山吹町二一一高橋つよ方見松よしえ)○慕はしの諸孃樣よ、寫眞の交換をして下さいませんか、先着七名までは經國美談、萩の家遺稿、日本新辭林、中等西洋史、最近日本地誌、竹柏園集、萩の下露を差上ます 入名より以下は文學雜誌三册宛あげますからドシ/\送つて下さい(佐渡畑野村畑野江谷川桂月子)○皆樣方に編物のひな方お持の方は 何なりともかまいませんから御惠下さいませんか おれがい申上げます(福島縣石川郡石川町添田松子)○私し涼風と云て居ましたが 本號から曉舟になりましたから此後共よろしく玉章繪葉書 寫眞の交換を願ひます (長崎市新屋町六〇石上曉舟)○御寫

眞御惠みの方には不束な私の寫眞に繪葉書を添へて御返戻いたします 近隣の方と交換致し居りましたが遠方の方と交際を願ひます一時的は大嫌ひ(千葉縣印旛郡内郷村高座木石川はな)○皆様寫眞の交換を願ひます、 先着廿名に限り文學雜誌三冊宛差上ます (佐渡國畑野村字栗野江谷川かつら子) ○おなづかしい御情け深き御姉上様よ 妾にも何卒編物寫眞の御交換をして下さいな御返禮は必ず致します (京都府相樂郡木津町小學校内森西松子)、○誌友の諸孃様よ御寫眞を御送り下さいました御方には先着八名に限り今年四月撮影致しました 妾の村の梅林と南朝三王帝賀名生皇居の寫眞とを添へ 直ぐ御送り致します(奈良縣吉野郡賀名生村中垣芳子)○誌友の皆様私も本月から本誌の御厄介になります 何とぞ〳〵 玉草エハガキ御寫眞等の御交換を れがひます(千葉縣山武郡成東町親田菊池信子)○誌友の皆様、 惠み深き姉様方よ、 何卒肘突御贈り下さいれ 手本にするのですから御禮には相當の物に房州名所繪葉書を添へて上げます (千葉縣山武郡平群村荒川高橋慶次郎方島田志摩子) ○親しき姉上様方よ いろ〳〵の編物やひじつき、 寫眞掛、 しなり等を御送り下さいれ 妾は輸出絹製のハンカチーフや絹製の風呂敷を 御禮として送りますわ又た御寫眞を添へて御送り下さつた 方には恥しい乍ら妾の寫眞も添へて送りますよ (岩代國伊達郡羽田村字宮前三浦八重子) ○誌友の諸孃様よ何卒御寫眞を御惠み下さい 御禮としてはみにくい妾の寫眞に泉神社の繪葉書を 添へて差上ます(熊本玉名郡小天村字上有所)○編物ひじつき寫眞杯御送り下さいます御方にはそれぞ御相當の物て御禮します、 御玉草も。(岐阜縣美濃國可兒郡廣見村淵之上中屋敷庭内第一號室加納如月子)

## 圖書換讀

私の手許に、 新體詩入門、 黄菊白菊、 白玉姫、 わがおもひ等が不用になつて居りますから、 左の書と交換して頂戴、 夢の華、 伶人、 玉蟲、 舞姫、 其の外御不用の歌集がありましたら 送つて下さいな(千葉縣君津郡駒山村高濱春子)○私の手許に左の不用書がありますから 何んなりと詩文の書を以て御申込なされば直ぐ御送りします、海賀變哲氏の「明治風呂」及び同氏の華文「大晦日」他數十の詩文を集めたる美本大册一部 其れと作法を書ける「文話詩話」 其他諸種雜誌澤山但し皆文學物てす(函館港汐見町廿三羽佐間方芳陽子)○姉上さま妾の手許に讀書作文辭典、 教育勅語衍義、 明治時文代範、 論說記事文範、 國文問答及び白蓮白菊、 斷崖絕壁、 記事用文一萬題、新撰近體文新撰明治玉篇、 高四算術教授通案、 本年の秀才文叢八册早稻田文學四册(同しく本年)ありますから姉上樣の御手許の 書海、 明治時代文範、 新撰手紙文のしほり其外新體詩小說などと 何卒交換して下さい(讃岐國西鄕西町吉岡きり子)○妾の手許に帝國中學講義錄廿八册 御座いますから皆樣の内て 紅葉全集、 金色夜叉、 伯爵夫人、 寬風戀風、 靑春、 コブシ、 己が罪、 乳姉妹、藤村詩集、 天うつ浪、 夏子、 筆子、 美丈夫 其他の文學書類と御交換下さいな (群馬縣伊勢崎本町一丁目五九三須田覺司方よし子) ○姉樣方の許に八月の婦人世界がありましたなら 私の文藝倶樂部(八月號一部、古いのが數册)と交換して下さい(千葉夷隅郡國吉町刈谷今井なほ子)妾の手許に怨鸞文藝倶樂部、 不運の娘、 滑稽三太夫、 萬朝縣賞短篇、 海龍窟、 東海道膝栗毛、 外色々ありますから初姿、 夫さだめ、 呪はれたる女、 小華族、戀と戀、 少女の煩悶、 澄子おもちの方はどうぞ御交換下さいまし(横須賀諏訪町二渡戸部佳子)○皆樣の中に讃美歌の金色夜叉又は紅葉全集(いづれの卷にてもよろし)思出の記、肉彈、一葉全集其他冒險的の小說又は 雜誌御持ちの方は私の藤村詩集、 みだれ髮、 金色夜叉の歌、 ほとゝぎすの歌、 緣不緣、 肉彈、 中等學生作文寶鑑、 數學字典と御交換を願ひます (大阪市西區京町堀上通三丁目山田常七方正木雪舟子) ○私の手許に左記の不用書あります 《九州探撿》《女學》《小


女子文壇定期增刊 四年十七號

内容例號に全じ

三田姫

定價金拾錢　郵税壹錢

十一月十五日發行す




Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

女世界』『中學文壇』『女子の文』『大日本帝國新地圖』『太宰府名勝誌』『新不如歸』『官公事蹟』等有ります故皆様の不用書と御交換下さいませ（博多下竪町中野さかえ）○妾の手許に詩集「海の詩」「青海波」「二十八宿」「ハイ子詩」「天風覚帆」「寶風懇風」「池鳴詩集」「不如歸の歌」「妙な男」「朝はれ」其の他雜誌が澤山有りますから皆様の「絲不絲」「乳姉妹後編」と御交換下さい（埼玉縣北埼玉郡東村大字外記秋田、酒田茂子）皆様の御許に何の物語講義にてもよろしく其外呪はれたる女、筆子、なつ子、最近の婦人世界、全女學世界、最古い女子文壇等が御不用なれば御手許の文藝倶樂部、新小說等とおかへ下されませぬか御婦人の方に限ります（和歌山市南村本町二三鈴木常子）○天下の諸嬢よ私の手元に日本大辭林、文語類纂文便覧、國語漢文中辭林佛教の事を書た四公經、右は最も新らしく、定價の三割五分引位にし致ります、又は他書交換致しますから御入用の御人は郵便にて御知らせ下され（佐賀市東田代町西冬山川良江）○妾の手許に雜誌が澤山（五種、五十冊程）御座いますから、編物か造花で御申込み下さい、早速御送りいたします、小說や、裁縫にちなんだ本も御座いますから（能登國鹿島郡田鶴濱、中村方可祇）妾の手許に「縲死人が演」「決死の少年」「作文資料」「玉蟲」「我が家の家庭」「歌かるた博士」「黃菊白菊」「花天月地」「花紅葉」「下田歌子先生家政學講義」等不用になつてますから「心の波」「罪のゆくへ」「呪はれたる女」「戀と戀」「百合子」「一葉全書」「天打つ波」「新生涯」等と御交換遊して下さい、もし御交換下されば當地で名高い鵜飼の繪葉書な差上げます（岐阜今小町二一〇渡邊つる子）○皆様、私の手許に女子文壇、女學世界、婦人世界、婦人畫報、文藝倶樂部、等十四五冊不用になつて居ます皆様の文藝雜誌とでもかまいませんから御交換被下いませんかどんなに古いのでもようございます私のも古けて居ます御送り被下いましたら間違なしに直に御返禮致します（福岡縣三井郡國分村大字國分近藤しげ）○私の手許に讀史餘錄、婦人の側面、新體詩學、譜吹雜爵、處世の精神、さゝ舟、無花果、不如歸、懺風悲雨、世路日記、パンとカステラ、早稲田文學其他古雜誌等が御座いますから、どなた様か女の御方にて嫁が淵、小說家、夢邑狀、黑風、月に立つ影等と御交換を願ひます（周防玖珂郡玖珂町松尾長子）○私の手許に雜誌小說など澤山ありますから皆様に上等繪葉書御手製編物お寫眞小說などと御交換なして下さいな（京都東山永觀堂前壁出木次郎方みどり）あの私の手許に不如歸、不如歸の歌、日の出島（曙之卷上下）、衣笠城、夜の風、深見笠、血の淚、若葉、鬼一口、現代百人豪、千島大尉、戀の罪、要撰み、桂園一枝（上）、黃菊白菊、日本弘道叢記、婦人世界、女子文壇などありますから皆さんの青春、己が罪、伯爵夫人、沖の小島、新婚旅行、夏子、露子、思出の記、ハイカラ令孃など何れとても交換下さい先着拾名には越後名所の繪端書を添えて差上ます（新潟縣中魚沼郡水澤村山崎しん子）○諸嬢様の御中に朔ばれ女子遊學便覽月しろの袂文子の卷首海其他何小說にても御不用の御方はお送り下さいきつと御禮は致しますから（香川縣仲多度郡多度津町東濱香川方にて政子）○諸姉様の内坂正臣先生の手紙習字本御持ちの方御惠み下さいませんか屹度お禮は致します私は小野鵞堂先生の女子手紙乃文、正臣先生の女子習字帖、女子文壇、女學世界、才媛文集、婦人世界、家庭の友、小說新學士等を持つて居ります御入用の御方は料理の本技藝の本その他の雜誌小說等と交換を願ひます（備後尾道市士堂町野村みずゑ）○皆様の内に呪はれたる女、不如歸、素人藥物學實用問答生殖器篇、家庭衛生叢書、婦人世界、女學世界、女子文壇等お持の方は何卒お惠み下さい一冊宛にても宜しく男子の方でもいとひませんお禮は屹度致します（陸前國宮城郡北田村上谷刈山添萱場福智子）○妾の手許に母の血、夏子、世間、露子、黑風、春ふん、花あやめ、長恨、伯爵夫人、月鬼、町の仙女、海賊大王、思出記後不如歸等色いろ／＼ございますから、心の波、春涙、新生涯、コブシ、露子夫人、天うつ波、青春、黑風後編、伯爵夫人後編、ひわ歌等御持ちの方は何とぞ妾のと御交換下さいませ尚先月御たのみ申しました新聞切ぬき小說多數交換下さいまして有がとう御禮申します後も拾か部ばかりのこつて居ますから御のぞみの御方は至急申し込み下さい（佐賀縣小城郡小城町田尻新聞舗内なほ子）○私の手許に小說おぼろ月夜、血まみれ美人、其他農事雜報、日本少年、少年世界、女子文壇の古いのが、たくさんありますから、何なりと交換して下さいませ、又どなた様か博文館發行の新體詩作法、御不用の方はどうか下

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

名へゆづつて下さい相當の御禮はいたします（岩代若松市七日町五丁目吉田きち）○なつかしき皆樣の中に、病間錄、青海、金色夜叉、夏子、[illegible]實記、銀鈴、枕草紙彙譯抄、標註枕草紙、日本文學全書第二編以下、日本文典其他いろいろの珍奇御持ちの方は御送り下さいれ妾は御禮として世に名高き輸出羽二重製の頗る美麗なハンカチーフを必ず送りますよ（岩代國伊達郡羽田村宮前　三浦八重子）○妾の手許に文藝倶樂部、中學世界、女學世界、婦人世界、大陽、數學世界、文章世界、中學文壇、女子文壇、それから青海、作文辭書、女子要鑑、小說小猫、不如歸、己が罪、キキイツパツ、朝日記、思出の記等皆不用になつて居りますから此外の圖書おもちの方は何卒換讀下されませ（熊本縣玉名郡小天村上有所內内山久子）○親愛なる諸姉樣よ何卒寬風戀風青春金色夜叉中學世界及びバイオリン手風琴又は造花絹手巾等に皆樣のお寫眞をそえて御送り下さい妾も手許に女子文壇良友舞姬己が罪不如歸戀無情夕化粧及び名所繪葉書等有りますから皆樣のと交換して頂戴な（茨城縣稻敷郡阿見村大字大室舟波坪十五番地日下部陽祿子）○諸姉樣の中で己が罪。夏子。不如歸。寬風戀風。伯爵夫人。新小說など御持ちの方はどうか御送り下さい相當書籍に妾の寫眞と根雨五景の繪葉書を添へて返禮いたします（伯耆國西伯郡大岡村大字原村長谷川永江良子）○下記の書籍不用につきお讓り致しますお望みのお方は往復端書でお問合せ下さい「漢和大辭典」「算術敎本」「國語漢文新辭典」「帝國以呂波節用大全」「通俗日本外史」「化學敎科書」「植物學小敎科書」「倫理學要說」（磐城國相馬郡上眞野村角川原山下俊子）○私の明治才媛文集第十二と女子文の林と皆樣の「[illegible]子夫人」「伯爵夫人」「呪はれたる女」「[illegible]子」「夏子」「百合子」等の小說と御交換下さいませ（新潟縣三島郡寺泊町大字吉丸山田規子）○妾の手許に、火の柱、金色夜叉、病間錄、回光錄、寸光錄、宗敎哲學、町の仙女、昨年の女學世界九冊、不如歸、にせ紫、男より見たる理想の妻等不用の本がありますが、靈か肉か、少華族、伯爵夫人、其他不用の本がありましたら送つて下さい、交換しませうから（福島縣福島市仲町小林方佐藤よしほ）○妾の手許に不用の雜誌ゃ澤山ありますから皆樣の御不用の詩集とお交換して下さい（攝津國尼ケ崎町字デヤシキ中川末次郎方山村嵩子）○小野鵞堂先生の、習書御もちの方は、私の高等女子文か、しをり寫眞かなどと御交換を願ひます（大阪市中島宗是町三八川上すゞ子）○皆さん私は大阪名所をはじめ全國各地の名所其他水彩畫から美人、舶來いろ〳〵の繪葉書と婦人世界、女子文壇、文藝倶樂部、ムラサキなどの一度目を通しただけのを四十冊程所持しております左の書籍御不用の方は御望みの品と交換して下さい、良人の自白、飢餓、火柱、靈か肉か、以上少々いたんでいてもよろし（大阪東區内平野町二丁目石川松友館内松子）私の手許に美文傑作、讀書辭典、洋食のおけいこ、女子文壇、秀才文壇等の不用書が御座います文學的書籍と御交換を願ます又珍しい外國郵便切手がありますが御望の方は寫眞栞等と御交換を願ます私と全趣味の御方は末長く御交換を願ます又本誌愛讀者諸孃の御交際を幾久しく願升（東京市麴町區飯田河岸三十二號千葉樣方岩永白露）○皆樣の中で金色夜叉、吾輩は猫である、[illegible]子、青海を御持ちの方は何卒妾の寬風戀風、己ケ罪、不如歸、不思議、ハムレツト等と御交換下さい、また繪葉書の交換も御願致します（安藝國吉田町四丁目尾郡野米助方山口孝子）○妾の手許に婦人世界、新文林、少年世界、秀才文壇、女子文壇等五六十冊あります入用の方は郵券三錢以上封入御申し越しあれお望みのもの何冊でも差し上げます御書籍では美文作法、美文自在、言文一致、新體詩入門、算術小敎科書、朝日櫻、小說家、乳姉妹、自由結婚、新作落語、町の仙女、寒潮暁潮、戀の短銃等あります面白い小說有益な作文書籍と交換下さい而しなるべく先へ送つて戴きたいのです（岡山縣兒島郡興除村晋根孝忠幾美）○文壇の諸孃樣よ私の手許に絕島奇談ロビンソン漂流記、日本新辭林、國史綱、中地理學、算術小敎科書下卷、ナショナル一、小學神田一、文部省小學英語一、がございますから、みなさんの雜誌か小說か、又は編物と交換して下さい、（尾張知多郡入幡村中䢌しづ子）

## 諸孃の交際

○誌友の皆樣私は田舍者ですが繪葉書、玉章などの交換を永久に願ひます、皆樣永久に。（靜岡縣引佐郡金指町山瀨えい子）○お情け深き誌友の皆樣よ、何卒繪葉書や玉章の御交換を願ます、御禮は必



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

といたしますから、どうぞ末長く。(京橋區南飯治町三、西村ふじを)○おなつかしい皆樣よ私もはづかしながら本誌愛讀者の一人てすから何卒御見捨なく繪葉書や玉章の交換を願ひます。(群馬縣藤岡町廣田文華堂內飯島鶴代子)○わたしもこれから投書しようと思ひます皆樣山家の無學者てすがどうか永久の交際を願ひます 繪ハガキ古雜誌の交換を願ひます (三河東加茂郡阿摺村大字新盛三五鈴木けい子[illegible])なつかしき諸姉樣よ過日は御手紙有りがたう淋しき妾の心もにぎはひましたがそれも束の間天にも地にも一人よりない愛妹にこの世の別を致しました浮世の習ひとあきらめやうと思ひますがつれ〲がちの身にはちよとも忘られません秋風そよぐ夜半などには一層かなしさまさりますあゝ願はくは御情深き方々よかはる地の御話てもきかせて下さい御返しは神にちかひ致ます私の住所を御らんなしたら御心あたりの姉樣も御座いませう妹は去年の暮迄東京におきふしして居りました。(仙臺北六番丁堤通西に入る橋本睍子)○私はまだ修學中の不束者てすが本誌從來の愛讀者てすが投稿とては今度が初めててありますから誌友の諸姉樣宜敷御交際下さいませ (名古屋市中區椒町七番地瀧住歌子)○誌友の皆樣繪葉書の交換をたのみます御返禮は八百萬の神に誓ふて (岡山縣兒島郡興除村日ノ出川 守屋正次方守屋なみ子)○妾は十六歲の者てすが片山里に遊ぶに友もなくたゞ文臺を友として淋しく暮して居ります諸姉樣何とぞ御自作のものを何ても宜しいて御惠み下さいませ 長く紀念に殘します玉章繪葉書の御交際も願ひますきつと返禮致します(京都府丹後國中郡峰山字吳服區吉田せき子)○誌友のみな〲樣方不束者て御座いますが以後よろしく御交際を願ひます また御手紙も頂戴な芝區の大村ふて方きよ子樣私裁縫に通ふ者よ 細工物いろ〲もつていますから御送り致しませうハガキにてお知せ下さい (佐賀縣佐賀郡高本瀨二又深川たか子)○おなつかしい姉樣よ私は高等女學校を卒業して今は淋しき山里に暮して居るおろかなものて御座います何卒今後久しく玉章繪葉書御交換下さい (岡山縣美作國勝田郡豐北村皆木千鶴子)○誌友の諸姉樣よ、妾は霞が浦の北に淋しい暮しをして居る者てすが皆樣より古本玉章繪葉書等をたくさん戴きまして有がとう存じます、以後も、古本玉章繪葉書の御交換を願ます、御返しには、繪葉書い妾の見にくい寫眞ふたくみありますから 先着六名樣へは一枚づつそへて御返し申ますは、(茨城縣新治郡牛渡村佐賀進子)○山形縣のお方に、私は大變不束な一少女すが私は御縣の爲めに終生忘るべからざる印象を深く腦裡に與へられました、何卒なつかしさのあまり以後永久に消さ御交りを一度に御願ひいたします。特に置賜三郡の方よみ情あらばこの愁女に一書を送り給へ (京都府相樂郡木津町小寺町平島方松子)○誌友の皆々樣妾はずつと前からの愛讀者てありますから何卒以後御交際を御願ひいたします 避暑と避寒だけ家にゐますが外のときは熊本縣師範學校女子部にゐますからお情ある御方はどしどし御玉章を下さいませ(熊本縣球磨郡大村西森田鶴子)○妾は唯今女學校の三年生てすが同級の姉上樣方よお寫眞の交換やお文通を願ひます (尾張一宮町須賀崎木村三郎方月子)○天下幾萬の諸姉樣妾にも繪葉書の交換を願ひます (門司市川東端町七丁目柏木よしみ)○妾は本年の四月高女を病氣のため退學しまして只今は片田舍に淋しく靜養中、妾の境遇をあわれと御思ひの御方はブリイダ繪葉書の御交換を御願ひ申します 又御寫眞の御交換もさせ樣なら (下總の國木下局區內船穗村松崎平川すみえ子)○諸姉上樣妾は月淸き夜の磯の千鳥のそれならね共も 源究き土佐の地に住み今は田舍を出て、中國の市に學ぶ身にて樂しむ友なく悲しく日を過し居る者なれば何とぞ永久しく御交り御致へ下さいませ 姉上樣方に玉章繪葉書の御交換を願ひます 繪葉書の方には自作の和歌なり俳句を綺美しくに御書きなさいませ返禮は神に誓ふて致します。(岡山市內山下三十五番地今東方山名正子)○御情け深き御姉上樣よ妾にも何卒玉章、繪葉書、寫眞、新聞等の御交換をして下さいなそして末ながく御親密にお交りを願ます決して〲み情にはそむきませんよ。(京都府相樂郡高山村字田山森西松子)

○希望廣告
『望む方』一件(十六字)二行貳拾錢三行參拾錢
『求むる方』一件(十六字)二行四拾錢三行九拾錢

求妻 年廿五官吏月收三十五圓無係累血正身健教育普通容貌美ナル十八九ノ淑女ヲ求ム(姓名在社)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

○おなつかしい諸姉様妾は片田舎に住む不束者です此後御交際被下お願ひ申します（福井縣坂井郡[illegible]村浄土寺北利子）○誌友の皆様先日は繪葉書澤山有りがとう御交は滿隣させては亜米利加にお住いの方と是非御交際お願ひたいので御座います風景でも風俗畫でも宜敷う御座います甚だ參考になろうと思ひますからしかし男子の方はおことはり申します内地のお方も澤山永久に御交際下さいお願ひ申します（山口縣佐波郡三田尻本町西法寺前藤井よし子）○誌友の皆々様私はなつかしい故郷をはなれて東都に遊學して居る者てすが何卒親密に交際して下さい（京橋區西紺屋町七助方椎名よし子）○諸友諸姉様妾も愛讀者の末席に加はりましたから寫眞交換や繪はがき並び御文御交換を願びます思出の記御不用の御方は御送下さい御禮は相當の書籍て（周防國熊毛郡田布施村藤井君子）○此頃本欄倶樂部へ常に永久に御交際をれと申され候へども其實一ヶ月若しくは音信これなく誠にや淺情なる永久交際に御座候恐むしろ永久の意味を知らさる方に御座候あゝ滿天下の御姉君達よ是非のことのなきやう親愛に行く末長く永久に此不束なる田舎者と御交り下されたく但し男子と思しき御手紙は一さい受引かず候（富山縣滑川町水野紫泉子）○皆様永久に御見捨てなく御交際下さる様偏に願ひます一時的の方は固く御ことはり御寫眞又エハガキ、シナリ、何ても御送りの方には佐倉宗吾郎の御禮上ます遠方の方に限ります（千葉縣印旛郡内[illegible]村高座木山崎とよ）

## 個人消息

○岡山縣、竹屋小まき。來年は上京さるゝ由

○[illegible]子。先月愛兄を失へり

○田中采[illegible]子。名古屋市伊勢町三丁目伊藤よね方に移轉す

○伏島笛子。久しく肺患になやみ居たりしが前月永眠せり行年二十四才

○黒須輝子。下野國黒磯五六に轉居す

記者曰　此の個人消息欄は誌友の諸孃が移轉、改號、改名、旅行、病疾、結婚、出産、永眠、其他消息に報告すべき事を載せます、此等報告を要する諸孃は遠慮なく申込まれたし

## 剽窃詩文の注意

○十三號分。千葉縣楢露子作お伽噺「水中の花」は少女世界二卷五號の白萩女子の「波上の花」と相違ありません。

○十二號分。熊本茂里鳥子作新歌論「ゆふべ御空」は東京の某新聞より。右剽窃と認む。

▲今日注意を與へられたるは茨城の中山道江子

## 寫眞を求む

**誌友諸孃の寫眞** 本誌讀者諸孃の御寫眞は毎號掲出して居りますが猶は盛んにお送りを願ひます

**家族の寫眞** 誌友諸孃の家族皆様とお撮りになつた寫眞、或はお子様方の寫眞、何かの紀念にお寫しになつた寫眞などを歡迎いたします

**風景の寫眞** 諸國の風景、或は風俗、山岳、河流、市街、野外など飾り有り觸れないのをお送り下さい

**小集の寫眞** 數へ二三人でも又は多人數でも誌友小集などを催ふされた時の寫眞は必ず掲載いたしますから御寄送下さい

**返送と報酬** 寫眞は御希望に依り用濟次第に御返しいたします又寫眞に依りまして本社で是は好いと認めた場合には相當の報酬を差上ますから右記載ハ寫眞を試みにお送り下さい、並に改めてお勧いたします

## 「お話」の題は『寫眞』です

今までの『文壇餘興』は新年から『お話』と改めます、やはり諸孃のお話を聞く爲に題を出すのです、それで新年號のは「寫眞」と云ふのです

▲寫眞を寫す時の心持▲撮影の失敗談▲自ら經驗したる寫眞撮影談▲寫眞を寫す時の心得▲古い寫眞のこと▲寫眞ブックの記事▲寫眞師のこと▲地方の寫眞屋のありさま▲美人の寫眞、景色の寫眞に對する感などお話下さることは澤山にあらうと思ひます、原稿は十六字詰十行内外に書いて下さい、本月十五日締切

## ▲「教への庭」

「學校生活」欄は教の庭と改題します、此欄には全國小學校に教鞭を取らるゝ女教員諸君に各種の經驗談や自慢談や不平談やいろ／＼の記事を隨意に御投稿ねがひます、原稿は十六字詰二十行位にねがひます（締切同上）



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

## 雜報

**○東京の活氣**　米國艦隊來航の爲め前月半ば頃よりの東京は久々活氣を現はして來ました、亞米利加の國旗は到る處に飜へり、商家の粧飾、イルミ子ションなど一層の光彩を添えました

**○文部省の展覽會**　官設美術展覽會はいよ／＼開設されました、日本畵にも西洋畵にも婦人の作も二三あるやうです、何れ批評は方々にあらはれることでせう。

**○前月の諸作**　前月は何處の雜誌にも新作小說が多く載りました、大いに人目を發てしむるやうな傑作のなかつたことは遺憾ですが、二三篇注意するに足る作はありました

**▲注意**　新年號に掲載される投稿の締切は本月十五日です革新第一號の盛粧されたる紙上に現れるのですから諸孃も奮發して傑作をお作りなさい

## 女子文壇改正定價

《四十二年一月發行分より》

●定期發行分●　毎月一回（一日定期發行）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 一冊（一回分） | 定價金拾五錢 | 郵税一錢五厘 | 合計金拾六錢五厘 |
| 三冊（三月分） | 同前金四拾三錢五厘 | 同四錢五厘 | 合計金四拾八錢 |
| 六冊（半年分） | 同前金八拾四錢 | 同九錢 | 合計金九拾三錢 |
| 十二冊（壹年分） | 同前金壹圓五拾六錢 | 同拾八錢 | 合計金壹圓七拾四錢 |

●臨時增刊分●　年四回（二月、五月、八月、十一月臨時增刊）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 一冊（一回分） | 定價金貳拾錢 | 郵税一錢五厘 | 合計金貳拾一錢五厘 |
| 二冊（半年分） | 同前金三拾八錢 | 同三錢 | 合計金四拾壹錢 |
| 四冊（壹年分） | 同前金七拾貳錢 | 同六錢 | 合計金七拾八錢 |

●定期發行及び臨時增刊●　全部——十六回

| | | | |
|---|---|---|---|
| 四冊（三月分） | 定價前金六拾三錢五厘 | 郵税六錢 | 合計金六拾九錢五厘 |
| 八冊（半年分） | 同前金壹圓二拾二錢 | 同拾貳錢 | 合計金壹圓三拾四錢 |
| 十六冊（壹年分） | 同前金貳圓二拾八錢 | 同二拾四錢 | 合計金貳圓五拾二錢 |

本號第二、三頁の豫告に依り明年初刊分より右の如く定價改正致します從來の定價にて前金拂込の方は此改正表を御覽の上不足分と繼續前金をお早く御拂込願ふと存じます

## 懸賞贈額

▲甲種（短篇小說　美文）
天賞：金參圓
地賞：金壹圓五拾錢
人賞：金七拾錢

▲乙種（お伽噺　日記文　新論文　實用文　新體詩）
天賞：金貳圓
地賞：金八拾錢
人賞：金四拾錢

▲丙種（和歌俳句　短文　圖畫　餘興　滑稽　歌謠　學校生活）
天賞：金壹圓
地賞：金五拾錢
人賞：金貳拾錢

○各種とも發表翌月廿日に總べて正金を以て贈呈す

## 女子文壇

毎月一回一日發行　其外定期增刊（二、五、七、十二月十五日）四回發行　臨時增刊（四月十月）貳回發行（例號二倍）

## 定價

| | | |
|---|---|---|
| 一冊（定期百頁） | 前金拾錢 | 郵税共　計金拾壹錢 |
| 九冊（增刊トモ半ケ年分） | 前金九拾五錢 | 同　計金壹圓〇五錢 |
| 十八冊（增刊トモ一ケ年分） | 前金壹圓八拾錢 | 同　計金貳圓 |
| 六冊（增刊ナシ半ケ年分） | 前金五拾七錢 | 同　計金六拾三錢 |
| 十二冊（增刊ナシ一ケ年分） | 前金壹圓〇八錢 | 同　計金壹圓貳拾錢 |

〔備考〕○定期及增刊は各拾錢郵税壹錢　○臨時增刊は金貳拾錢郵税貳錢

振替貯金の拂込は登記料貳錢増すと　郵便切手代用壹割増○收入印紙謝絶

▲女子文壇社の郵便振替貯金口座は――第壹七貳九番

明治四十一年十月廿九日印刷
明治四十一年十一月一日發行

定價金拾錢

不許轉載

編輯兼發行者　東京市京橋區大鋸町十一番地　野口竹次郎
印刷者　東京市京橋區西紺屋町廿六七番地　石川金太郎
印刷所　東京市京橋區西紺屋町廿六七番地　株式會社秀英舍
發行所　東京市京橋區大鋸町十、十一番地　電話〔本局六〇七番〕　女子文壇社

特約賣捌元　○東京堂、東海堂、北隆館、上田屋、至誠堂、良明堂

## 廣告料金

| | | | |
|---|---|---|---|
| 特等 | 一頁三十圓 | 半頁…… | 部數多く有効に比し無類の割安 |
| 上等 | 一頁廿五圓 | 半頁十三圓 | |
| 普通 | 一頁廿三圓 | 半頁十二圓 | 一行四拾錢 |

〆切毎號十五日前

特約取扱　○京橋　日本電報通信社　○京橋　明治廣告社　○神田　博報堂

女子文壇の廣告により御申込の節は其旨御書添を乞ふ

# 御祝着用呉服物

七五三御祝着用光琳式明治模様の友禪帯地類を始め當年新流行の縞着尺物澤山に準備仕居候間多少に拘はらず御用命の程奉願上候○外に

## 歐米新流行洋服地

## 歐米新流行雜貨類

何れも新荷到着仕候間何卒御立寄御遊覧被下度奉希上候

東京日本橋

# 三越呉服店

（振替貯金口座三百番）

（服部製本）

【明治三十七年十二月十九日第三種郵便物認可】

# 實家の母より嫁げる娘の許へ

御身が葉山へ轉地してより最早半年、少しは氣分もよくなりしか、秋は何となくもの憂きに、况して病める御身には一入淋しかるべく、病の重りはせじかと、父も母も日夜心配致居候。靜子樣は御身より一年餘も後れて嫁ぎ給へるに、もう可愛き嬰兒樣が御生れのよし。平素身體の健全なるは人の幸福なるに、可愛き子の出來て手しほに掛くる愛と情とは、婦女として此上なき慰藉なるを。聞けば靜子樣も御身と均しく血の道にて永らく御腦の由にて、醫者よ藥よと手を盡せしも尠も其効なく或方の勸にて、中將湯を一ヶ月許り服せしに不思議にも本復されし趣き、御身も欺されしと思ふて、服用なさるべく、別封五週間分御送り申候



婦人良藥
## 中將湯（ちうじやうとう）

●子宮病　●內膜炎　●白帶赤血　●逆上頭痛　●氣ふさぎ　●夜眠れず　●息切動悸　●產前產後　●難產流產　●月經滯り
●血の道　●子宮痙攣　●こしけ　●脊肩こり　●癇高ぶり　●腰足冷込　●手足痲痺　●つわり　●月經不順　●不姙症

定價

| | |
|---|---|
| 一日分 | 十錢 |
| 四日分 | 三十五錢 |
| 一週間分 | 六十錢 |
| 二週間分 | 壹圓十錢 |
| 三週間分 | 壹圓六十錢 |
| 五週間分 | 貳圓五十錢 |

本舗
東京日本橋通四丁目　津村順天堂本店
大阪市堺筋大寶寺町　津村順天堂支店

女子文壇　無比　金拾錢　郵税壹錢

【東京秀英舍印刷】

女子文壇の廣告によりて御申込の節は其旨御書添を乞ふ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA